

756.6-F66ウ



1200500752105

6.6

6.7



始





756.6  
F66  
少



藤代義雄著

新刀集(刃文と銘字)

東京藤代商店發行













陸前  
奧川兼定 ..... 一六  
初代國包 ..... 一六  
二代國包 ..... 一六  
三代國包 ..... 一六  
仙台安倫 ..... 一三  
仙台吉倫 ..... 一三

◎北陸道

越前  
肥後大掾貞國 ..... 一三  
越前兼法 ..... 一三  
下阪貞次 ..... 一三  
越前兼植 ..... 一三  
初代正則 ..... 一五  
二代正則 ..... 一五  
初代重高 ..... 一五  
筑後守正則 ..... 一五  
伯耆守汎隆 ..... 一五  
初代國清 ..... 一四  
二代國清 ..... 一四  
初代兼若 ..... 一四  
越中守高平 ..... 一四

◎山陰道

因幡  
二代兼若 ..... 一四  
三代兼若 ..... 一四  
辻村景平 ..... 一四  
八幡山清平 ..... 一四  
出羽守高平 ..... 一四  
辻村有平 ..... 一四  
伊豫大掾勝國 ..... 一五  
小松兼卷 ..... 一五  
洲崎家平 ..... 一五  
近江大掾行光 ..... 一五  
播磨大掾清光 ..... 一五  
因幡  
因州兼先 ..... 一五  
初代忠國 ..... 一五  
二代忠國 ..... 一五  
出雲  
大明京 ..... 一五  
播磨  
右作宗榮 ..... 一五

◎山陽道

二王方清 ..... 一七  
紀伊  
手撥包國 ..... 一七  
初代重國 ..... 一七  
二代重國 ..... 一七  
◎南海道  
讚岐  
繼 ..... 一七  
伊豫  
和泉大掾國輝 ..... 一八  
◎西海道  
筑前  
信國吉貞 ..... 一八  
初代吉政 ..... 一八  
二代吉政 ..... 一八  
信國吉宗 ..... 一八  
信國重宗 ..... 一八  
信國重包 ..... 一八

美作

備前

備中

大和大掾氏重 ..... 一五  
大和大掾氏繁 ..... 一五  
津山兼景 ..... 一六  
七兵衛祐定 ..... 一六  
上野大掾祐定 ..... 一六  
河內守祐定 ..... 一六  
大和大掾祐定 ..... 一六  
多門兵衛正成 ..... 一六  
三郎兵衛國重 ..... 一七  
大與五國重 ..... 一七  
市藏國重 ..... 一七  
次郎左八郎左國重 ..... 一七  
茂右衛門國重 ..... 一七  
理兵衛為家 ..... 一七  
安藝  
肥後守輝廣 ..... 一七  
播磨守輝廣 ..... 一七  
長門

◎南海道

二王方清 ..... 一七  
紀伊  
手撥包國 ..... 一七  
初代重國 ..... 一七  
二代重國 ..... 一七  
◎南海道  
讚岐  
繼 ..... 一七  
伊豫  
和泉大掾國輝 ..... 一八  
◎西海道  
筑前  
信國吉貞 ..... 一八  
初代吉政 ..... 一八  
二代吉政 ..... 一八  
信國吉宗 ..... 一八  
信國重宗 ..... 一八  
信國重包 ..... 一八

◎西海道

筑前  
信國吉貞 ..... 一八  
初代吉政 ..... 一八  
二代吉政 ..... 一八  
信國吉宗 ..... 一八  
信國重宗 ..... 一八  
信國重包 ..... 一八



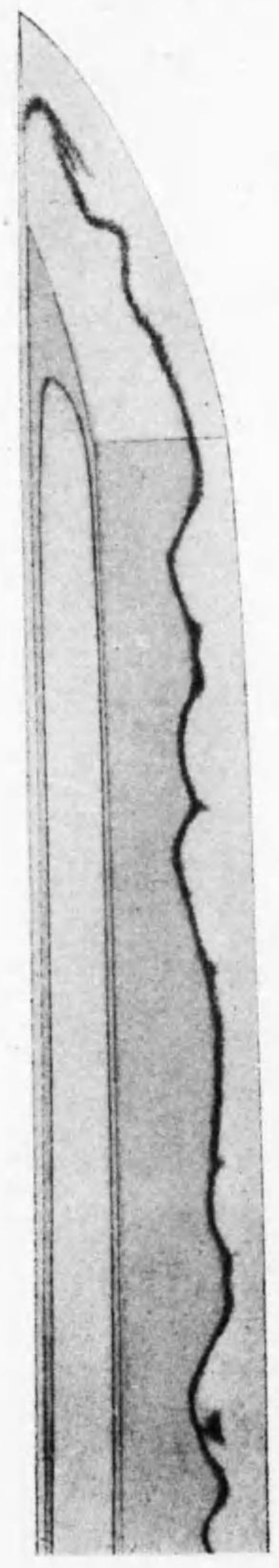




五畿内、山城 (埋忠明壽)

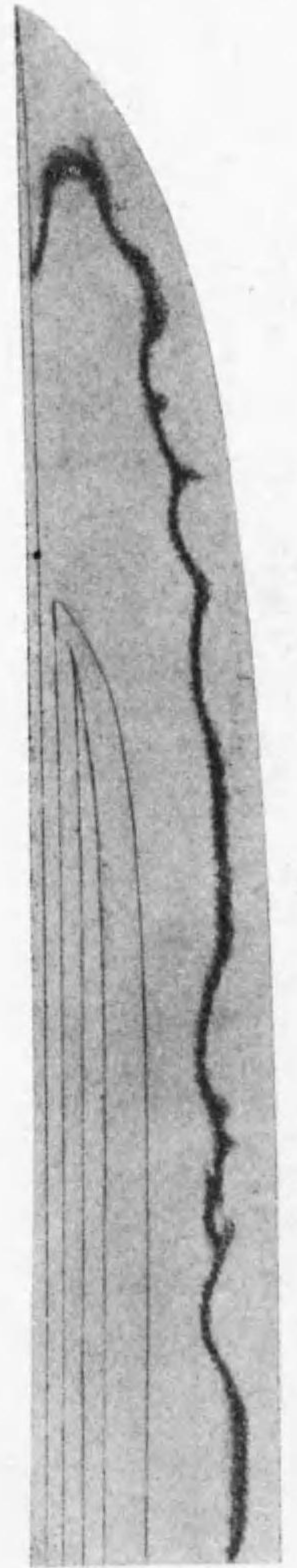
【埋忠明壽】

双長二尺一寸三分餘、棒樋表裏、元不動尊、這龍の額彫がある、流石彫刻隨一であるだけに素晴らしい、造込みも上手である。地鉄板目柃交りつむ、双文淺き灣亂匂小鈍縮る。(國寶 東京 相馬家藏)



【埋忠明壽】

双長九寸三分、片切双造り、三ツ棟、刀身に梵字素劍樋等して美化萬全が期せられてゐる。造込みも極めて洗練されてゐる。地鉄は小板目つむ、双文淺き灣亂匂小鈍深い。この作風は初代忠吉の初期作品に傳へられてゐる。(某家藏)



五畿内、山城 (埋忠明壽)



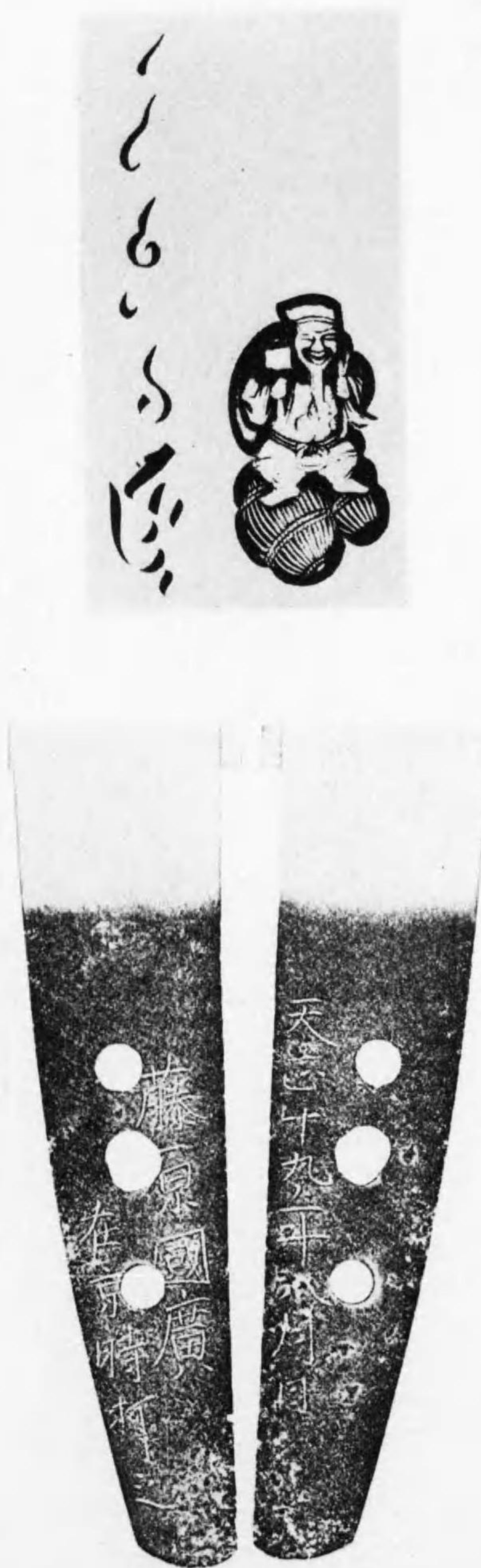
【堀川國廣】

刃長一尺五寸一分、平造身中廣く重ね厚目、大黒天の彫刻、大悲多門天の刻字、梵字等國廣自作彫があり鑿深く雄壯である。地鐵枚目刃文小亂縮り、古刀末期の作風を備ふ。時代からみて當然の結果である。（重要美術品 名古屋 岡島吉郎氏藏）



【堀川國廣】

刃長九寸八分、先反短刀、地大板目、刃文五ノ目亂砂流交り、相州廣正の如き作風、彫刻大黒天は精密、天正十五年八月の作に比して技術的には大いに進歩せる點が窺はれる。





五畿内、山城 (堀川國廣)

【堀川國廣】 刃長二尺二寸七分、反五分七厘、重廿一分七厘、重量百六十九匁、差表棒樋、差裏二本樋、三ッ棟、地鐵大板目、刃文淺キ亂喰違刃交リ匂小鈍の裡に荒キ鈍崩れ交る。(東京 某家藏)

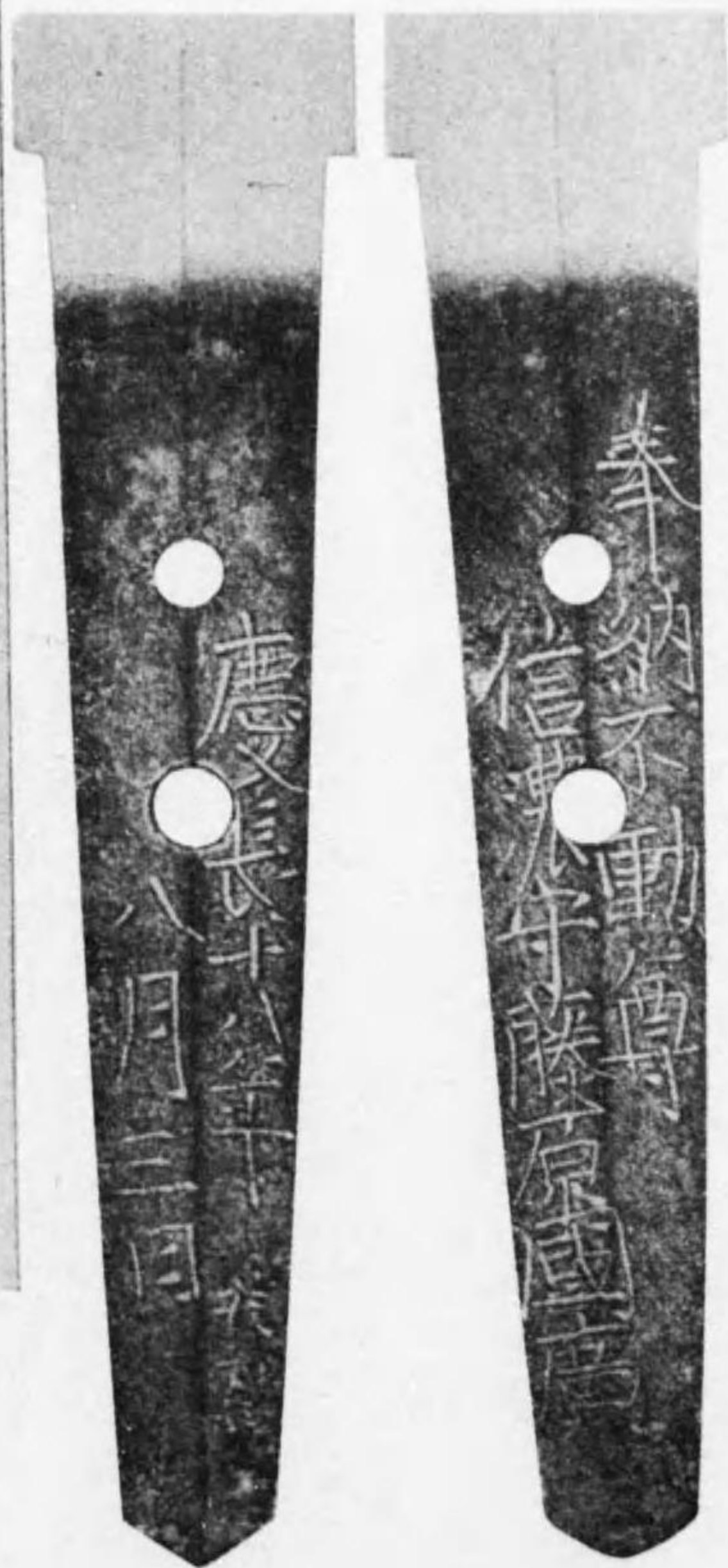


【堀川國廣】 刃長二尺二寸八分、反五分五厘、重量百九十三匁、中有リ切先延ぶ、地本目粒立ち肌に斑なく美事、刃文元直に小亂小足入り鈍匂深く砂流交リ、順次大亂れとなり匂鈍も更に深みを見せて砂流、金筋をも現す。鈍子亂れ掃掛ける。



【堀川國廣】

刃長二尺二寸三分、重量百八十五匁、身巾頃合姿良い、地本板交リ肌粒立ち美しく、刃文亂刃小亂交リ小スキ飛焼鈍崩等あり國廣の作柄現はれて遺憾がない、此作裏銘慶長十七年なるを以て國廣八十二歳の晩年に相當する。(京都 某家藏)



【堀川國廣】

刃長八寸八分、重量五十匁、地鐵板目つみ潤ひあり美しい、刃文直亂鈍最も深く出来優れる。(千葉 某家藏)

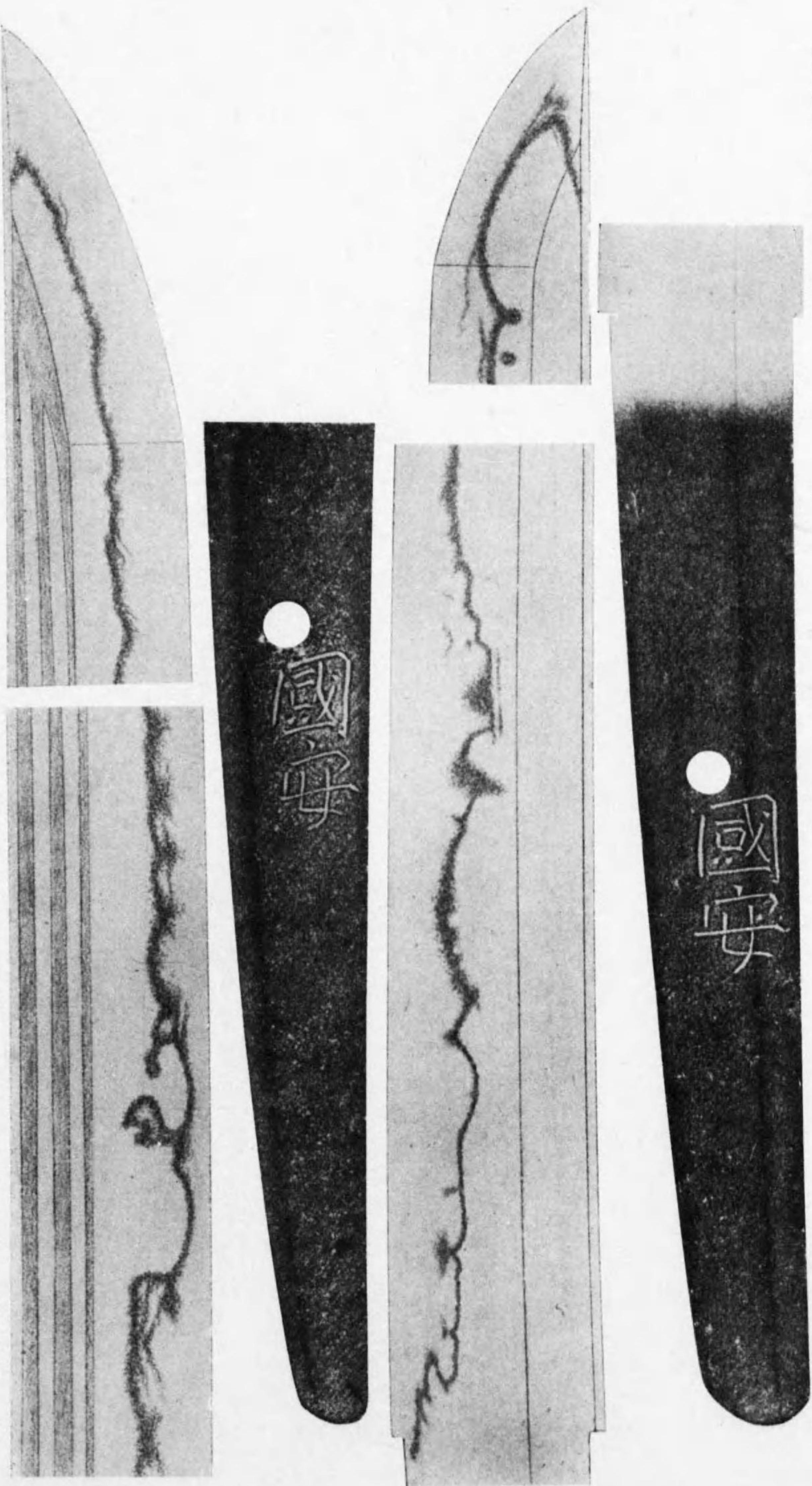


五畿内、山城 (堀川國廣)



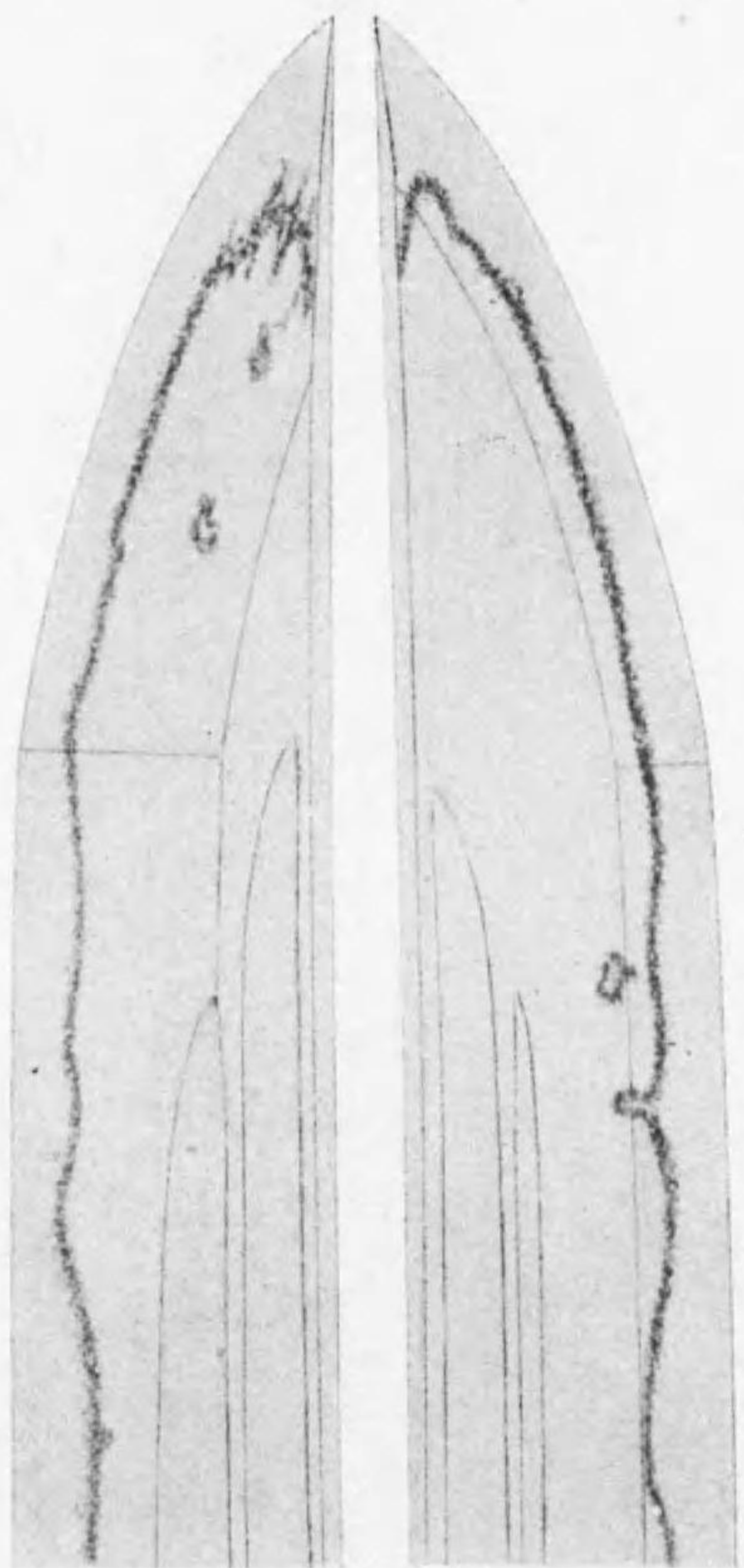
五畿内、山城 (堀川國安)

【堀川國安】 刃長二尺一寸八分、反り三分九厘、重ね丈夫、地鐵大板目弱く肌立つ、刃文大亂匂鈍縮りたる所あるも總じて鈍深く刃中崩れて働く、砂流も交る。焼刃健全。(堺 永田幸男氏藏)



【堀川國安】 刃長二尺二寸八分、反り五分弱、差表切刃造り、梵字、蓮花、爪及び二本樋あり、差裏本造り二本樋あり、三ツ棟、大切先、地大板目縮らず潤ひあり、刃文直亂、鈍匂深く砂流交る。(重要美術品 大阪 柏原仁兵衛氏藏)

五畿内、山城 (堀川國安)



【堀川國安】

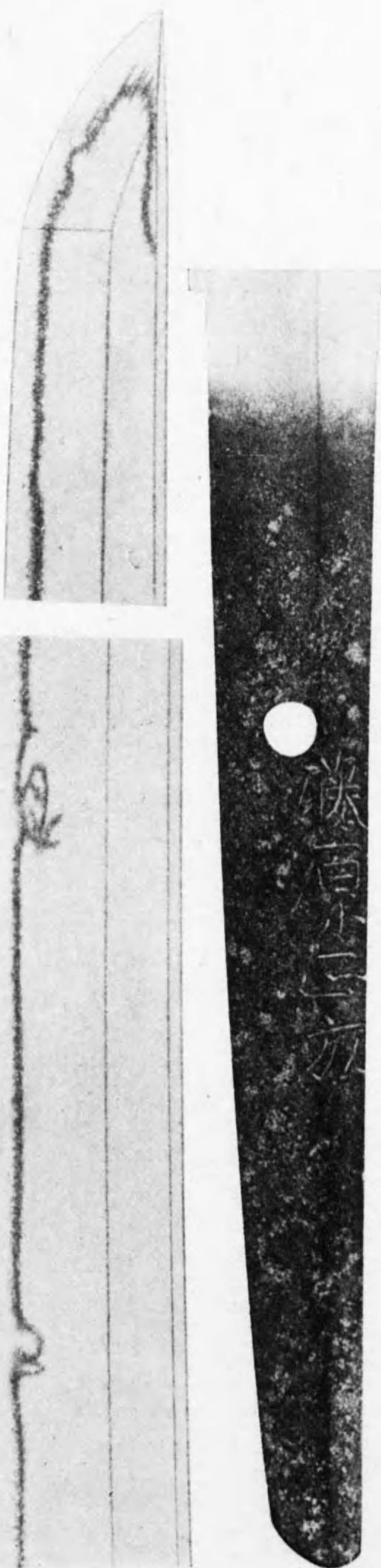
刃長二尺三寸二分、反六分、元巾一寸一分、重ね三分強、差裏片切刃造、元に梵字蓮花爪、四寸五分程上りたる所より棒樋添樋、差表は本造棒樋二本筋筋を中心として元から掻く、三ツ棟、地鐵板目、刃文濁小亂鈍出来、飛燒も少しく交る。この造込み、彫刻等は初代康繼に往々見る。(奈良 井内彦四郎氏藏)



五畿内、山城（大隅掾正弘）

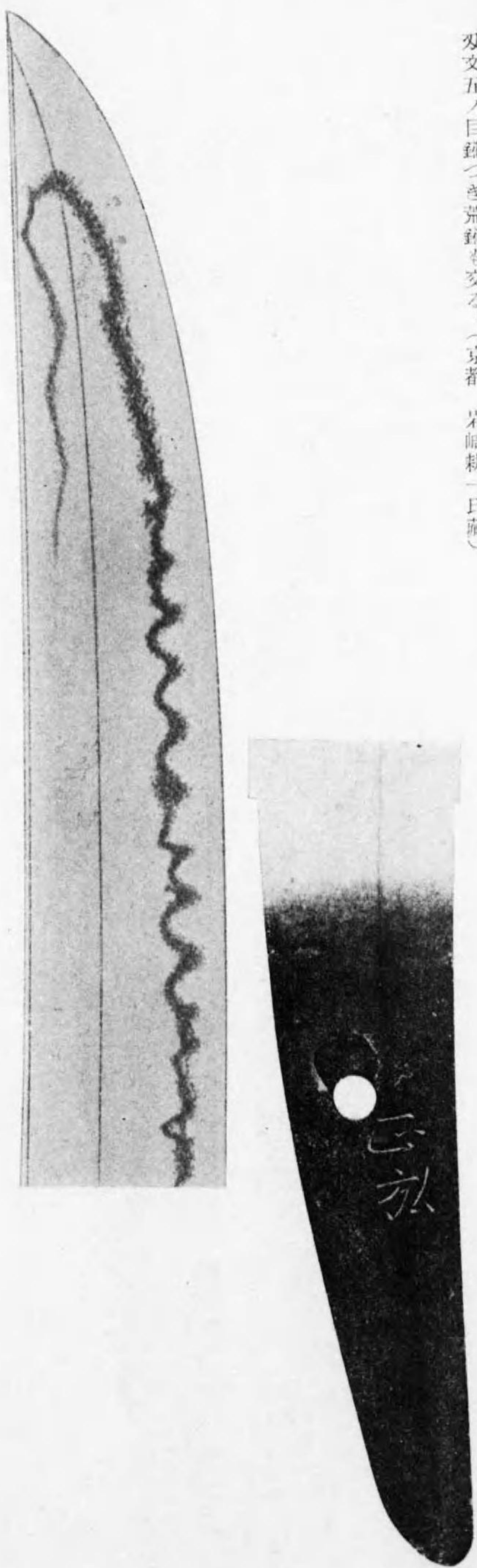
【大隅掾正弘】

刃長二尺二寸七分五厘、反五分、重二二分一厘、重量百八十匁、地鐵大板目弱、刃文直に間を置いて、亂燒きあり國廣に似る。



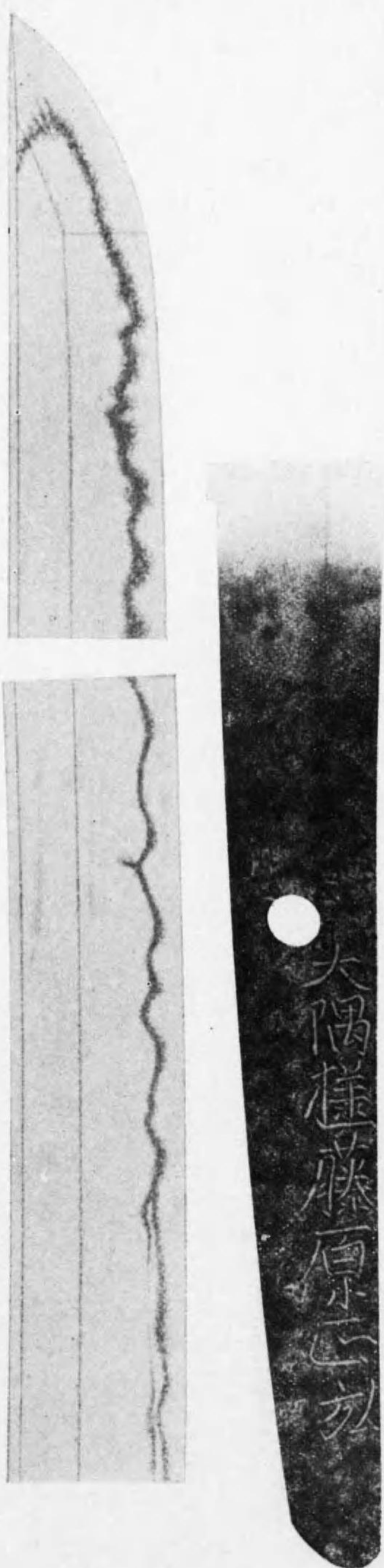
【大隅掾正弘】

刃長一尺一寸五分、反二分三厘、莖蒲造り、重量七十六匁、刀身に埋忠流の遺龍梅木あり、研減りあるも明壽の手になるものであらう、地板目、鎬地棟寄り柁、刃文五ノ目鈍つき荒鈍も交る。（京都 岩崎耕一氏藏）



【大隅掾正弘】

刃長一尺七寸七分五厘、反三分七厘、重二薄く一分七厘、重量百十六匁、地鐵全板目、刃文五ノ目調の亂、荒鈍交る。（栃木 關根武治氏藏）



【大隅掾正弘】

刃長二尺三寸三分、反り六分、重二二分四厘、重量二百三十二匁、地鐵大板目、刃文直亂砂流交る、正弘中の逸品。  
（重要美術品 大阪 柏原仁兵衛氏藏）

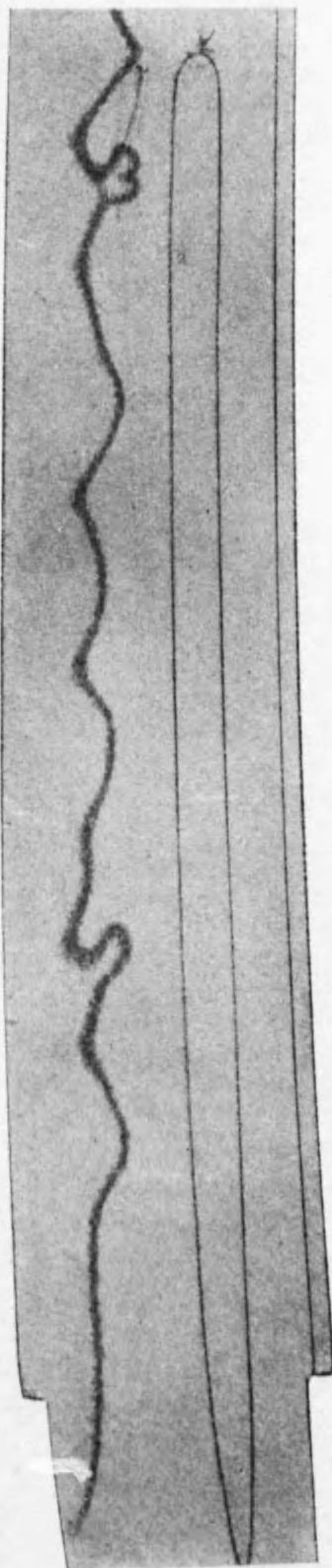


五畿内、山城（大隅掾正弘）



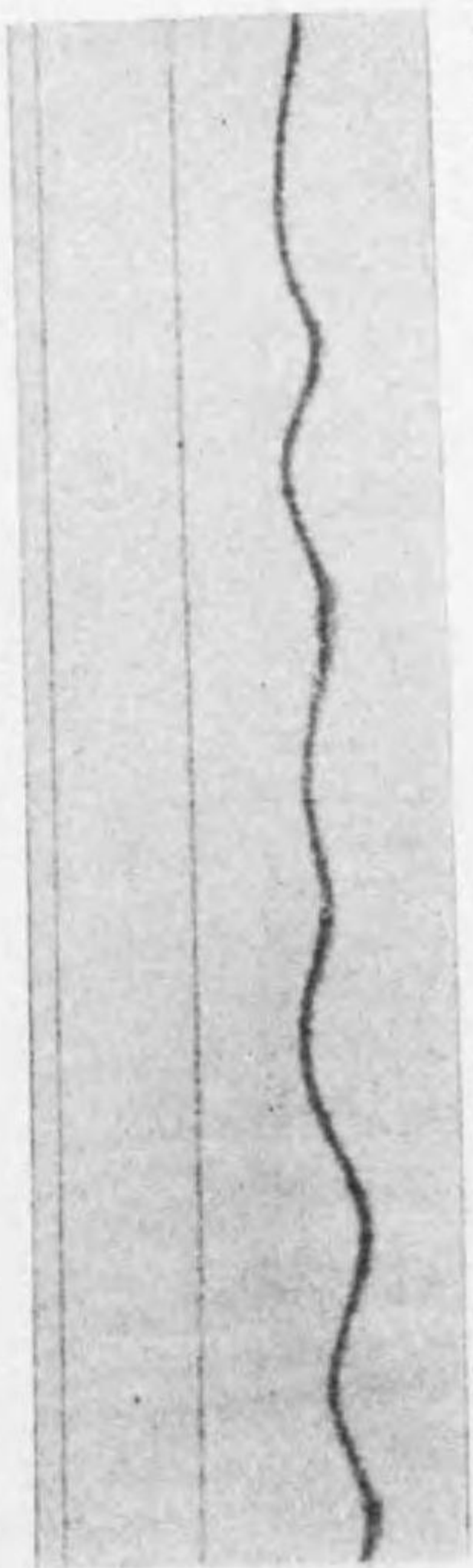
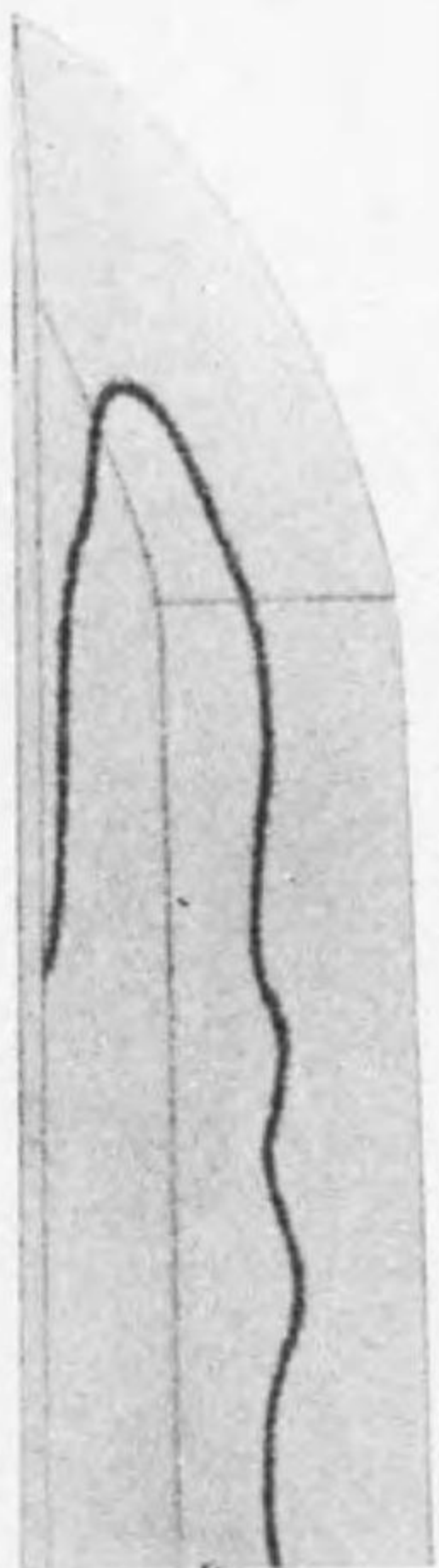
【越後守國傳】

双長一尺二寸三分五厘、反り三分、重ね三分、重量百十一匁、表腰樋、裏二本樋、地板目、双文不規則なる五ノ目、双録沈む。



【越後守國傳】

双長二尺四寸六分、地鐵本目立つ、双文匂沈みたる地味な浅き灣刃。この沈みたる地味な浅き灣は國傳の創始であり、初代國貞、初代國助の初期作にもこれがある。これは弟子なるがためである。國傳は國廣の甥であつて國廣唯一の刀業繼承者であらう。二代目國廣なるものは勿論存在しない。



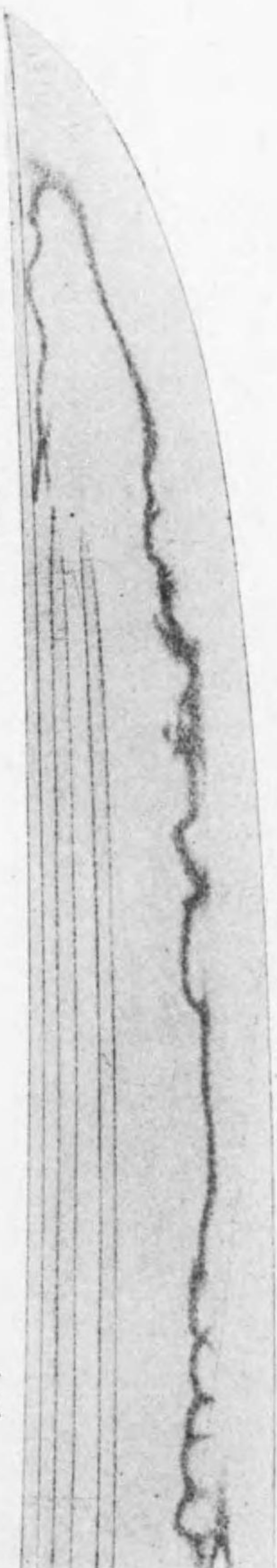
【平安城弘幸】

双長二尺三寸、双文小亂、丹後大掾廣幸の前銘。



【平安城廣幸】

双長一尺二寸六分五厘、重ね二分、反二分二厘、重量八十六匁切双造り、裏に添樋付の樋あり、地鐵小板目。初銘を弘幸と云ひ慶長十二年頃既に始まる、後に廣幸と改め、丹後大掾を経て丹後守に至る。





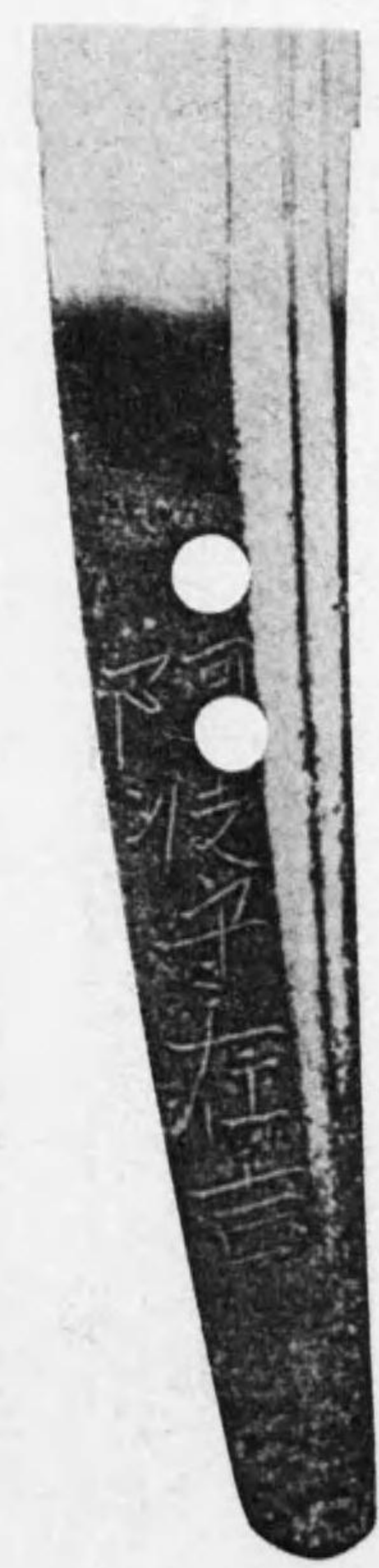
【尼崎國幸】

刃長一尺三寸四分、反五分、重ね厚二分八厘、三ツ棟、重量百二十二匁、地鐵本目、刃文大五ノ目刃、作風及び時代的にみて國傳の弟子と思はれる。初代國助、初代國貞等と共に國廣弟子とあるのは、國廣の有名と結びつける作意から出たものであらう。(東京赤池健氏藏)



【阿波守在吉】

寸尺不明、平造脇指、地鐵大板目、刃文直亂交る。



【日州國時】

寸尺不明



【出羽大掾國路】

刃長一尺三寸四分、反四分、菖蒲造り、地板目本交る、刃文五ノ目亂、棟焼もあり、鍔深く刃中働く、銚子差表が地藏銚子となる、國路特徴の一つ。本刀の如き菖蒲造りの刀型は長巻直しの刀から得た慶長元和頃の刀型の一つである。所謂相州傳を偲しむる作風を備ふ。銚子の焼たるみを俗に三品銚子とも云ふ、丹波守吉道等に多く見る。而しこの焼は國路にもあつて、これ等は古名作等の追慕から出たものと思はれる。(東京 大木啓次氏藏)



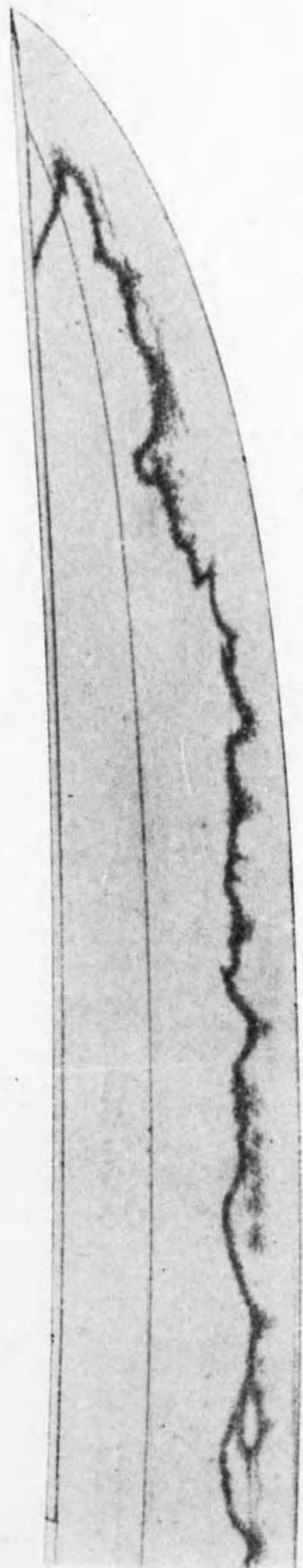
身 刃 右

【出羽大掾國路】

刃長一尺一寸餘、反三分、重ね二分二厘、重量九十六匁、三ツ棟、冠落し造り、不動、梵字の彫物あり、地鐵板目、刃文五ノ目亂。(東京 中谷武世氏藏)國傳は國廣の家を繼ぎ、國路は國廣門より出て獨立したであらう。彫物は國路自身の餘技と思はれる。







【出羽大掾國路】

双長二尺五寸一分三厘、反り四分、重ね二分一厘、重量二百八匁、棒桶表裏、地鐵板目強い、刃文五ノ目亂莖える、莖子たるみ心に砂流交りて健やか。



【出羽大掾國路】 双長一尺三寸五分、身巾頃合委良、地鐵板目美しく、刃文五ノ目亂莖深く足入る。中心に年號及び七十五歳の添銘があり珍らしく、流石に鐵に難色を見せる。(東京 根岸綱吉氏藏)



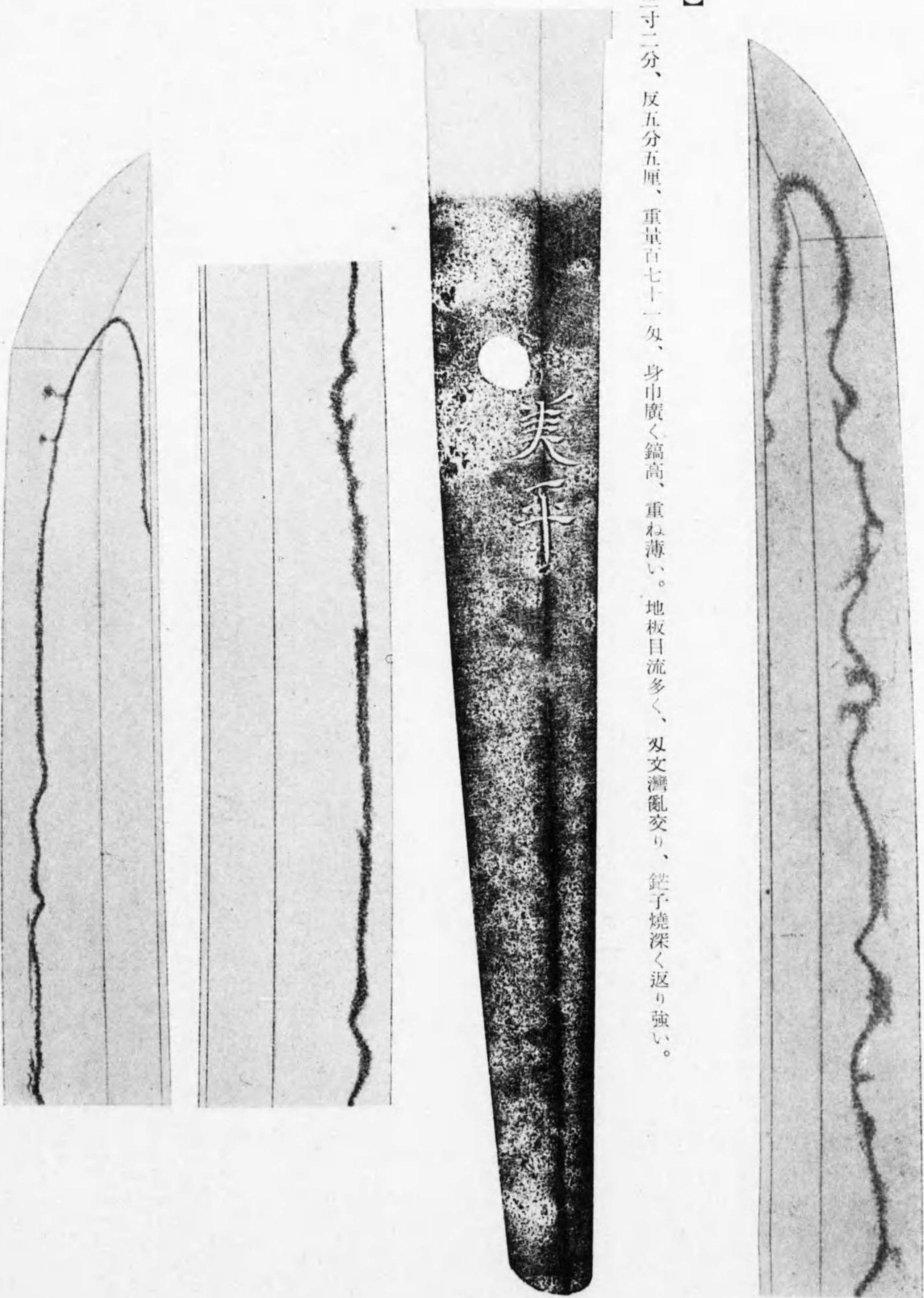
【貳代國路】 双長一尺八寸六分五厘、反り四分、重ね二分一厘、重量百六十二匁、地鐵板目、刃文五ノ目崩れ交る。(埼玉 村田豊一氏藏)  
貳代はこの頃が最初期かも知れない。以後万治寛文頃に及んでゐる。





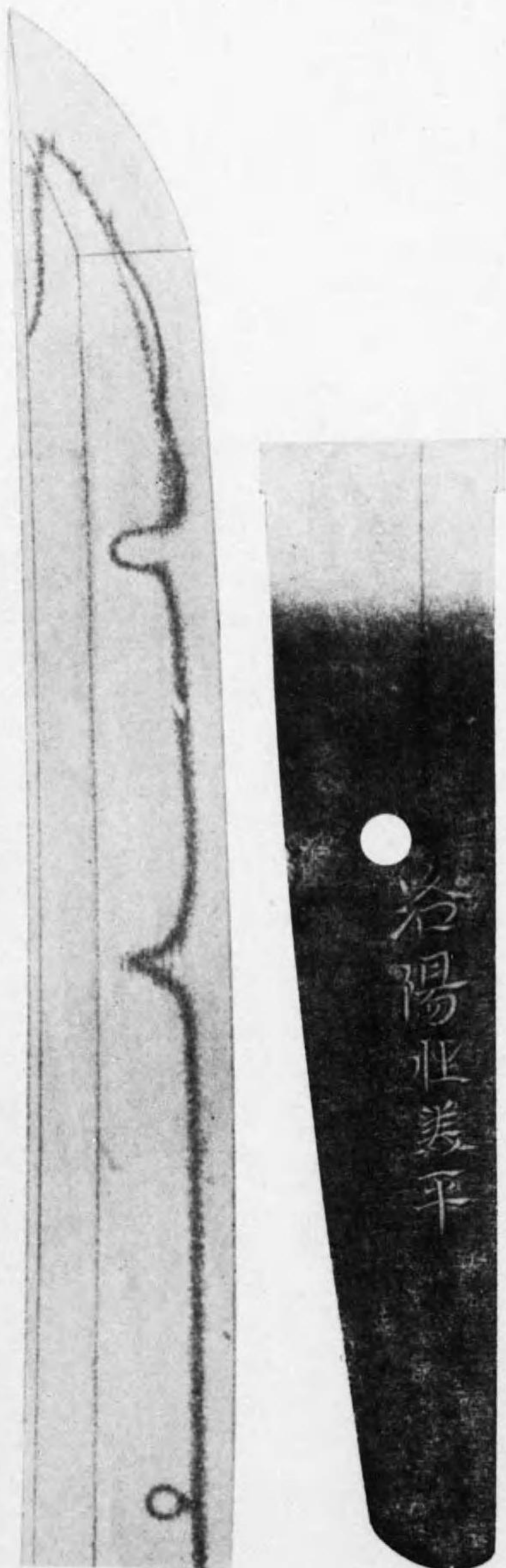
【東山美平】

双長二尺三寸二分、反五分五厘、重量百七十一匁、身巾廣く鑄高、重ね薄い。地板目流多く、双文濶亂交り、銚子焼深く返り強い。



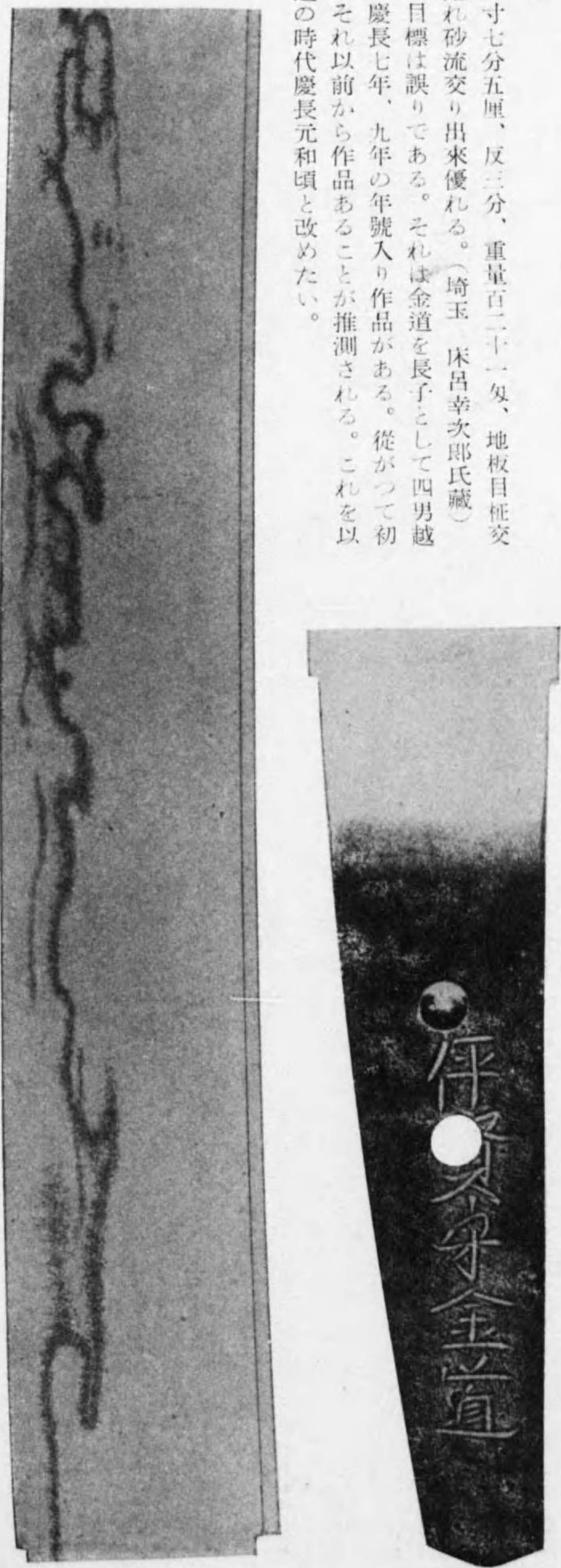
【東山美平】

双長一尺五寸九分、反三分六厘、重量百二十五匁、重ね二分一厘、地板板目弱い、双文直に間を置いて焼頭を深く上らす、國廣流の作風が基本となつてゐる様に思はれる。銚子を深く焼くことは特徴とも云へる。

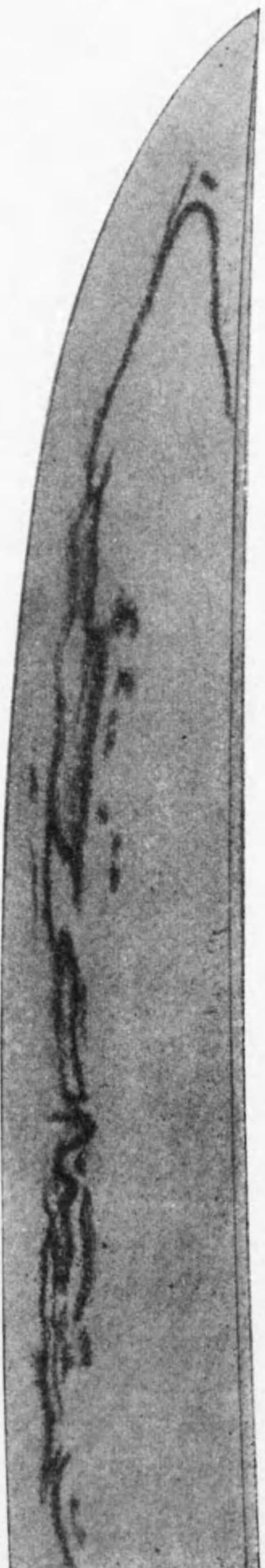


【初代金道】

双長一尺三寸七分五厘、反三分、重量百二十一匁、地板目雁交り、双文亂れ砂流交り出来優れる。（埼玉 床呂幸次郎氏藏）時代寛永の目標は誤りである。それは金道を長子として四男越中守正俊に慶長七年、九年の年號入り作品がある。従がつて初代金道にはそれ以前から作品あることが推測される。これを以て初代金道の時代慶長元和頃と改めたい。

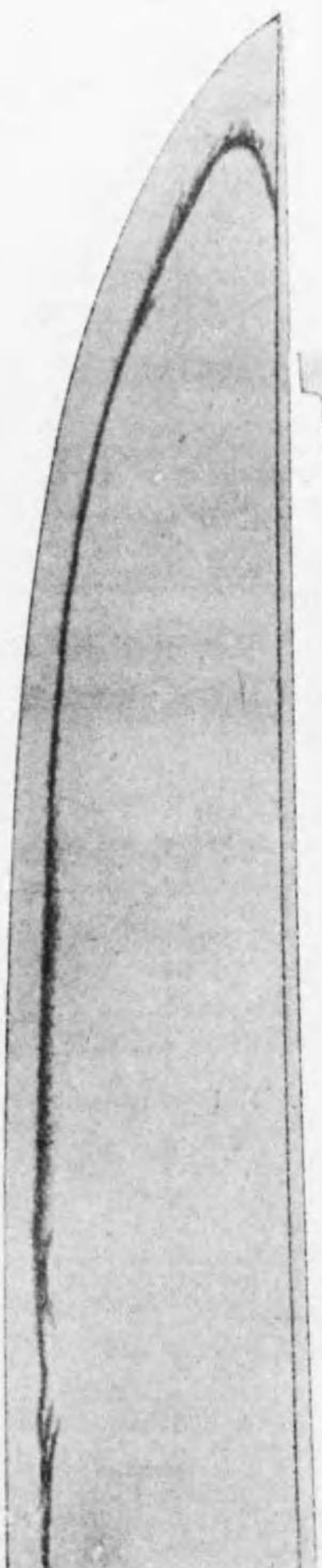






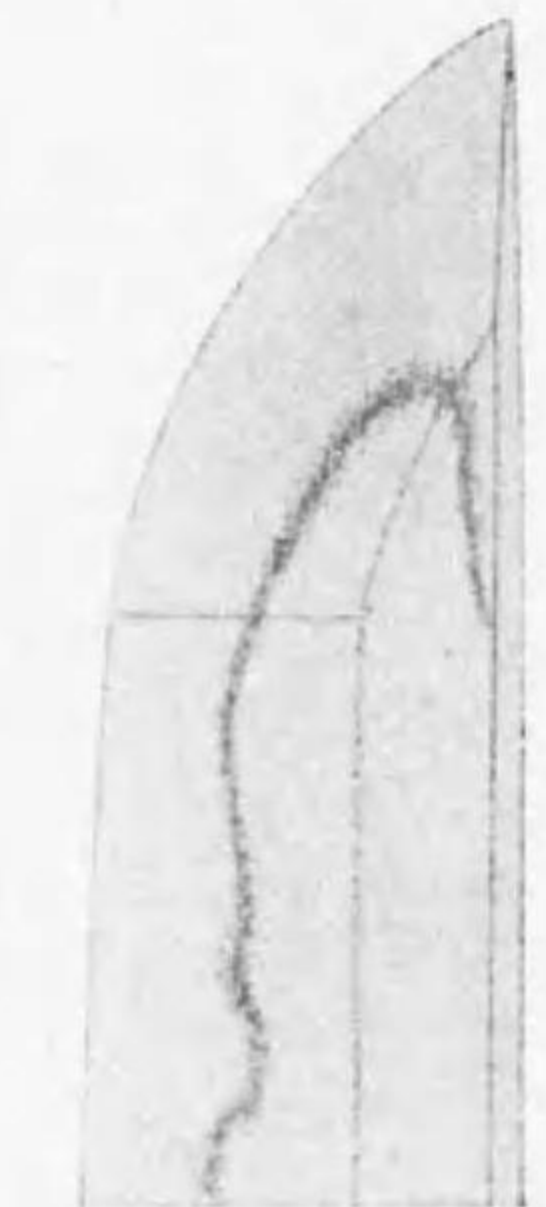
【貳代金道】

刃長一尺一寸五分、反一分強、重ね二分二厘、重量八十七匁、地鐵大板目、刃文直掃ける。（鳥取 三谷義治氏藏）  
二代初期の作品と思はれる、即ち時代寛永末頃。



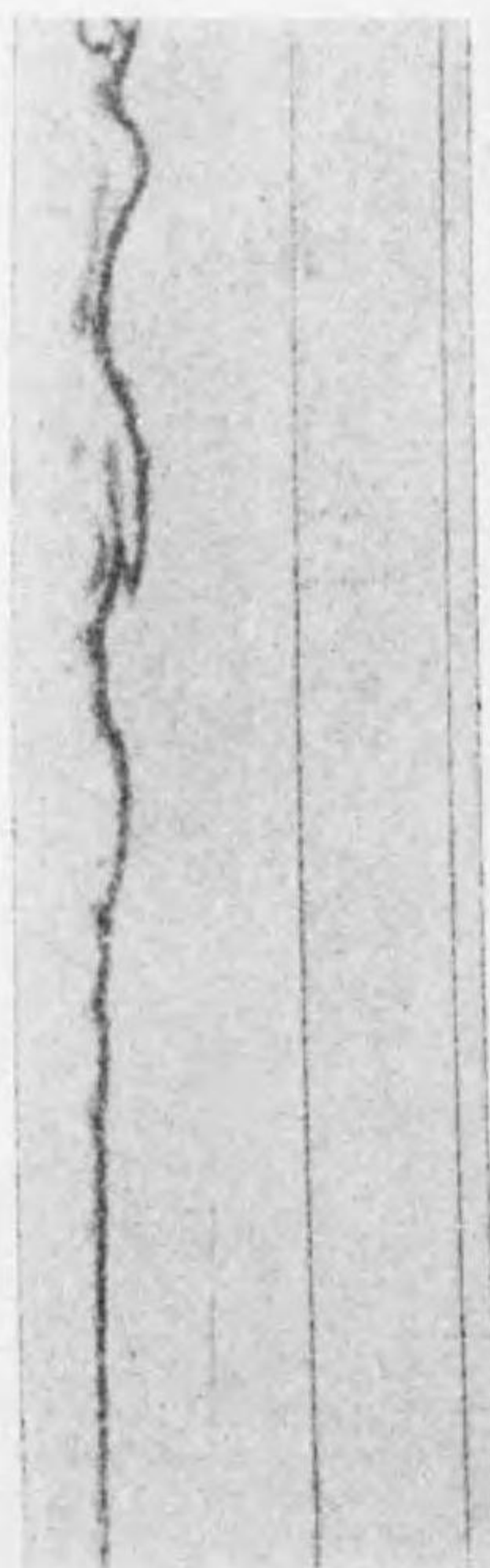
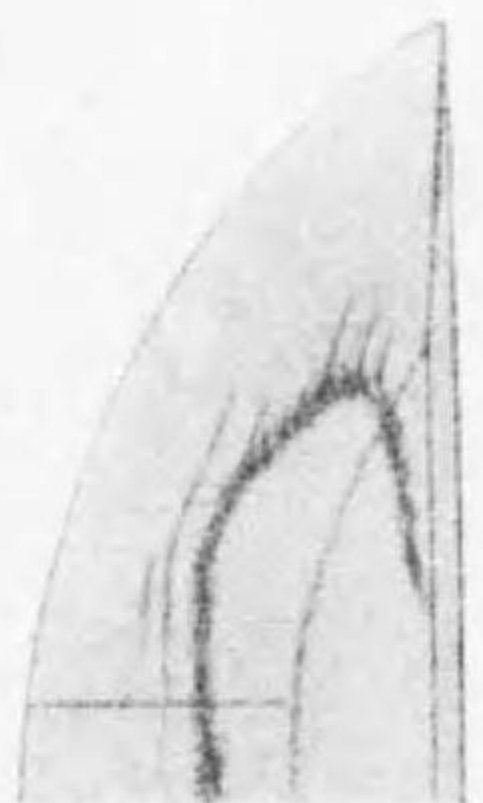
【三代金道】

刃長一尺九寸二分、反六分六厘、重ね二分三厘、重量百四十八匁、地鐵小太目、元焼出し三寸、刃文間を置きたる五ノ目。日本鍛冶惣匠と切銘せるは木工以後なるか。（新刀篇二代金道欄に掲ぐ押形はこの三代金道と改む）



【四代金道】

刃長二尺五寸一分、反り五分二厘、重ね二分三厘、重量二百三十五匁、地鐵小太目、刃文矢筈亂、元三寸餘焼出す。（新刀篇各代の時代を次の如く訂正する、初代慶長、二代寛永、三代寛文、四代寶永）





五畿内、山城 (初代來金道・二代來金道)

【初代來金道】

双長二尺五寸強、反四分二厘、重ね二分二厘、重量二百二十九匁、大切先、地鐵大板目柃交り松皮の如き肌、双文大濶亂心、匂締る、銚子砂流交る、初代は和泉守來金道と云ふも著者は初代で和泉守銘のものを未だ見ない、即ち來金道初代は越後守であると思ふ。



【初代來金道】

双長二尺三寸五分五厘、反り五分三厘、元巾一寸七厘、重量二五四匁、地板目柃交る、双文直濶双。



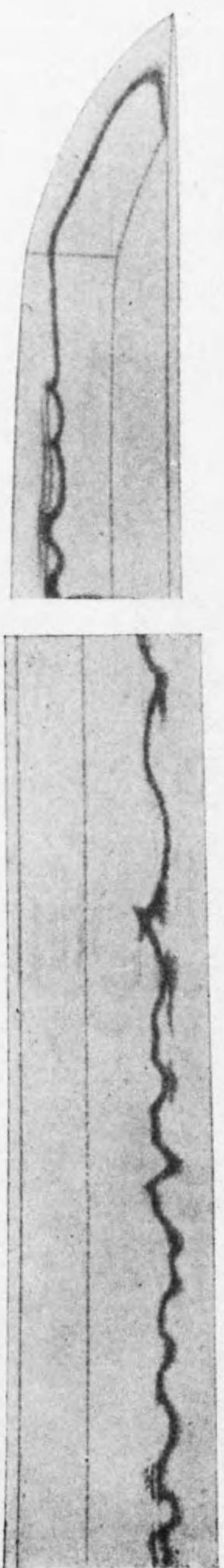
【貳代來金道】

寸尺不明、この作時代寛永頃と推定、大法師法橋榮泉同人にしてこの銘初期に屬する。



【三代來金道】

双長二尺三寸五厘、反り四分五厘、重ね二分三厘、重量二百二十匁、地鐵小本目板交り鎚地柃目、双文直五ノ目尖り交り、匂ひ鈍付く。(新潟 太田欣一氏藏)

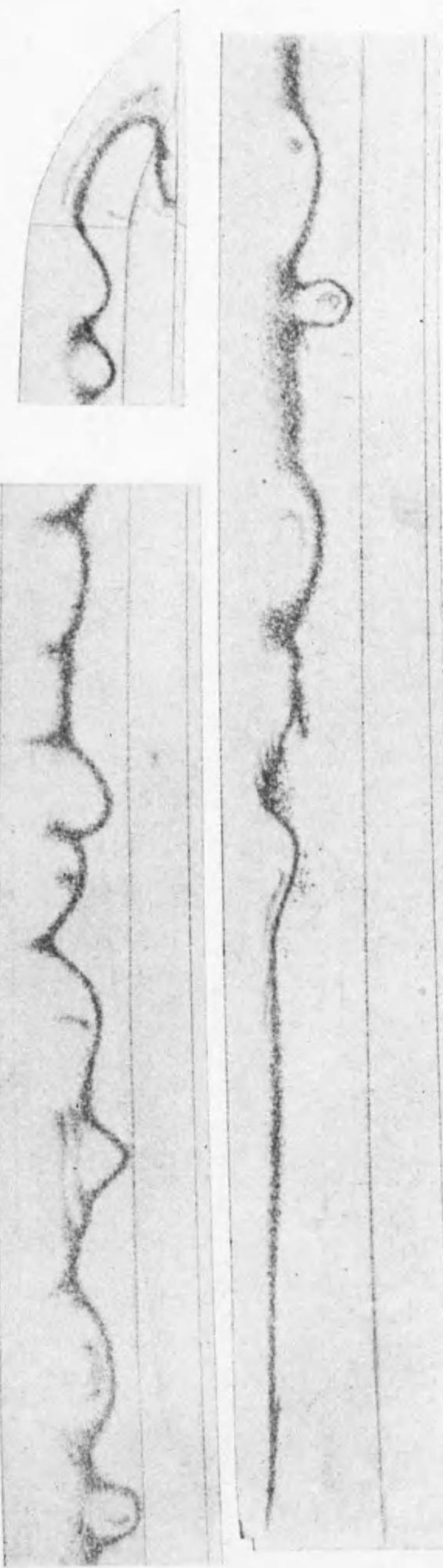


五畿内、山城 (三代來金道・四代來金道・二代久道合作)



五畿内、山城 (二代久道、四代來金道合作・初代久道)

【二代久道、四代金道合作】 双長二尺二寸五分(未詳)、反り五分五厘、重ね二分二厘、重量二百十六匁、地鐵小本目鑄地柃、双文大五ノ目足入り鈍深く、玉を焼く心あり、元直に焼出す。この合作の金道は四代、久道は二代と思はれる。

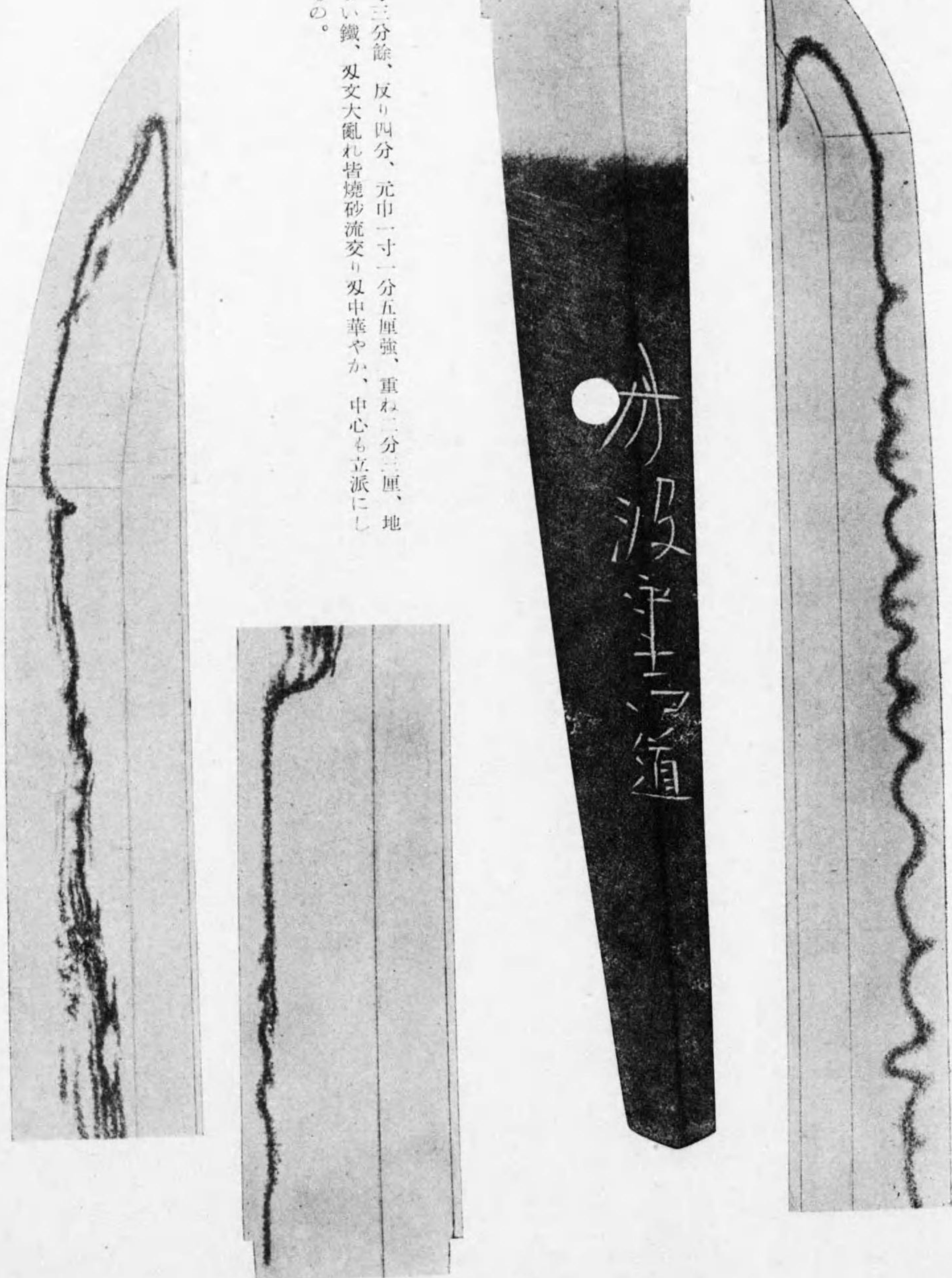


【初貳代久道合作】 双長二尺三寸、重量二百十六匁、地鐵小柃、双文五ノ目足入り双、出来傑れる。



【初代吉道】

双長二尺二寸三分餘、反り四分、元巾一寸一分五厘強、重ね二分三厘、地板目鑄地柃よい鐵、双文大亂れ皆焼砂流交り双中華やか、中心も立派にして優れたるもの。

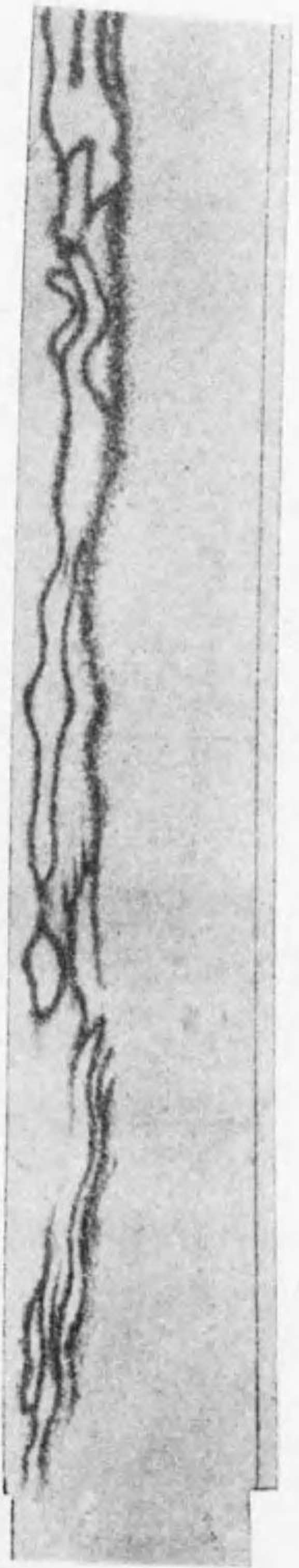


五畿内、山城 (初二代久道合作・初代吉道)



【初代吉道】

刃長一尺三寸一分五厘、地鐵板目地鈍つく、刃文砂流亂、燒の内に芋の蔓を焼き刃中華やか、初期吉道獨特の作風。前掲初代吉道と異なる銘なるを以てか伏見丹波の別人説あり。私には初代吉道後期の銘と思はれる、即ち二代は寛永十六年受領とあるからそれ迄初代の作刀が長期に亘つて続けられてゐたことになる。従来三品一門の同銘代別は極めて簡粗であつた。初代正俊に於ても慶長七年夏年號入り作品があるのに對して、貳代正俊になると最早延寶元祿を偲しむるに充分なる華美刃文へと放れて仕舞つてゐる。  
裏年號の極めて尠いこの一門の代別は可成の困難を伴ふが、この不備を訂さんがために吉道、金道、來金道、正俊に就いて私の推理を茲に試みることにした。



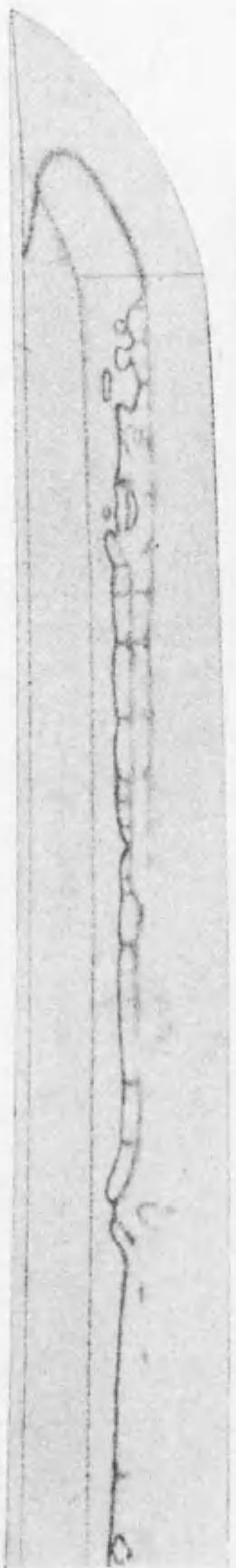
【二代吉道】

刃長一尺五寸二分、反り二分八厘、重ね二分二厘餘、重量百三十九匁、地鐵板目、刃文匂出来明瞭なる菊水刃、物打邊差裏幾分菊水不明瞭、鈍子たるみ心。  
(愛知 高島源次郎氏藏)



【三代吉道】

刃長一尺七寸八分、反り三分二厘、重ね二分三厘、重量百四十五匁、地鐵小本立ち強い、刃文籬刃菊水刃がかかる。





五畿内、山城（初代正俊）

【初代正俊】

双長二尺三寸五分、反り四分二厘、重ね二分二厘、重量二百十八匁、地鉄板目弱い、双文五ノ目亂砂流し交り出来華やか。作柄は出羽大掾國路の如くである。  
 慶長頃の刀工活躍の大舞臺は京都であつた。  
 埋忠明壽は寛永八年に歿して、子の重義は寧ろ鐔工としての名はあれども刀工たるの實力に乏しく、堀川國廣の全盛も慶長十九年歿と共に一代限りにて淋しく終つてゐる。

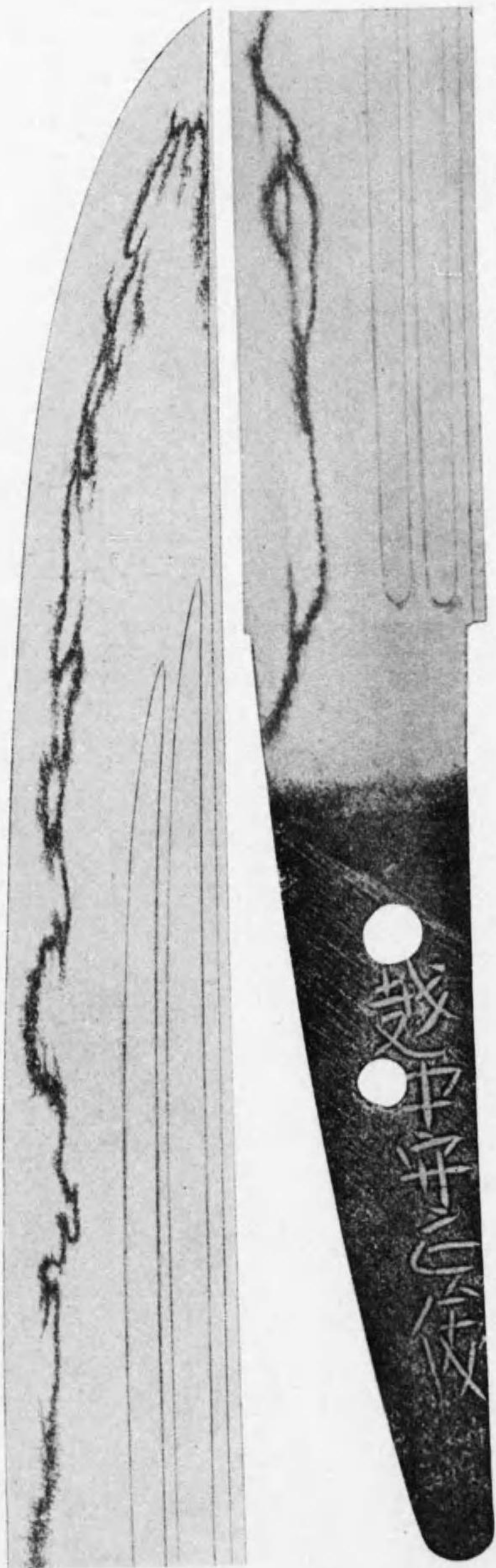
三品一門は丹波守吉道を長として四兄弟あり、其の子はそれぞれ襲名して何代も續き大いに榮えてゐる。  
 日本鍛冶宗匠の地位獲得は國廣、明壽の歿後であらう。その頃より吉道に菊水双なる双文が創められしは忠臣楠公表徴と視るべきであらう。

（東京 鈴木豊三郎氏藏）



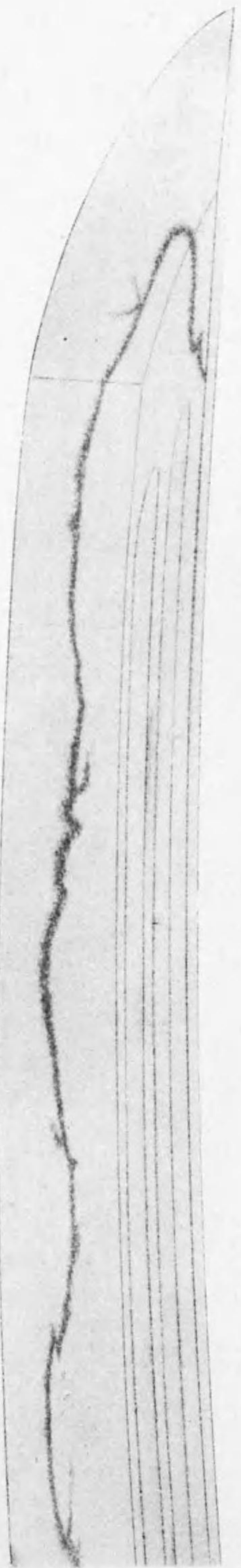
【初代正俊】

双長一尺一寸八分、反り心、重ね薄、三ツ棟、表一本太樋、裏腰樋添樋、地鉄板目流れる、双文五ノ目亂砂流交り双中働き盛んにて、本作は所謂相州傳の作風を寫したるもの。三ツ棟然り、中心の型然り。



【初代正俊】

双長一尺四寸八分、反五分、重ね二分三厘、重量百三十四匁、鎗最も低く、二本樋表裏、地鉄板目良い、双文浅き灣に喰違交る。（東京 鈴木豊三郎氏藏）



五畿内、山城（初代正俊）



五畿内、山城 (二代正俊・三代正俊)

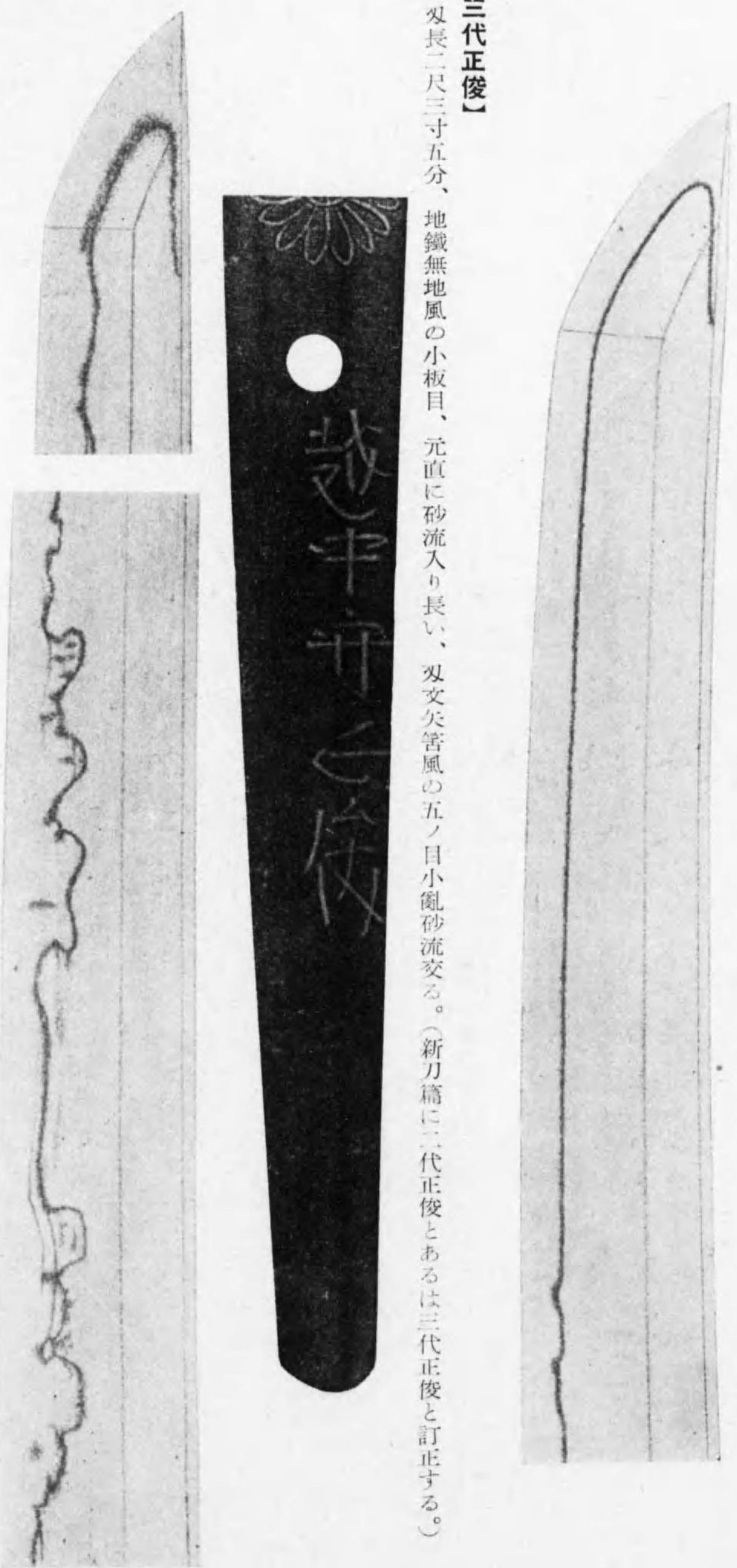
【二代正俊】

双長一尺三寸四分五厘、反り三分一厘、重ぬ二分、重量百匁、地鐵小板目、地映り付く、双文直匂出来縮る。従来初代と云はれてゐた銘である、總目が切りであることが初代と第一の相違点である。



【三代正俊】

双長二尺三寸五分、地鐵無地風の小板目、元直に砂流入り長い、双文矢筈風の五ノ目小亂、刀身の彫刻は成長自身のものであらう。(新刀篇に二代正俊とあるは三代正俊と訂正する。)



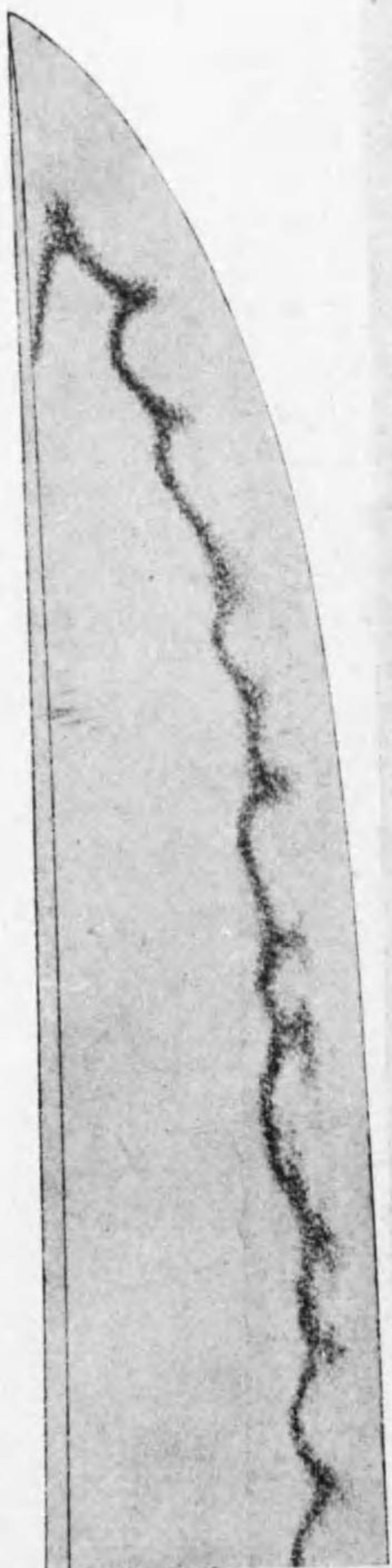
【山城守歳長】

双長一尺四寸、反二分二厘、重量百四十匁、身巾廣い、地小歪、双文五ノ目小亂、刀身の彫刻は成長自身のものであらう。この時代の刀工には彫刻の餘技を心得たものが相當にある。双文、中心尻など虎徹、兼重に似る。(奉天 山田榮氏藏)



八幡大菩薩

五畿内、山城 (山城守歳長)





五畿内、山城（陸奥守歳長・信濃守信吉）

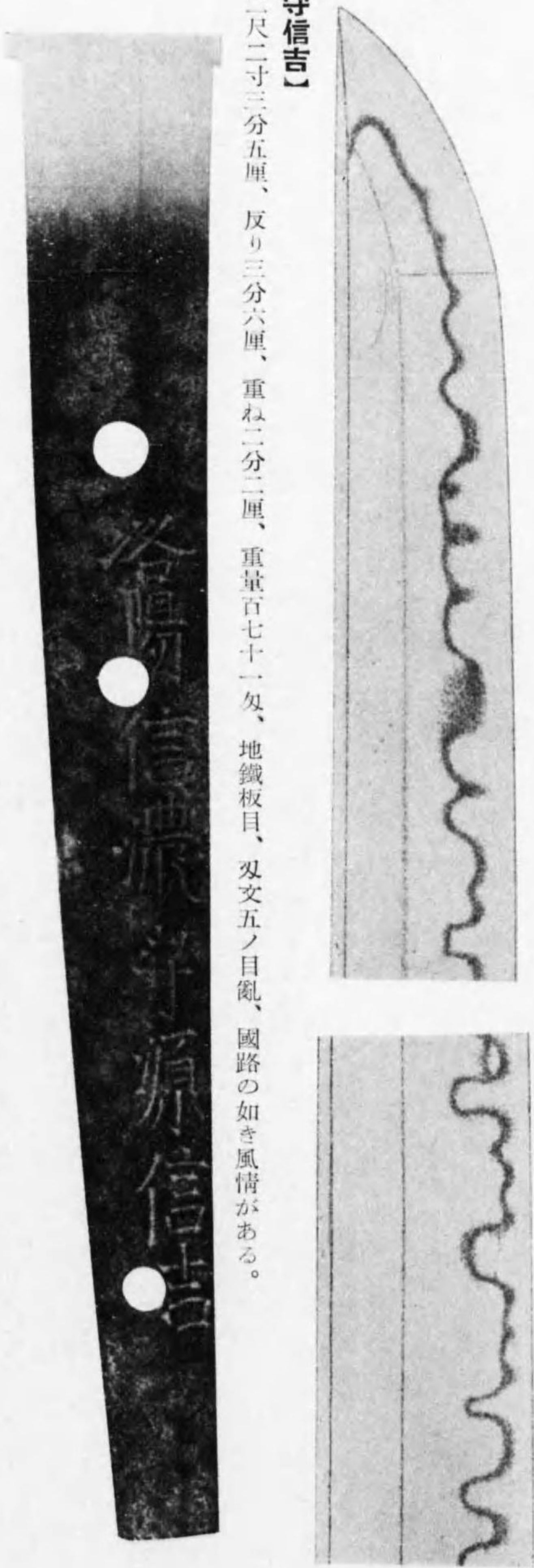
【陸奥守歳長】

双長二尺三寸四分五厘、反り四分五厘、重ね二分二厘、重量百八十八匁、地鉄小本目、双文五ノ目腰高き双揃ひ出来良い、元直焼出し二寸程ある。



【信濃守信吉】

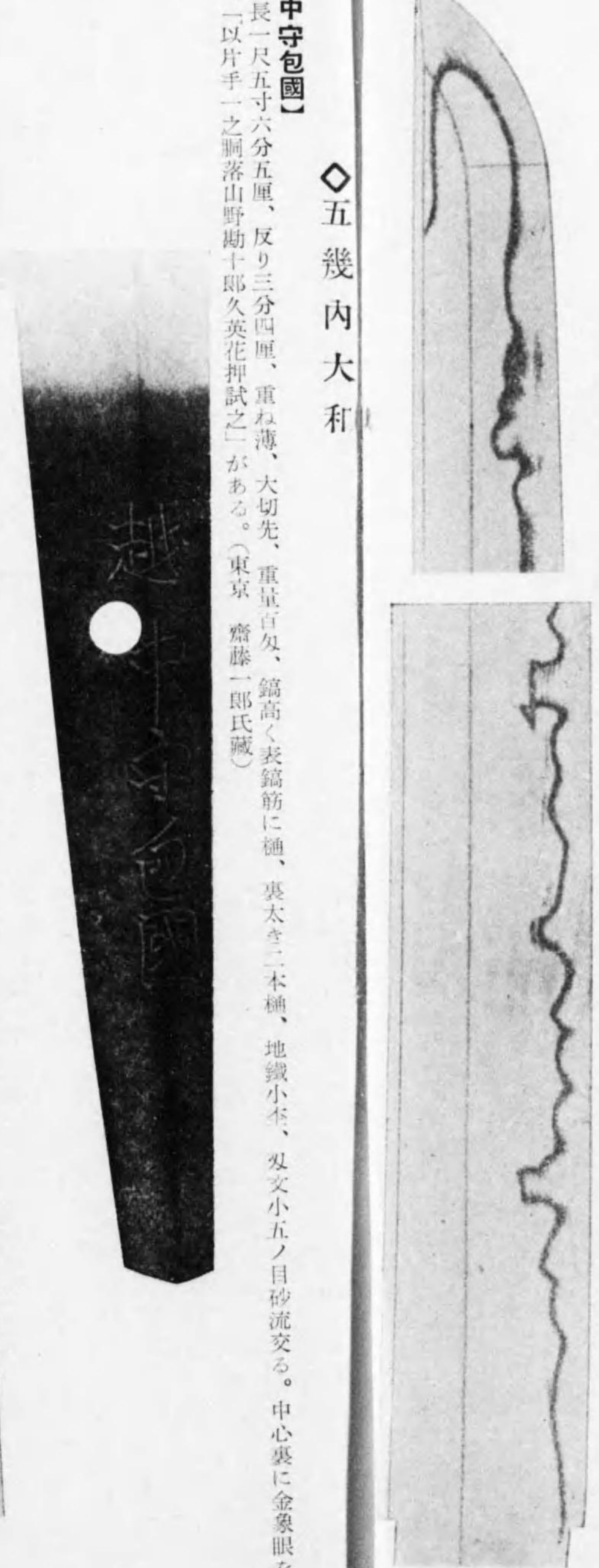
双長二尺二寸三分五厘、反り三分六厘、重ね二分二厘、重量百七十一匁、地鉄板目、双文五ノ目亂、國路の如き風情がある。



◇五畿内大和

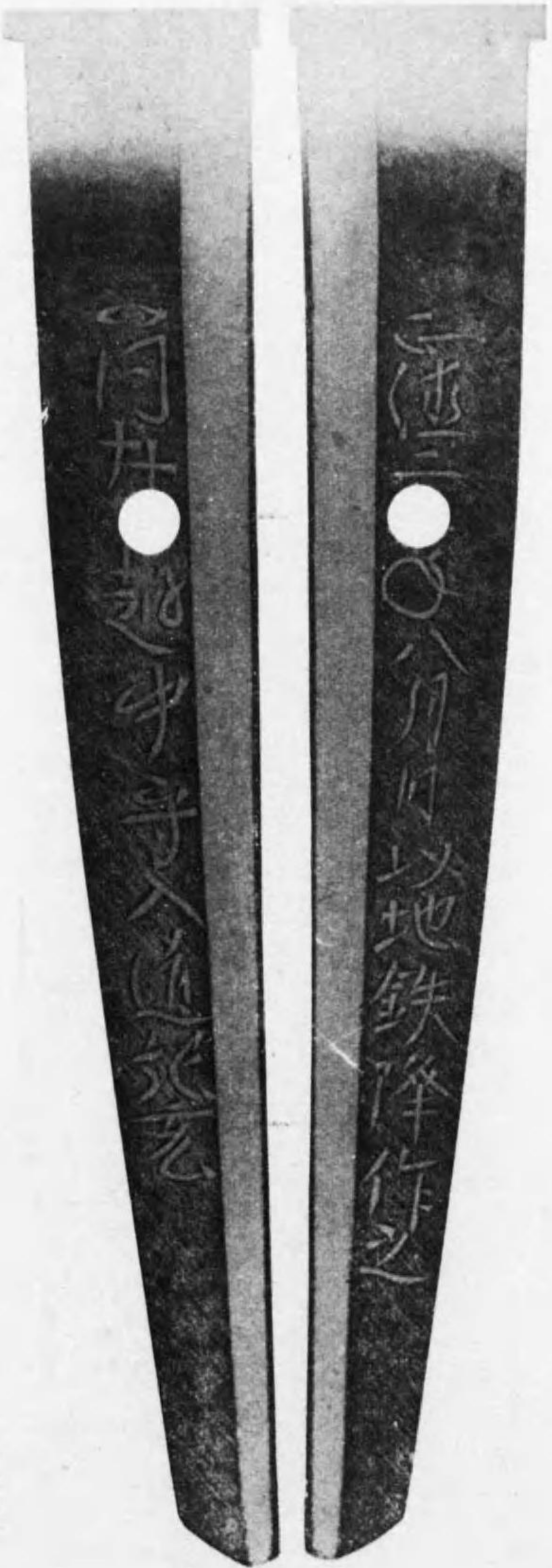
【越中守包國】

双長一尺五寸六分五厘、反り三分四厘、重ね薄、大切先、重量百匁、鎊高く表鎊筋に種、裏太き二本種、地鉄小本、双文小五ノ目砂流交る。中心裏に金象眼を以て一以片手一之調落山野勘十郎久英花押試之がある。（東京 齋藤一郎氏藏）



【筒井紀充】

双長二尺八分五厘、反り五分一厘、重ね二分三厘、重量百二十六匁、地鉄極目大板交る、双文五ノ目大亂、玉焼飛焼多く砂流交りて匂出来。（東京 齋藤一郎氏藏）



五畿内、大和（越中守包國・筒井紀充）

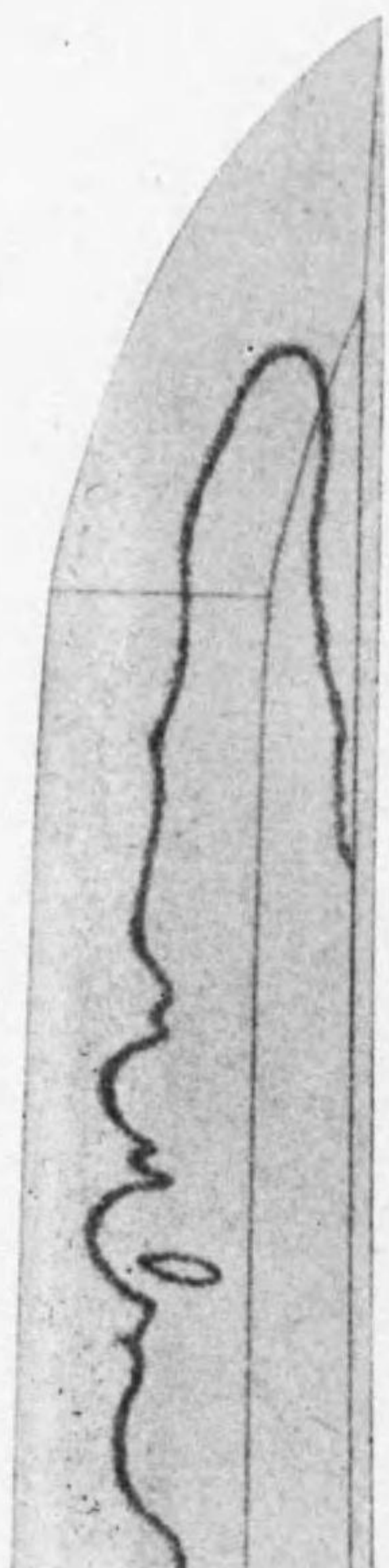




◇五畿内 攝津

【初代國貞】

刃長二尺五寸、反り四分七厘、重ね二分四厘、重量二百六十八匁、地鐵小本目美しい、刃文小鋸出来五ノ目亂刃淋しい。越後守國倫の出来と變らない、初代國貞の初期作。(静岡 市川雄二郎氏藏)



【初代國貞】

刃長二尺三寸六分弱、反り三分三厘、重ね二分一厘餘、重量二百〇六匁、地鐵小本目良い、刃文五ノ目足入り匂鈍深く出来華やか、銚子小丸焼深く良い。



【初代國貞】

刃長二尺三寸六分、身巾頃合、地小本目美しい、刃文五ノ目小亂れ鈍崩れ又足太く揃ひて入り華やか。「生國日向住井上……」と長銘に切れることが従来の鍛刀の場合より更に緊張した氣持で本刀の製作に當つた事を思はしめる。五十五歳時の晩年作。(重要美術品 東京 伊藤祐淳氏藏)





五畿内、攝津（二代國貞）

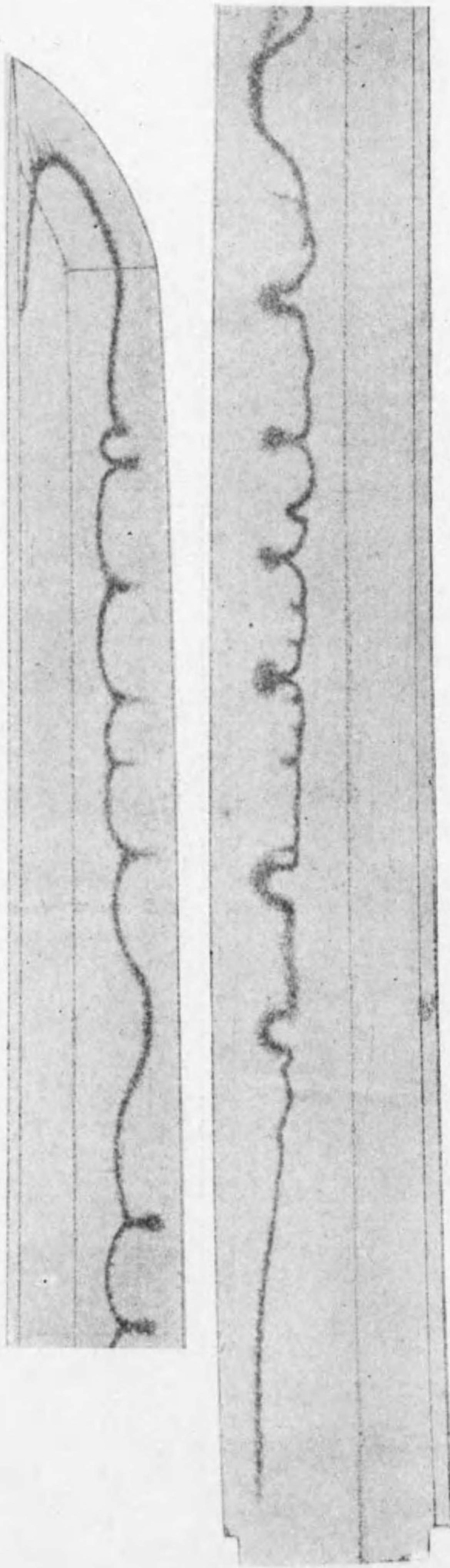
【二代國貞】

刃長二尺六寸、地鉄板目松皮肌、鎊地柃になる、刃文角張つたる亂刃、二代國貞は井上真改の前銘である。



【二代國貞】

刃長二尺四寸、重ね二分三厘、重量百九十匁、地鉄小本美しい、刃文大五ノ目刃、元直焼出し近江守久道の如き刃がありて、鈍深く足入り中央部出来一段と宜い。（安東 清水義雄氏藏）



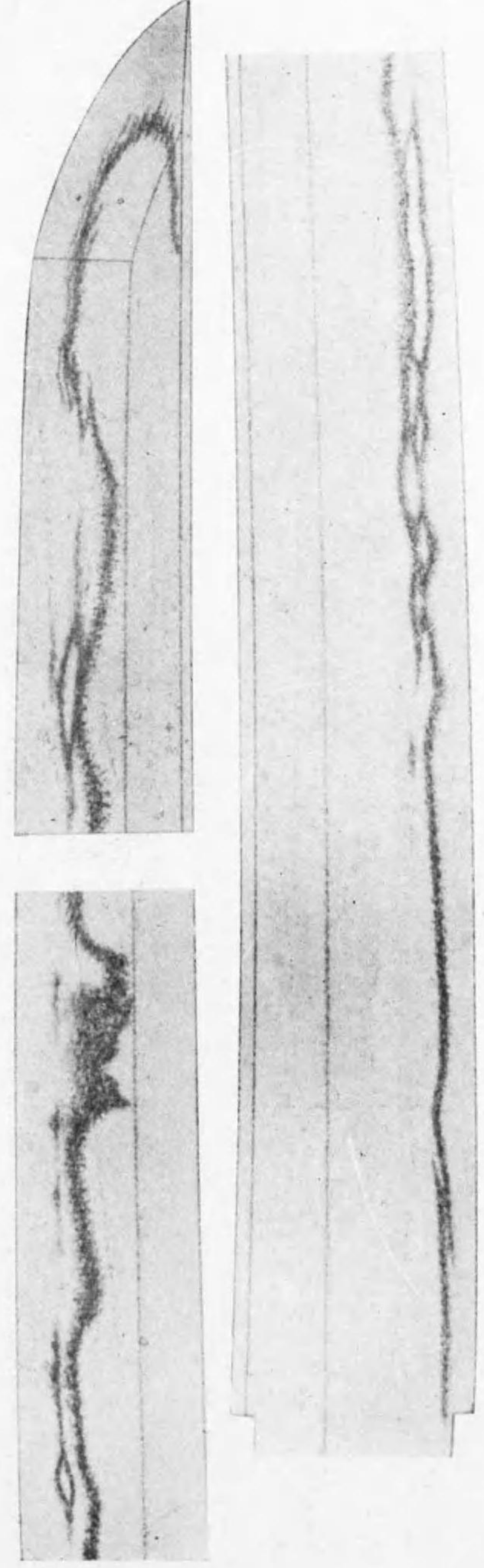
【井上真改】

刃長二尺三寸二分五厘、反り六分二厘、重ね二分五厘、重量二百匁、地鉄小本美しい、刃文元直焼き順次亂となり華やか、鈍最も深く、喰違刃の蔓交り優れる。（東京 中谷武世氏藏）



五畿内、攝津（井上真改）





【井上真改】

刃長二尺三寸四分、反り五分餘、重量百七十八匁、地小李澄み美しい、刃文濤亂刃匂疵最も深い。（横濱 角替利策氏藏）



【北窓治國】

刃長一尺七寸七分五厘、反り三分五厘、重ね一分九厘、重量百四十三匁、地鐵小李に大板目交る、刃文直に廣狹あり荒鈍つき地に煙込む、上半中鈍となる。（埼玉 小島行平氏藏）

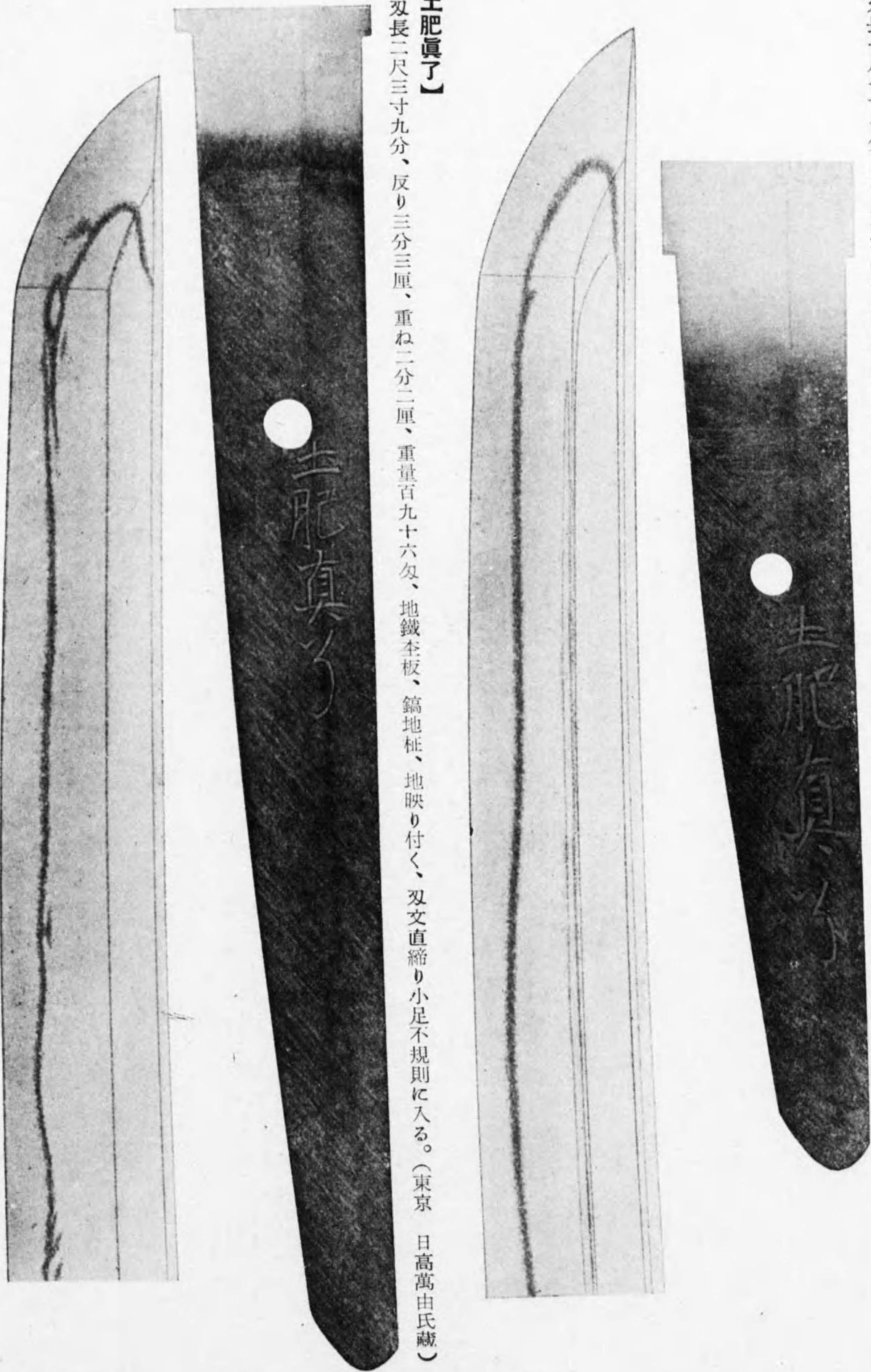




五畿内、攝津（土肥真了）

【土肥真了】

双長一尺七寸七分、反り五分五厘、樋に添樋、重ね二分一厘、重量百四十一匁、地鉄小柰目大肌交る、双文大灣鈍深い。（東京 齋藤一郎氏藏）

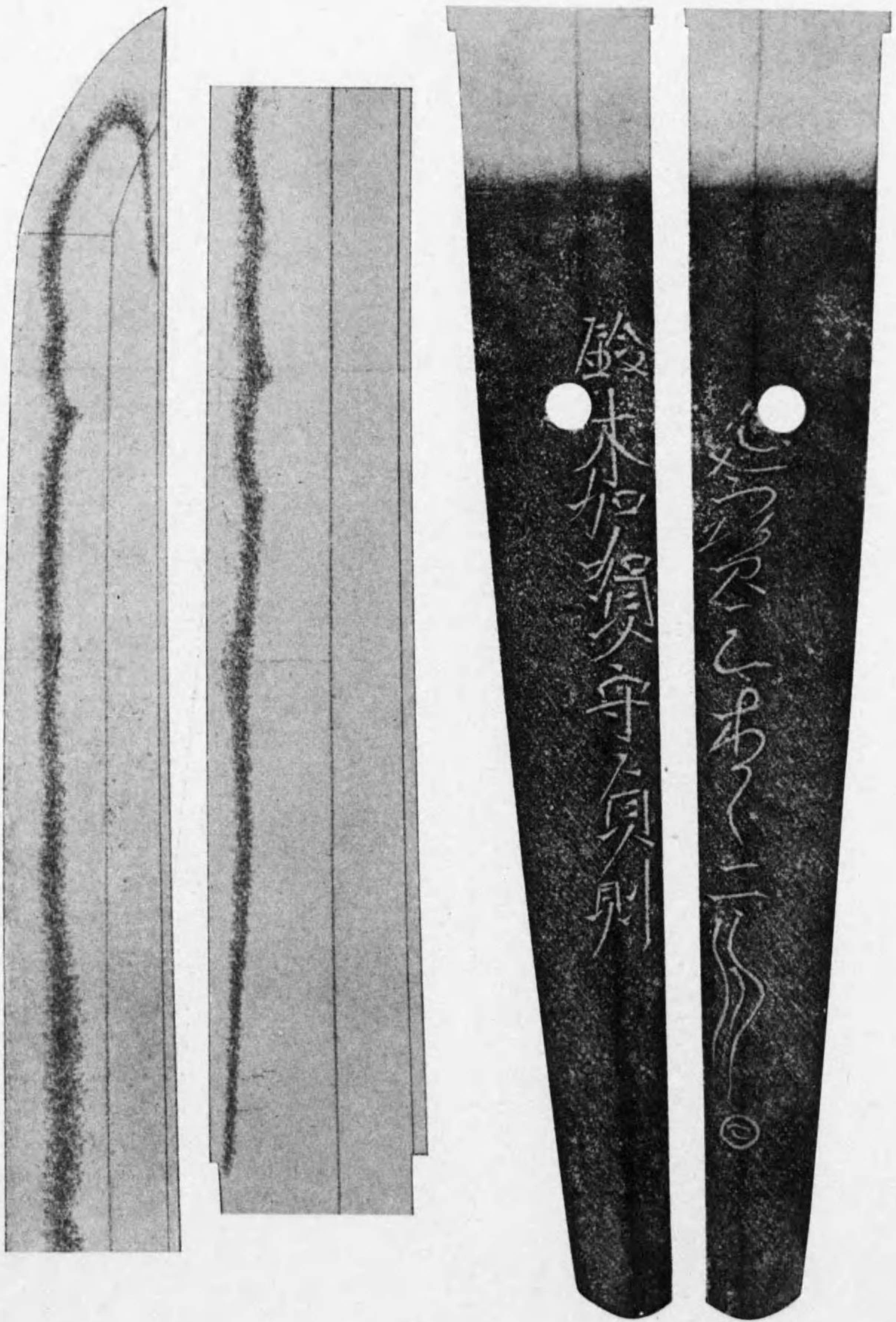


【土肥真了】

双長二尺三寸九分、反り三分三厘、重ね二分二厘、重量百九十六匁、地鉄全板、鎬地柢、地映り付く、双文直縮り小足不規則に入る。（東京 日高萬由氏藏）

【鈴木貞則】

双長二尺三寸五分、反り四分、重ね二分一厘、重量百八十三匁、地鉄小柰目つみ美しい、双文太き直双大灣を交へ匂鈍最も深い、鈍子小丸、類のなき貞則中の傑出品。（安東 清水義雄氏藏）



五畿内、攝津（鈴木貞則）



五畿内、攝津（和泉守國虎・初代國助）

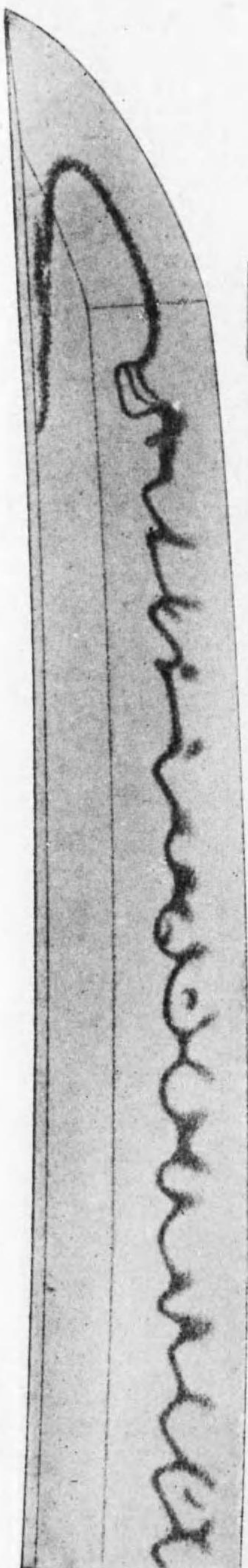
【和泉守國虎】

双長一尺五寸五分、反り四分四厘、重ね二分五厘、重量百四十三匁、地鐵板目、双文五ノ目双足入り元直に焼出す。（福島 根元禮一氏藏）



【初代國助】

双長一尺五寸二分、反り四分二厘、腰二本樋、三ツ棟、地鐵小全つみ美しい、双文元焼出し二寸餘にて五ノ目、鉾深く足長く入り優れたる出来、初代國貞に似る。（東京 齋藤一郎氏藏）



【初代國助】

双長二尺五寸二分五厘、反り四分三厘、重ね二分四厘、重量二百二十八匁、地鐵杢目、双文焼深く巾調ひたる亂。（東京 林田等氏藏）



【貳代國助】

寸尺不明、双文五ノ目足入り、中河内の初期作にも初代同様に「藤原」姓を添へたるものがある。



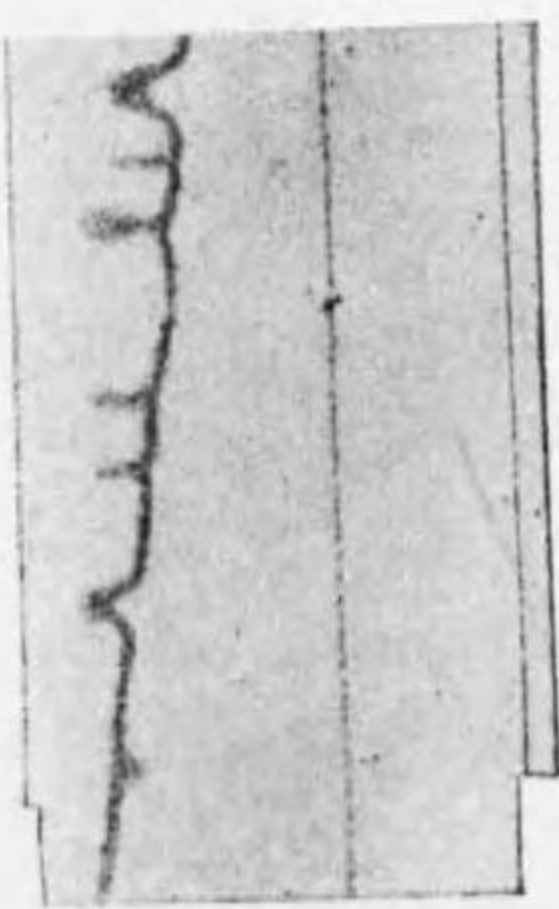
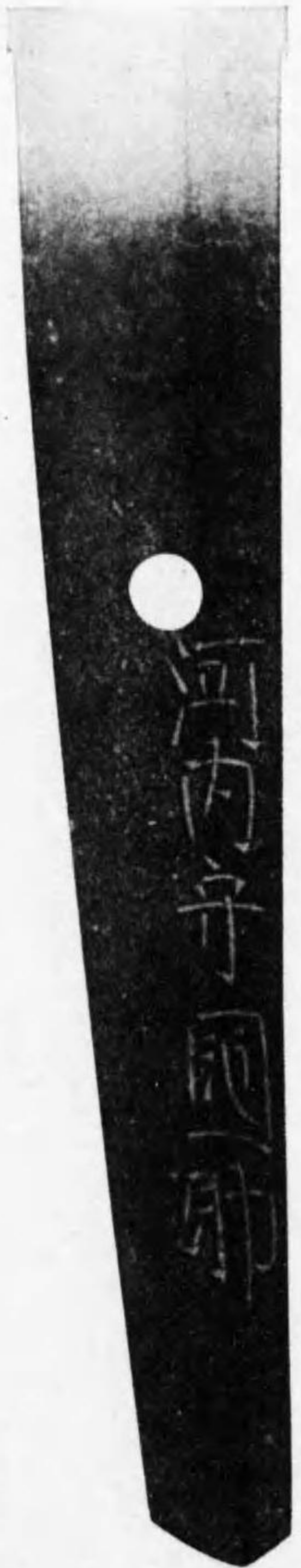
五畿内、攝津（初代國助・二代國助）



五畿内、攝津（二代國助）

【二代國助】

双長二尺二分五厘、反り二分一厘、重ね二分二厘、重量百四十八匁、地鉄小太美しい、双文拳形丁子鮮やか。



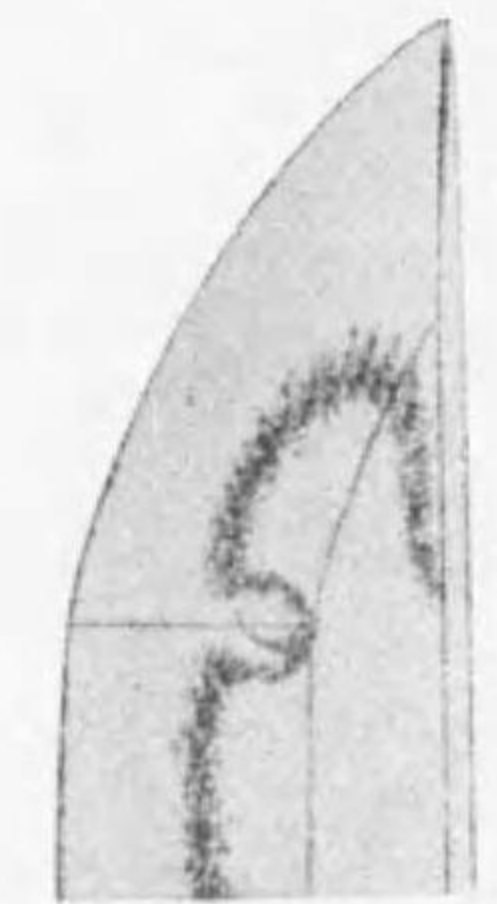
【二代國助】

双長二尺三寸九分、反り三分六厘、重量二百五匁、地鉄拳形丁子匂小鈍深く足入り崩れ整ひて宜い。



【四代國助】

双長二尺五分五厘、反り六分五厘、重ね二分二厘餘、重量百六十七匁、地鉄小太、双文五ノ目足長く揃ひて入る、中河内の作風よりも寧ろ一竿子の風情がある。



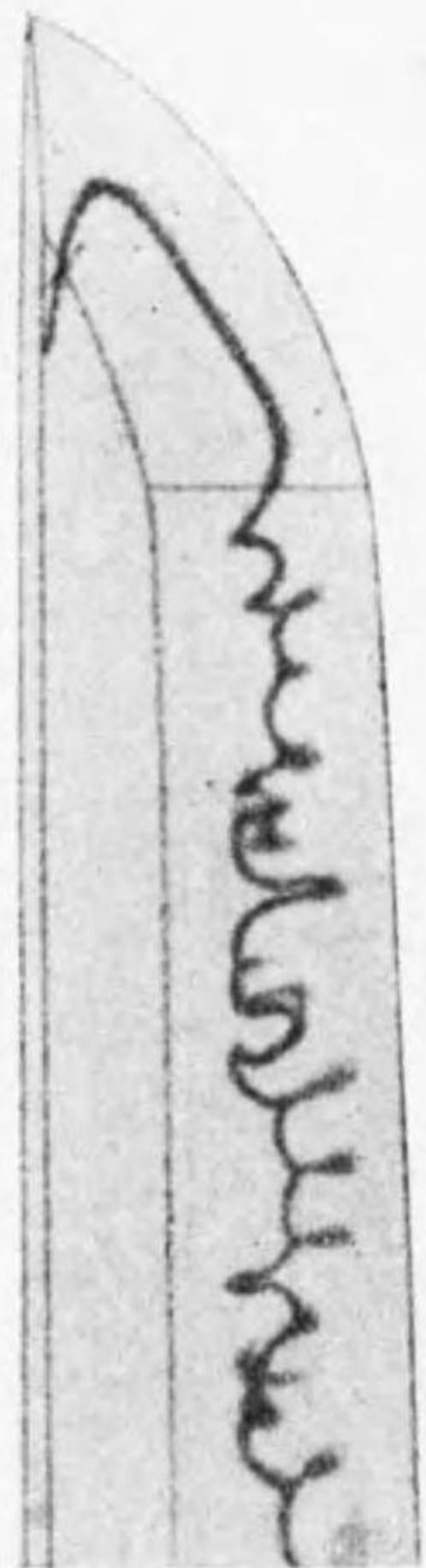
五畿内、攝津（二代國助・四代國助）



五畿内、攝津（肥後守國康・伊勢守國輝）

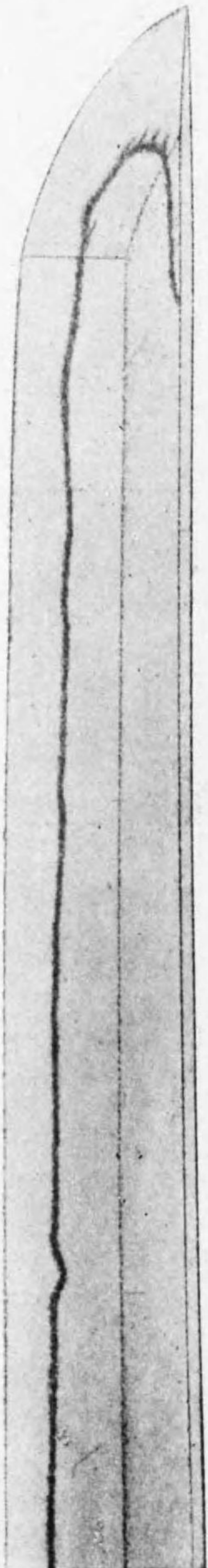
【肥後守國康】

双長二尺二寸九分、反り二分五厘重ね二分、重量百八十三匁、地鉄全目弱き所がある、双文拳形丁子逆心になる。



【伊勢守國輝】

双長一尺八寸一分、反り三分八厘、重ね二分二厘、重量百四十七匁、地鉄小全弱る、双文浅き灣少くし喰違双交る。（新潟 平田富彌氏蔵）



【伊勢守國輝】

双長二尺三寸七分、地鉄全目、双文大五ノ目鈍深く足入り出来宜い。



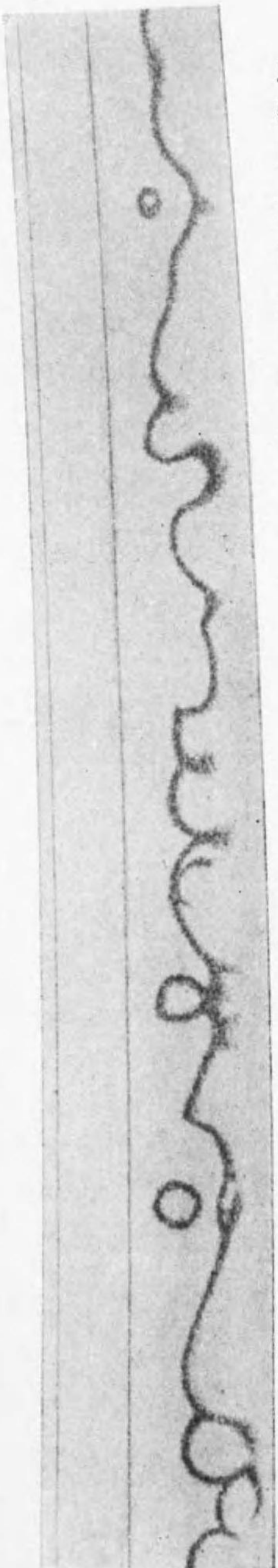
【陸奥守輝政】

双長二尺一寸二分、反り五分五厘、重ね二分三厘、重量百九十八匁、地鉄小全目立つ、双文濤瀾亂燒深く玉焼交り出来優れる。



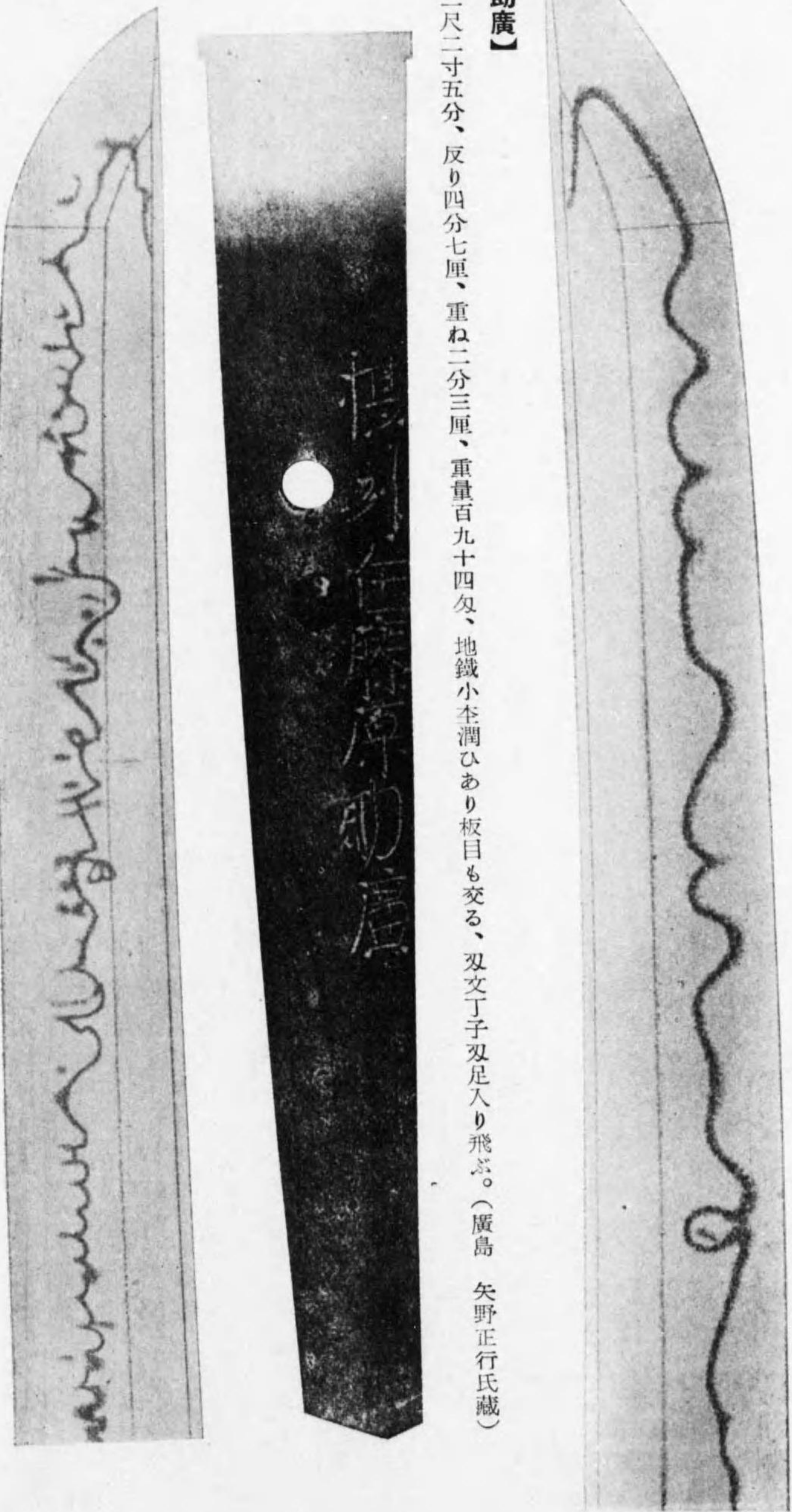
五畿内、攝津（伊勢守國輝・陸奥守輝政）





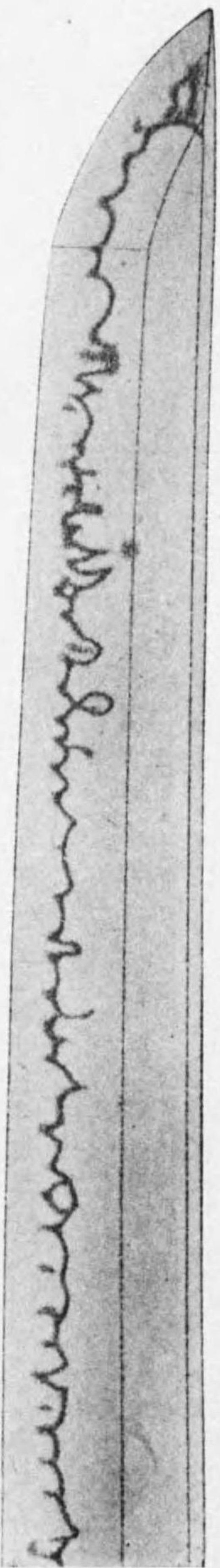
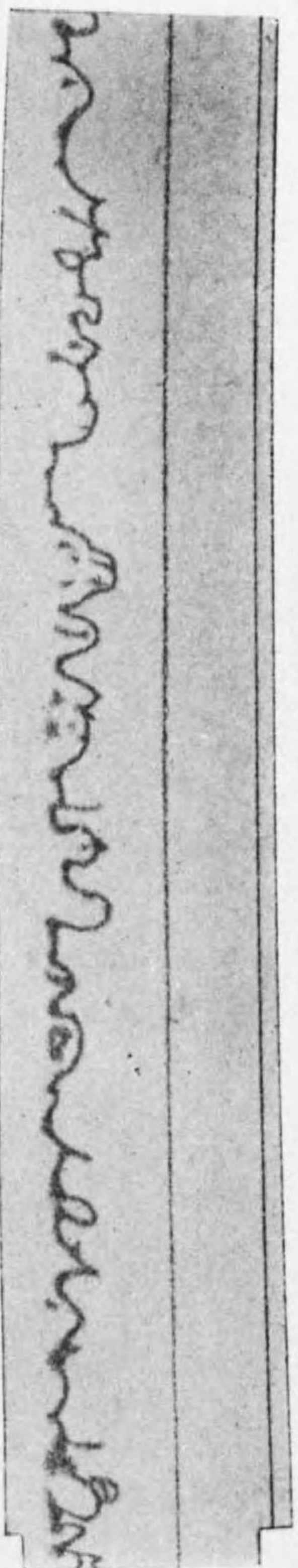
【初代助廣】

刃長二尺二寸五分、反り四分七厘、重ね二分三厘、重量百九十四匁、地鉄小太潤ひあり板目も交る、刃文丁子刃足入り飛ぶ。（廣島 矢野正行氏藏）



【初代助廣】

刃長二尺七分五厘、反り四分三厘、重ね二分一厘、重量百六十三匁、地鉄小板目地映りつく、刃文丁子刃匂締る。（東京 中谷武世氏藏）



【貳代助廣】

刃長二尺五寸強、反り四分六厘、重ね二分二厘、重量百九十六匁、地鉄小太詰む、刃文五ノ目元直焼出す。（福岡 矢野孝吉氏藏）



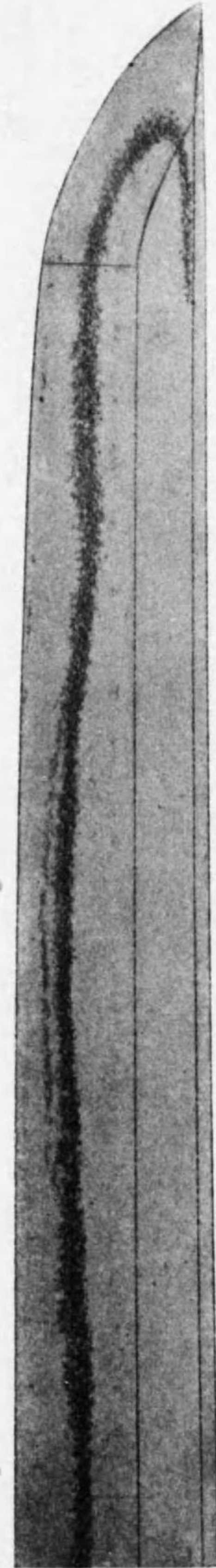


五畿内、攝津（二代助廣）



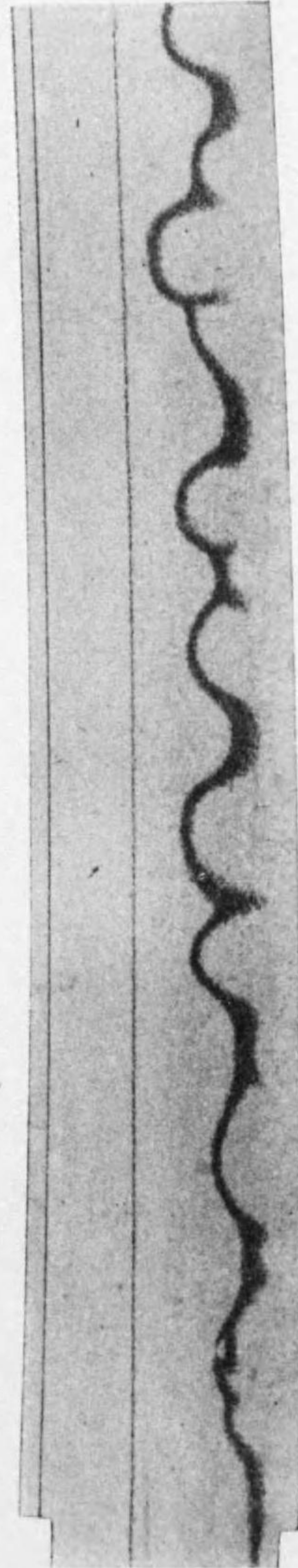
【貳代助廣】

刃長一尺四寸四分、反五分五厘、重ね二分餘、重量百七十三匁、地鐵小本目強く、刃文浅き大灣鈍荒く深い。銚子小丸、生中心目釘穴一つ、「表津田越前守助廣、裏寛文九年十二月日、天帝」とある。（東京 中谷武世氏藏）



【貳代助廣】

刃長二尺三寸九分、反り六分五厘、重ね二分五厘、重量二百七十七匁、地鐵小本目、刃文濤亂刃鈍深い。



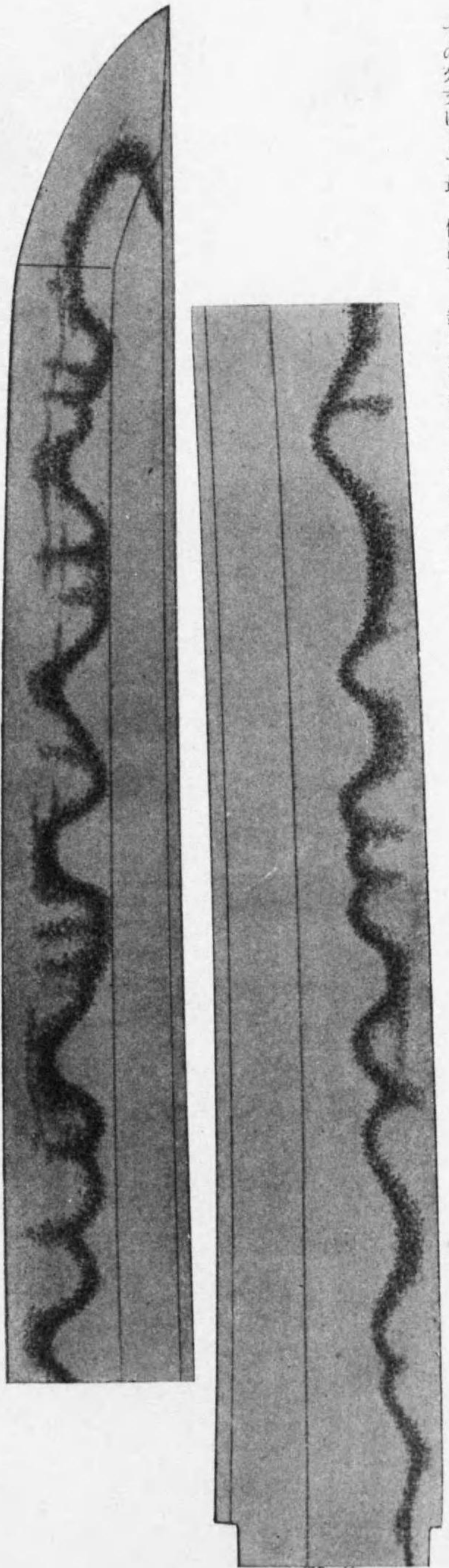
五畿内、攝津（二代助廣）





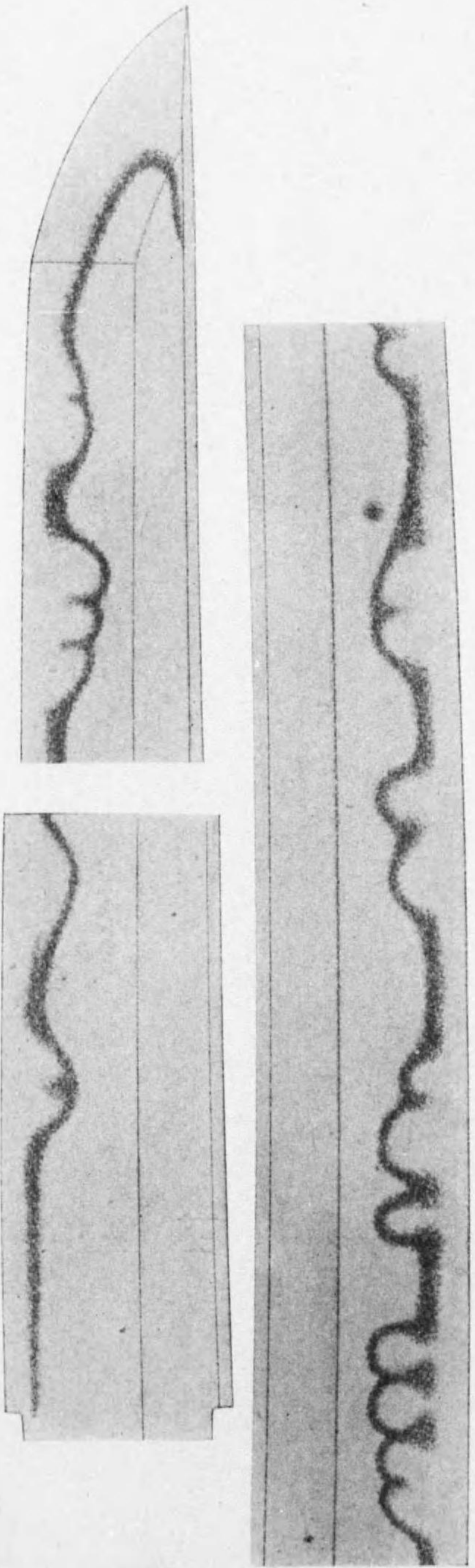
【二代助廣】

刃長二尺四寸弱、反六分、重ね二分二厘、重量二百十五匁、地鐵小柰目細美、刃文瀟灑刃匂鈍最も深く足入り、銚子小丸、銚子下砂流を幾分交へる、助廣としての刃文にして最も傑出す。鎌田魚妙著新刀辨疑所載の逸品。



【貳代助廣】

刃長一尺七寸九分、反り四分、重ね二分二厘、重量百五十五匁、地鐵小柰美しい、刃文鮮かなる瀟灑刃匂最も深い。（高知 須藤治美氏藏）





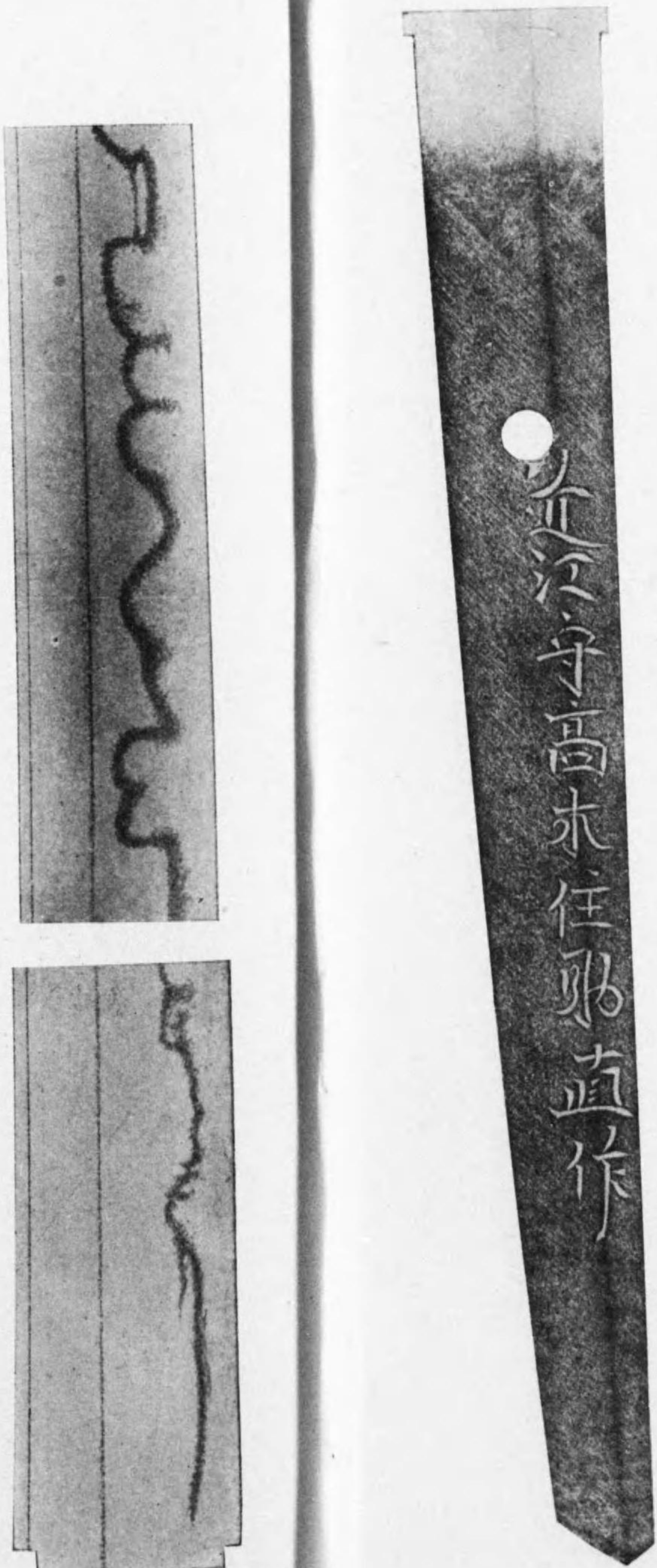
【津田助直】

刃長二尺二寸九分五厘、反り三分八厘、重ね二分五厘、重量百九十六匁、地鐵小柰柵弱く現る、刃文直小亂心鈍深い。



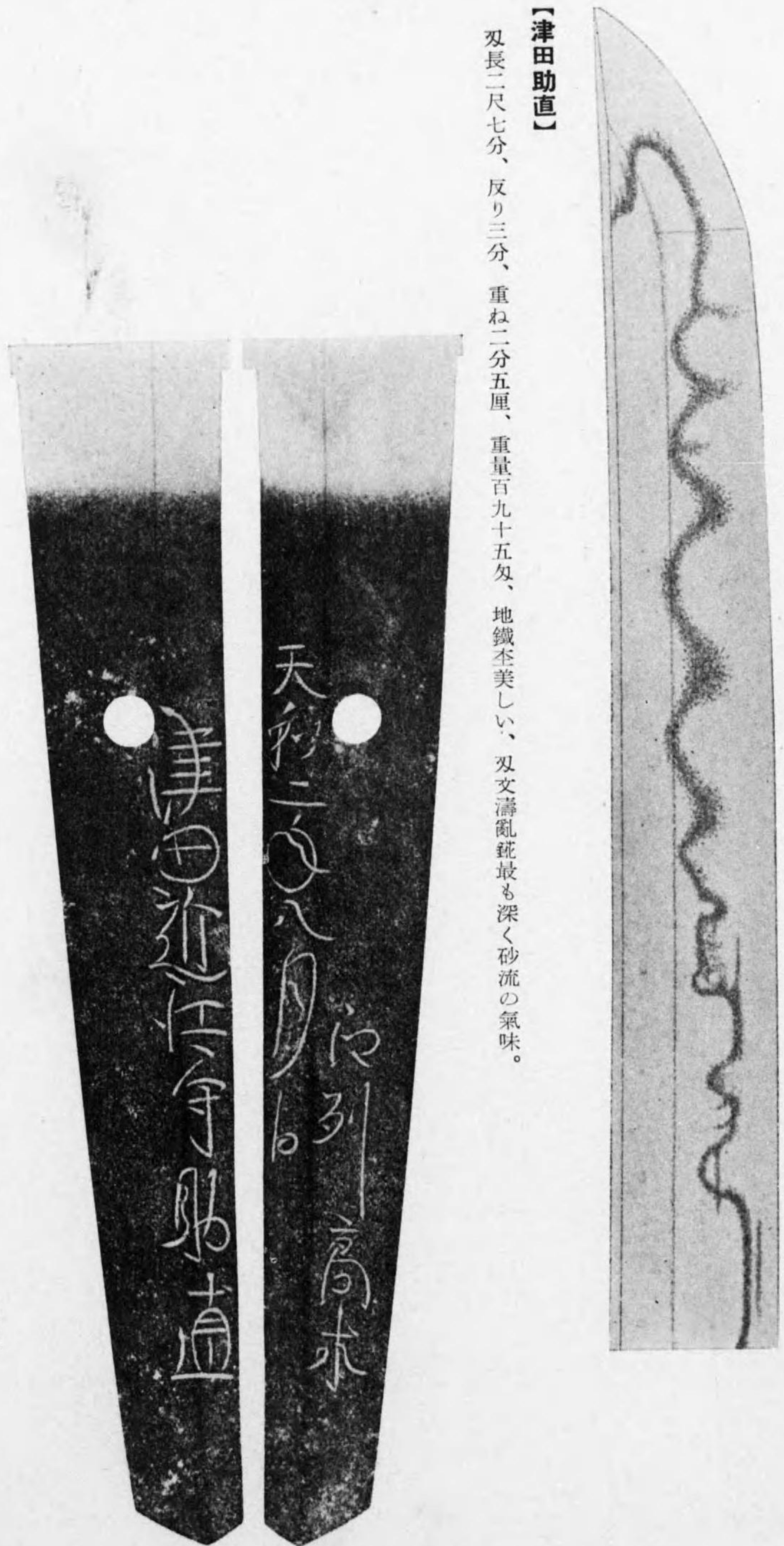
【津田助直】

刃長二尺三寸六分、反り五分、重ね二分四厘、重量百九十四匁、地鐵小柰目強い、刃文五ノ目風の濤亂刃、銚子下荒鈍つく、出来華やか。

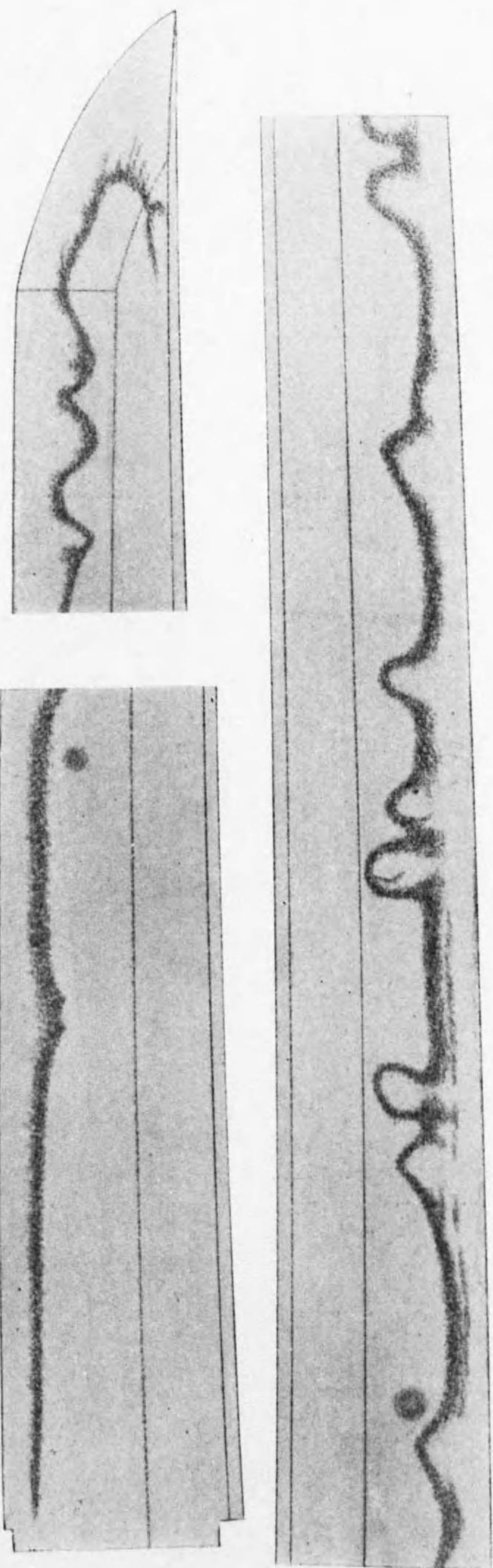


【津田助直】

刃長二尺七分、反り三分、重ね二分五厘、重量百九十五匁、地鐵柰美しい、刃文濤亂鈍最も深く砂流の氣味。







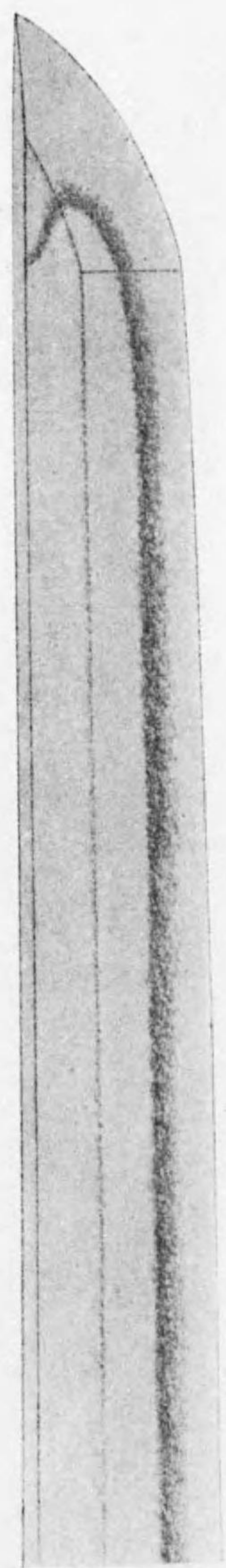
【津田助直】

刃長二尺二寸六分、反り四分五厘、重ね二分、重量百六十一匁、地鉄小太目潤ひあり、刃文中直鈍最も深い。



【鈴木助政】

刃長二尺三寸、反り五分六厘、重量百九十四匁、冠落しの造込み、地鉄太目潤ふ、刃文浅き五ノ目刃足入る、元直焼出し三寸餘。（横濱 佐々木幹雄氏藏）





五畿内、攝津（初代吉道・二代吉道）

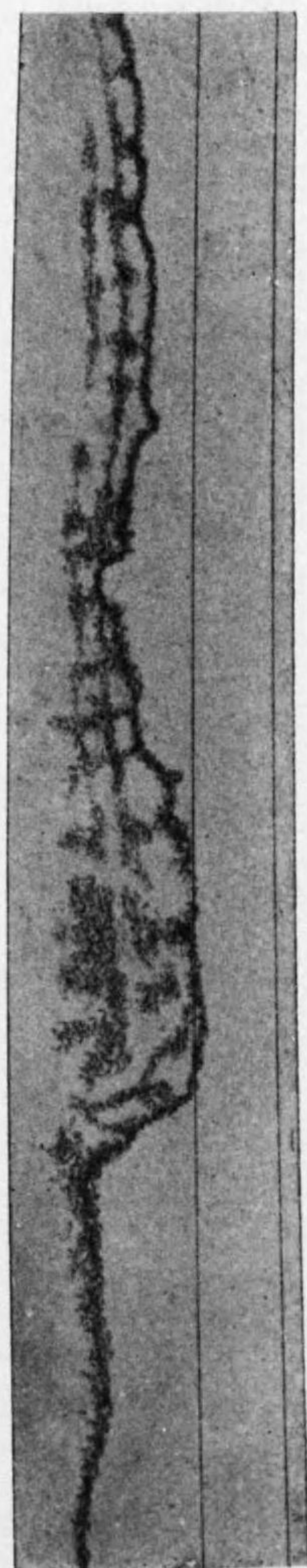
【初代吉道】 寸尺不明、双文菊水刃。この銘中期と思はれる。



初代吉道寛文七年七十歳猶存命と云ふ。二代吉道の作銘はこれ以後から始められしか、次男大和守吉道の作は既に承應の頃（父初代吉道五十餘歳）に始まる。二代吉道と大和守吉道の合作も兄弟なるがゆへに往々見られる。亦なかには後世丹波守吉道を大和守吉道に改鼠したるものもある。

【二代吉道】

双長二尺二寸七分、反五分八厘、重ね二分、重量百七十五匁、地鐵小板目、双文菊水刃、匂出来に鈍交る、匂鈍深く銚子働く。菊水刃として鮮明なるもの、左の双文中に二つの菊花を見る。



【大和守吉道】

二尺四寸二分、反四分五厘、地小本目強い、双文丁子足入り匂出来華やかなるもの、元小五ノ目焼出し、銚子小丸、たるみ心、作風河内守國助を彷彿してそれに優れる、初代大和守作。



五畿内、攝津（二代吉道・大和守吉道）





【二代吉道】 双長二尺一分、反り三分八厘、重ね二分三厘、重量百七十六匁、地鉄小太宜い、双文五ノ目足揃ひて這入り、健やかなる作。初代に比して肩下りの銘になる。



【上野守吉國】 双長二尺三寸一分五厘、反り五分、元巾一寸、重ね二分六厘、重量二百八匁、地鉄小太強い、双文瀟亂刃に矢筈刃を交へて物打邊簾刃になる。直焼出しありて銚子はたるみ心、後上野守となり土佐に移る。



【丹後守兼道】

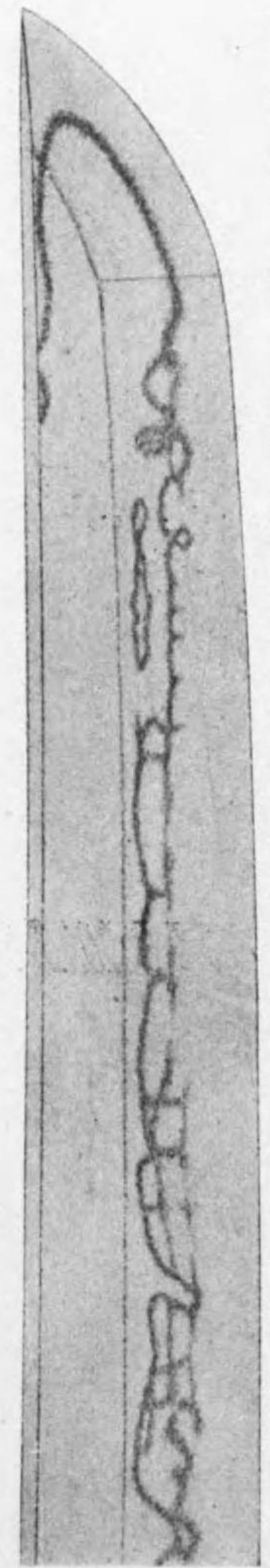
双長二尺三寸五分、反り三分八厘、重ね二分三厘、重量百八十匁。地鉄小太目強い、双文整ひたる五ノ目足入る、元直焼出し三寸二分あり。

（三島 長倉慶昌氏藏）



【丹後守直道】

双長一尺七寸二分強、反り五分、重ね二分二厘、重量百四十五匁。地鉄小太の裡に板目交る、双文菊水、元一寸餘直焼出しあり。丹後守兼道の後期銘。





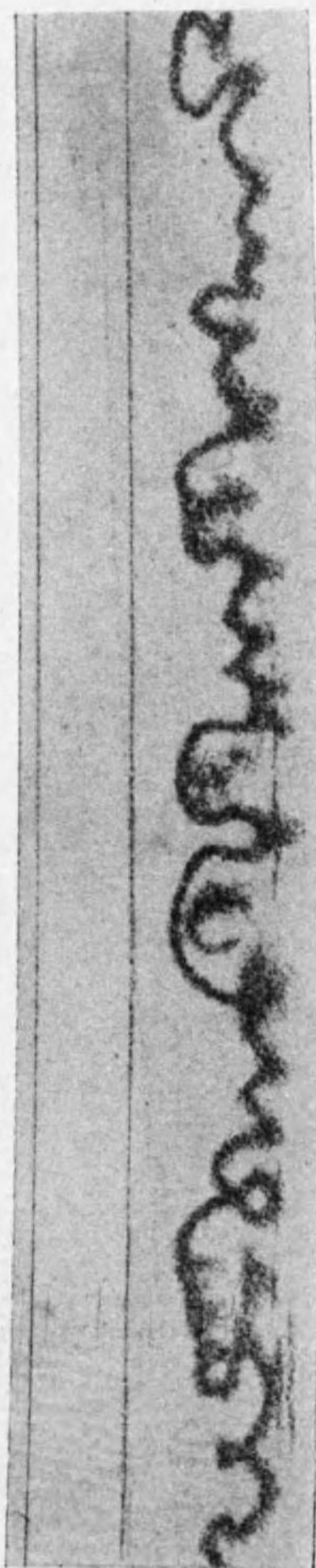
五畿内、攝津（丹後守直道・鬼神丸國重）

丹後守兼道に二代あり、本刀は初代に相當、初め兼道と銘じ、後に直道と改む。兼道に寛文年號あり、直道は延寶、天和の裏銘があるから直道を前銘とする書は誤りである。二代は直道を名乗らず丹後守兼道と五字に切るものと知るべきである。



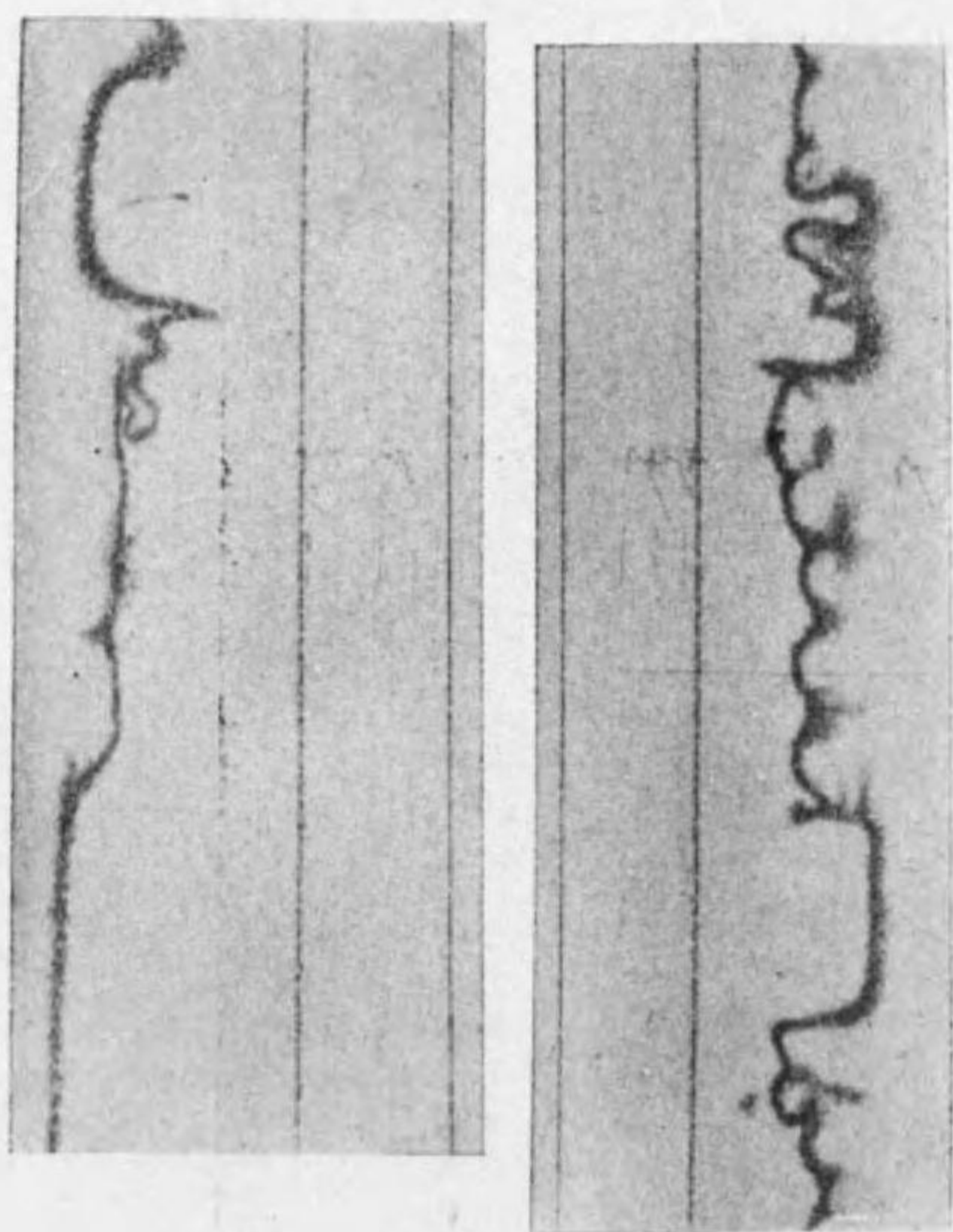
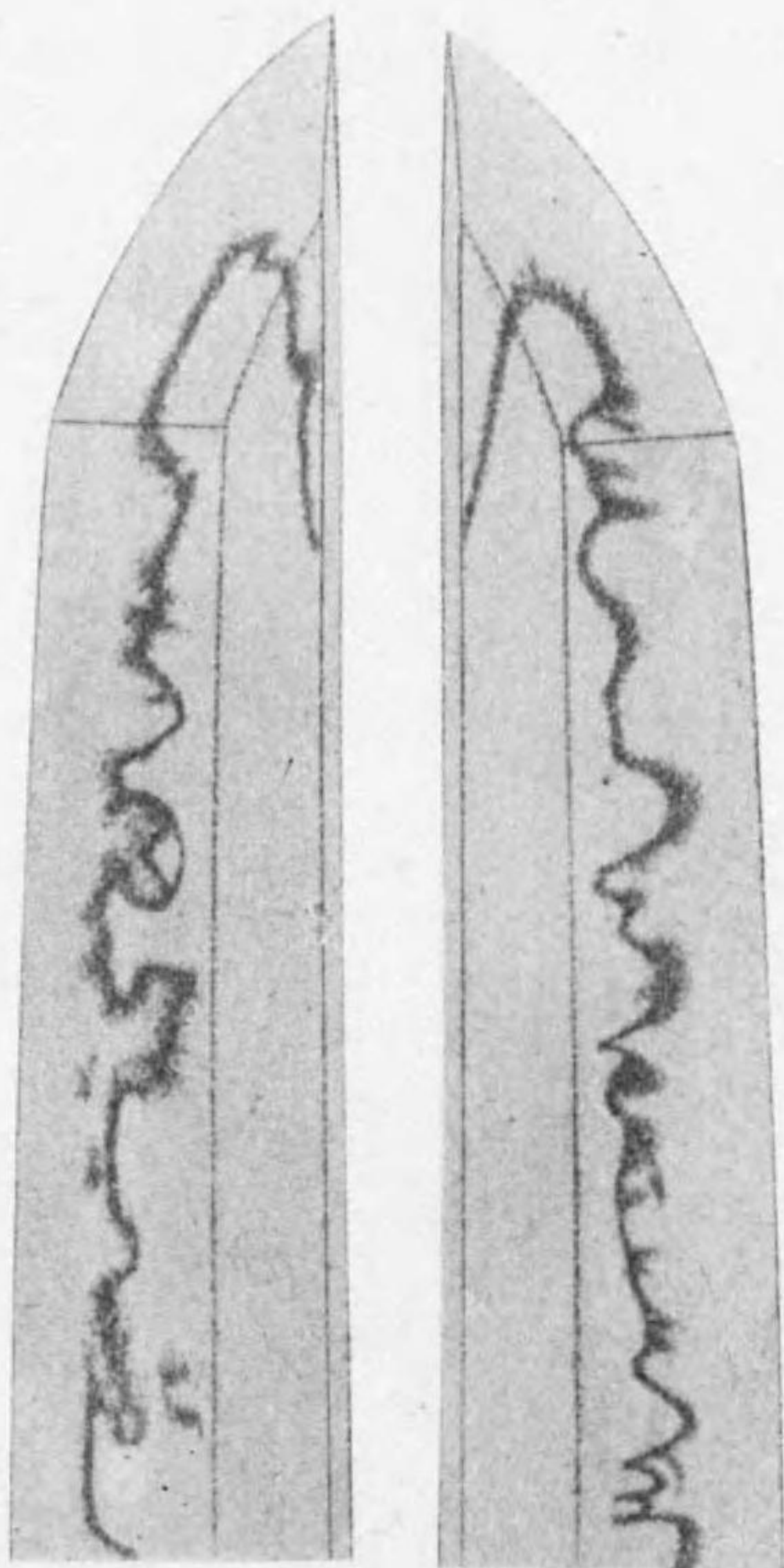
【鬼神丸國重】

刃長二尺三寸餘、反六分、身巾廣く豪壯なる刀、地小板目美しい、刃文丁子亂匂疏深く素晴らしき出来榮え、銚子小丸。



【陸奥守包保】

刃長二尺四寸九分五厘、反り五分二厘、重ね二分六厘（重ね厚）重量二百七十匁。地鐵小本差表五寸上頃から板目肌一面に現る。刃文五ノ目風の亂刃、棟に飛焼交る、元三寸餘直焼出し、健やかなる作。（東京 川口陟氏藏）



五畿内、攝津（鬼神丸國重・陸奥守包保）



五畿内、攝津（陸奥守包保・陸奥守包重）

【陸奥守包保】

双長二尺二寸五分、反り四分、元巾一寸、重量一九八匁、樋は後世、地鐵小柰目に板交る。双文五ノ目亂、地鈍つく。



【陸奥守包重】

双長二尺二寸六分、反り二分三厘、重ね二分三厘、重量百八十四匁。地鐵板目柰交り鎬地柰、双文五ノ目亂鈍縮り幾分の砂流。元長き直の焼出しあり。後に包保と改め右文字に切るゆへ右陸奥の名あり。



【初代包貞】

双長二尺二寸八分五厘、反り三分、重ね二分、重量百七十七匁。地鐵小柰のうちに幾分荒らき板目現る、双文五ノ目亂。小鈍に荒鈍崩れの双交る。



【初代包貞】

双長二尺二寸七分、反り四分五厘、重ね二分五厘、重量二百四匁、地鐵板目松皮の如く現る。双文五ノ目亂鈍最も深く華やか。



五畿内、攝津（陸奥守包重・初代包貞）



五畿内、攝津（初代包貞・二代包貞）



【二代包貞】

刃長二尺三寸四分、反五分、重量百七十八匁、棟鑄高い、これは二代包貞の特徴、地鉄小本目潤あり美しい、双文濤亂双匂莖最も深く、銚子小丸、元直焼出がある。この銘延寶初め頃で同八年には照包と改めてゐる。

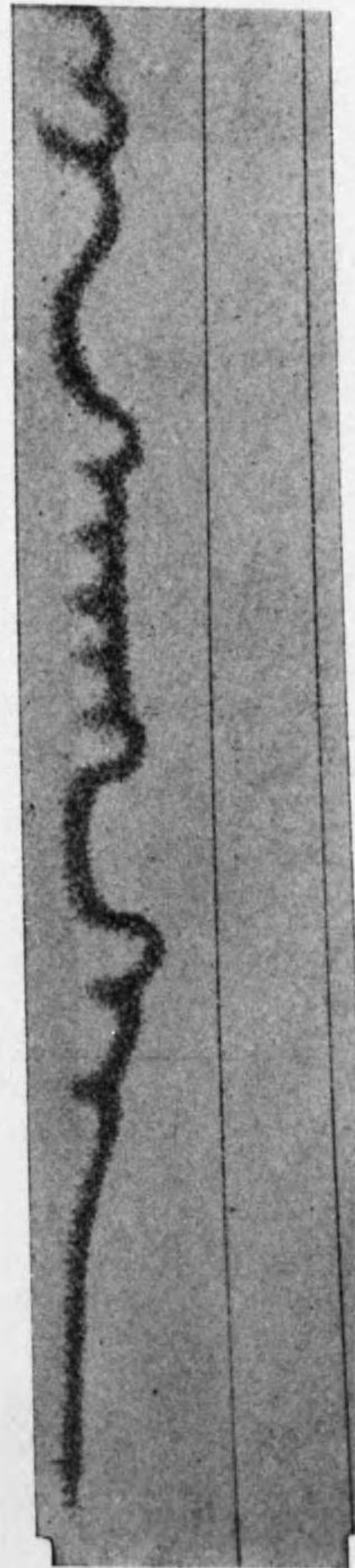
越後守包貞



【坂倉照包】

刃長一尺九寸九分、反四分、地小本粒立つ、鎬地細かき柁、棟高く、双文濤亂双莖最も深く足入り太い、銚子小丸莖深く優れる。二代包貞の後期銘。

（愛媛 山口利夫氏藏）



五畿内、攝津（坂倉照包）



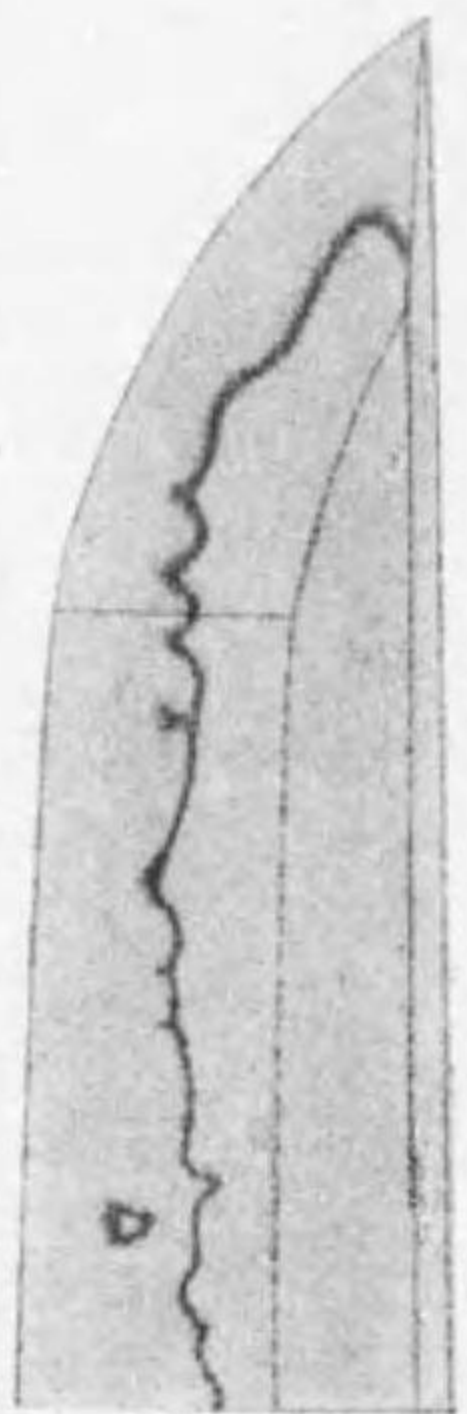
坂倉越後守照包

【坂倉照包】 刃長二尺三寸餘、反五分、重量百九十一匁、地鐵小本目美しい、棟高く刃文濤亂にて匂籠最も深い、砂流も交り出来傑出す。又崩れ刃なく精練されたる手腕を窺ふ事が出来る。（静岡 川合重三郎氏藏）

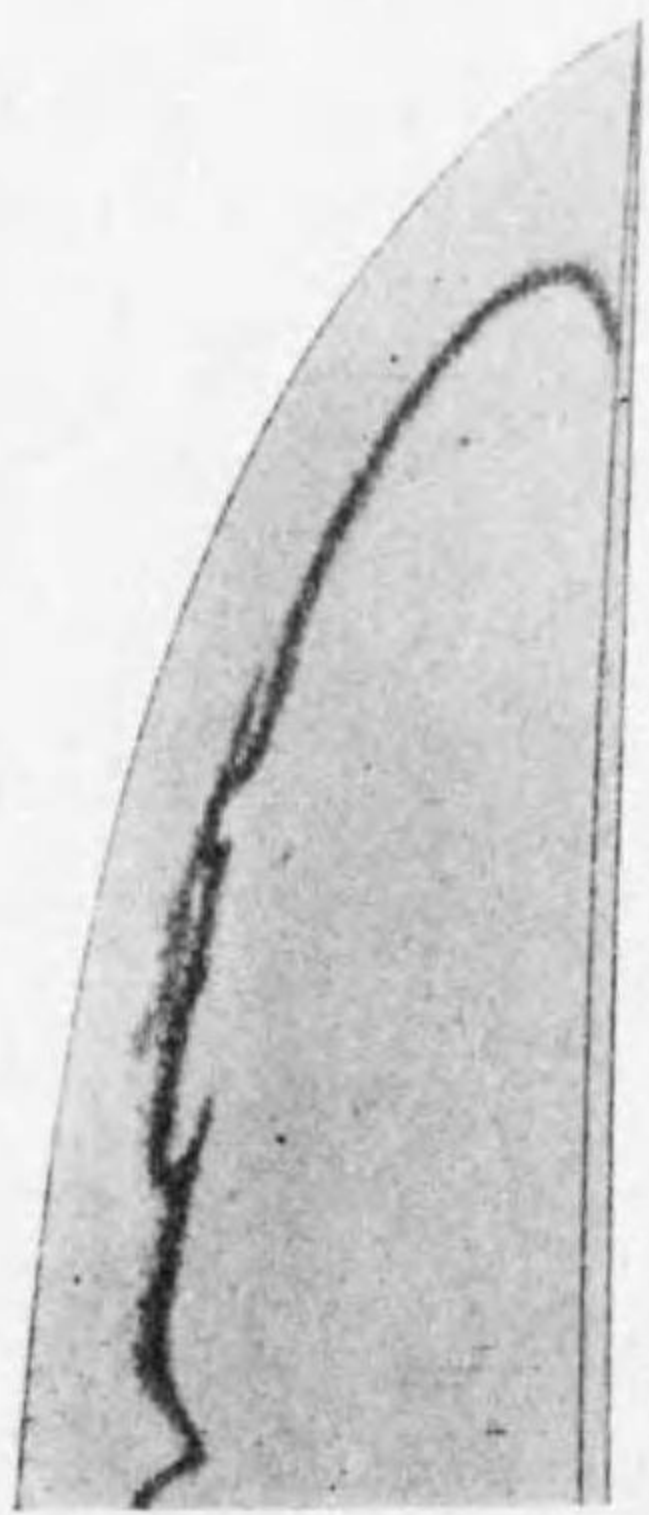
本刀は「貞享元年頃」のものと思はれる、照包としては最終作に属する。然るに此の頃の作品は出来に於て優れて居り銘字に於て流暢正確なるを以て、貞享頃は照包がなほ壯年時であつた事を推定することが出来る。



【初代忠綱】 刃長二尺三寸四分、地鐵板目流れる。



【初代忠綱】 刃長一尺三寸四分、反り三分三厘、重ね二分六厘、重量百三十四匁、三ツ棟、刃身表八幡大菩薩、裏護摩箸、地鐵小本目美しい、刃文浅き五ノ目砂流入り元焼出し直ならず。





【二代忠綱】

刃長一尺九寸九分、重量百九十一匁、身巾有り反浅い、刀身の劍卷龍大振りにて美事。更に梵字を添ふ、裏に護摩箸、この龍面は故大養毅先生の如く見ゆるもの、一竿子中心に殆んど彫物同作の添銘あり、地鐵小本目美しく、双文瀟亂匂鈍深く足入り出来優れる。



【彫刻】 彫刻には刀匠彫と彫物師彫と二種がある。前者はたがねの深く荒い彫に對し後者は緻密なる彫物である。忠綱は刀匠彫の尤もなるものである。



【二代忠綱】

刃長二尺三寸六分、身巾廣く立派、表劍卷龍鑽深く雄壯、地小本目美しい、双文瀟亂双足揃ひて入る、銚子小丸深い。(東京 安武専助氏藏)

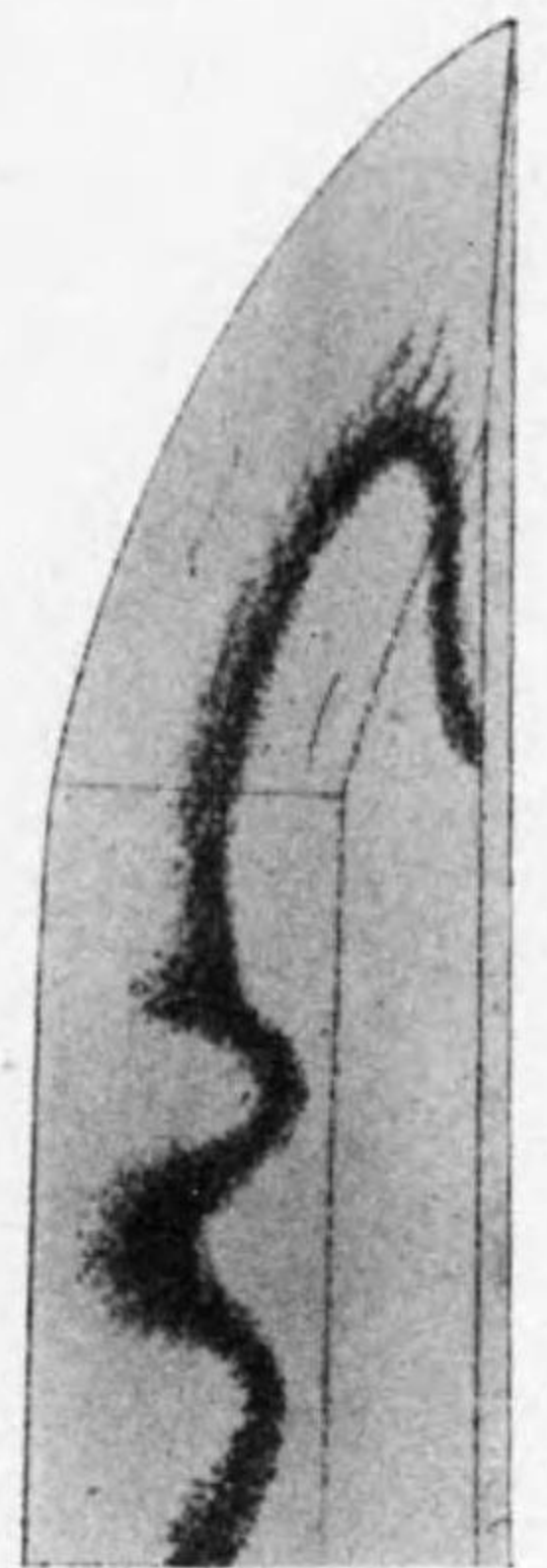






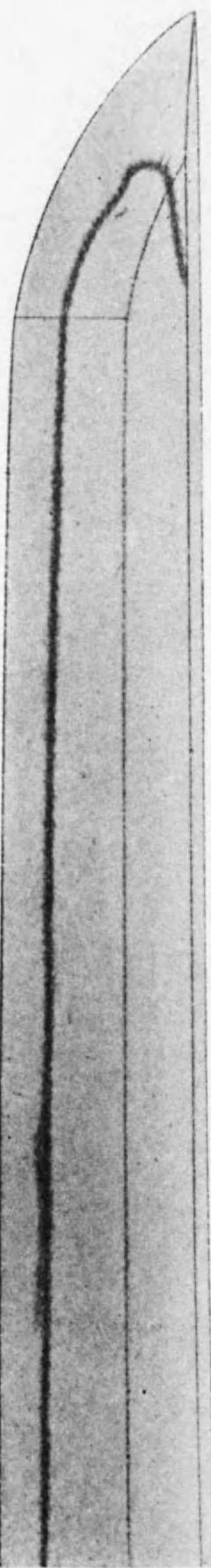
【二代忠綱】

刃長二尺三寸九分、反六分、元巾一寸一分餘、重ね二分二厘、眞の棟、表額内に劍卷龍、裏ツメ、腰樋、添樋、梵字などあり、地小奈美しく刃文瀟亂刃匂鈍深く出来素晴らしい。



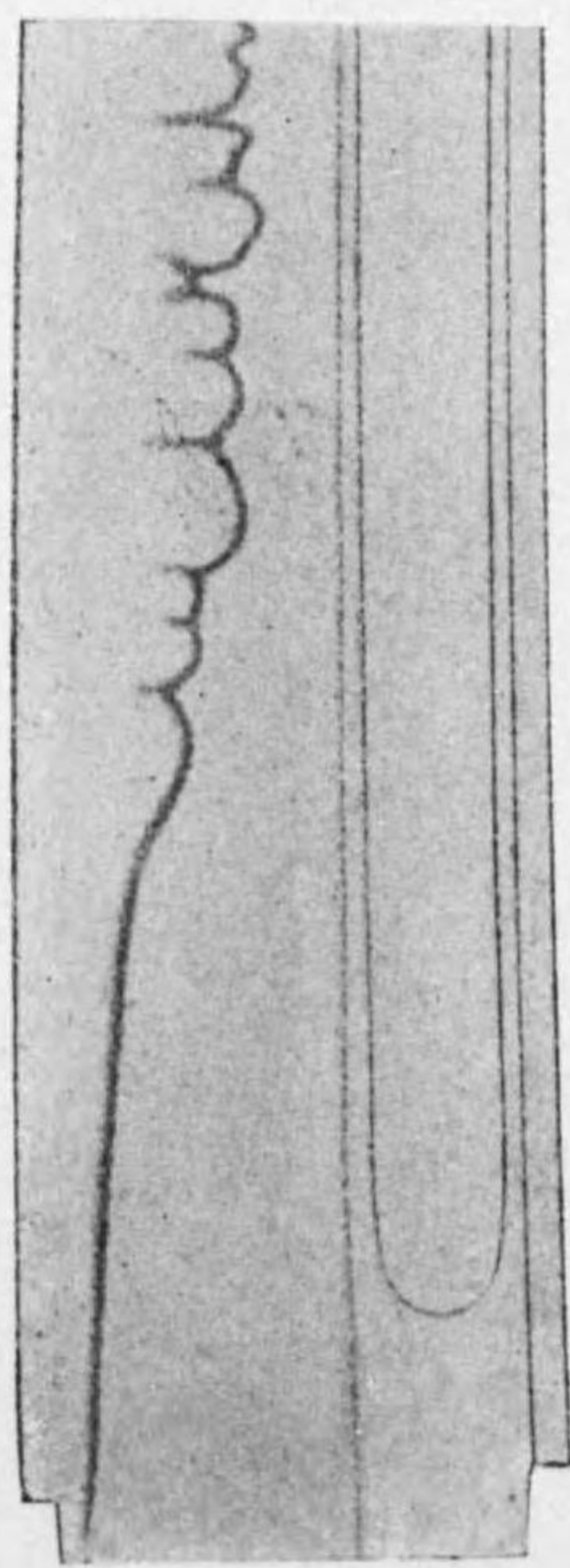
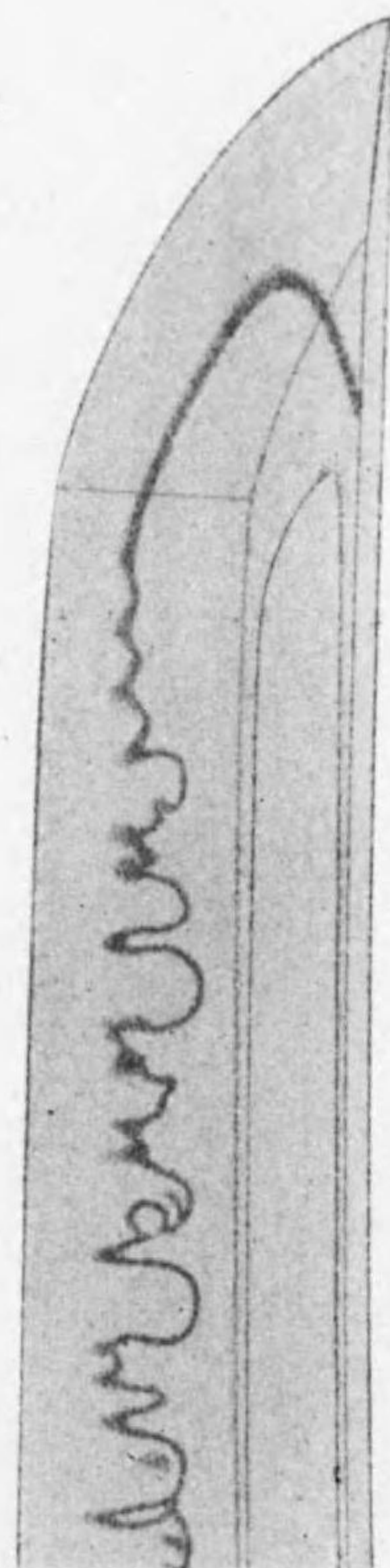
【聾 長綱】

刃長二尺三寸五分、反り三分、重ね二分五厘、重量百三十八匁。地鐵小奈目流れる、刃文中直、中心二寸ばかり磨上。(宇都宮 齋藤豊造氏藏)

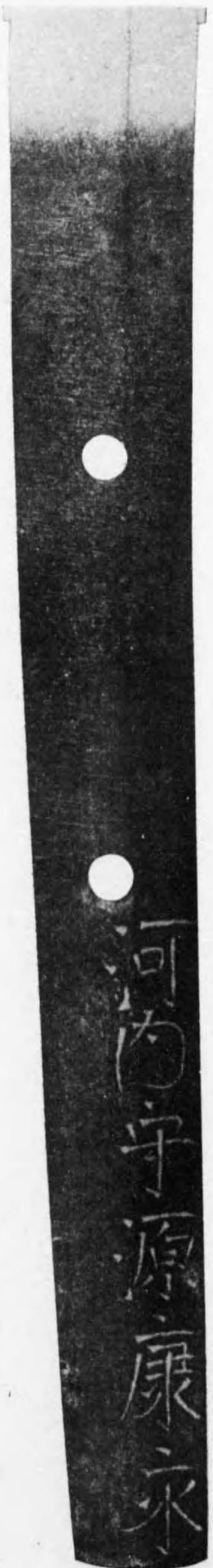


【聾 長綱】

刃長一尺五寸八分、反り四分、重ね二分六厘、重量百五十三匁。地鐵小奈目、刃文腰高き丁子足入り、地映りもつく。







【河内守康永】

双長二尺三寸五分五厘、反り五分、重ね二分三厘、重量二百十二匁。地鉄小柰目、双文間を置いた五ノ目、近江守久道に似たる作柄。



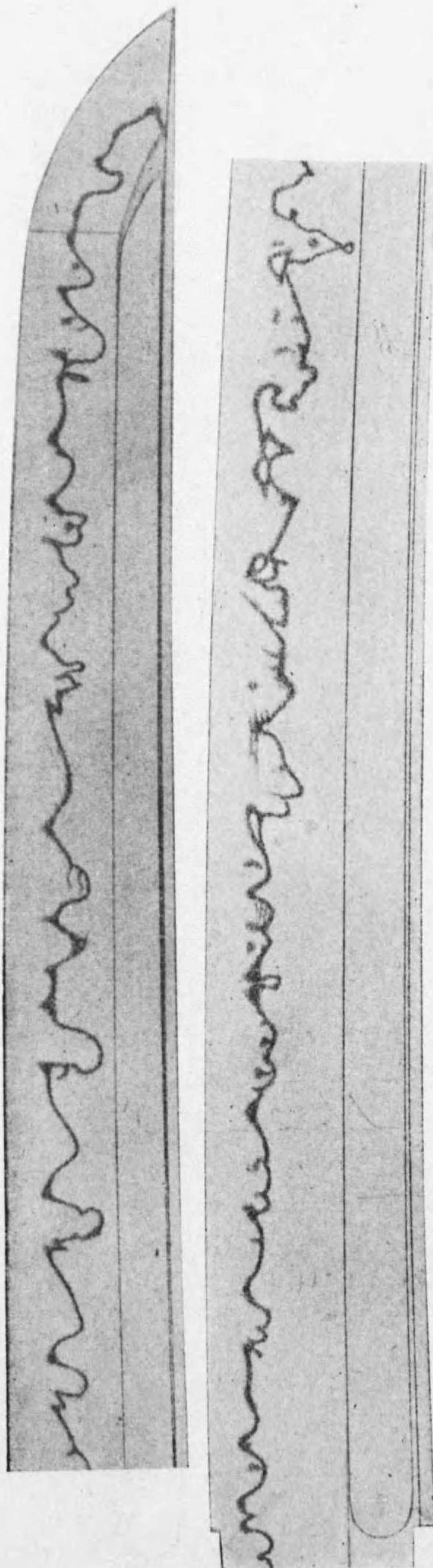
【備前守祐國】

双長一尺七寸六分、反り二分六厘、重ね二分五厘、重量百五十三匁。地鉄小柰目、双文五ノ目亂、元亂心の焼出しあり。中心に金象眼「二ツ胴切落山野勘十郎久英」がある。（羽生順吉氏藏）



【多々良長幸】

双長二尺三寸一分、反り六分六厘、重ね二分六厘、重量百八十四匁。重ね二分六厘、棒樋表裏、地鉄柰目地映りつ、双文五ノ目丁子長船祐定等を偲しむる。長幸の初期銘。





五畿内、攝津（多々良長幸）

【多々良長幸】 刃長二尺三寸、重量百九十二匁、地鐵小柁、刃文丁子足入り。（東京 高山治助氏藏）



【多々良長幸】 刃長二尺三寸二分、反り六分五厘、重ぬ二分五厘、重量二百十八匁。地鐵小柁の裡に細かき柁見え、地映り盛んに入る。刃文丁子匂締りて崩れず境巾深く健やか。（山形 長谷川兼三氏藏）

【高井信吉】

刃長二尺三寸七分、反り七分五厘、重ぬ二分五厘、重量二百十七匁、地鐵小柁目。刃文中直純深い。（東京 白井盤根氏藏）



【備中守康廣】

刃長二尺四寸五分五厘、反り四分弱、重ぬ二分五厘、重量二百十八匁。地鐵板目弱い、刃文丁子皆焼がかる、元二寸ばかり直焼出し氣味。（東京 半田忠治氏藏）



五畿内、攝津（高井信吉・備中守康廣）



東海道、伊賀（肥前守鎮忠）

◆東海道、伊賀

【肥前守鎮忠】

刃長一尺六寸二分、反り二分八厘、重ね二分一厘、重量百五十一匁。地鐵柃目細かく小柃交る。地映り盛んに付く、刃文丁子匂出来、差裏足入り丁子小出来に  
なる。（埼玉床呂幸次郎氏藏）

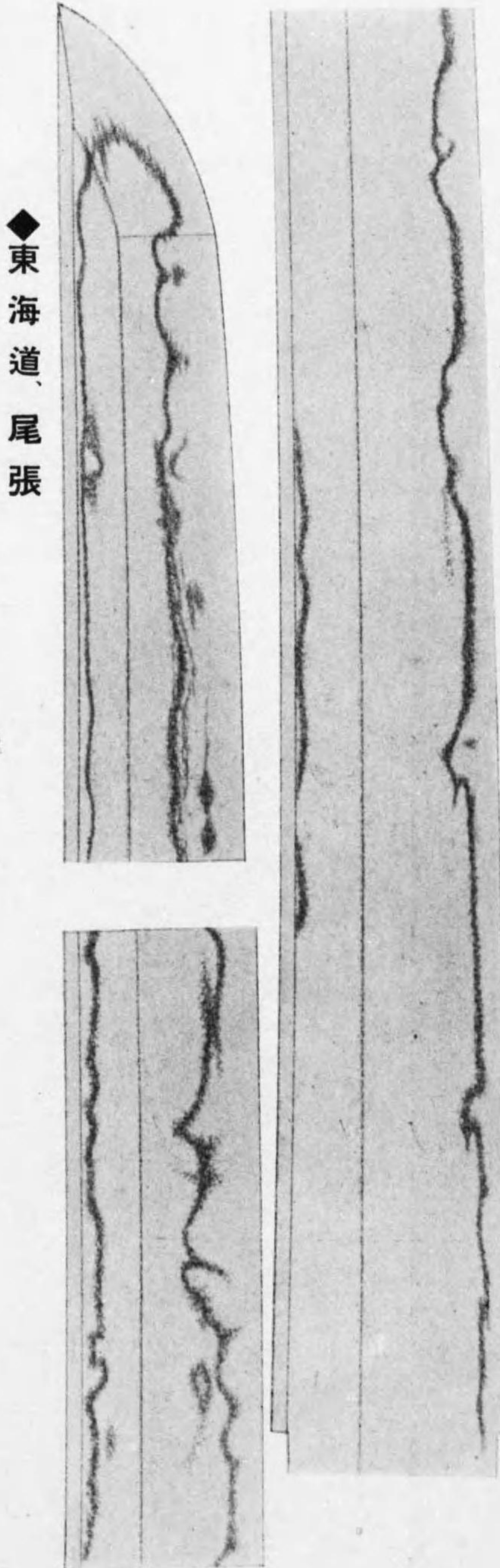


鎮忠は鎮政と共に伊賀の著名工で時代も古い、諸書の時代寛文は誤りである。伊賀石堂の名があり、丁子刃を得意とする。

◆東海道、伊勢

【千子正重】

刃長二尺二寸六分五厘、反り四分六厘、重ね二分四厘、重量二百〇三匁、地鐵板目地銃つく、刃文五ノ目亂、銚子返り深く、棟燒きもある。  
（大阪 伊部友三氏藏）



◆東海道、尾張

【初代政常】

刃長九寸四分、地鐵板目柃交り黒味を帯びる。刃文直崩れ銃荒く付く。



東海道、伊勢（千子正重） 尾張（初代政常）



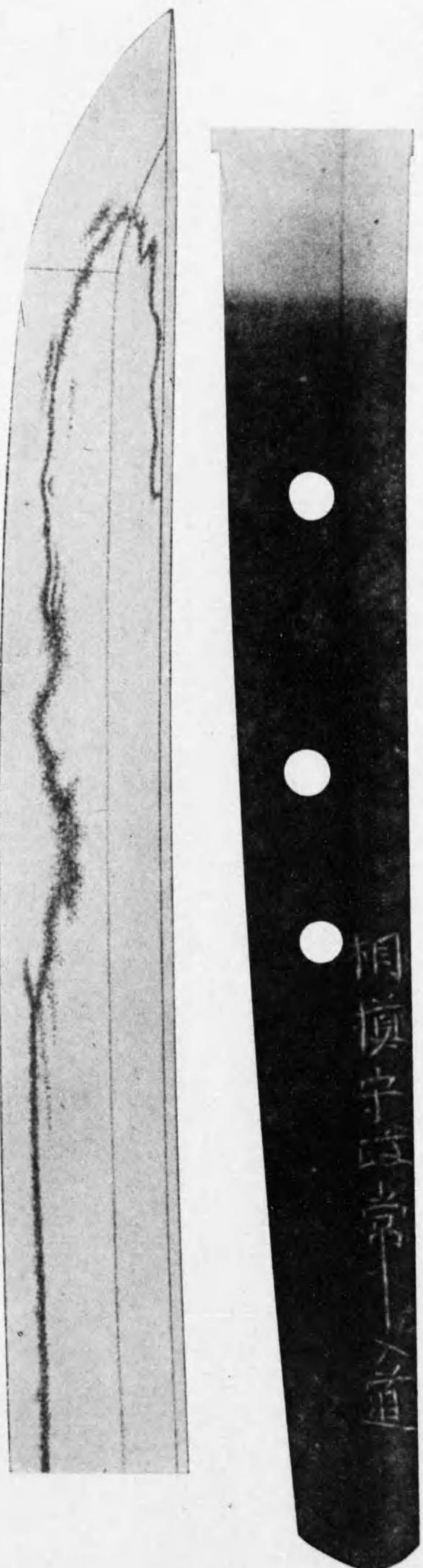


初代は天正十九年相模守受領、慶長十二年隠居して、二代政常相模守受領と云ふ是を繼ぐと云ふ。然るに二代は、同十四年早世せるため、初代が再び刀匠として表面に現れてゐる。世上相模守銘の多くはこの初代と知るべく、又太銘はその初期、入道銘はその晩年と推定せられる。

【初代政常】 刃長九寸九分弱、無反、重量六十一匁、地鐵小柰目板交る、表獨鉋付素劍、裏護摩箸、刃文直刃縮り刃縁掃ける。

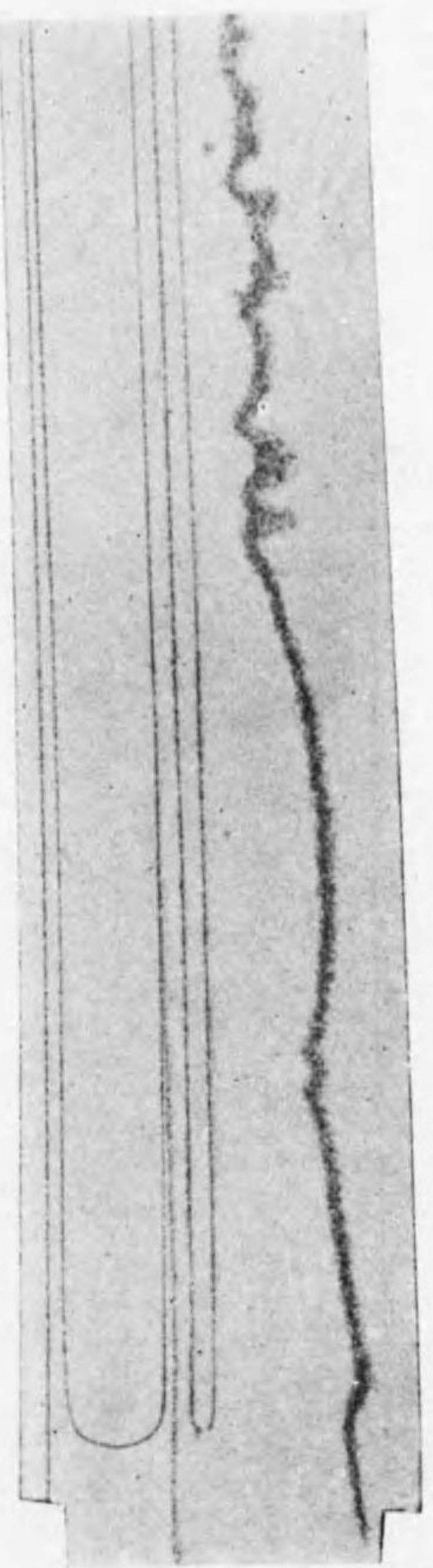
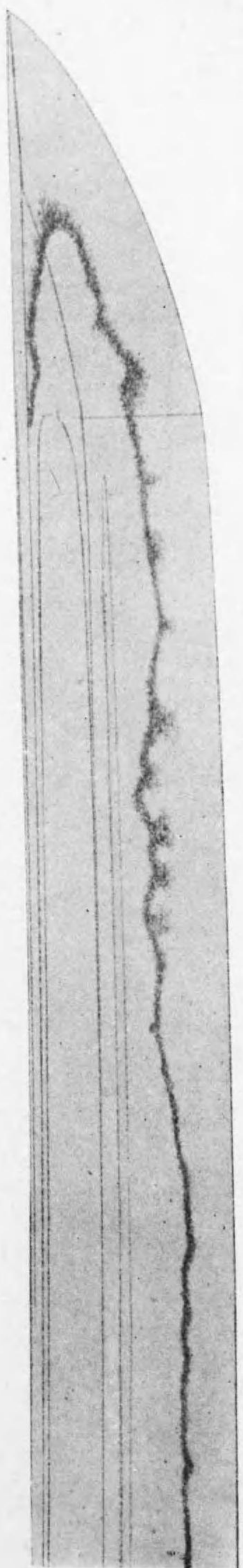


【初代政常】 刃長二尺三寸二分五厘、反り五分八厘、重ね一分九厘、重量百八十四匁、地鐵柵板交る、刃文直砂流し、地の裡に鈍入り込み又地鈍付く。



【美濃守政常】

刃長二尺三寸四分、棒樋添樋、地鐵柵板目潤ひあり。刃文浅き大灣足入り、出来優れる。二代相模守子に相當するゆへ三代政常なるも實在作品より見れば二代目と云へよう。

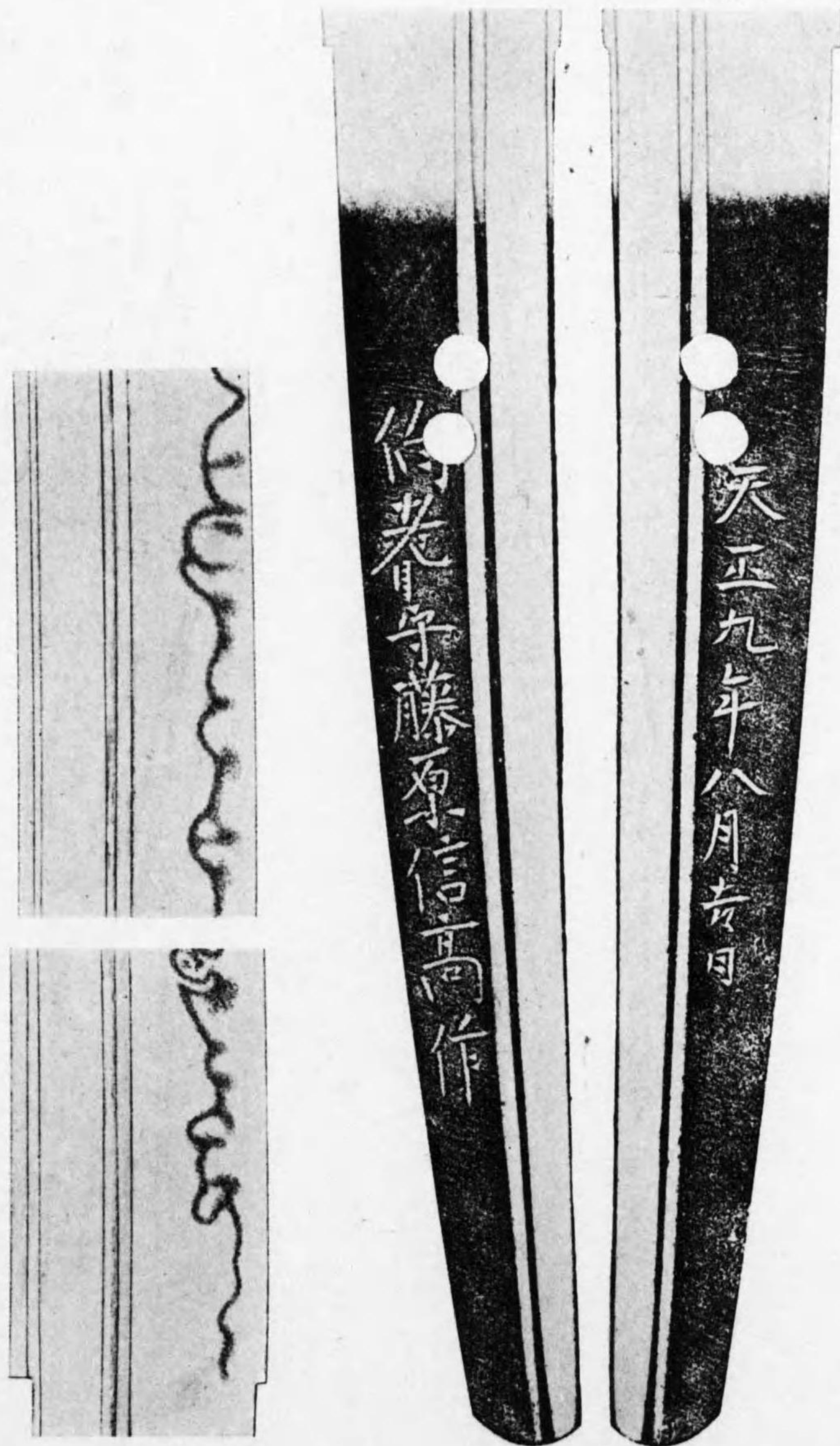




東海道、尾張 (初代信高)

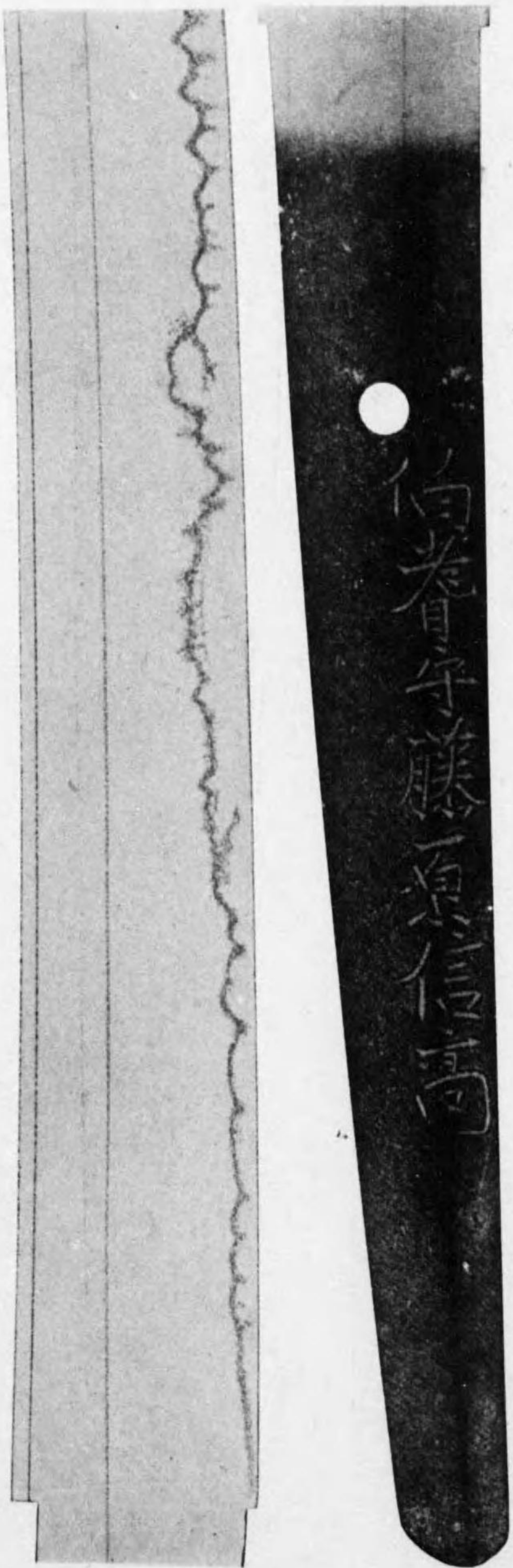
【初代信高】

刃長二尺二寸一分、反り五分八厘、重量百九十八匁、身巾廣く豪壯、棒樋添樋掻き通し、地小太良い、刃文中程まで匂締りたる五ノ目亂、物打邊に至り直亂となる。



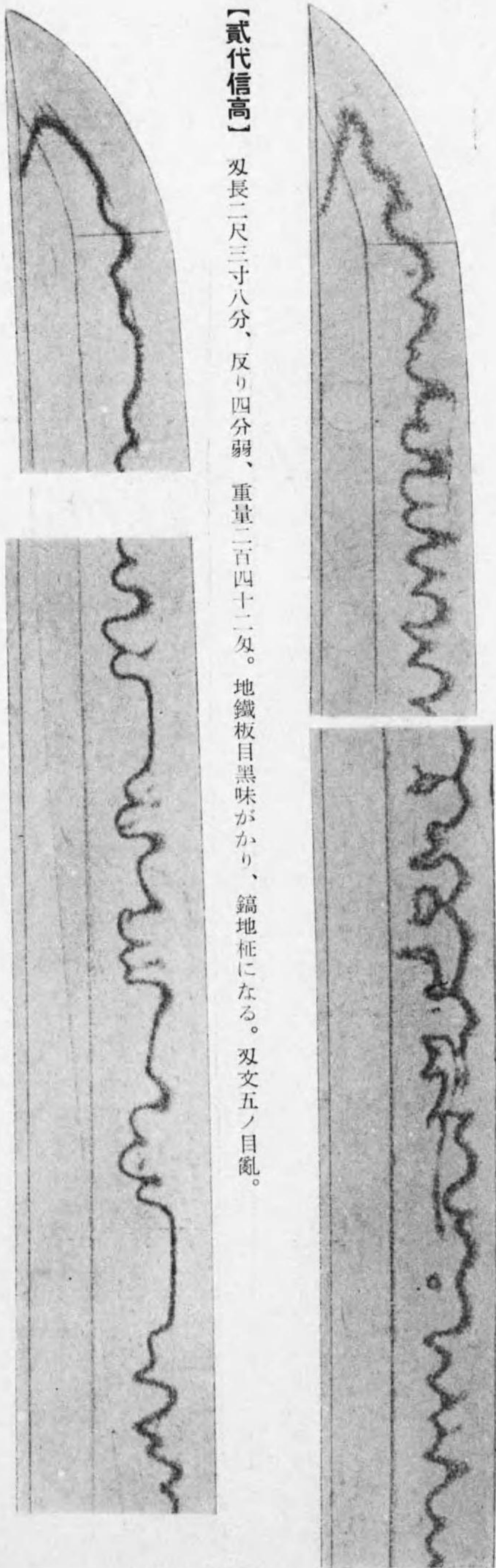
【初代信高】

刃長二尺五寸、反り七分強、重量二百二十七匁。地鐵板目、刃文五ノ目小亂疵崩れがある。



【貳代信高】

刃長二尺三寸八分、反り四分弱、重量二百四十二匁。地鐵板目黒味がかり、鎬地柃になる。刃文五ノ目亂。



東海道、尾張 (初代信高・貳代信高)





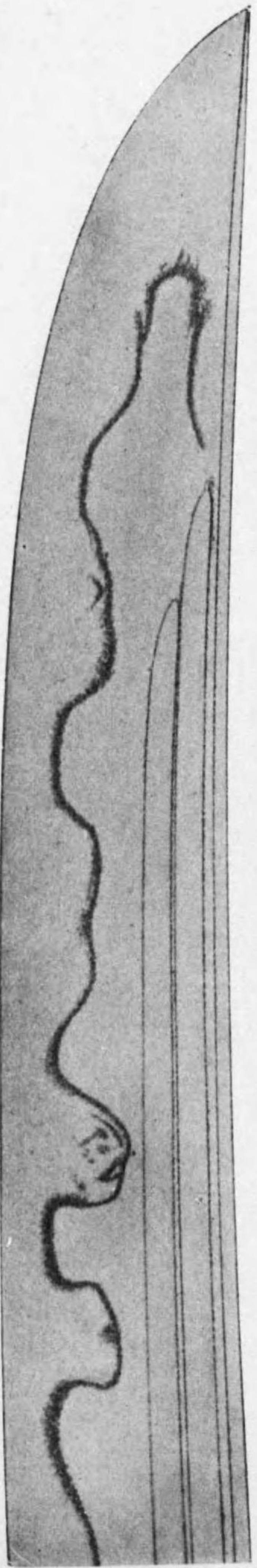
【三之亟信照】

刃長二尺三寸八分、反り四分三厘、重ね二分六厘、重量二百二十三匁。地鐵板目流れる、刃文灣れ風の亂、三ヶ月を焼く。三代信高の前銘。

伯耆守信照



【飛驒守氏房】 刃長一尺三寸、反り二分六厘、重ね二分七厘、重量百二十六匁。素劍に卷龍及び二本樋ありて生ぶ。地鐵全板目糠目立つ、刃文腰高き大五ノ目。(中津 進武政氏藏)



【飛驒守氏房】

刃長二尺三寸七分、反り五分八厘、重量二百〇四匁、重ね二分一厘、地鐵全目粒立ち古刀美濃ものゝ如くである。刃文大灣匂出来疵荒く付き双堅い。

(熊本 佐藤立次郎氏藏)

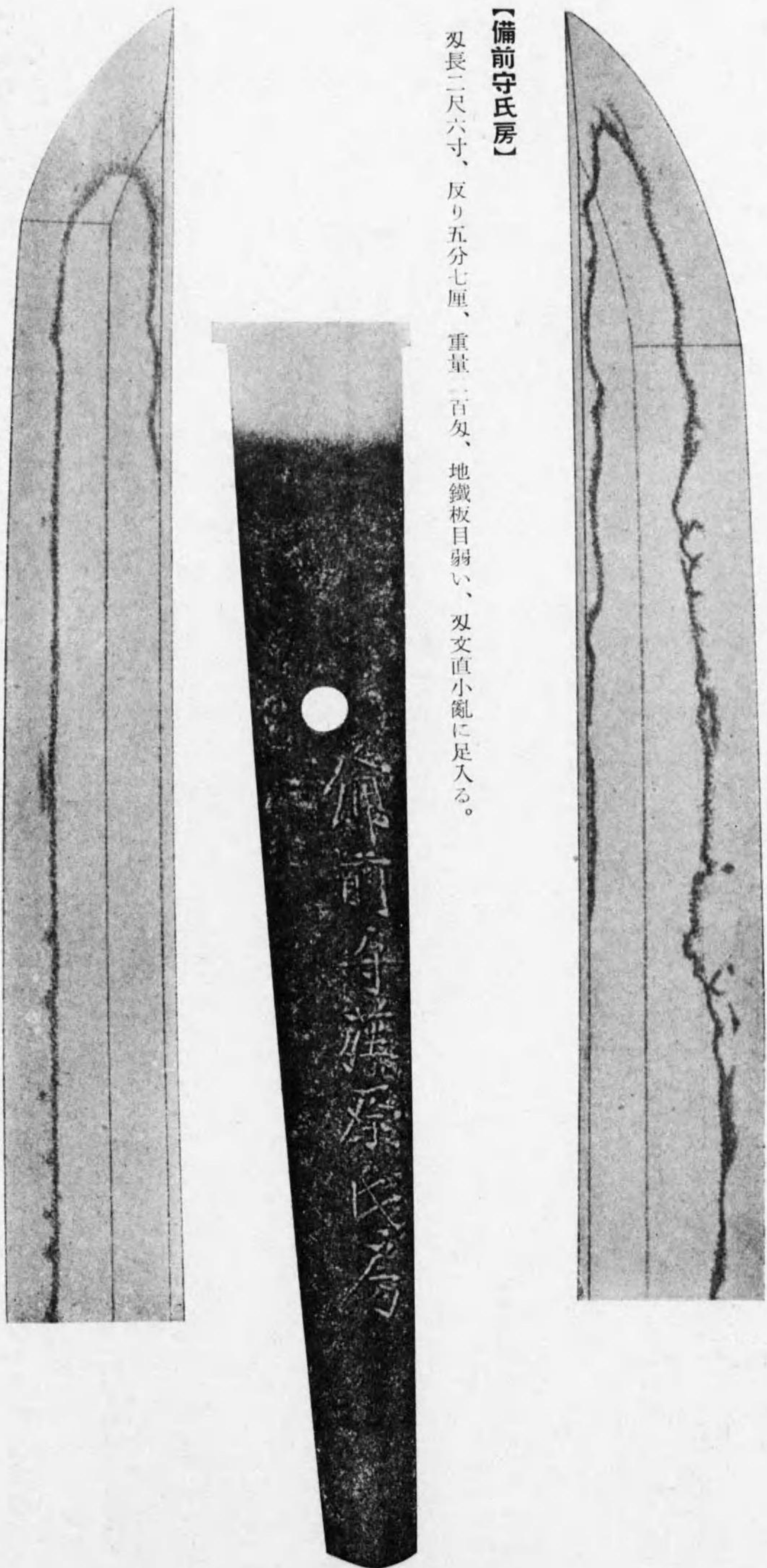






【備前守氏房】

刃長二尺六寸、反り五分七厘、重量二百匁、地鐵板目弱い、刃文直小亂に足入る。



【豊後守正全】

刃長二尺五寸三分、反り六分三厘、重ね二分四厘、重量二百四十六匁。地鐵本目鎬地柢、刃文九ノ目矢筈がる亂。

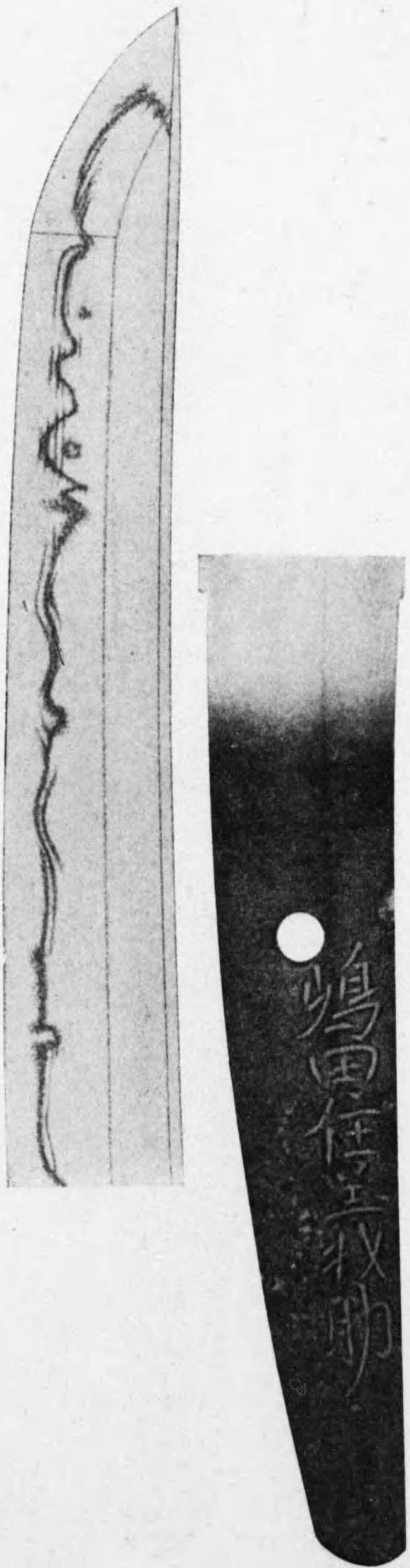


◆東海道、駿河

【島田義助】

刃長一尺七寸四分五厘、反り五分三厘、重ね二分一厘、重量百四十一匁。地鐵本目立ち弱い、刃文砂流を幾分交へたる小亂。

(藤澤 上沼正之介氏藏)





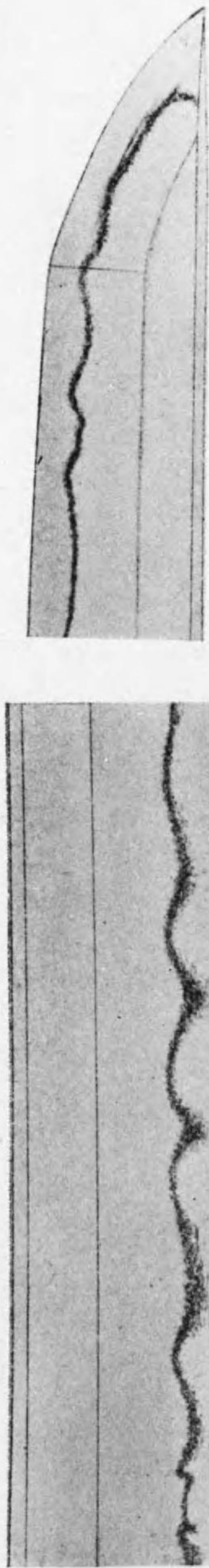
東海道、相模（伊勢大掾綱廣）

◆東海道、相模



【伊勢大掾綱廣】

双長二尺四寸弱、反り五分、地小歪なれど弱き板目を交へる。双文五ノ目亂鈍出来、足太く深く入り、砂流の氣味華やか。一説虎徹の師は伊勢大掾也と、刀身不動の彫刻は綱廣獨特のもの、裏に這龍の彫刻を添へる。伊勢大掾に往々後彫ありて一見生の如く見えるも、不動の顔、火焰等に到底この覇氣はない事が見所である。



◆東海道、武藏

【野田繁慶】

双長二尺二寸七分、反り四分八厘、重ね二分三厘、重量百八十八匁。地鐵大板目弱い、双文直亂鈍崩れる。（秋田 柴田果氏藏）



繁慶が一生涯を通じ表裏柾目を變へ、更に棟を網目にしたる點は左手をも利かしたるものと思はれて興味が深い。

【野田繁慶】

双長一尺五寸七分五厘、反り二分五厘、重ね二分二厘、重量百二十八匁、三ツ棟。地鐵大板目弱い、双文大五ノ目砂流一面に付く。（高知 井本精二氏藏）



東海道、武藏（野田繁慶）





【野田繁慶】 刃長二尺四寸九分、反り六分弱、元巾一寸一分、重ね二分二厘、棟高き三ツ棟、地鐵板本目美しく、繁慶獨特とも云ふべき疵氣を幾分見る、刃文焼巾深き小亂、双中匂薙飛び放れ華やか、又砂流金筋も交る、銚子掃掛匂薙一面に付く、中心鑢は筋違、両面異なる、棟は檜垣、銘は刻銘、双區特に深い。



【野田繁慶】

刃長二尺二寸七分、反り四分、重ね二分二厘、重量百六十五匁。地鐵大板目松皮肌、柃心弱き感がある。刃文亂双砂流交り薙深く出来優れる、地中薙崩れあり。



【肥後大掾下坂】

刃長二尺〇九分、反り四分八厘、重ね二分、重量百三十七匁、地鐵松皮肌、鎚地柃心、刃文小五ノ目に足入り小薙付く。初代康繼の初期銘。

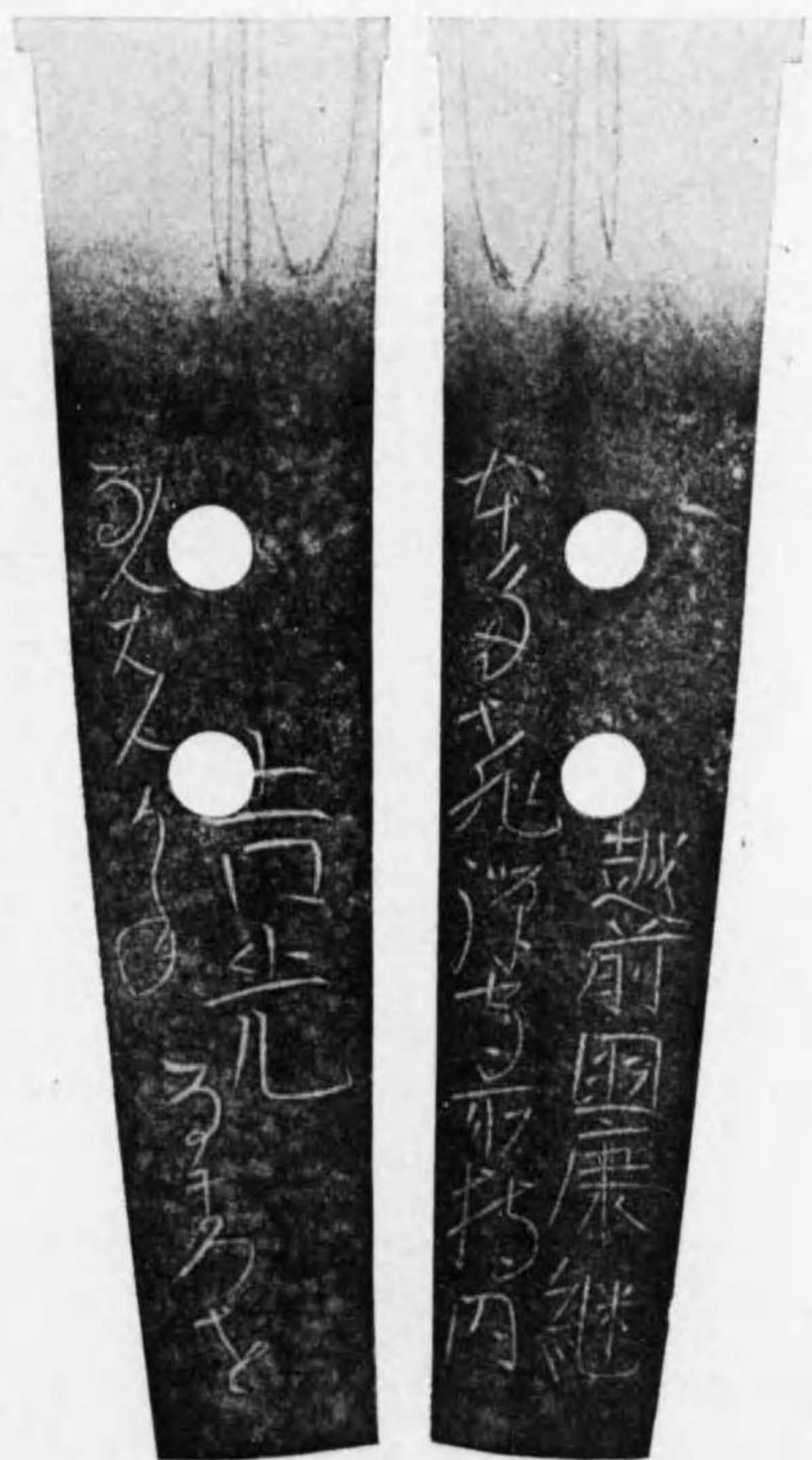
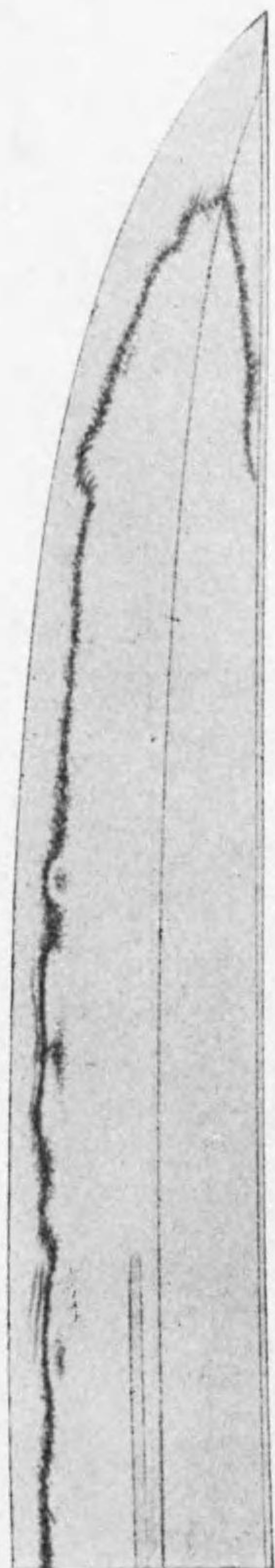




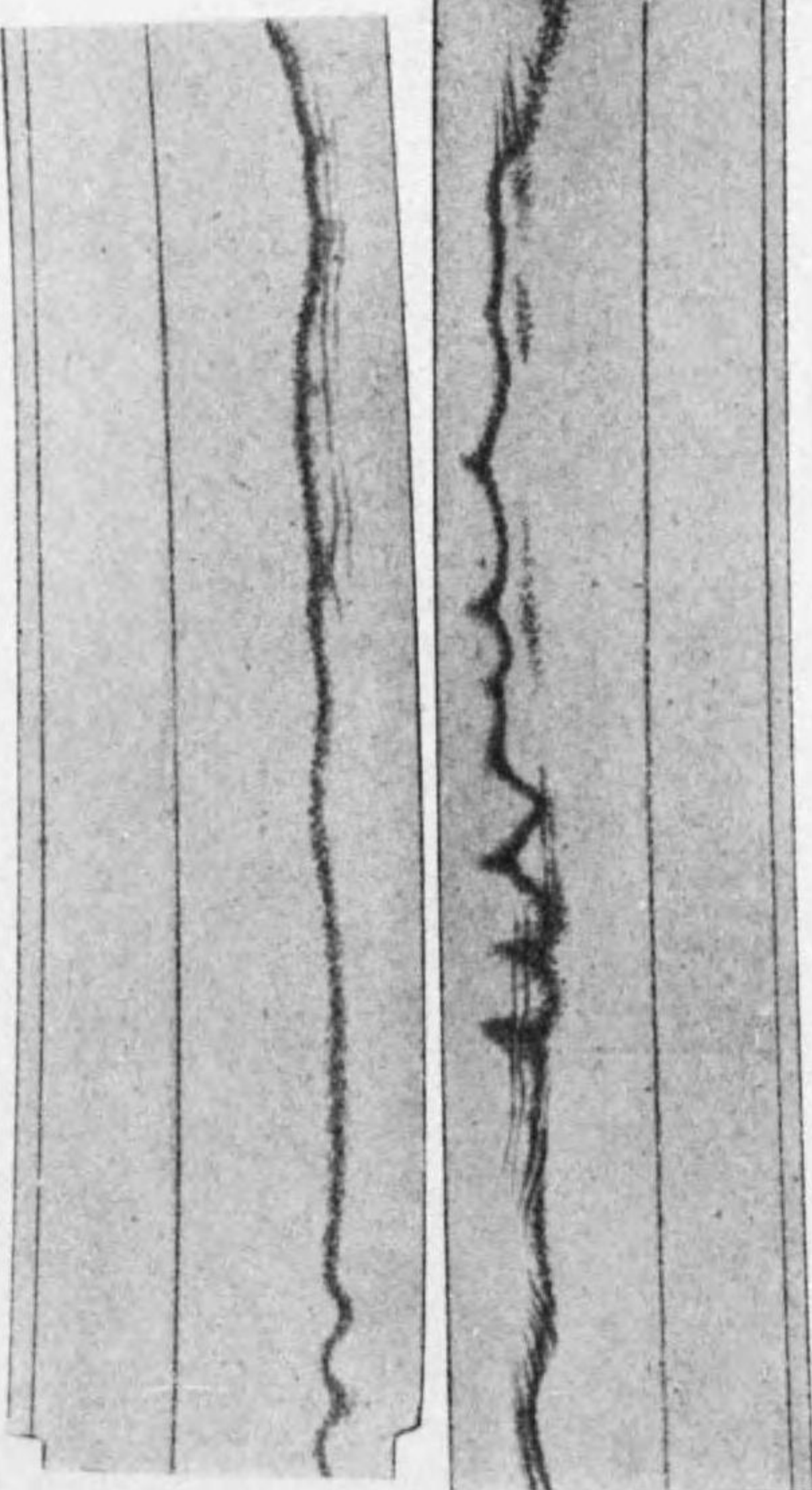
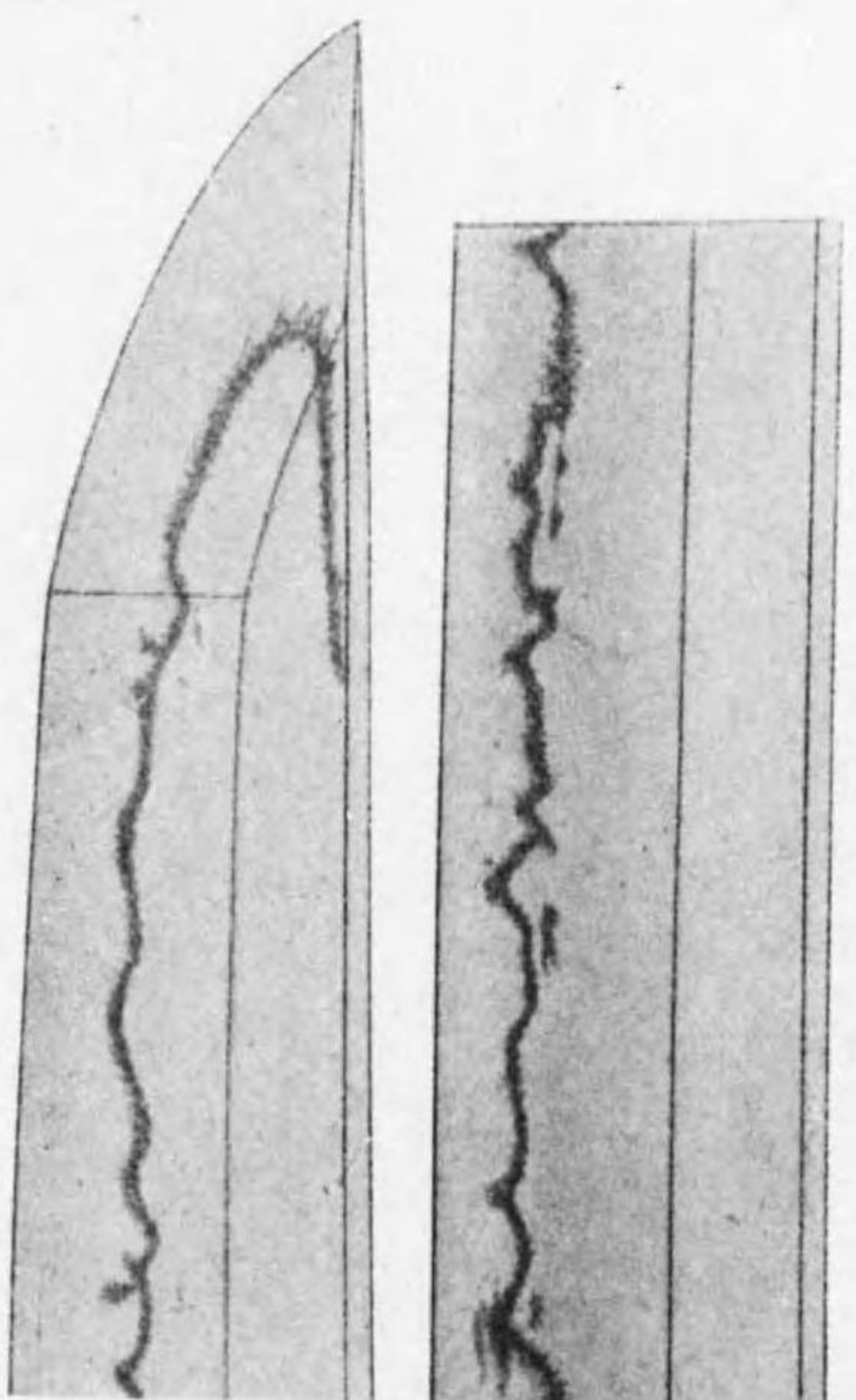


【初代康繼】

双長一尺二寸六分五厘、反り二分二厘、重ね二分一厘、重量八十六匁。冠落し鎬高い、元に腰樋と添樋、地鉄大柵目松皮肌、双文直小亂、砂流の氣味。栗田口吉光摸作、そしてこの造込みは小長巻直しを寫したものであらう。（濱松 小栗行藏氏藏）



【初代康繼】 双長二尺二寸二分、反り五分七厘、重ね二分三厘、重量百八十八匁。地鉄板目立つ、双文浅き灣小五ノ目足入りの所がある。双縁細かき砂流がかかる處が多い。（東京 高垣五一氏藏）



【二代康繼】 双長二尺三寸、反り四分三厘、重ね二分三厘、重量二百三十匁。地鉄松皮肌の如き大板目、鎬地柵 双文灣小亂、双縁に砂流交る。中心裏金象眼にて「寛永十八年五月十九日ニツ胸落。」（山形 井上昌平氏藏）



以南壹鐵於武列乃越前康繼





【二代康繼】 刃長一尺四寸九分五厘、反り三分七厘、重ね二分一厘、重量百三十六匁。地鐵板目松皮肌の如く、鎬地も同様。刃文直ほつれ、砂流氣味がある。

(東京 田中秀一氏藏)



【三代康繼】 刃長二尺〇五分、反り四分一厘、重ね二分三厘、重量百七十四匁。地鐵板目立ち流れる、刃文淺き灣砂流交る。

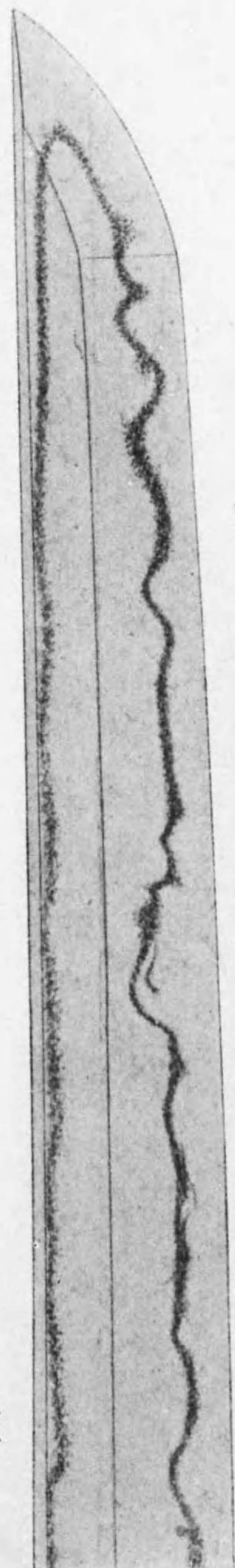


【四代康繼】 刃長一尺七寸九分、反り二分一厘、重量百五十四匁、地鐵板目立つ、刃文大五ノ目足入り棟返り長く入る。

初代 康繼  
二代 康繼  
三代 康繼  
四代 康繼

作品寛文以前

三代、四代の代別は著者新説に依る、従がつて本押形の代別もこれに基づいて記せり。



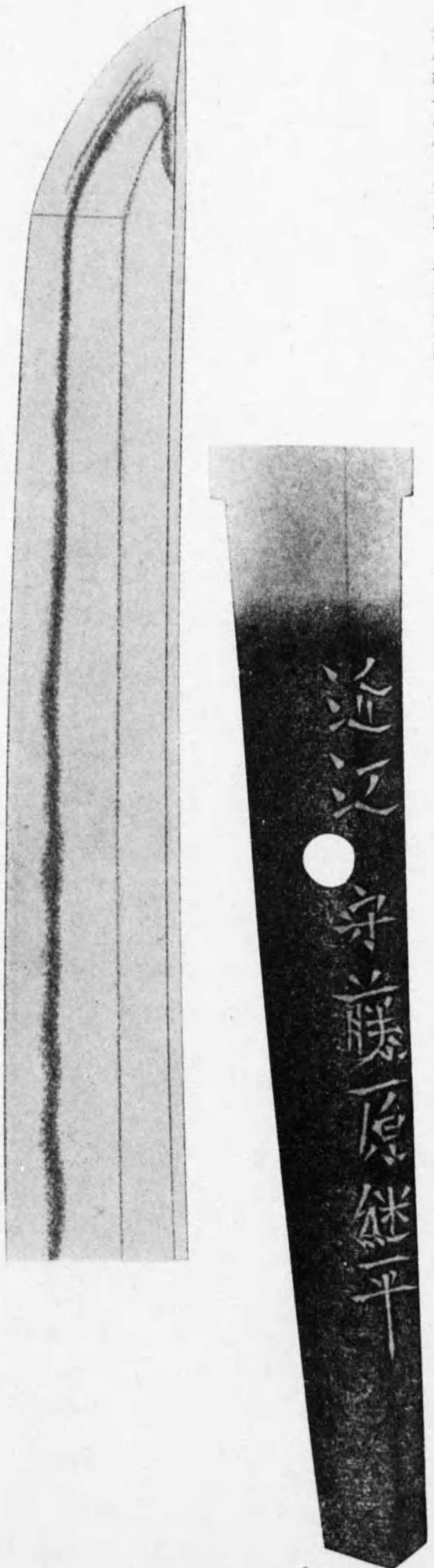


東海道、武藏 (近江守繼平)

【近江守繼平】 双長二尺三寸一分、反り五分二厘、重ね二分八厘(重ね厚)重量二百五十匁、鎬稍低い、地鉄本目鎬地柢、双文浅き灣心鈍深く足入る。

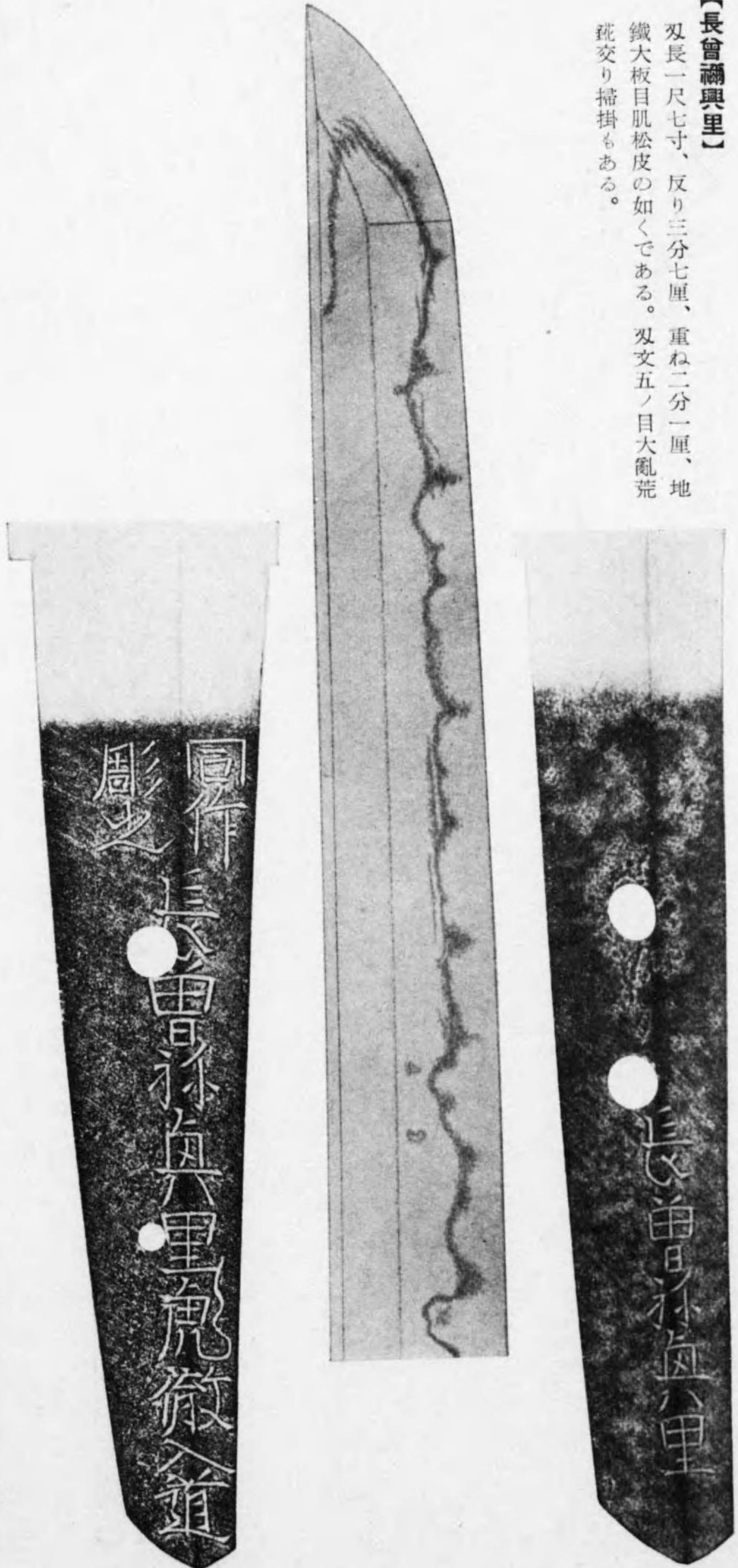


【近江守繼平】 双長一尺七寸六分、反り四分五厘、重ね二分五厘、重量百五十二匁。地鉄本目は康繼の如き肌をなす、双文直縦深く足入り法城寺一門に似る、初代繼平の作。(朝鮮 北野上氏藏)



【長曾禰興里】

双長一尺七寸、反り三分七厘、重ね二分一厘、地鉄大板目肌松皮の如くである。双文五ノ目大亂荒 疵交り掃掛もある。



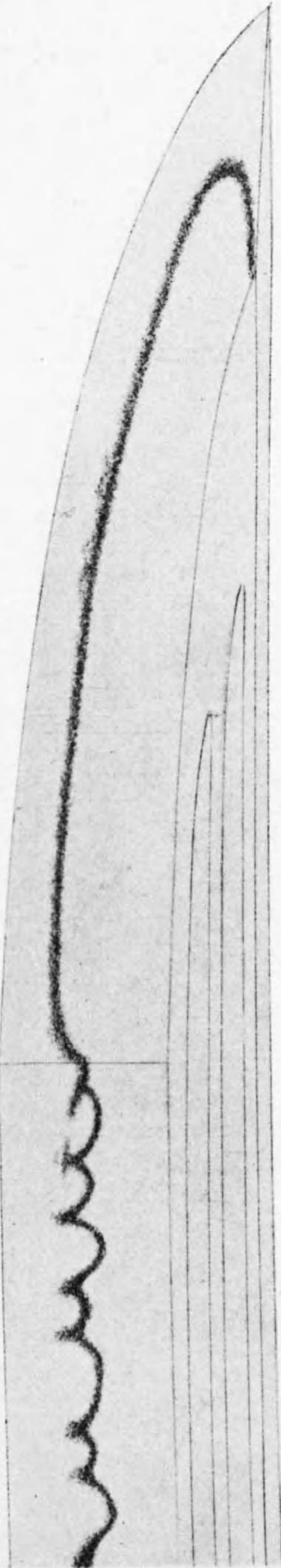
【長曾禰興里】

双長一尺六寸四分、身巾最も廣く大切先、表梵字に二本樋、裏額内大黒天に二本樋、地小柢目美しい、双文元直焼出しにて五ノ目双になる。地双共に健全、中心裏金象眼にて「寛文元年霜月廿五日脇毛貳ツ胴度々參ッ胴截斷山野加右衛門永久花押」とある。(香川 津島惣平氏藏) 虎徹は梵字、素劍等僅かな彫刻を施すと云へども殆んど總て中心に「同作彫之」刻す。寛文五年より「彫物同作」と改め銘する。



東海道、武藏 (長曾禰興里)

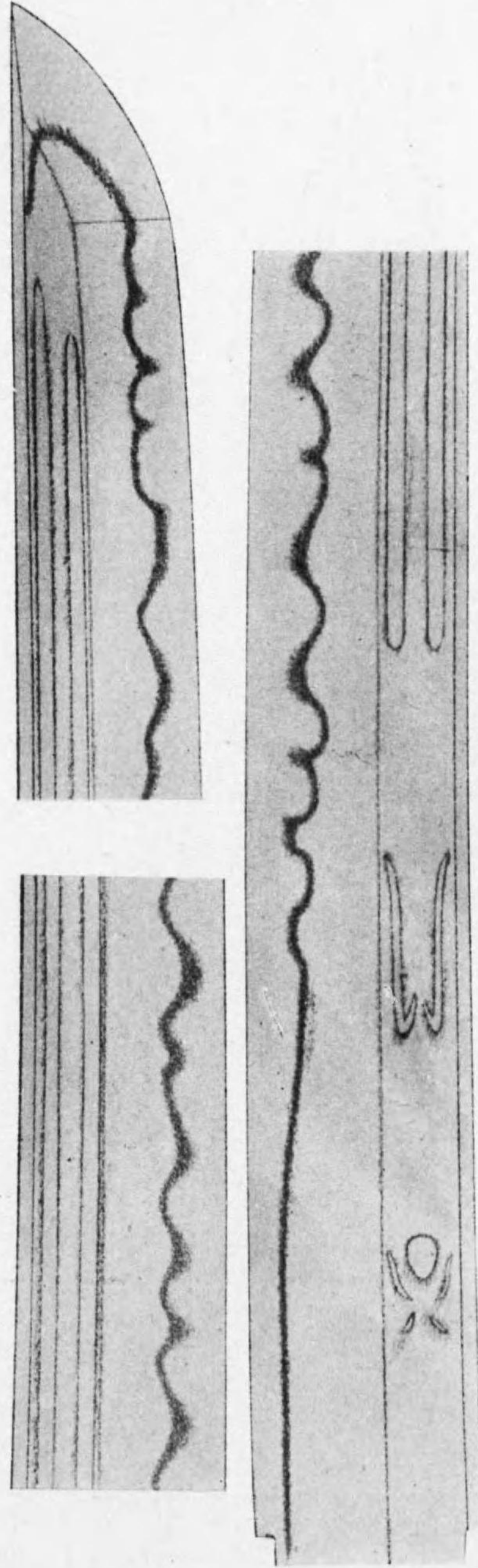




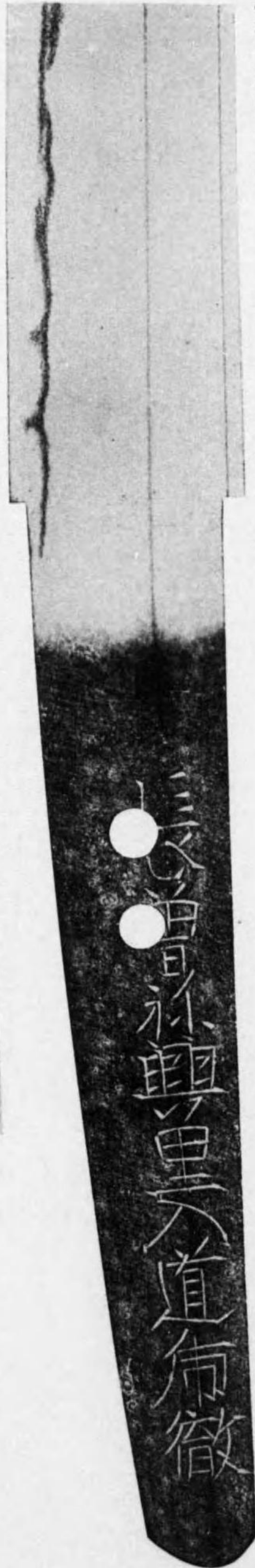
【長曾禰興里】 刃長一尺八寸、反り三分、重ね二分二厘五毛、重量百五十一匁、表二本樋、裏梵字に蓮花。地鐵小本目、刃文五ノ目足入り。元直に焼出す。中心化粧總付く。金象眼「寛文三年八月八日山野加右衛門參ッ胸裁斷。」（神戸 藤井博氏藏）



同作  
彫之 ● 長曾禰興里入道御里



【長曾禰興里】 刃長一尺五寸九分、重量百五十匁、姿頃合、重ね充分にして健全なる肉置き、地小本目強、刃文細く小足入り順次焼深く荒疵つき烈しい、此の刀時代寛文六年頃の作にして角虎銘としては初期に相當する。



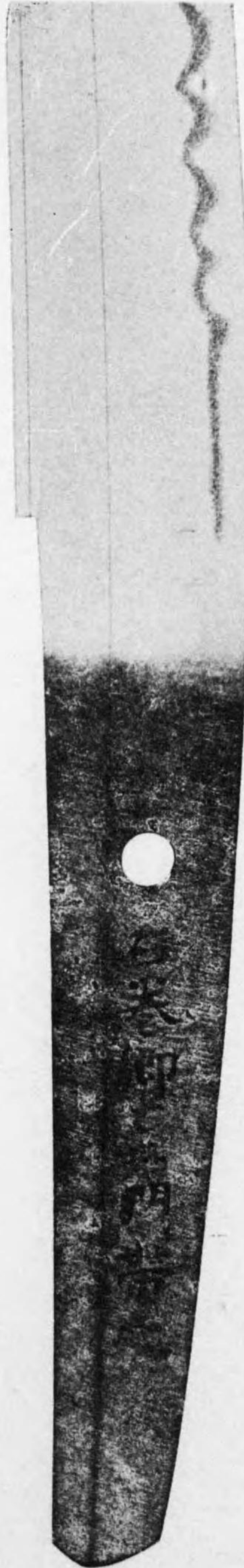
長曾禰興里入道御里



【長曾禰興里】 刃長一尺五寸四分強、重量百六十一匁、身巾一寸一分餘有りて姿立派。重ね二分四厘地小本目強く美しい、刃文小五ノ目足入り句荒深くして出来優れる。中心裏朱銘にて「石巻郷右衛門帶之」とある。



長曾禰興里入道御里







【長曾禰興里】 双長二尺〇四分、反り五分五厘、元巾一寸、重ね二分二厘、地小歪つみ強く美しい。心鐵幾分現れる。刃文五の目小亂刃縁締りて匂刃の内に深く入る。元の短かき焼出し、浅い亂に太い足は虎徹の特徴とする處である。珍しいことにはこの銘は太刀銘である。(埼玉 五十幡力藏氏藏)

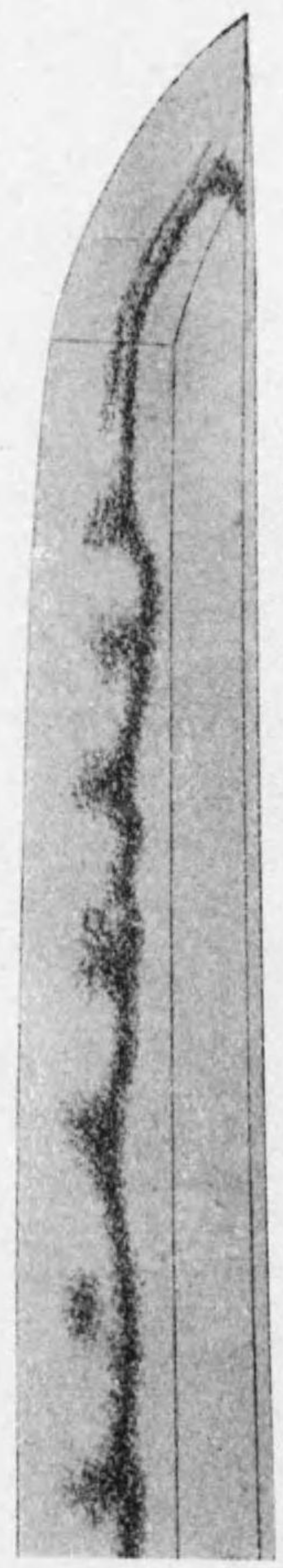


【長曾禰興正】 双長一尺六寸九分五厘、反り三分八厘、重ね二分四厘、重量百六十四匁。地鐵小歪、鎬地杵、刃文五ノ目莖最も深く足入り出来優れる。

(京城 横田克二氏藏)



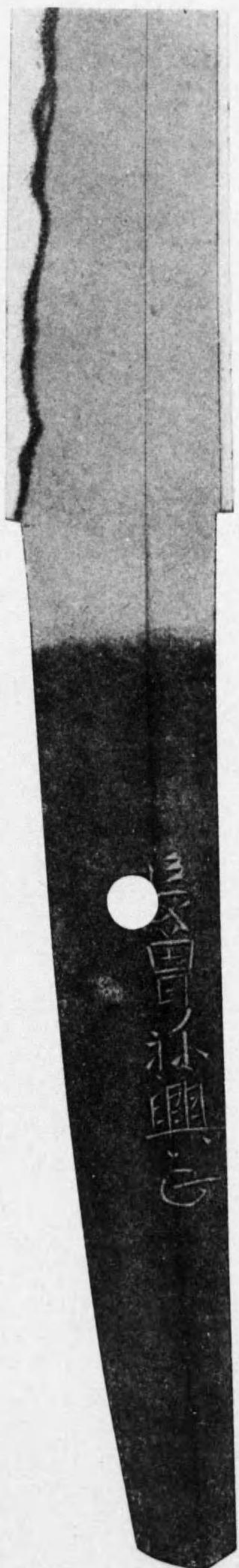
【長曾禰興正】 双長二尺五分五厘、反り五分、元巾一寸、重ね二分、地鐵板目心鐵現る、是は虎徹父子の特徴とも云へよう。刃文五の目亂莖荒く華やかに足入り深い。(兵庫 神代菊雄氏藏)



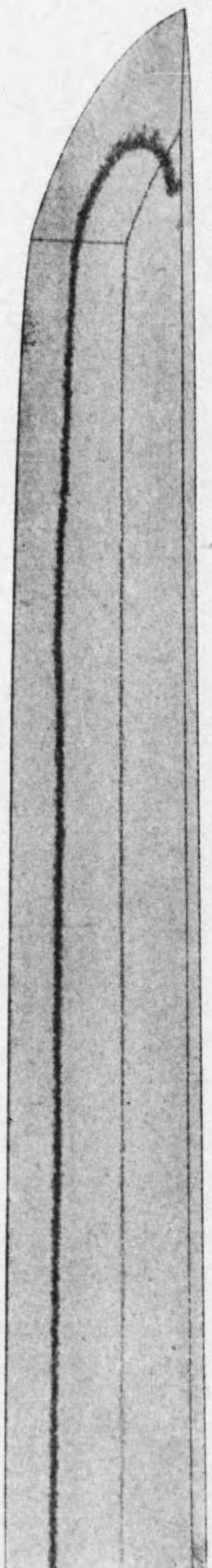


東海道、武藏（長曾禰興正・和泉守兼重）

【長曾禰興正】 双長一尺六寸四分、重量百五十匁、身巾有り姿良い、地鐵本目美しく、双文元焼巾狭く小亂にて順次焼深く五ノ目亂匂鈍華やかにして崩れ心もある。



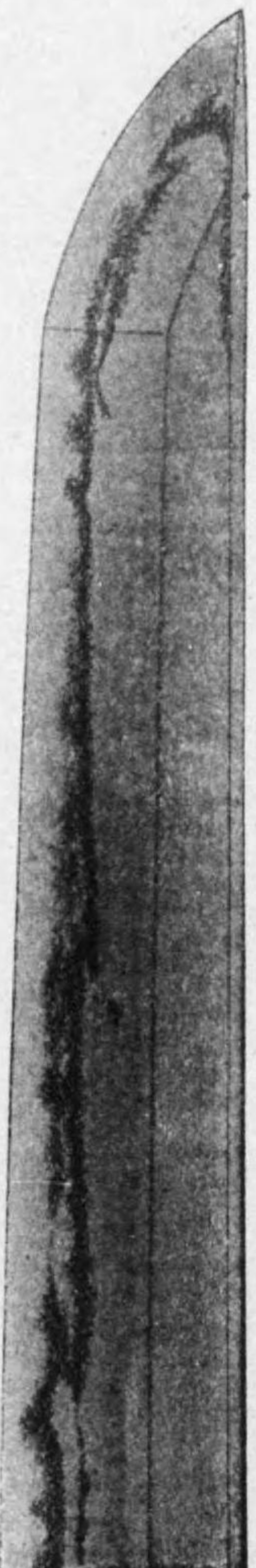
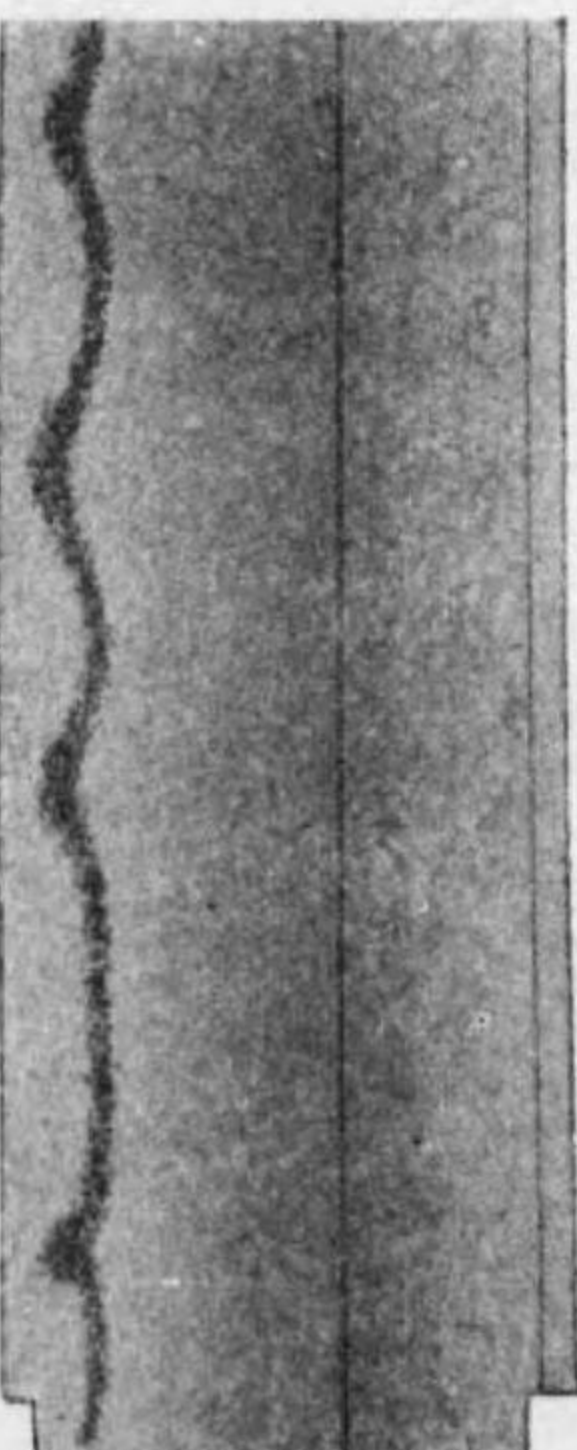
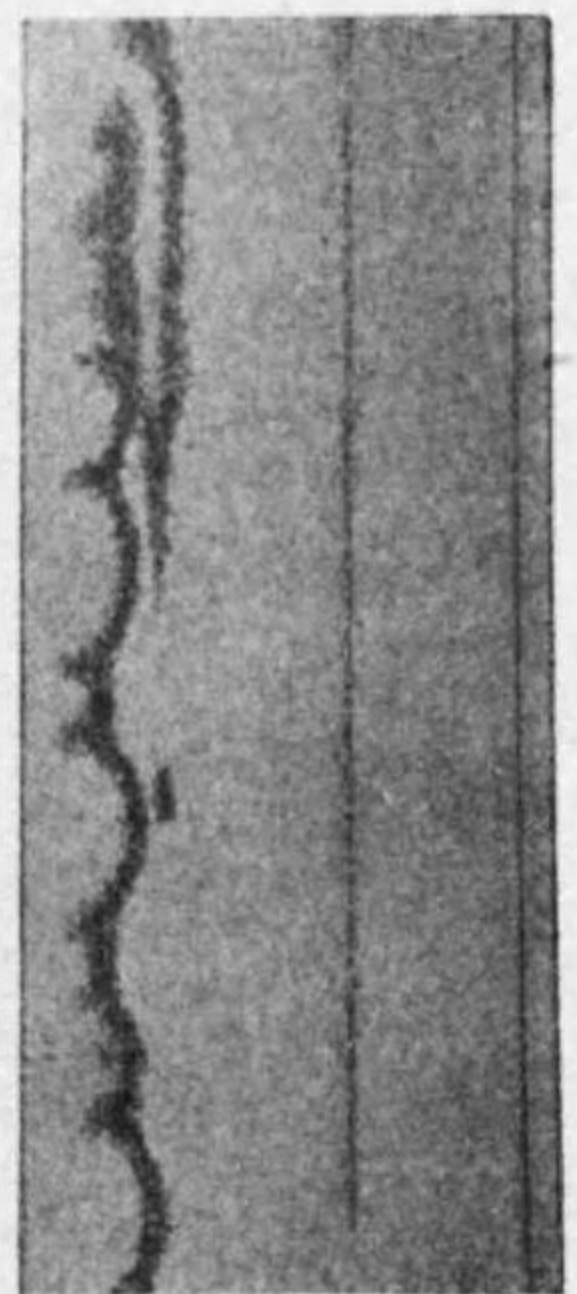
【和泉守兼重】 双長二尺五寸九分、反り三分一厘、重ね二分三厘、重量二百三十四匁。地鐵小本目、板柃交り松皮肌の如く立つ。双文直幾分のうねりを見せる。銚子小丸幾分鈍深い。上總介兼重前銘。



【上總介兼重】

双長二尺九分五厘、反り三分、地鐵全目潤ひ有りて、鎬地は柃目になる。双文五ノ目喰違ひ沸崩れ交り鈍最も深い、長曾禰興正を見る如き出来である。

（京都 鶴谷頼藏氏藏）

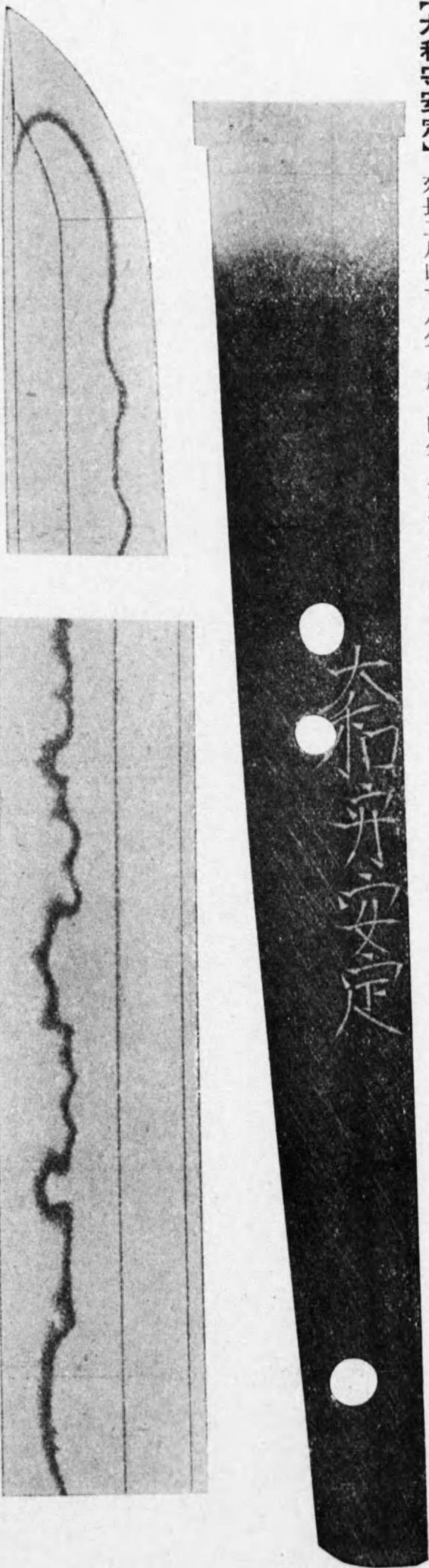


東海道、武藏（上總介兼重）



東海道、武藏（大和守安定）

【大和守安定】 刃長二尺四寸八分、反り四分、重ね二分二厘、重量二百十四匁。地鉄小至美しい、刃文五ノ目亂鈍深い。



【大和守安定】 二尺四寸六分、身中最も廣く、反頃合、中程より鎬寄りに落す、地鉄至美しい、刃文五ノ目横手下（圖参照）淋しき感あれども中頃働き充分にして傑出せる作、裏に金象眼あり。四胴截断干時寛文元年八月七日山野加右衛門永久六十四歳。

大和守安定

安定門安利を場面の都合上、百八頁へ差入れず。

【千手院盛國】 刃長二尺三寸餘、重ね二分三厘、反り三分弱、重量百九十三匁。地鉄全目立つ。刃文直小五ノ目に足入る。（東京 笹井賢二氏藏）

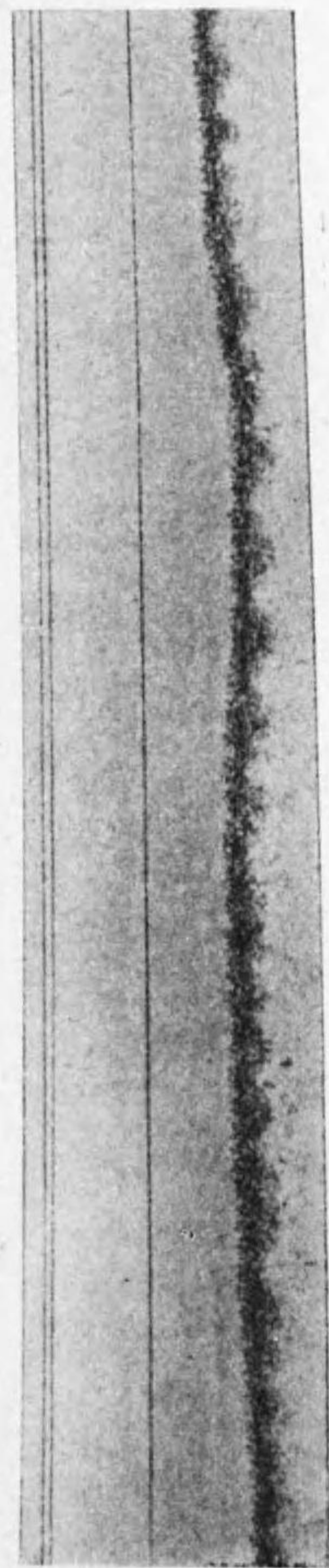


【出雲守吉武】 刃長二尺三寸六分五厘、反り五分、重ね二分二厘、重量百九十匁、棒樋表裏。地鉄板目流れる、刃文直淺き灣心足入り鈍深い。

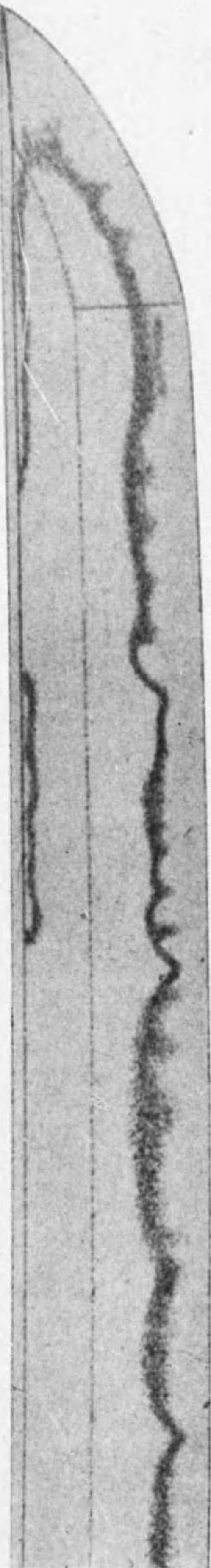


東海道、武藏（千手院盛國・出雲守吉武）

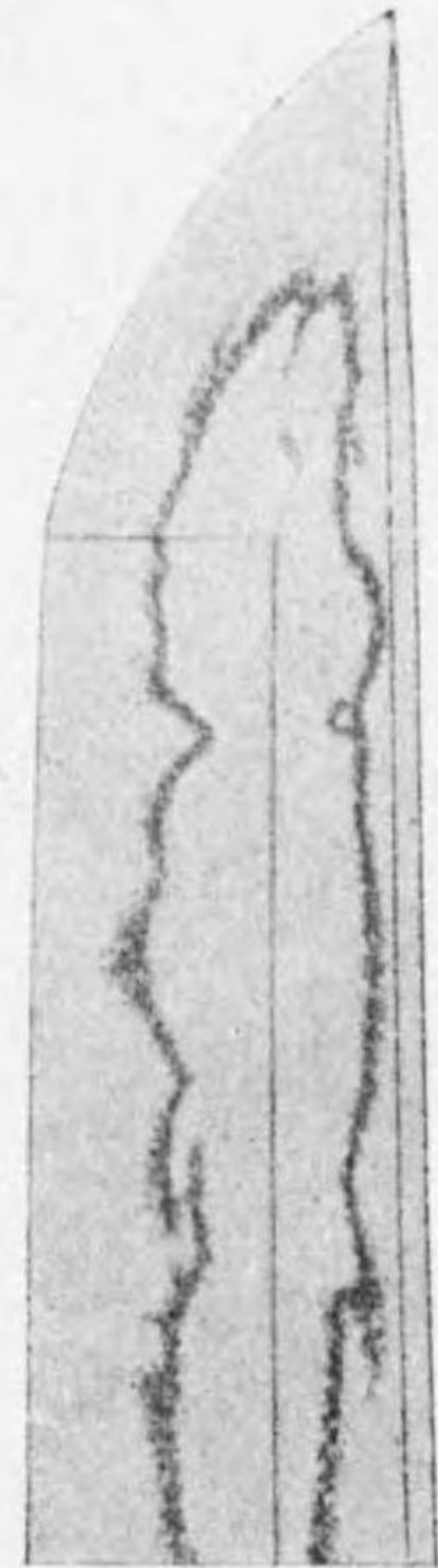




【上野介吉正】 刃長二尺三寸四分、反り五分七厘、重ね二分五厘、重量二百十五匁。地鐵松皮肌、鎊地柱目、双文浅き大五ノ目風に小五ノ目足入り莖深い。

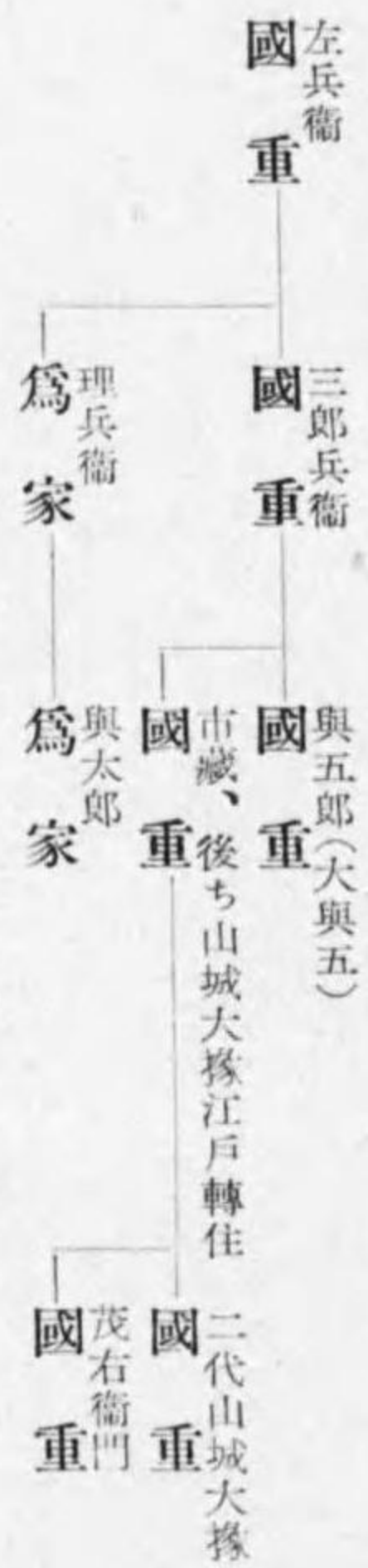


【山城大掾國重】 刃長二尺二寸九分五厘、反り三分九厘、重ね二分二厘、重量二百十匁、地鐵地莖つき無地風に大板目肌現れる。双文五ノ目亂、荒莖双縁に一面、銚子返り深く、棟焼もある、元直心の焼出し。(青森 阿部誠一郎氏藏)



水田國重一族は同時代に數人現れ可成り繁雜である。作品の調査に依ると嫡系の大與五國重は大いに振ふもこれに止まり次男系の市藏國重が江戸へ出て以後も榮へてゐると思はれる。

次に作品の見られる刀名のみを以て、その主要系圖を左の様に作つて見た。



作銘「備中國住國重作」の大部分は與五郎、市藏、茂右衛門その他がある。理兵衛爲家が三郎兵衛の弟と云ふことは幾分時代的に不審がある。これは理兵衛の長命に依るものであろうか。初代山城大掾國重との合作に理兵衛爲家の銘が表に切られてゐるものとみ貳振ある。これは矢張り初代山城大掾の叔父(理兵衛)と見てよいのであろう。猶與五郎國重に慶長九年の刀があるがこれは正しくない。與五郎は時代寛永から以後に及んでゐると見られる。





東海道、武藏 (貳代國重・武藏守安利)

一〇八

【貳代國重】 双長二尺三寸二分、反り三分、重廿二分五厘、重量二百〇六匁。地鐵剛柔の鐵を交へて大肌になる、双文直砂流、荒籠も付く、飛焼も妙しく交る。

(青森 若井三郎氏藏)



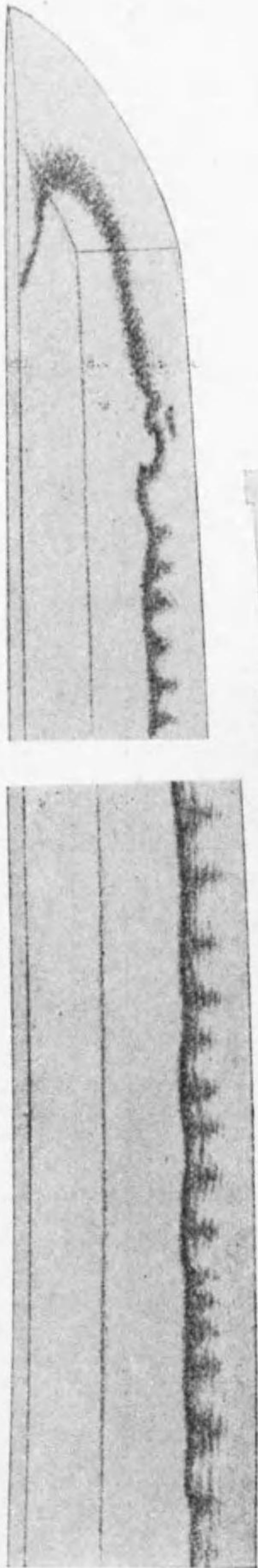
【武藏守安利】

双長二尺二寸七分、反三分六厘、重廿二分一厘強、重量二百一十一匁、地小全美しい、双文五ノ目小亂足深い、銚子小丸、焼巾深くして虎徹に匹敵すべき作風を示す。安定弟子。(福島 鈴木高照氏藏)



【近江守正弘】

双長一尺六寸二分五厘、反り三分七厘、重廿二分三厘、重量百四十七匁。地鐵全目、双文直小五ノ目足入り砂流交る。(青森 阿部誠一郎氏藏)



【近江守正弘】

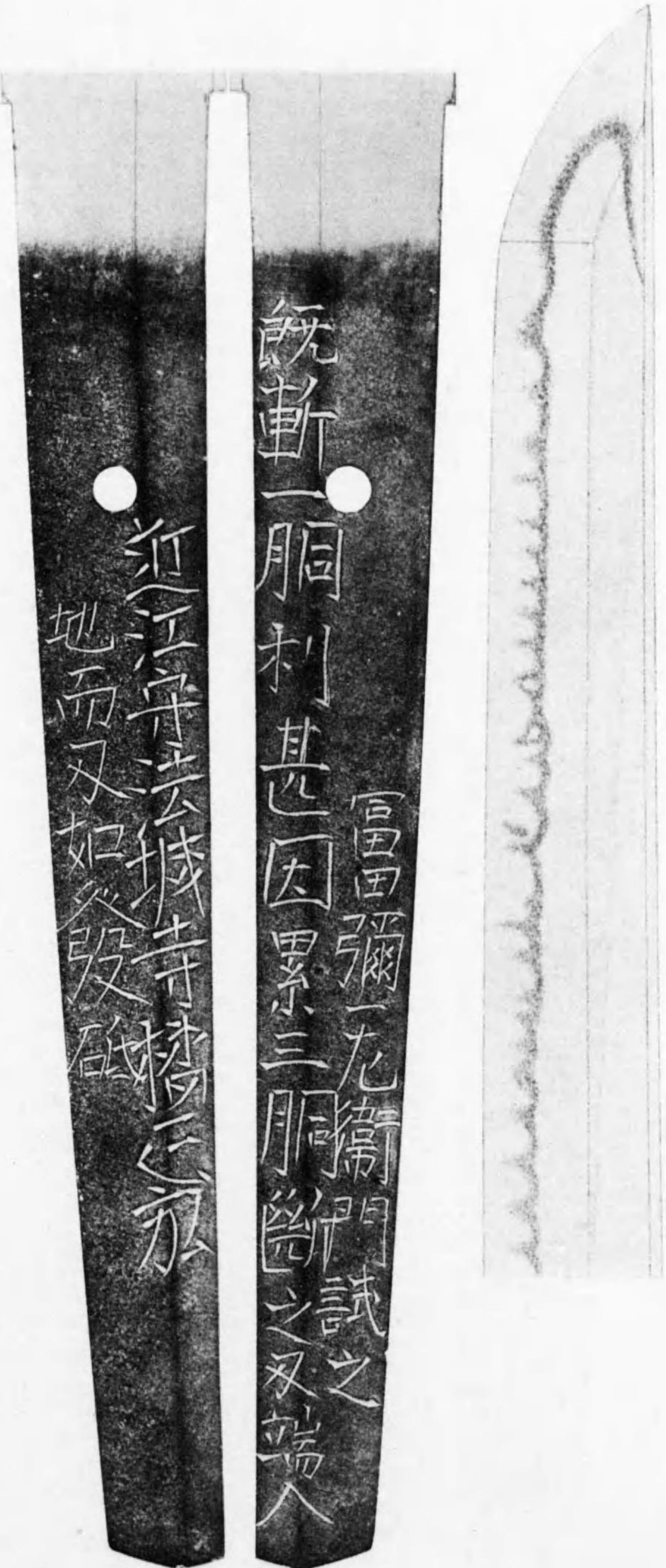
双長二尺五寸三分、反り四分五厘、重廿二分三厘、重量二百三十二匁、地小全細美、双文直小五ノ目足入り匂鈍深い。中心裏に「寛文五年七月十日ニッ胴截斷山野加右衛門永久」の金象眼がある。



東海道、武藏 (近江守正弘)

一〇九





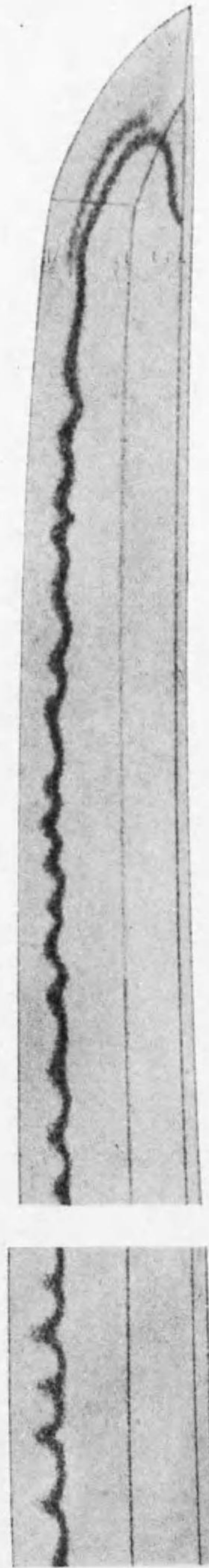
【貳代正弘】

刃長二尺三寸一分、重量二百。五匁、巾有り反浅い、地小本良く強い、刃文五ノ目距深く足揃ひて出来優れる、虎徹又は兼重に似る。試銘全部正弘切銘。從來二代正弘は但馬守正弘と云はれてゐたがこれは誤りであつて初代正弘同様近江守と切る。



【但馬守貞國】

刃長一尺七寸七分餘、反り五分五厘、重ね二分三厘、重量百四十三匁。地鐵小本、刃文小五ノ目に足入る。



【但馬守國正】

刃長一尺七寸六分、反り四分五厘、重量百四十六匁、重ね二分四厘、地鐵小本地鈍心、弱き板目も交る。刃文五ノ目足入りに砂流氣味の鈍出来。(青森 阿部誠一郎氏藏)





東海道、武藏（但馬守國正・肥後守吉次・越前守正照）



一一三

【肥後守吉次】

双長二尺三寸四分五厘、反り五分五厘、重ね二分四厘、重量百九十九匁。棒樋表裏。地鐵小柰美しい、双文五ノ目鈍深く出来優れる。（鹿兒島 橋口榮三氏藏）

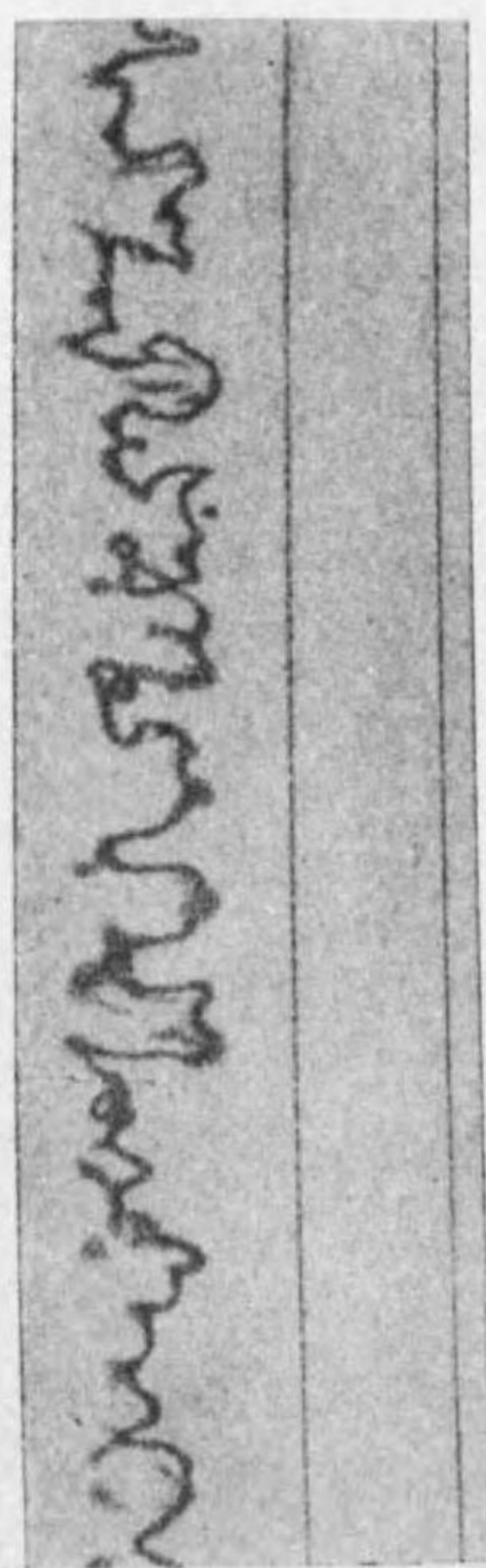


【越前守正照】

双長二尺一寸一分、反り七分、重量百八拾匁。表裏に棒樋、地鐵小柰目粒立ち美しい。双文中直双勾鈍深い、銚子小丸になる。



【武藏大掾是二】 双長二尺三寸九分、反り六分二厘、重ね二分六厘、重量二百五十三匁。地鐵柰目細かく小柰の如く見ゆる所もある。双文丁子烈しく、匂出来丁子映りも付く。（大阪 吉田新八氏藏）



東海道、武藏（越前守正照・武藏大掾是二）

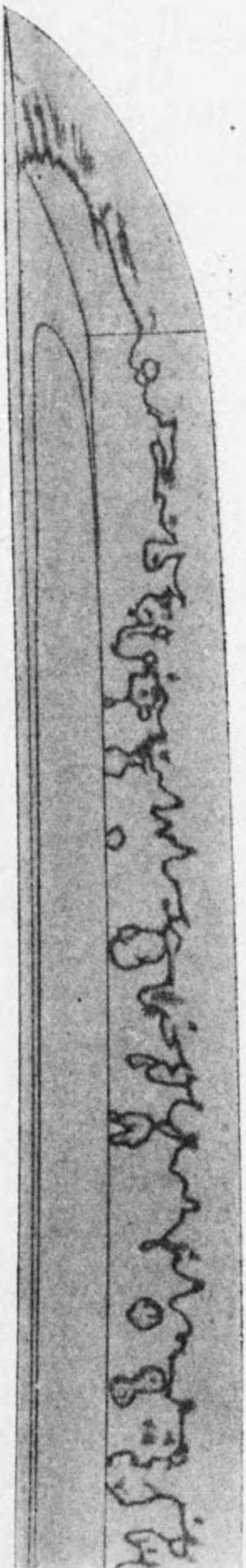
一一三



東海道、武藏（武藏大掾是）

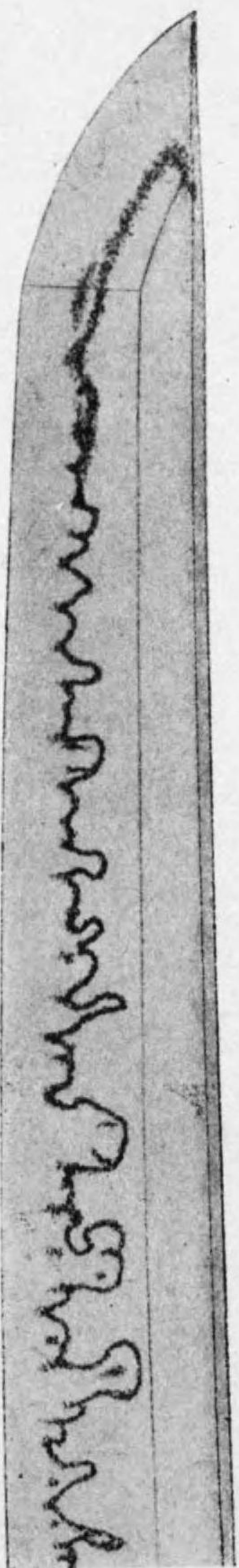
【武藏大掾是】

双長二尺三寸五厘、反り八分、重ね二分二厘、重量二百十四匁、棒樋表裏、地鐵小柰つみ柰目現れる、双文匂出来の大丁子華やか。



【對馬守常光】

双長二尺二寸八分、反り七分弱、地鐵柰目。双と鎬地は柰目、双文大丁子蛙子交る。銚子小丸深く鈍える。他に元祿十五年七十七歳の添銘がある、流石にこの銘もその老弱な鑽使ひが感知される。



東海道、武藏（對馬守常光）



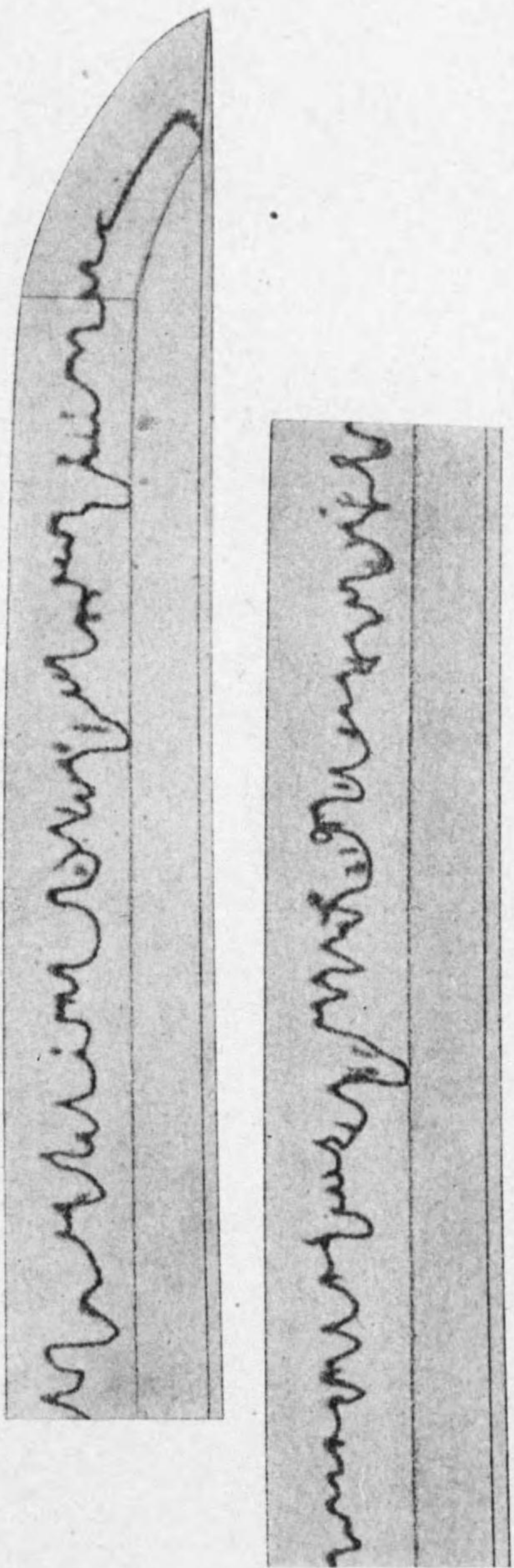
【日置光平】

双長二尺二寸九分五厘、反り五分、重ね二分六厘、重量二百十匁。地鐵小柰糠目肌に柰交り氣味、鎬地柰、双文丁子、丁子映り現れる。

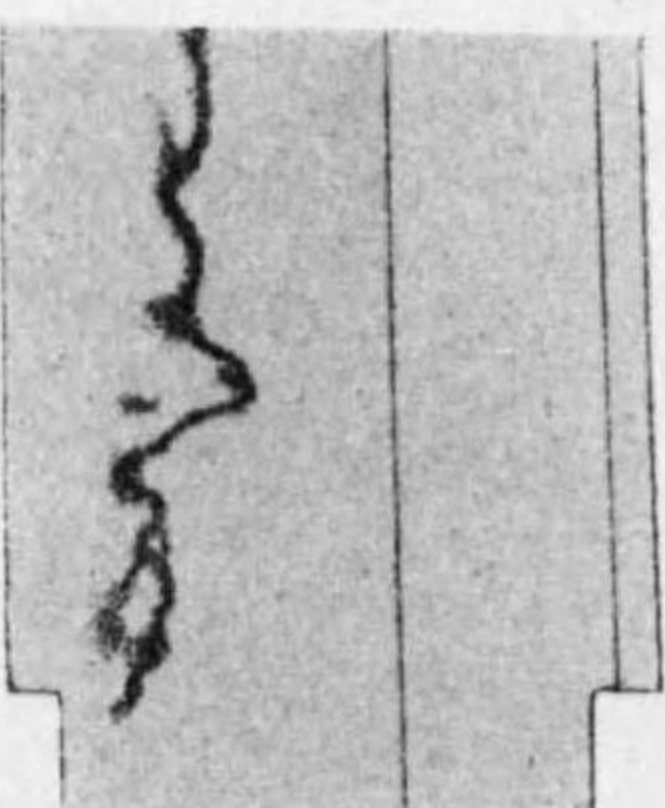
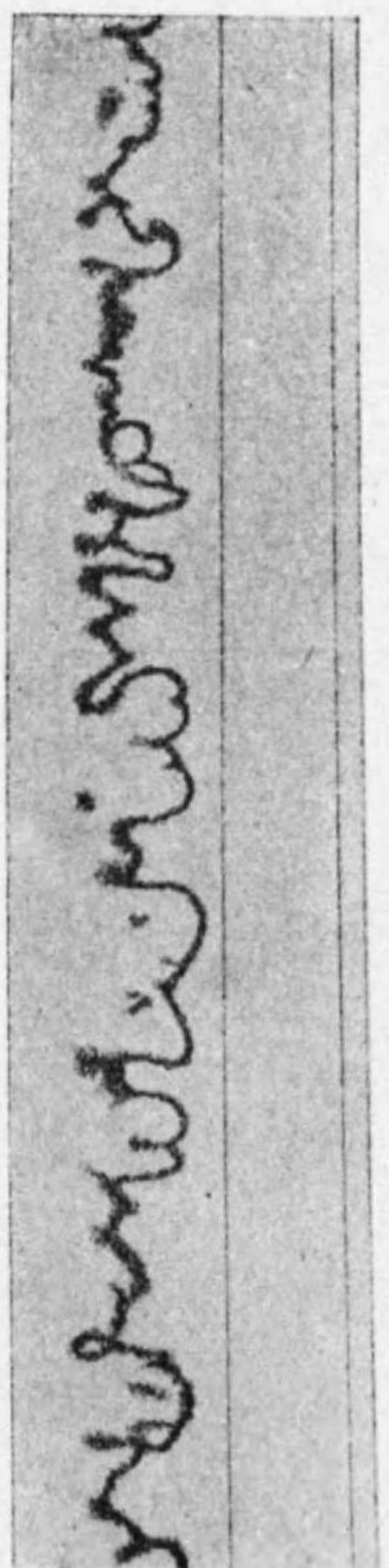


兼應二年八月吉日

武州出羽守源光平



出羽守源光平



【日置光平】

双長三尺二分の長刀、反り七分、身巾一寸一分五厘、重ね二分六厘、地鐵板目柰交り鎬地柰。双文大丁子匂出来足入り織ん、銚子小丸、これ等作風は古作一文字と大略同様であるがその相違點を指摘するならば一文字の多くは銚子亂込み、又は大丸であるが本作は小丸である。又一文字は地鐵本目又は板目であるのに本作は板目柰交り鎬地は柰目である等の點をあげ得る。



【小笠原長旨】

田常二氏藏

双長二尺二寸五分五厘、反り七分、重ね二分三厘、重量二百〇三匁、三ツ棟、鎬少しく高い、地鐵無地に板目、双文直幾分の小亂心。（福岡池



長七目作

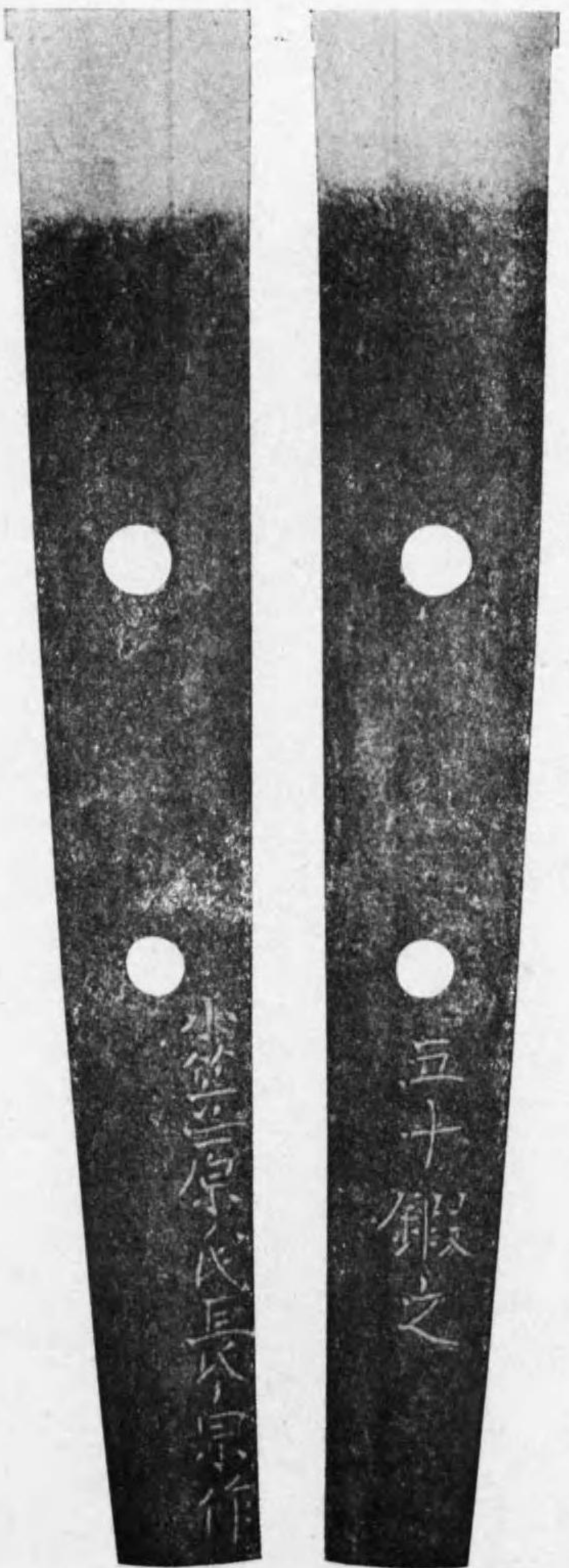




【小笠原長宗】

刃長一尺六寸九分、反り二分七厘、重ね二分二厘、重量百三十匁、地鉄小太弱く流れる、刃文直に喰違刃交る。小笠原長旨同人。

長宗は武代、長旨は寛永頃の人とする古書は誤りと思ふ。長旨は長宗とも稱し、寛文延寶頃から造られ、刀業衰微から鍛冶を廢業 享保年間吉宗將軍の尙武復興に再び世に出る。この時の名が長旨であると。



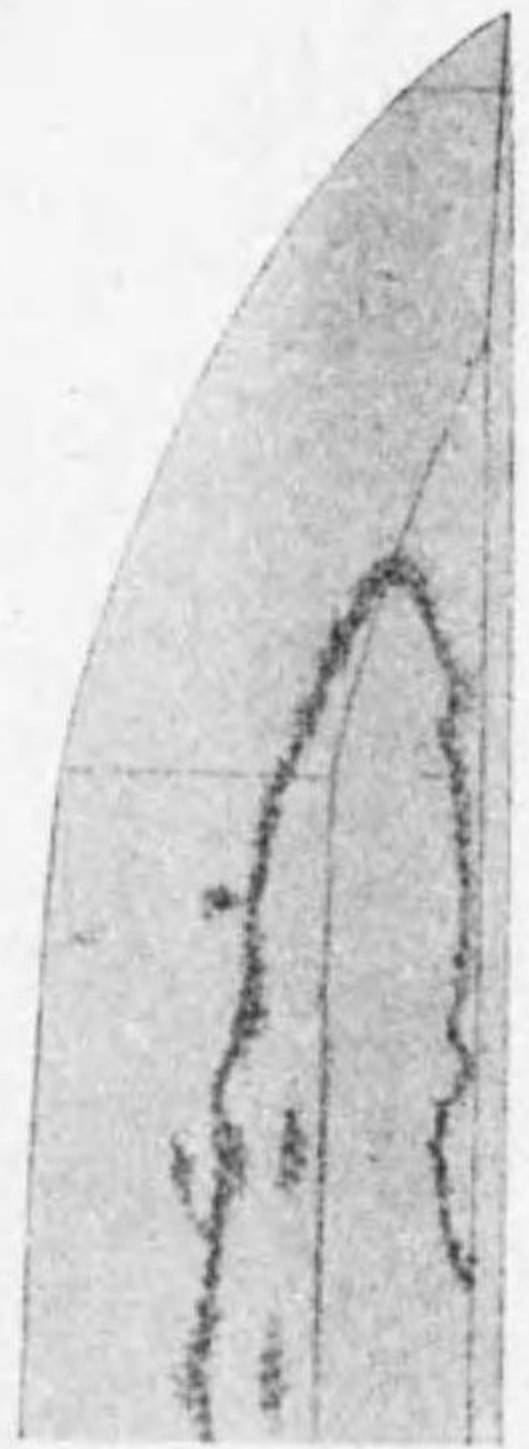
五十鍛之

小笠原氏長宗作

◆東山道、美濃國

【播磨守金高】

刃長二尺二寸九分、反り六分、重ね一分九厘、重量百六十九匁、地鉄板目鑄地柁刃、文瀧鈍崩れ、刃沈む。



播磨守金高

【平安城具衡】

刃長二尺三寸一分、反り四分五厘、重ね二分一厘、重量百八十七匁、地鉄全板目立つ、刃文三本杉風の五ノ目。



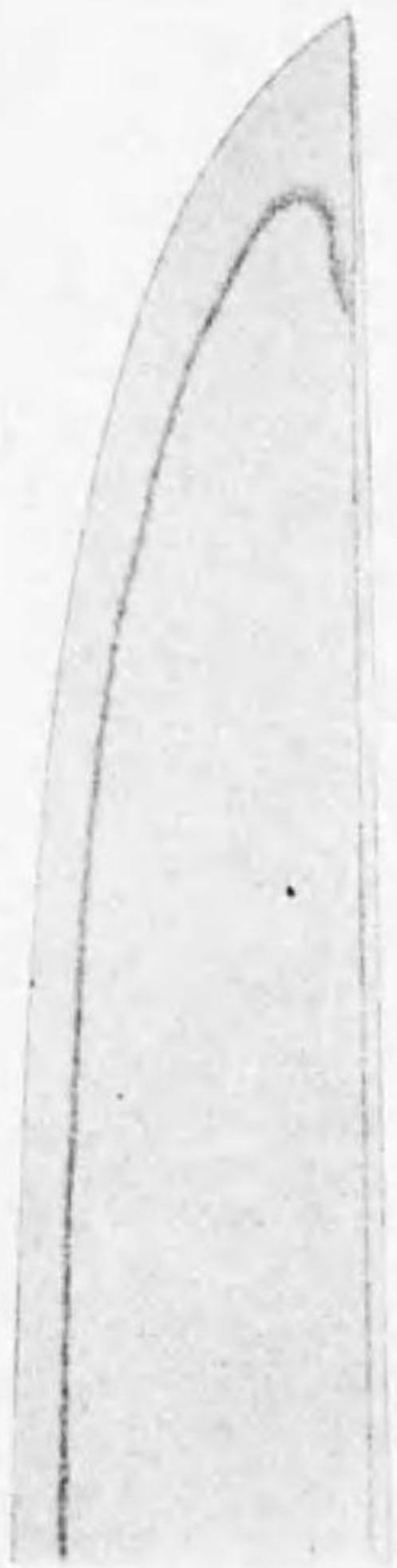
平安城具衡



東山道、美濃 (陸奥守大道・三河守陳直)

【陸奥守大道】

刃長一尺四分、反り一分、重ね一分九厘、重量五十九匁、地鐵板目末關の感じ、刃文直匂締る。



【三河守陳直】

刃長一尺二寸二分、反り二分、重ね一分九厘、重量六十八匁、三ツ棟、素劍の彫あり、地鐵大板目柁交り、刃文灣刃匂締る。砂流少し交る、焼巾狭し。



【角兵衛兼信】

刃長一尺八寸一分五厘、地鐵小太、刃文直刃。



【大和掾兼信】

刃長二尺三寸二分三厘、反り四分五厘、重ね二分三厘、重量百九十匁、三本杉、焼谷疵多く付き鮮やか、地小太目にして健やか。



新刀兼信の著名工として角兵衛、源一郎の二人がある。角兵衛は時代寛永廿年の裏銘付きがあるからその頃の人と見ることが出来る。源一郎は古書の如く時代正保と見られ、源一郎は兼信二代目と云へよう。茲に更に大和掾源兼信がある。中心の鑓目、その他から推定して源一郎の後期銘ではあるまいか。

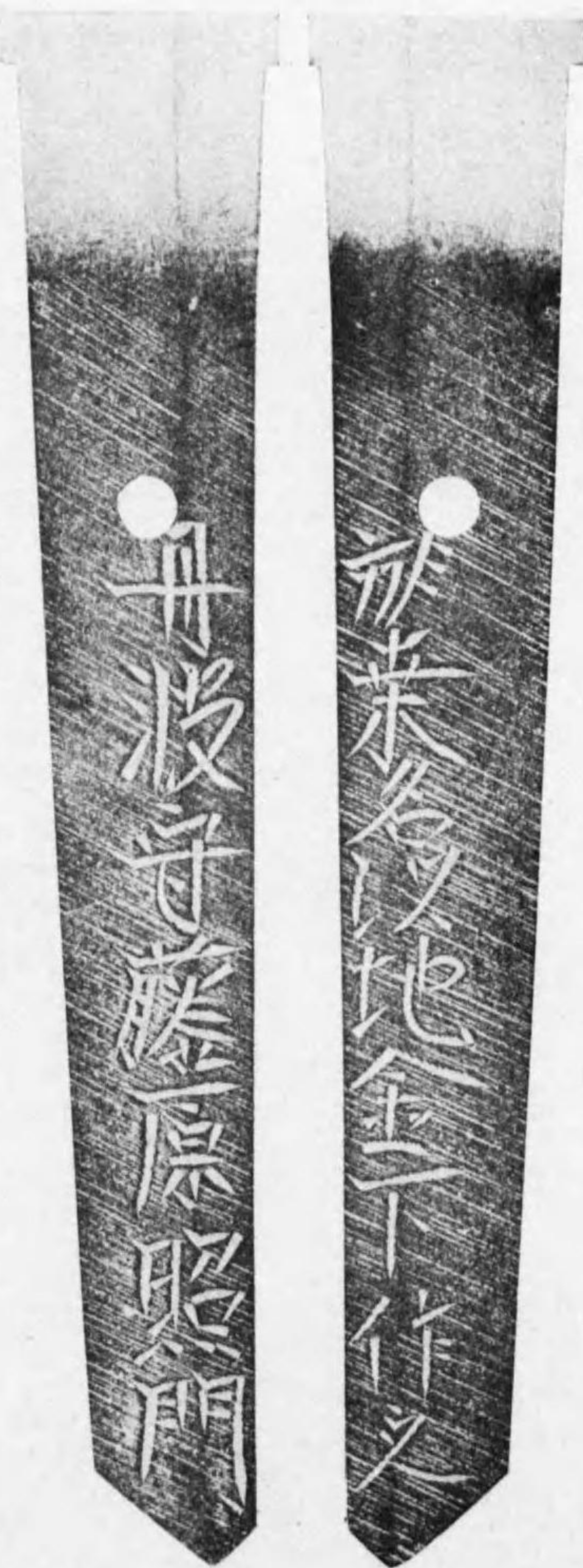
勝國と共に三本杉刃が有名であり恰も孫六兼元を模倣してゐる観があるが實際は相違点がある。従がつて世上無銘兼元の大半はこの兼信等の三本杉刃である場合が多い。

東山道、美濃 (角兵衛兼信・大和掾兼信)



東山道、美濃 (丹波守照門) 岩代 (松山長國)

一三三

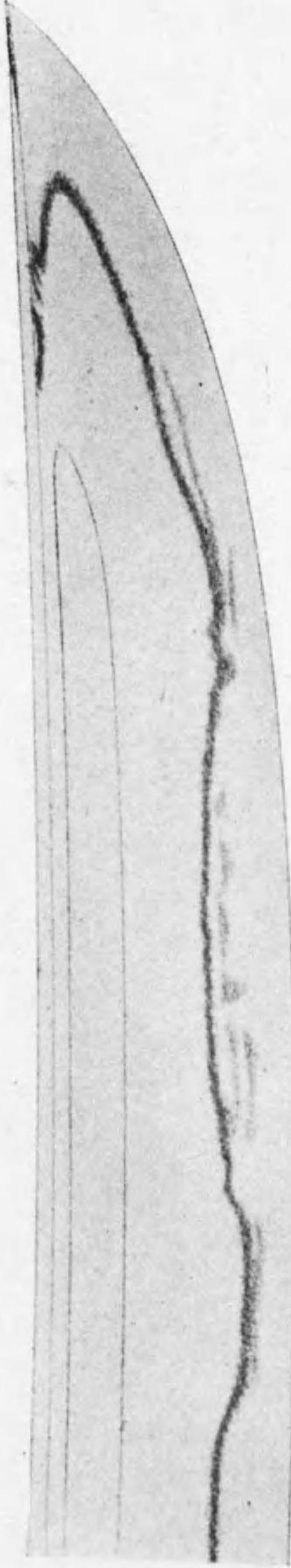


【丹波守照門】 刃長二尺〇二分五厘、反り二分二厘、重ね二分二厘、重量百五十匁、地鐵大板目、鑄地柱立ち、刃文直喰違交り。



◆東山道、岩代

【松山長國】 刃長一尺一寸七分、反り三分二厘、重ね二分二厘、造込み切刃、表に異例の二本樋、裏棒樋、地鐵板目、刃文大灣焼頭に莖飛ぶ。



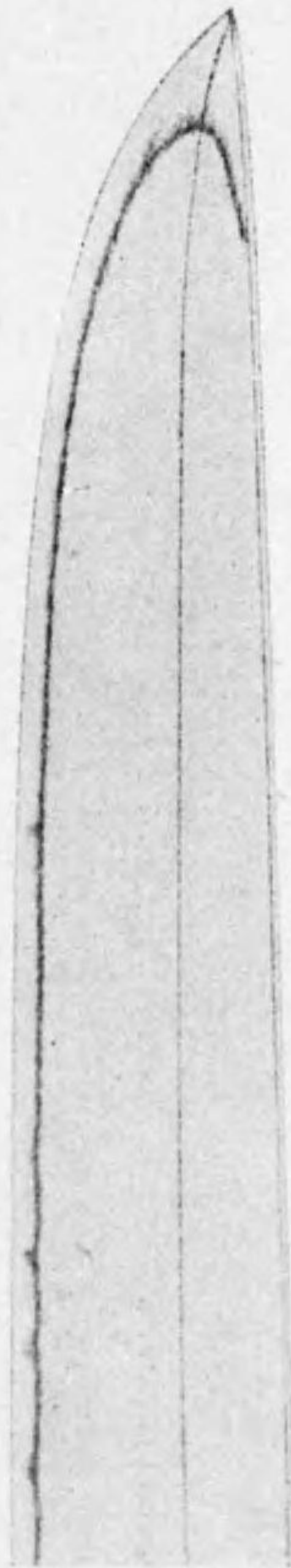
【三善正長】 刃長九寸二分五厘、重ね二分五厘、前反、重量五十八匁、三ツ棟、地鐵小板目、刃文細直小足入り。政長同人。



正長が埋忠明壽の弟子と云ふ記事は全然疑はしい。時代的に幾分の無理がある。正長が長國の子であることとして正長が後で政長と改銘したこと總てが父長國との關聯以外に何物もない。

東山道、岩代 (松山長國・初代正長)

一三三

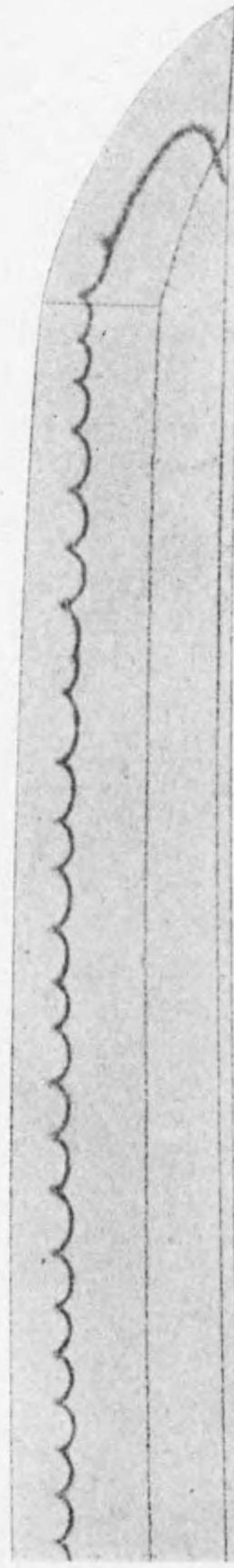




東山道、岩代 (三善政長・三善長道)

【三善政長】

双長一尺七寸二分五厘、反り三分五厘、重ね一分九厘、重量百二十五匁、地鐵柰目地映りつく、双文小五ノ目縮り吉井備前の如し。



【三善長道】

双長二尺三寸一分、反り三分弱、重量二百〇三匁、重ね二分五厘、地鐵小柰、双文五ノ目亂濤亂風。



【三善長道】

双長一尺六寸八分五厘、反り四分、重ね二分二厘強、重量百四十二匁、地鐵剛柔鐵交り綺麗に肌現る。双文五ノ目亂砂流交る。(東京 柴田敏治氏藏)



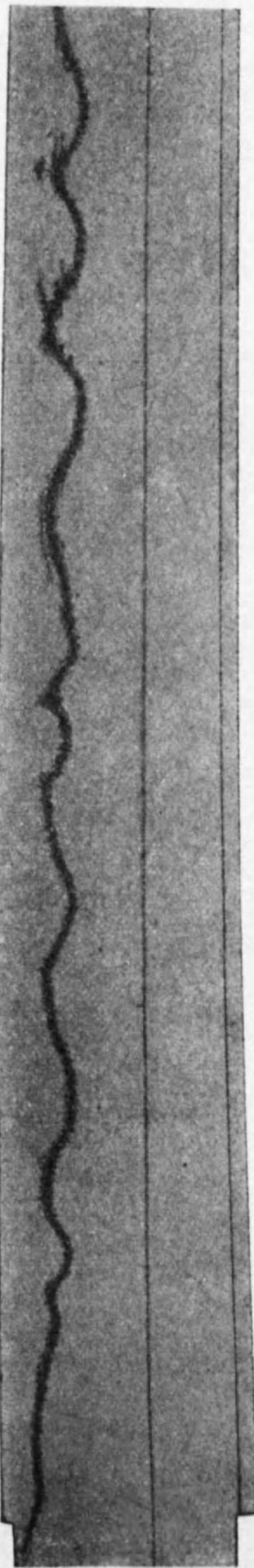
【三善長道】

双長二尺三寸五厘、反三分八厘、重量百九十匁、地小柰目鎬地柰、双文整つた五ノ目小亂。

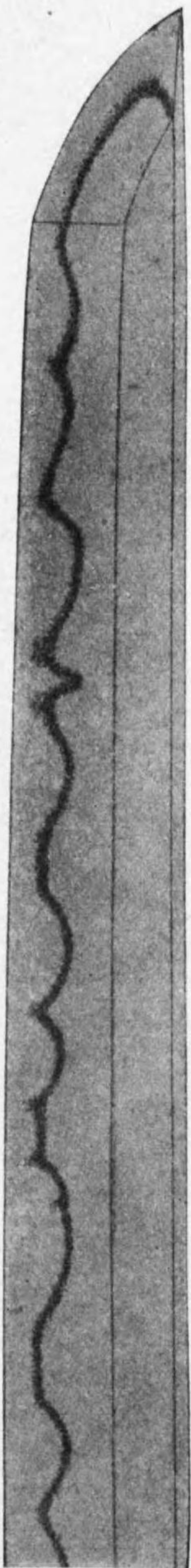


東山道、岩代 (三善長道)

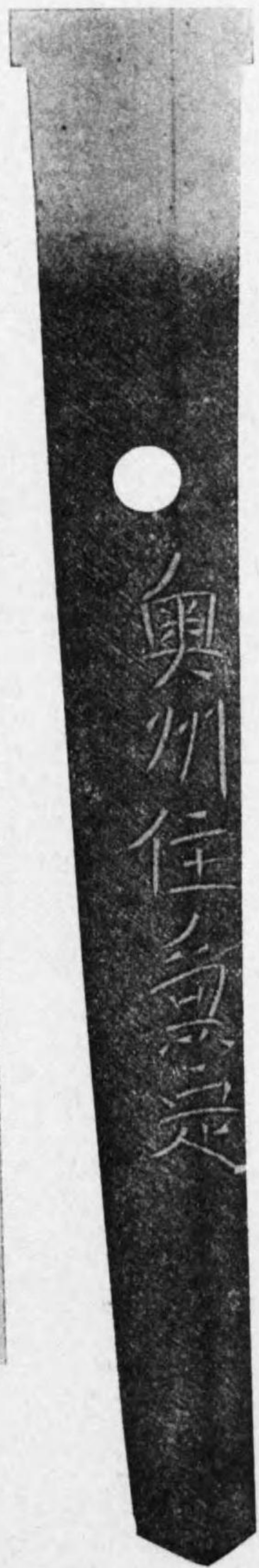




記録に長道は貞享二年に殺してゐる。茲は貞享三年二月日の長道の刀がある。これは記録の誤りであるかも知れない。而し二月八月の慣習は實際の月日でない場合が多い。一年を二月と八月と二區分するため例へば貞享二年冬期に貞享三年二月日が造られたものと考へる方が順當であらう。

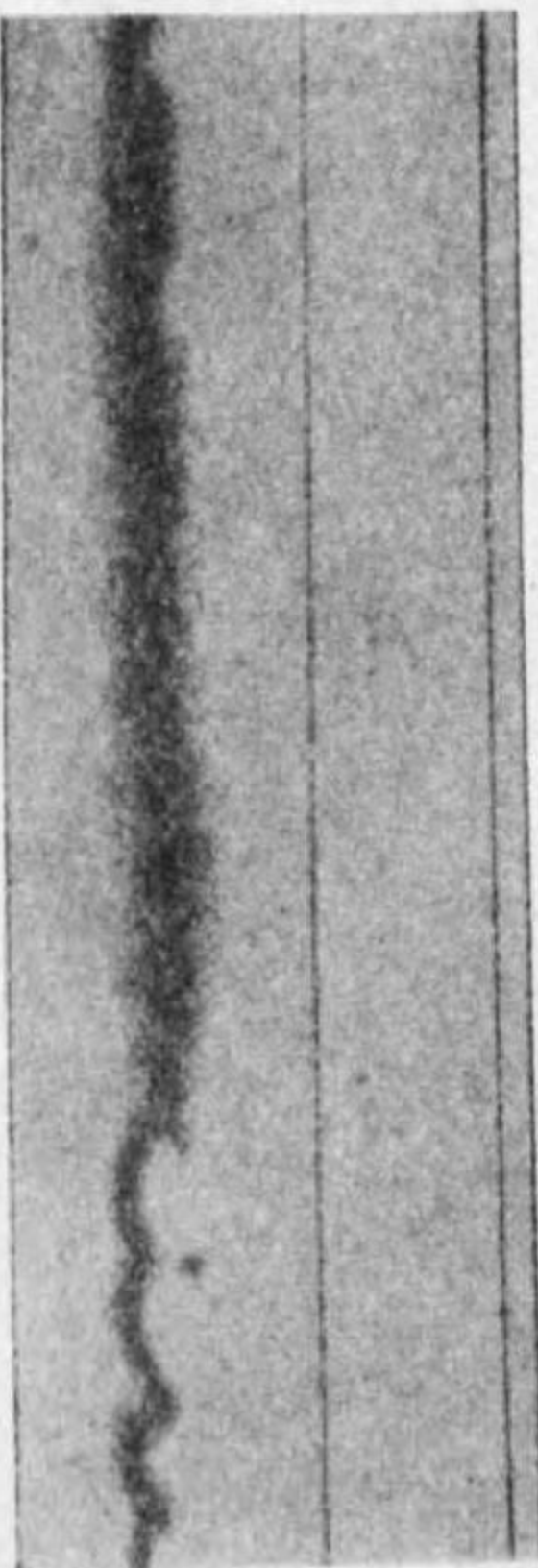
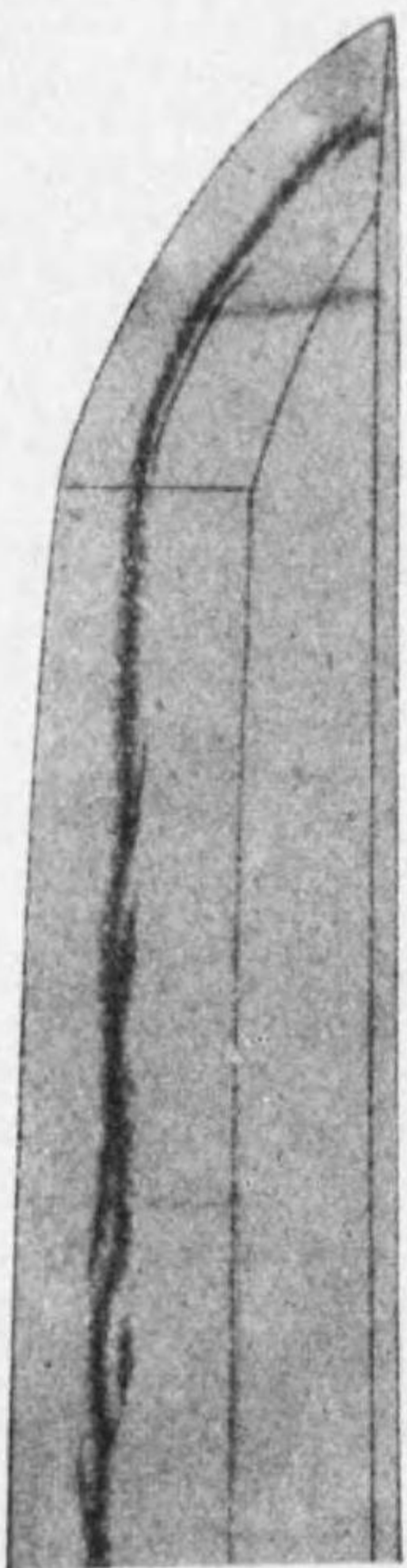
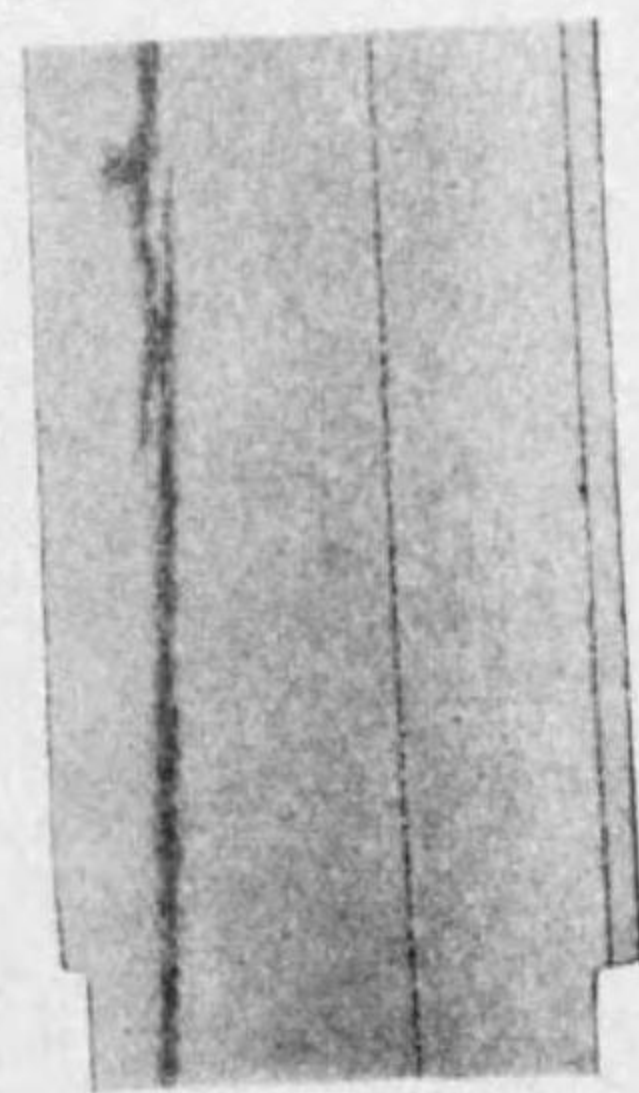


【奥州兼定】  
双長二尺一寸七分三厘、反り六分、重ね二分二厘、重量百六十三匁、地鐵板目、双文小五ノ目三本杉がる風見ゆ。時代延寶頃。奥州兼定もこの頃（寛文延寶）から作品が見られる。



◆東山道、陸前

【初代國包】  
双長二尺三寸、反り五分、重量二百〇五匁、鎬高い、地鐵板目、双文直亂疏出來華やかにして優れる。（山形 佐藤儀平氏藏）





【初代國包】

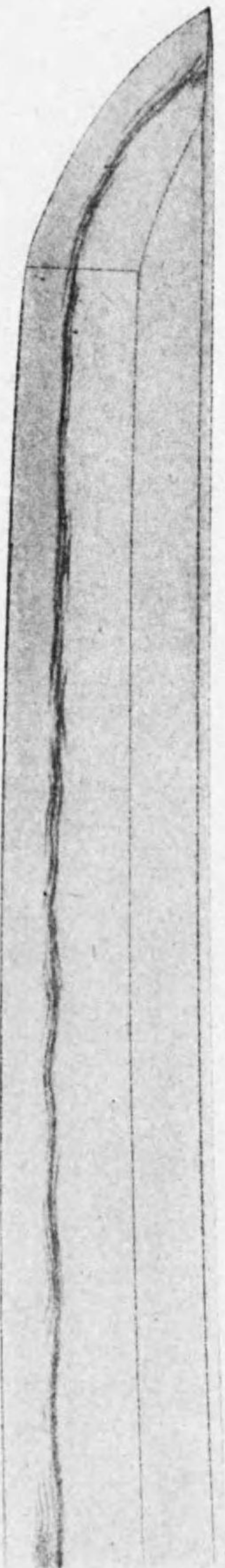
双長二尺三寸七分、身巾有り鎬高く反あり姿良く、地柢目肌麗し、双文直浅き灣に砂流喰違ひ刃交り、鉦子小丸殆ど焼詰、地刃共に健全にて優れる。



初代國包の作品は「山城大掾」の受領銘から始まり「奥州仙臺住」とあるは貳代の初期銘である。越中守正俊弟子入りは「山城大掾」受領のための意義が深い。即ち刀工受領一般は三品一家の幹旋に因るものである。國包が師正俊にその作風を倣はないのは家傳保昌柢目再興のゆへであらうか或は正俊弟子説は受領の目的にのみ關つてゐたかも知れない。

【初代國包】

双長一尺五寸三分五厘、反り三分六厘、重ね二分三厘、重量百二十六匁、鎬高し、地鐵柢目、双文直刃縁細かき砂流交る。

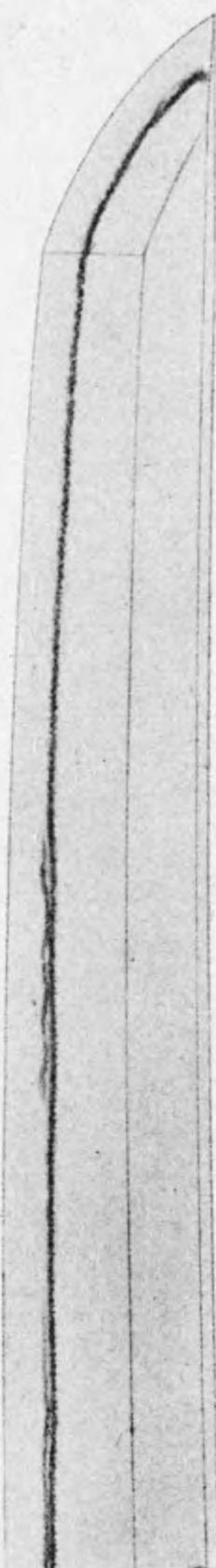


享安元年八月十日

山城大掾藤原用事國包

【初代國包】

双長二尺六寸七分、古刀の如き高い反を持つ、地柢目鍛割も交る、双文直砂流交り。（大阪 黒川幸七氏藏）



通常正保三年業を嫡子吉左衛門（山城守國包）に譲つて隠居したと云はれる。こゝに慶安元年の作がある故これは隠居後に造つたことになる。隠居と云ふも作を表面に立たせて自分は一步後退した場合もあると思ふ。又たとへ眞に隠居したとして見ても、その名聲を慕ひ來る要望には、用惠自身が健在である限り應ぜざるを得なかつた場合もある。

奥州仙臺住藤原國包

【二代國包】

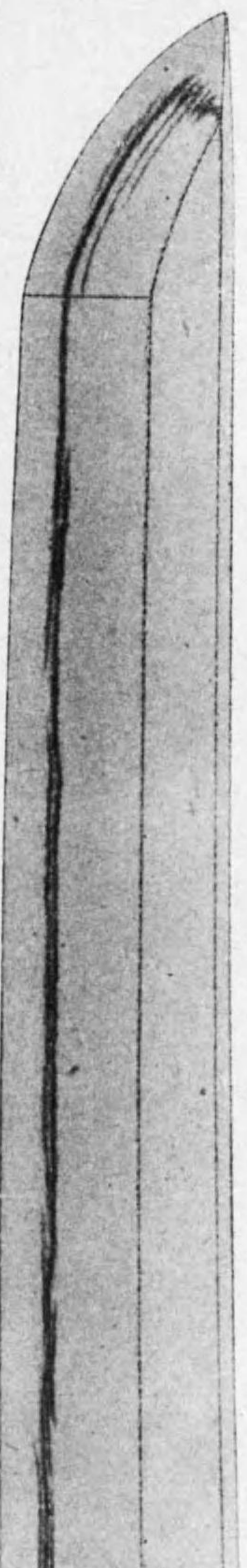
刀長二尺三寸六分五厘、反り五分、重ね一分九厘、重量百八十八匁、地鐵柢目つき、小柢目の如く見ゆ、地疵つき、双文五ノ目亂砂流交り。





【貳代國包】

刃長一尺八寸一分五厘、反り四分、重ね二分二厘、重量百六十七匁、地鐵柃目、刃文直縁掃け。（東京）笹井賢二氏藏



【二代國包】

刃長二尺六寸餘、反七分、重量二百七十一匁、表に「八幡大菩薩」裏に「摩利支尊天」の刻字があり、地柃目、刃文直縁掃り小足入り、物打邊喰違刃交る、銚子掃掛け焼詰、（重要美術 東京 栗原彦三郎氏藏）表中心左寄りに金象眼にて「寛新兵衛差領之内一裏二ツ胴土壇入切手蓬田安太夫、寛文十一年十二月十六日」

二代國包の銘字に就てはききに名刀圖鑑にて記せる如く仙台の台の字を「臺」にも切る事注意すべきである、新刀篇には更に明瞭にこれを説き従来初代と稱せられたる「奥州仙臺住國包」がこの二代目山城守の作品であることを押形を以て示した。

摩利支尊天  
八幡大菩薩



【三代國包】

刃長二尺三寸七分五厘、反り四分、重ね二分四厘、鎬高し、重量百八十五匁。







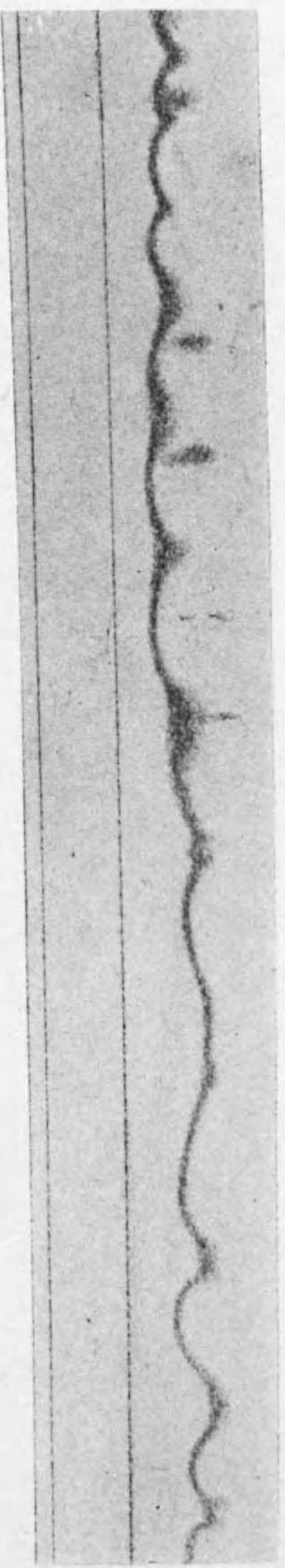
【仙台包吉】

刃長二尺四寸二分五厘、反四分五厘、巾一寸、重ね二分二厘、重量百九十匁、地板目流れ、刃文直匂鈍深く小足入り尋常なる作風。(仙臺 蟻坂仲氏藏)



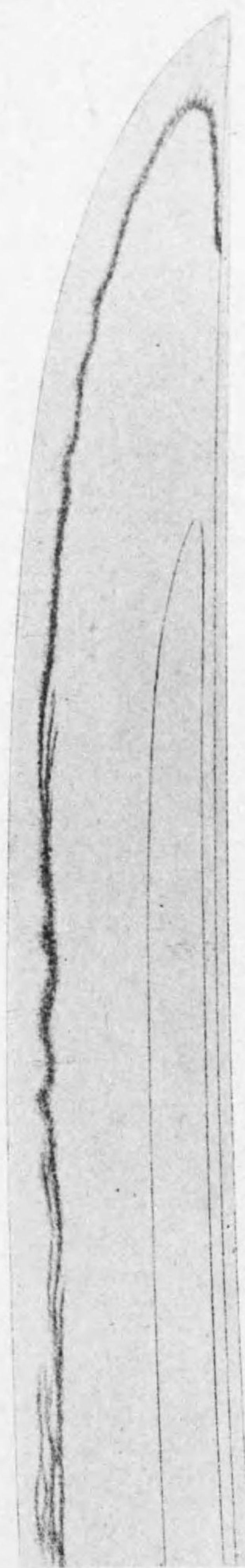
【仙台安倫】

刃長二尺三寸七分五厘、反り三分二厘、重ね二分、重量二百〇二匁、地鐵小本美しい、鎬地柃、刃文亂焼巾廣く足太く入る。



【肥後大掾貞國】

刃長一尺一寸九分、反り一分三厘、重ね二分二厘、重量八十八匁。平造り棒樋添樋三ツ棟、地鐵板目、刃文直亂心砂流交り。





北陸道、越前（肥後大掾貞國・越前兼法）

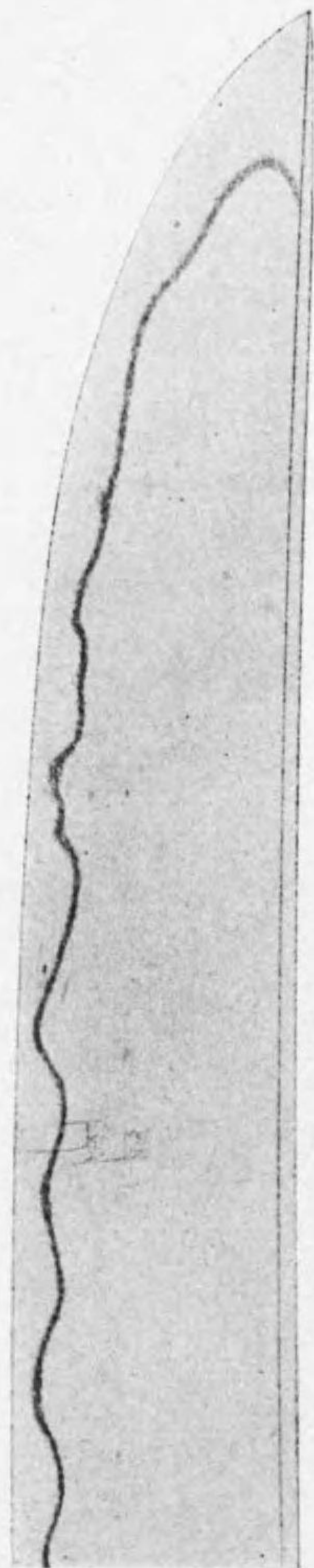
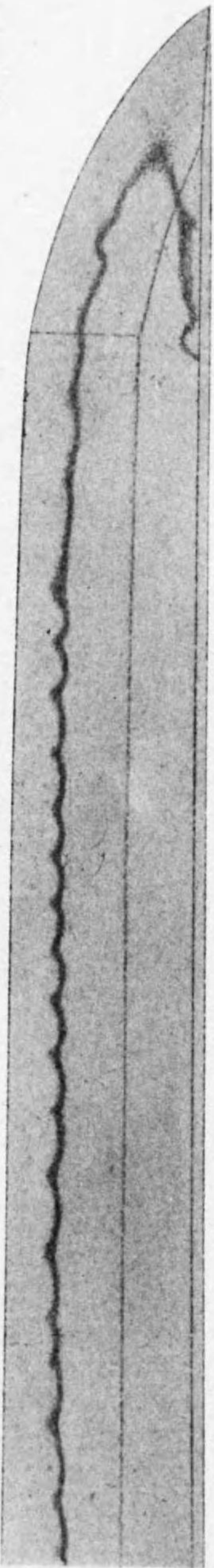
【肥後大掾貞國】

刃長二尺二寸八分五厘、反り四分、重ね二分、重量百九十三匁、地鐵松皮肌黒みあり肌立つ、刃文小五ノ目刃。



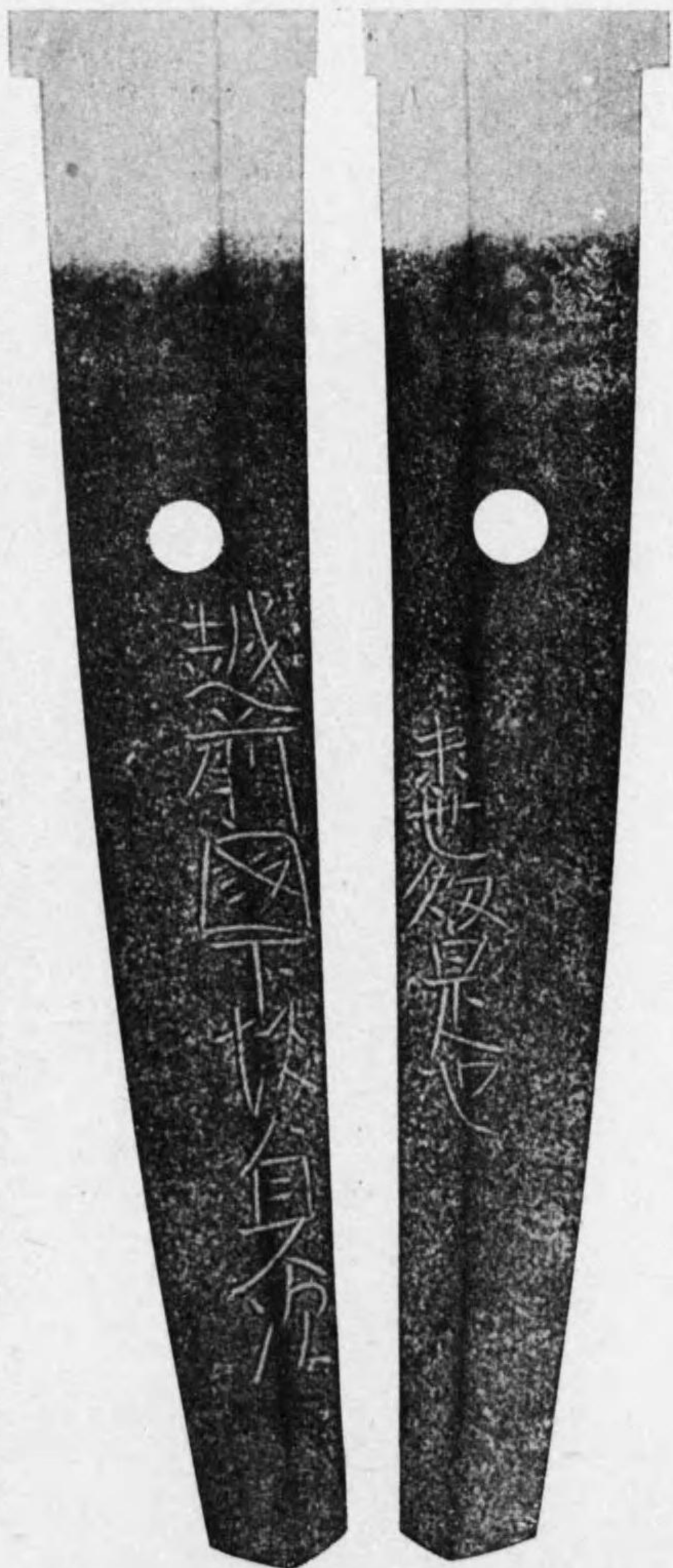
【越前兼法】

刃長一尺三寸八分五厘、反り二分六厘、重ね一分八厘、重量九十四匁地鐵杵に柃交り、刃文小灣匂締る。（東京 秋元金一郎氏藏）



【下坂貞次】

刃長一尺八寸五分餘、反り四分二厘、重ね二分六厘、重量百九十九匁、表全身に涉つて草の梅、裏草の竹鑽深し、記内の手法に依る。地鐵小板目、刃文五ノ目丁子揃ふ。



【越前兼植】

刃長一尺四寸八分五厘、反り六分、重量二百二十五匁、重ね二分三厘。額内に劍卷龍、裏梵字、腰二本樋、地鐵杵肌沈む。刃文焼巾細く直小五ノ目、小疵足入り。（東京 齋藤一郎氏藏）



北陸道、越前（越前貞次・越前兼植）





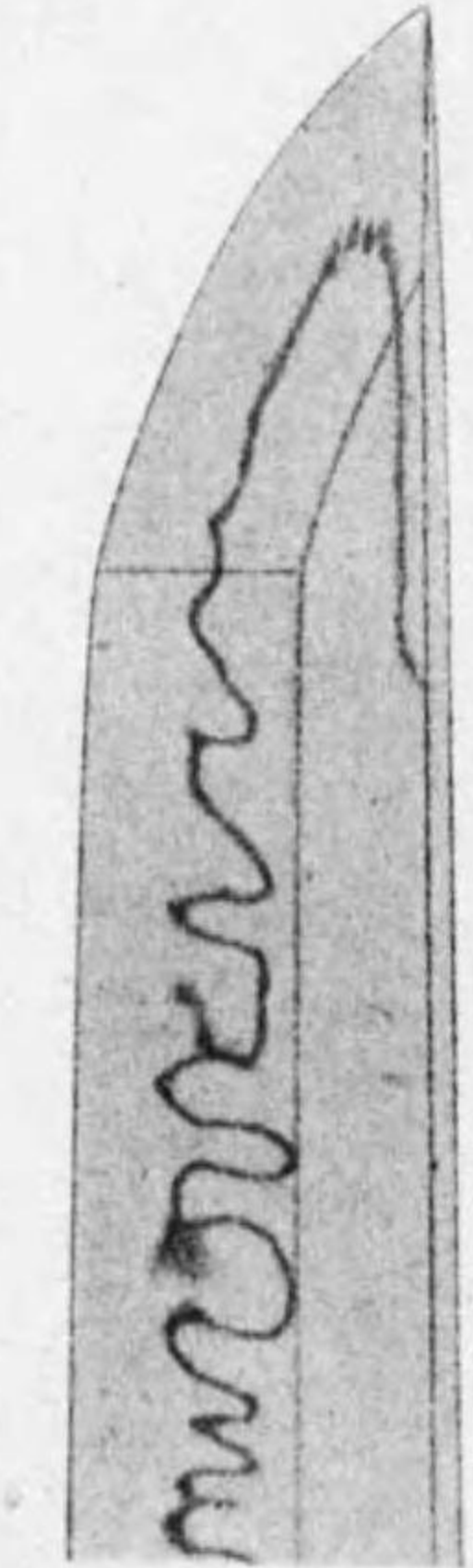
【初代正則】

刃長二尺三寸三分、反り四分、重量百八十匁。地鐵小太、鎬地拵、刃文五ノ目匂締り焼深し。



【二代正則】

刃長二尺五寸一分、反り三分、重ね二分二厘、重量二百匁、地鐵小板目立つ、刃文腰高き五ノ目。

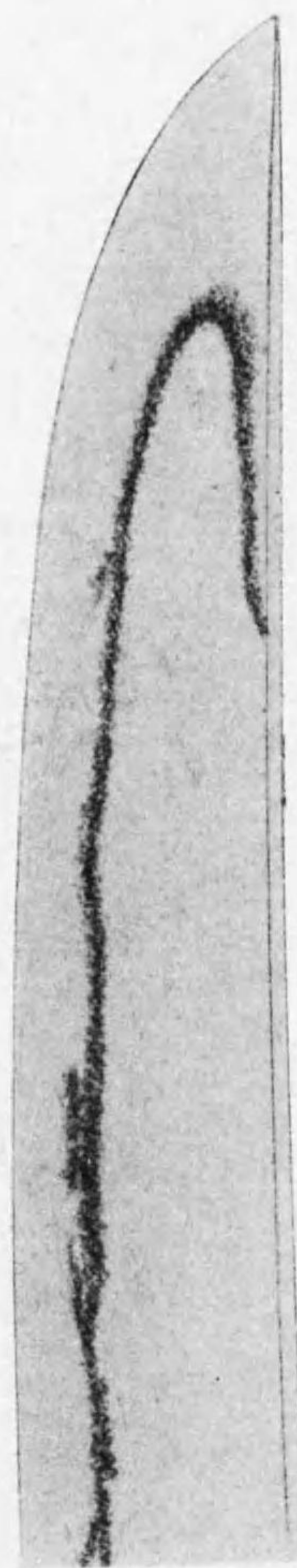


【播磨大掾重高】

刃長一尺、反有り、平造り、巾有り、眞の棟、額彫の劍卷龍するどく美事である。裏に護摩箒、地板目、刃文直小亂心、莖付き双中華やか、中心銘字「同國住木内知相」は珍らしく記内知相の作であることが知れる。

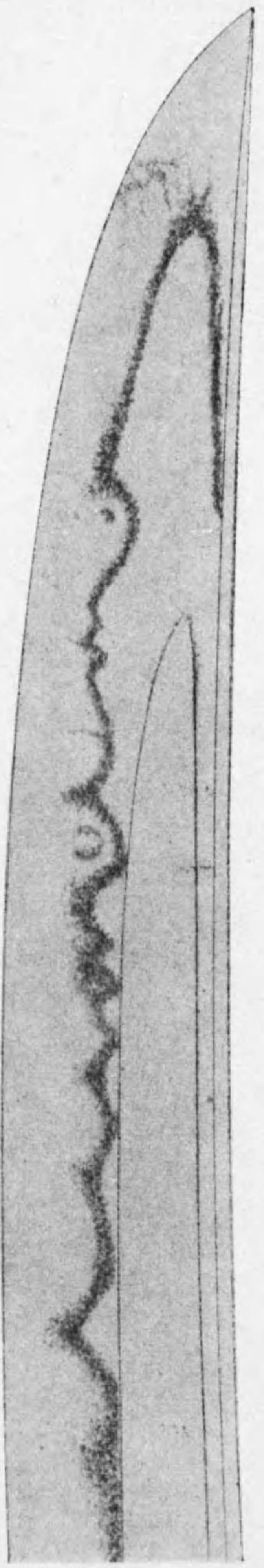


北陸道、越前（初代重高・筑後守包則）



【筑後守包則】

刃長一尺〇九分五厘、重ね厚目、反あり、元に這龍前身のぞかせる。記内の彫刻ならん。僅か上りたる處より太樋、裏素劍に梵字。地板目柁交り強く、刃文大亂莖深くよく出来たり。（東京 大木啓次氏藏）



【伯耆守汎隆】

刃長一尺八寸一分五厘、反り四分、重ね二分二厘、重量百四十五匁、地鐵柁目肌柔堅質交り、刃文五ノ目匂出来鮮明な砂流し。（青森 阿部誠一郎氏藏）



北陸道、越前（筑後守包則・伯耆守汎隆）

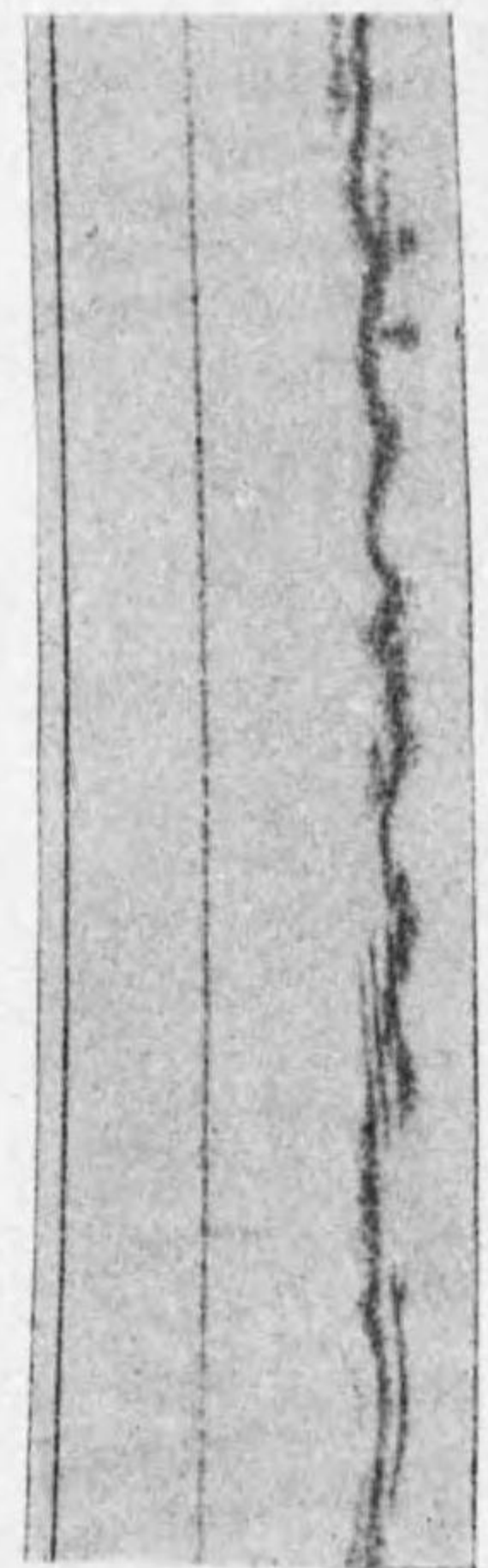
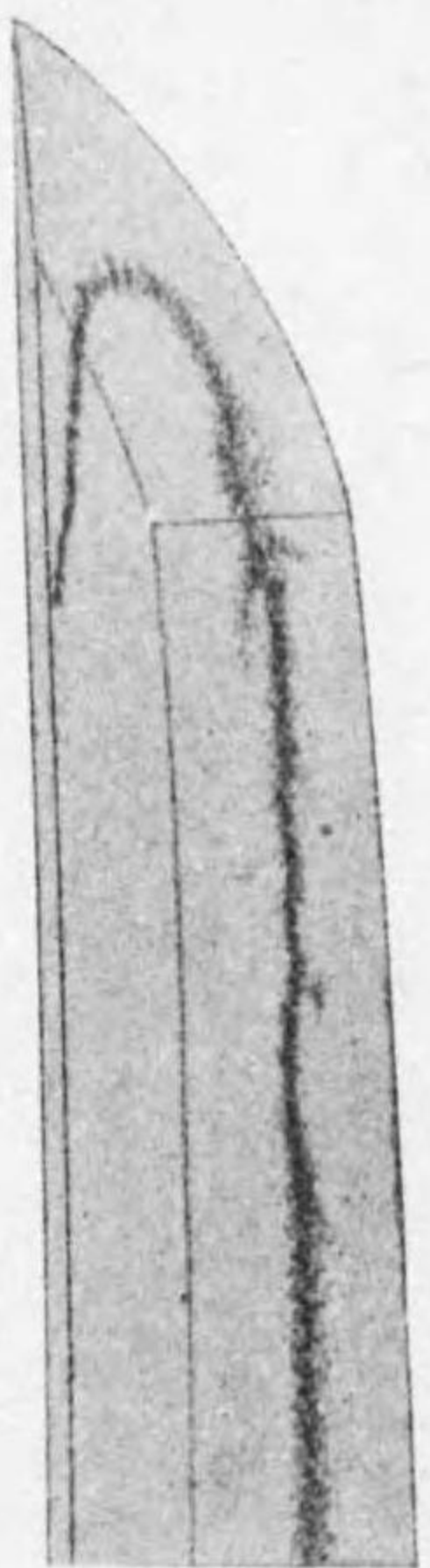


北陸道、越前（初代國清）

【初代國清】

双長一尺五寸八分五厘、反り五分七厘、重ね二分一厘、重量百二十五匁、地鐵本目康繼に似る。双文直小五ノ目鈍崩れ足入り、銚子下沸へる、砂流交り。

（埼玉 竹内盛晴氏藏）



【初代國清】

双長一尺五寸二分、反四分、冠落し、差表元に竹梅の彫刻に梵字、差裏劍卷龍に梵字地鐵小板目美しい、双文五ノ目亂れ、元揃ひたる双、順次鈍崩れ砂流交り足深く入る銚子小丸。



【二代國清】

双長一尺五寸、反り二分五厘、重ね二分一厘、重量百四十六匁、地鐵本目立つ、双文五ノ目足太く入る華やか。山城守受領直後の銘。



北陸道、越前（初代國清・二代國清）







北陸道、加賀（越中守高平・二代兼若）

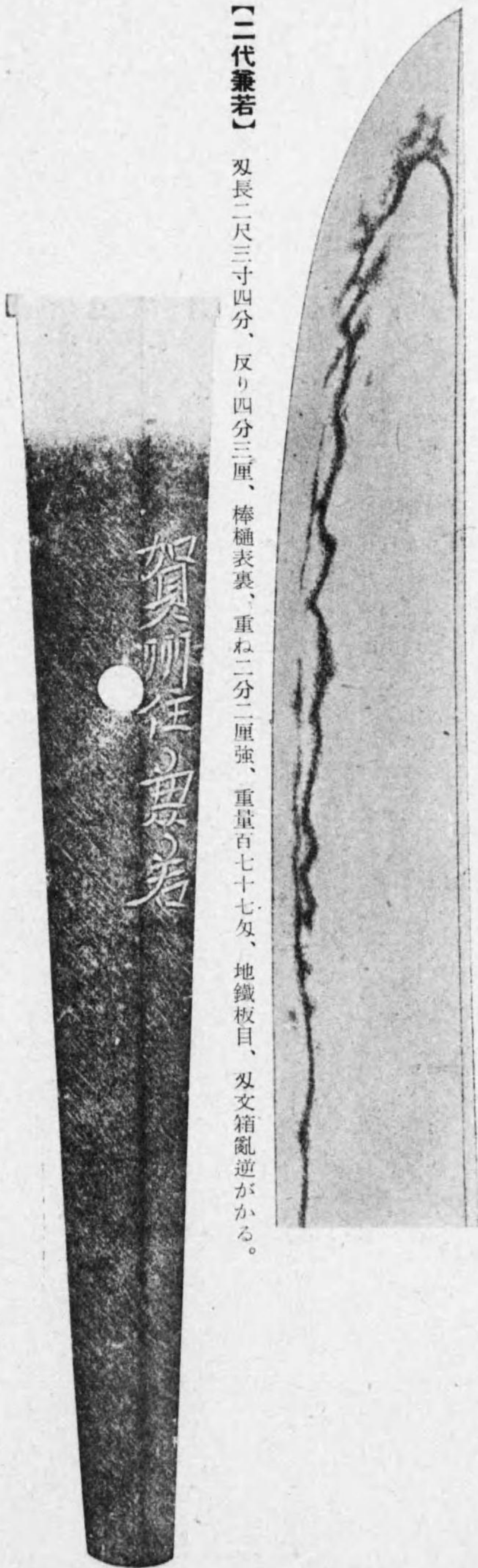
【越中守高平】

双長一尺八分五厘、平造り、三ツ棟、反り一分三厘、重ね二分二厘、重量八十五匁、地鐵板目肌黒味あり肌立つ、双文亂、喰違交り鍔出來。



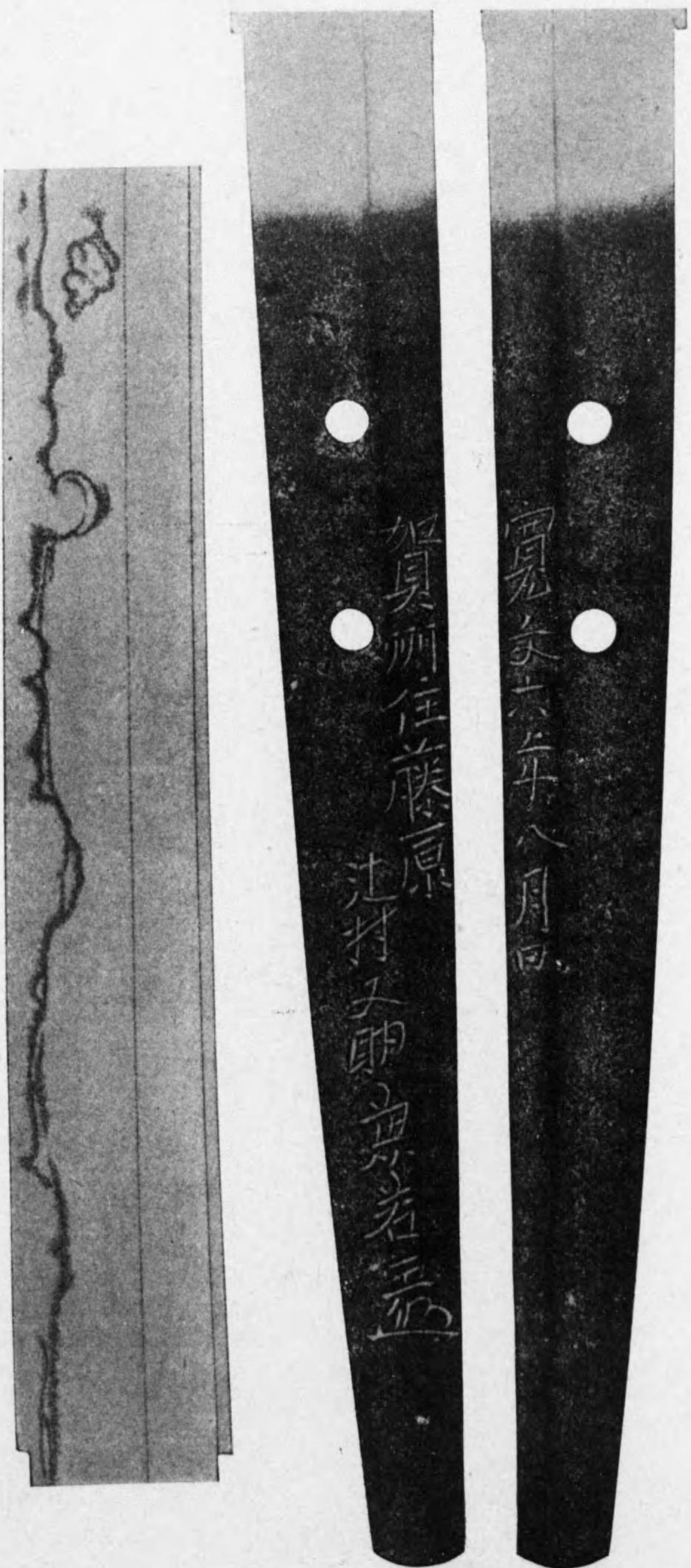
【二代兼若】

双長二尺三寸四分、反り四分三厘、棒樋表裏、重ね二分二厘強、重量百七十七匁、地鐵板目、双文箱亂逆がかかる。



【二代兼若】

双長二尺二寸六分、反三分、重ね二分二厘強、目方百九十五匁、地鐵板目松皮肌の如くなり黒味を帯びる、鎬地証、双文五ノ目亂箱がかかる、鍔子亂れ心にして砂流交る。鍔子押形省略。（名古屋 小川藏夫氏藏）



北陸道、加賀（二代兼若）





【三代兼若】 刃長一尺七寸九分、反り五分強、元巾一寸五厘弱、重ね二分四厘、地小板目、刃文角張り心の亂刃、鈍付く、地鉄も盛ん、地刃共に健やか。

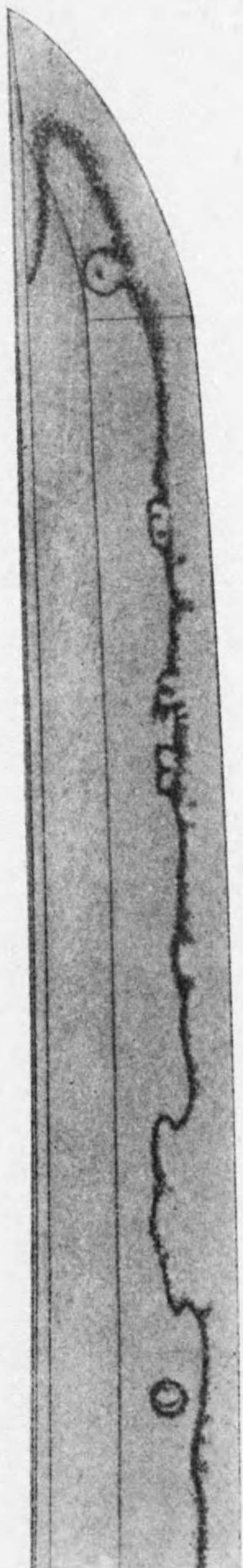
(神奈川 稻垣實英氏藏)



本作は三代目四郎右衛門兼若である。作品は延寶より始まり天和、貞享、元祿、寶永頃に及んで居る。享保を中心として四代目甚太夫兼若があるが餘り振は無い。元祿以降平和の浸透その極に達し刀業完たく廢れ、享保年間將軍吉宗の尙武の再建に寸時四代甚太夫の作品を見たるも、僅少五代助太夫に至つて他業に轉向せりと云ふ。

註 兼若は父の家を繼ぐゆへに正常な順序は又助兼若が三代目となる以下これに倣ふ。

初代 甚六兼若  
二代 景平  
又助兼若  
三代 四郎右衛門兼若  
四代 甚太夫兼若  
五代 助太夫兼若



【三代兼若】 刃長二尺三寸四分五厘、反り六分三厘、重ね二分、重量百九十二匁、地鉄柾目つみて小本目の處多し、光り強し、刃文玉燒を交へたる丁子がかかりたる五ノ目。(名古屋 伊藤一氏藏)



【辻村景平】 刃長一尺七寸六分、反り三分二厘強、重ね一分九厘、重量百三十匁、地鉄小板目、刃文元小足入り細く、中程より鈍崩れ深く所々足入り。

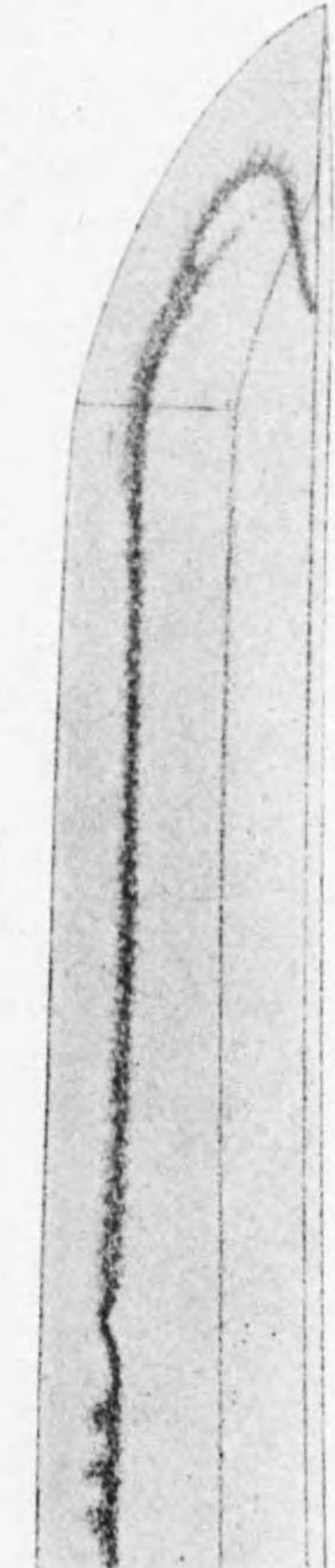
(京都 岩崎耕一氏藏)

三代兼若に限らず景平も四郎右衛門と稱した、初代兼若も後に四郎右衛門と銘じた。





北陸道、加賀（辻村景平・八幡山清平）



一四八

【八幡山清平】

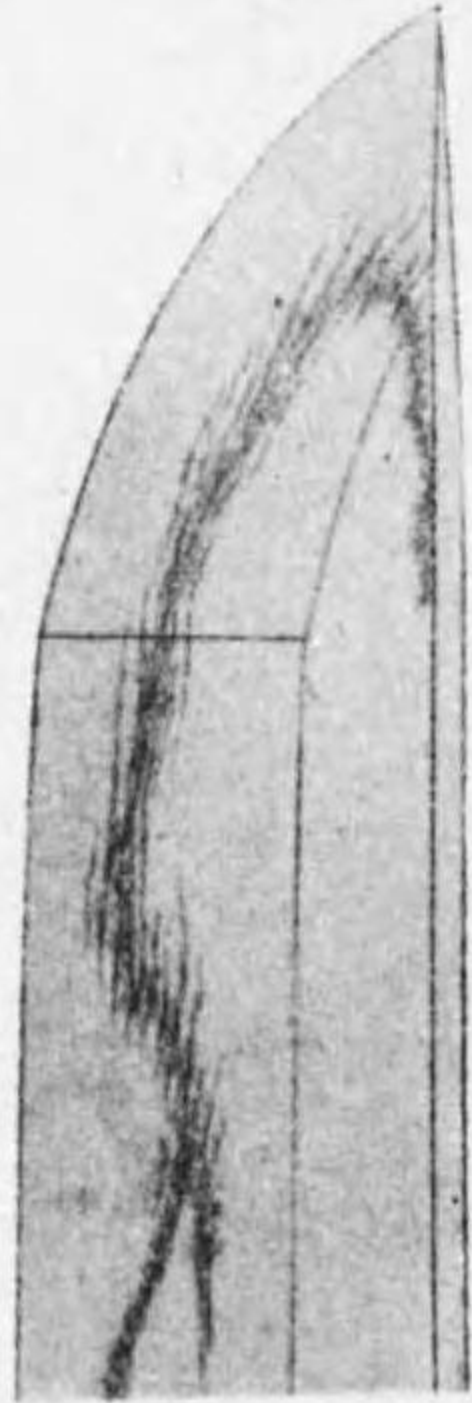
刃長二尺三寸三分、反り五分四厘、重量二百〇六匁、重ね二分四厘、地鉄板目、双文五ノ目亂崩れ双なく大和守安定の風情あり。



【出羽守高平】

刃長一尺七寸七分五厘、反り三分五厘、重ね二分、重量百四十六匁、地鉄柱目つむ。地鉄つく、双文匂出来五ノ目箱がかり、砂流綺麗に交る。

（金澤 坪野隆英氏藏）



【辻村有平】

刃長七寸五分五厘、重ね二分三厘、重量五十二匁、筭反、地鉄板本目肌立ち、双文直に浅き灣、砂流喰違双あり。（東京 比毛關氏藏）



北陸道、加賀（出羽守高平・辻村有平）

一四九



北陸道、加賀（辻村有平・伊豫大掾勝國）



【伊豫大掾勝國】

刃長二尺三寸、反三分七厘、重量百八十三匁、地小柰粒立ち美しい、鎬地柵、刃文五ノ目刃、三本杉がかりたる所僅かに交る、銚子五ノ目刃揃ふ。

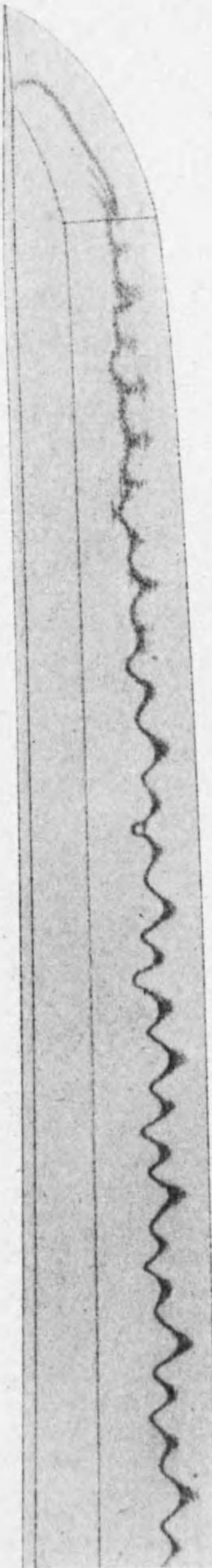
（金澤 上笠嘉兵衛氏藏）



伊豫大掾は初期を家重と銘じ三代目家重に相當、寛文元年伊豫大掾、そして勝國と改める、初代勝國となる。貳代は享保時代なるために作品少く亦伊豫大掾の受領はない。

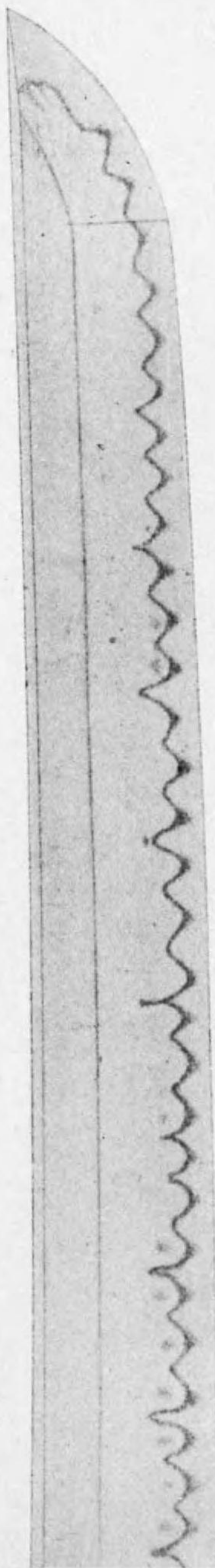
【伊豫大掾勝國】

刃長一尺七寸一分、反り三分、地鐵柵目肌、刃文三本杉。（名古屋 伊藤一氏藏）



【伊豫大掾勝國】

刃長二尺三寸四分五厘、反り六分三厘、重ね二分二厘、重量二百〇二匁、地鐵小板流れ柵多く交りつみ、地映りつく、刃文三本杉。（金澤 野崎義松氏藏）



北陸道、加賀（伊豫大掾勝國）



北陸道、加賀（小松兼卷・洲崎家平）

一五二

【小松兼卷】 刃長二尺三寸五分五厘、反り六分一厘、重量二百二十五匁、地鐵本目松皮肌の如し、刃文直小足入り刃縁康繼の如き細かき砂流交る。

（金澤 山崎儀一氏藏）



寛永八年三月廿日

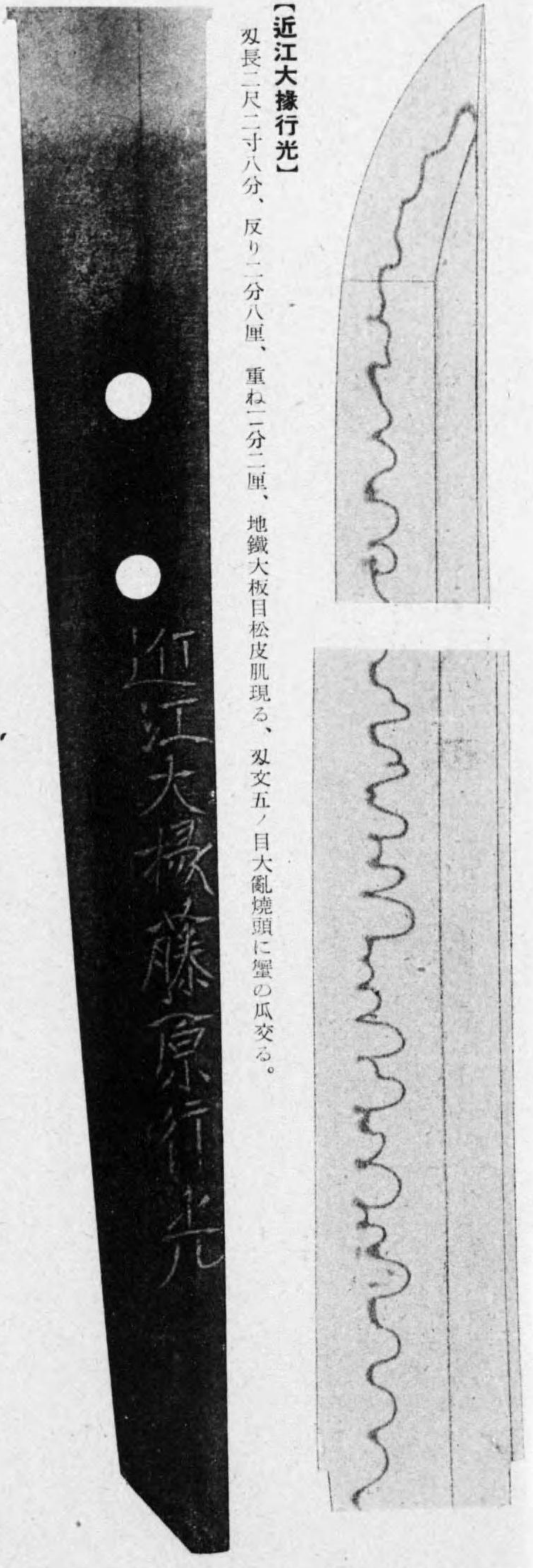
賀州金澤守住人兼卷作

【洲崎家平】 刃長二尺三寸一分五厘、反り五分七厘、重ね二分一厘、重量百八十匁、地鐵板目、刃文五ノ目調の丁子。



賀州伊藤原家平

【近江大掾行光】 刃長二尺二寸八分、反り二分八厘、重ね二分二厘、地鐵大板目松皮肌現る、刃文五ノ目大亂燒頭に蟹の瓜交る。



近江大掾藤原行光

【播磨大掾清光】 刃長二尺三寸七分五厘、反り五分、重ね二分二厘強、重量百七十六匁、地鐵本目鎬地柁、刃文細直物打邊喰違交る。（東京 石河茂氏藏）



清光

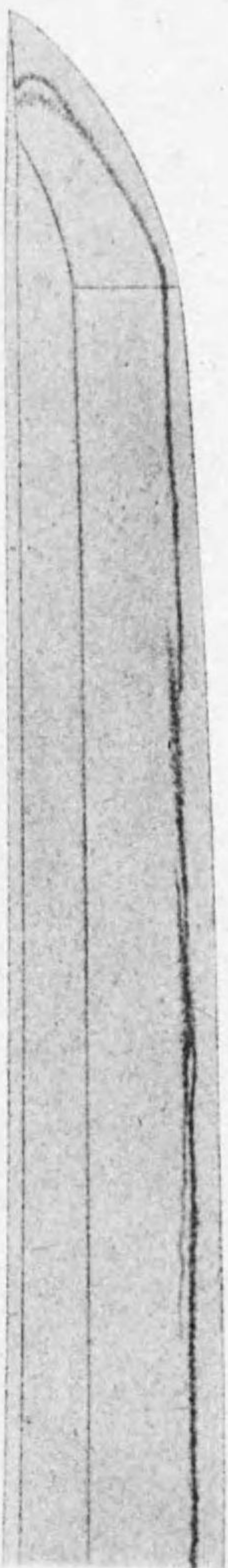
北陸道、加賀（洲崎家平・近江大掾行光・播磨大掾清光）

一五三



北陸道、加賀（播磨大掾清光）山陰道、因幡（因州兼先）

一五四



【播磨大掾清光】 刃長二尺三寸三分五厘、反り三分、重ね二分二厘、重量百九十一匁、地鐵板目柁交り黒味、鎊地柁、刃文直刃縮る。



播磨大掾藤原清光

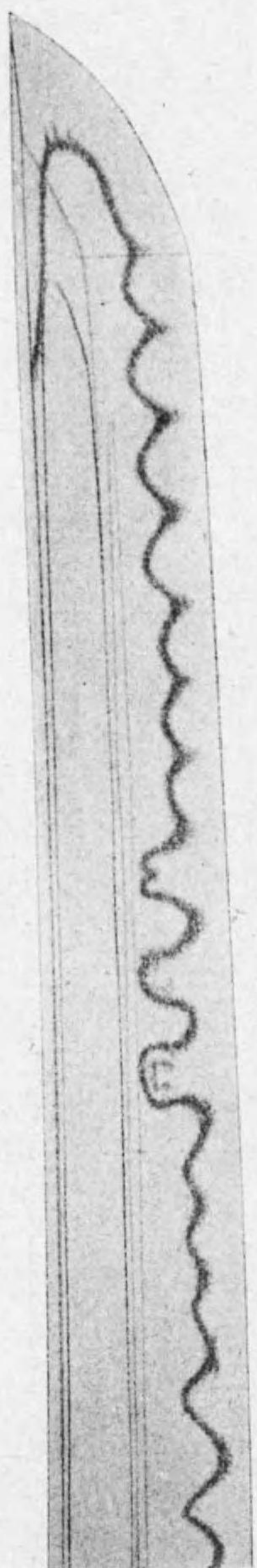


◆山陰道、因幡

【因州兼先】 刃長二尺八分、棒樋表裏、添樋あり、地鐵板本目、刃文五ノ目揃ひ鈍深し、元に水映りあり。



因州住藤原兼先



【初代忠國】

刃長二尺三寸六分五厘、反り四分三厘、重ね二分一厘、重量百八十九匁、地鐵小柁、刃文五ノ目腰高く足入り長く、砂流揃ふ。



慶安二年二月日  
信濃大掾藤原忠國



山陰道、因幡（因州兼先・初代忠國）

一五五



山陰道、因幡 (初代忠國・二代忠國)

【初代忠國】

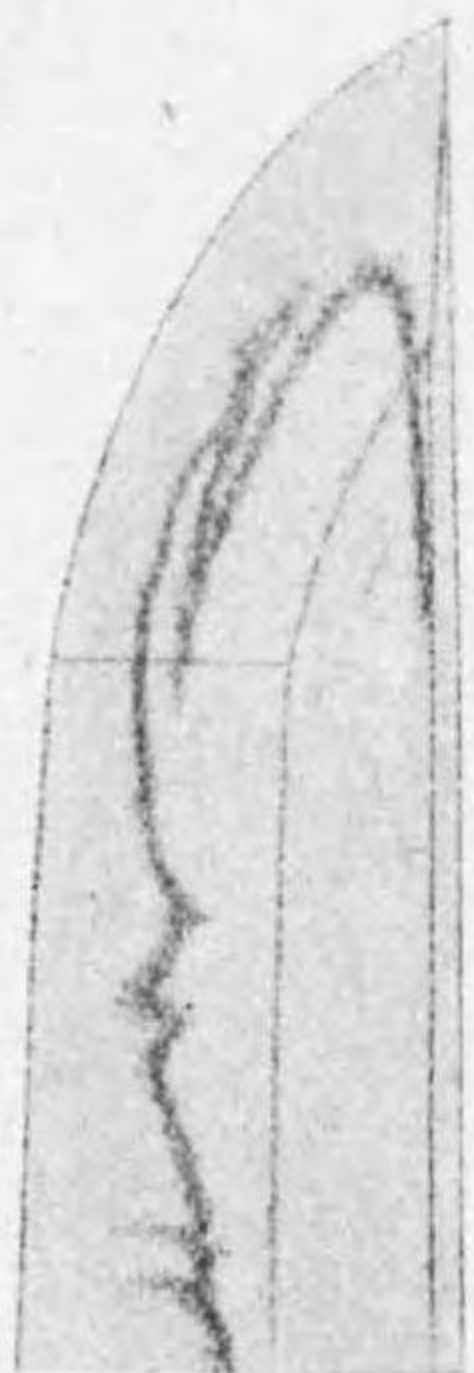
刃長一尺一寸二分五厘、反り一分二厘、重ね二分二厘、重量八十五匁、三ツ棟、地鐵全目、刃文五ノ目腰高く匂深く入り砂流の氣味出來優れる。

(東京 鈴木豊三郎氏藏)



【二代忠國】

刃長二尺四分、反り六分、重量二百匁、地鐵小板目鏡地柢、刃文五ノ目亂。



二代忠國の歿年が享保五年十一月であるから世上忠國作品は初代の内に盡ると思ふ。三代の作と思はれるものに「因州住山本八良太夫尉藤原忠國、享保二十年乙卯二月日」があり、四代の作に自ら「四代忠國、明和八年十一月日」がある。山陰の山本俊忠兄に反駁されるかも知れないが、三代以下信濃大掾受領がなかつたと見たい。

◆山陰道、出雲

【大明京】

刃長一尺五分五厘、反り一分弱、重ね一分八厘、重量六十二匁、三ツ棟、地鐵全目肌粕立つ、刃文直に細かき亂。



山陰道、因幡 (二代忠國) 出雲 (大明京)



山陽道、播磨 (右作宗榮)

◆山陽道、播磨

【右作宗榮】

双長二尺三寸五分餘、反り四分八厘、重ね二分五厘、重量百八十一匁、棒樋表裏、地鐵小杣目強し、双文直刃幾分の銚變化あり。(新潟 橋本久頼氏藏)



【右作宗榮】

双長二尺二寸二分五厘、反り六分、重ね二分強、三ツ棟、重量百七十匁、地鐵板目、双文五ノ目亂、棟焼交る、宗榮の後期銘。



【大和大掾氏重】

双長一尺八寸一分、反り五分三厘、重ね二分三厘、重量百四十七匁、地鐵柱目肌、双文大五ノ目小銚付き砂流交り。(福岡 福本誠一氏藏)



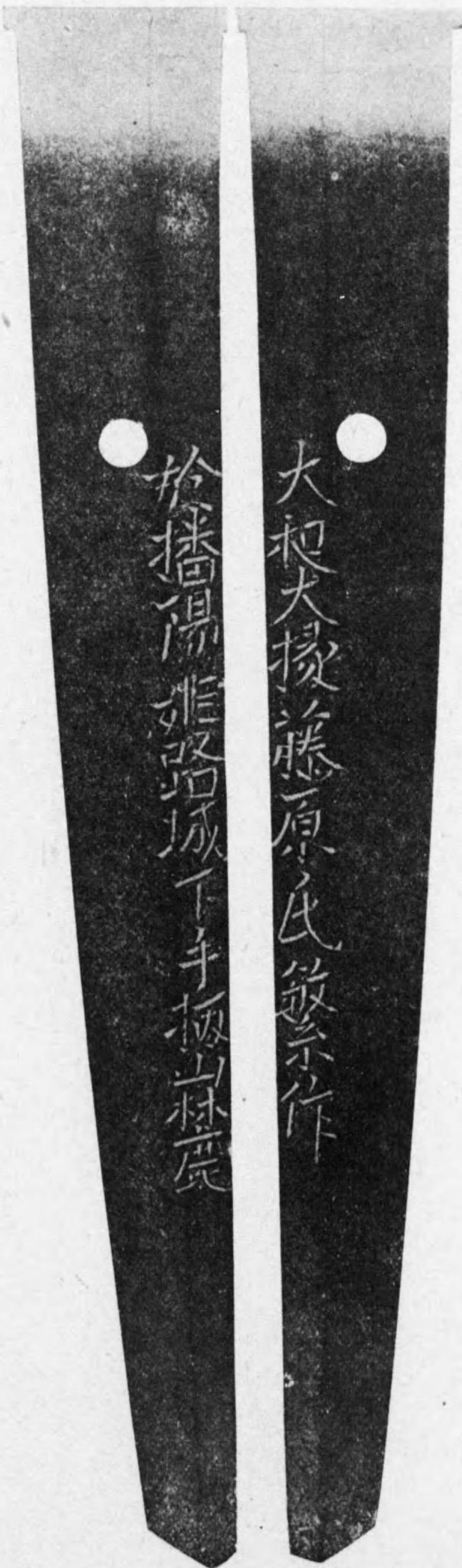
【大和大掾氏繁】

双長二尺五寸七分、反り七分七厘、重ね二分七厘、重量百三十四匁、地鐵杣目粕立つ、双文焼巾深く、亂双中銚足働く。



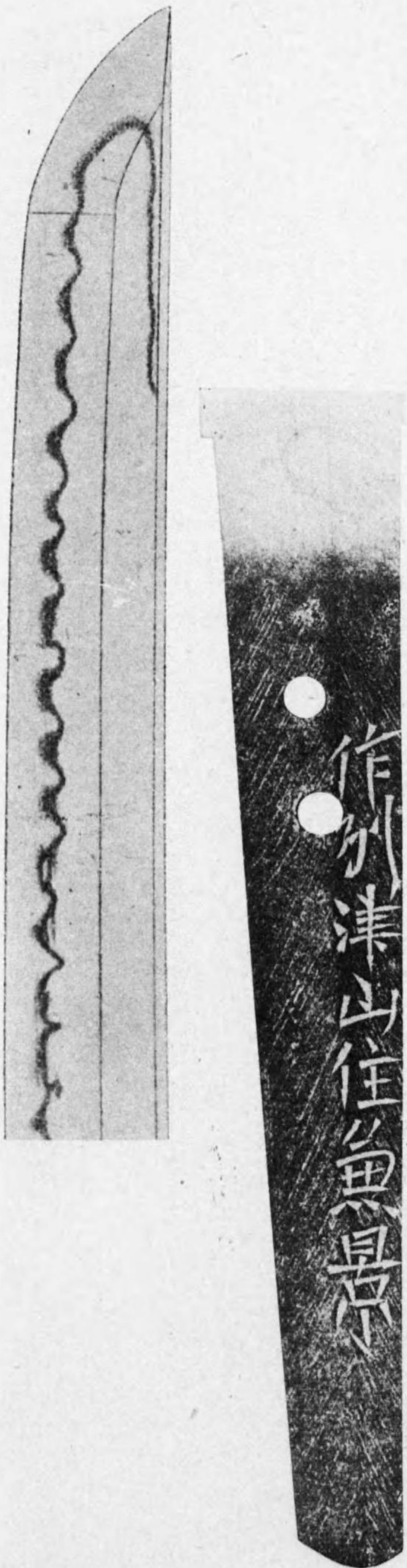
山陽道、播磨 (大和大掾氏重・大和大掾氏繁)





◆山陽道、美作

【津山兼景】 双長二尺〇九分、反り四分七厘、重ね二分二厘、地鐵本目立つ、双文五ノ目尖り足入り、鈍える處もあり。（津山 寶來幾次郎氏藏）

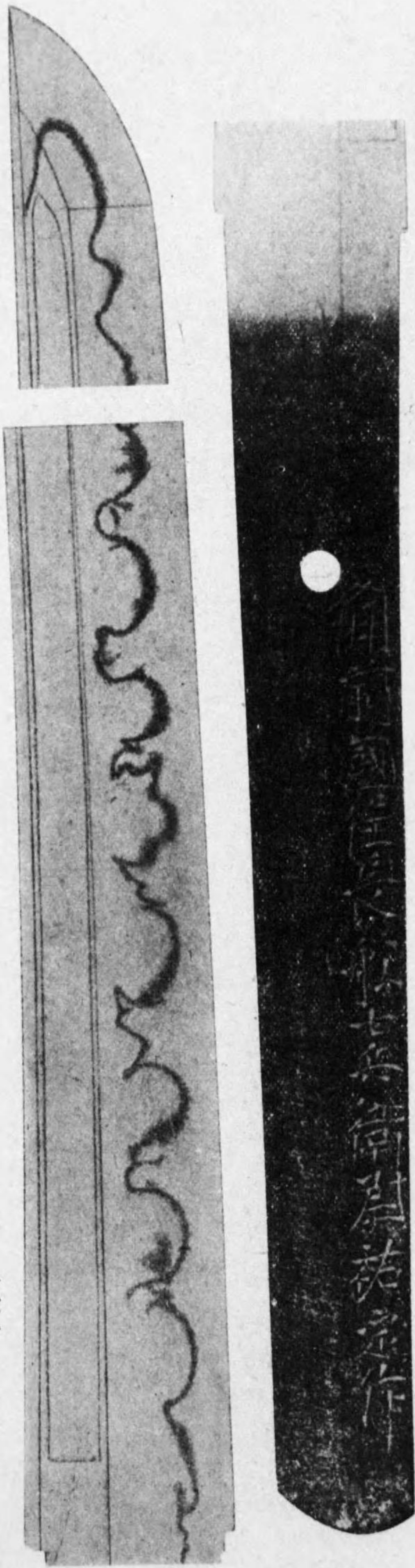


◆山陽道、備前

【七兵衛祐定】 双長二尺二寸九分強、反八分七厘、地小本目つみて美しく、双文直小亂心、鈍子小丸返り深い、末備前時代に於ける作風をその儘表現するが僅かに違ひを見せるは、末備前の匂締れるに對し、この七兵衛は稍匂深いと云ふ點にある。（京都 家邊市太郎氏藏）



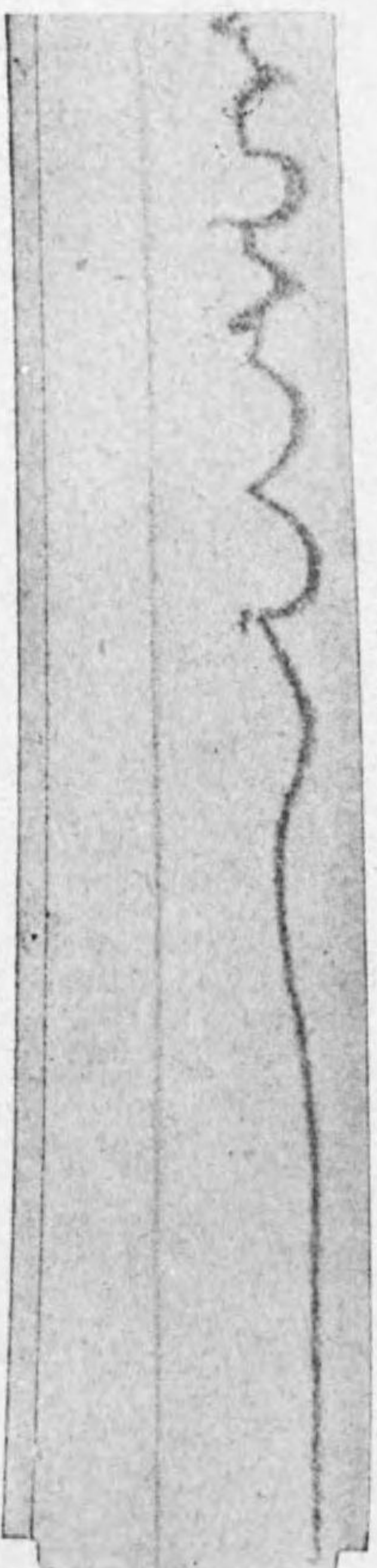
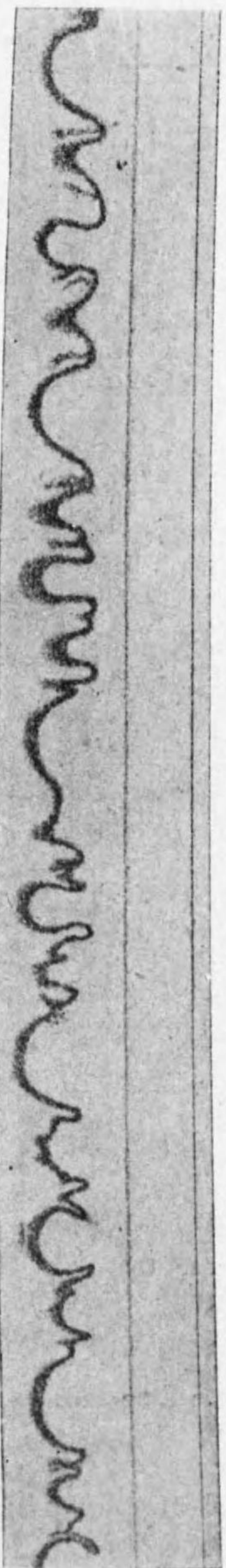
【七兵衛祐定】 双長二尺四寸九分、反り五分二厘、重量百八十三匁、棒樋表裏地鐵本目、双文五ノ目丁子。



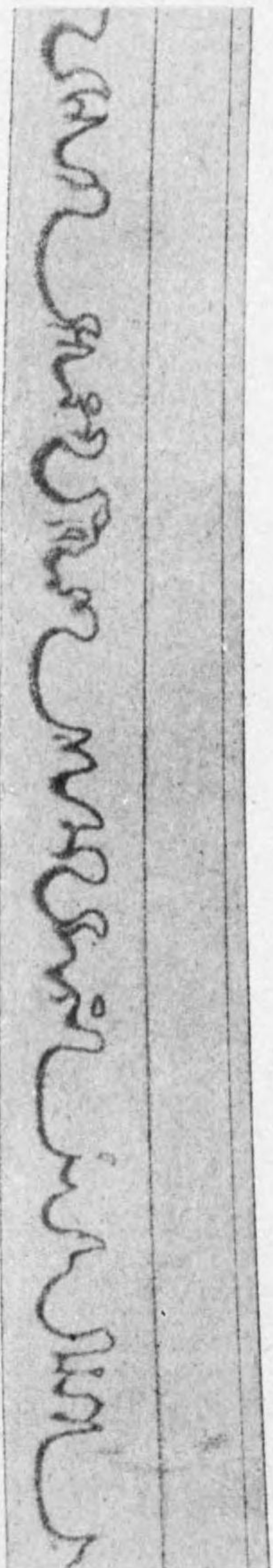


山陽道、備前（上野大掾祐定）

【上野大掾祐定】 刃長二尺二寸八分五厘、地鉄小太強く、刃文五ノ目丁子出来優れる、銚子小丸。



【上野大掾祐定】 刃長二尺三寸六分、反り七分三厘、重ね二分五厘、重量二百四十四匁、地鉄小太強し、元水映りあり（註||横山祐定に時折この例を見る）  
文腰高き五ノ目丁子、匂締る。（東京 臼井盤根氏藏）

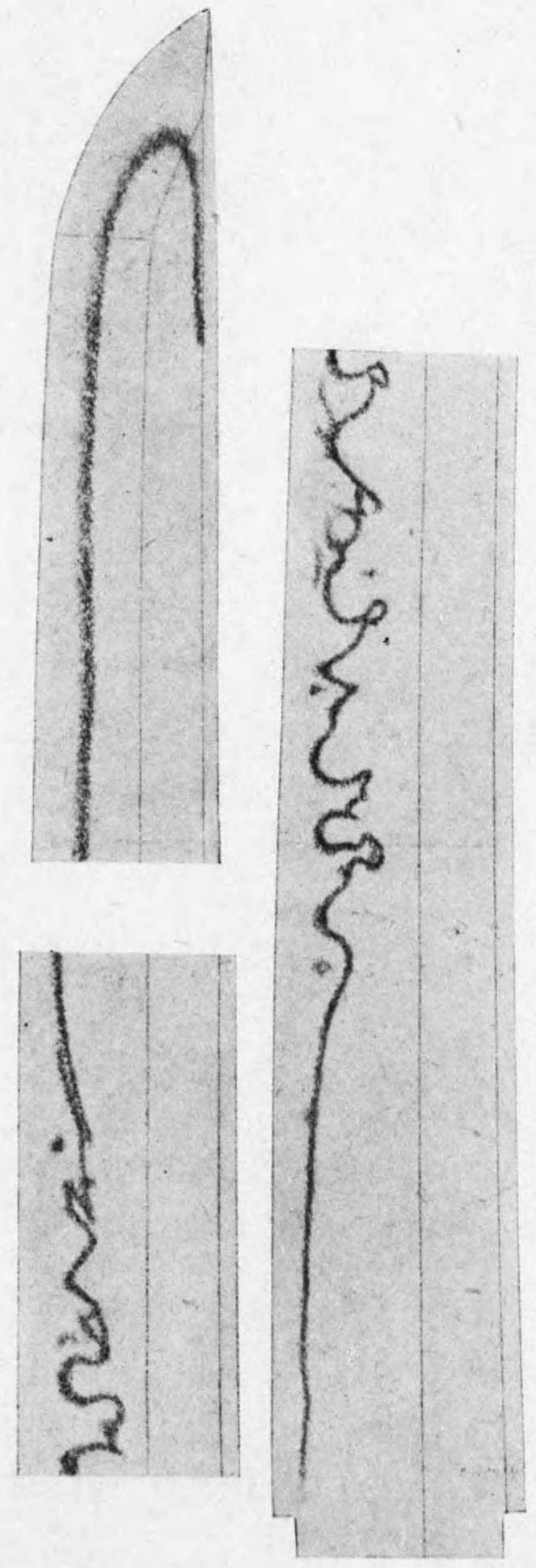


山陽道、備前（上野大掾祐定）



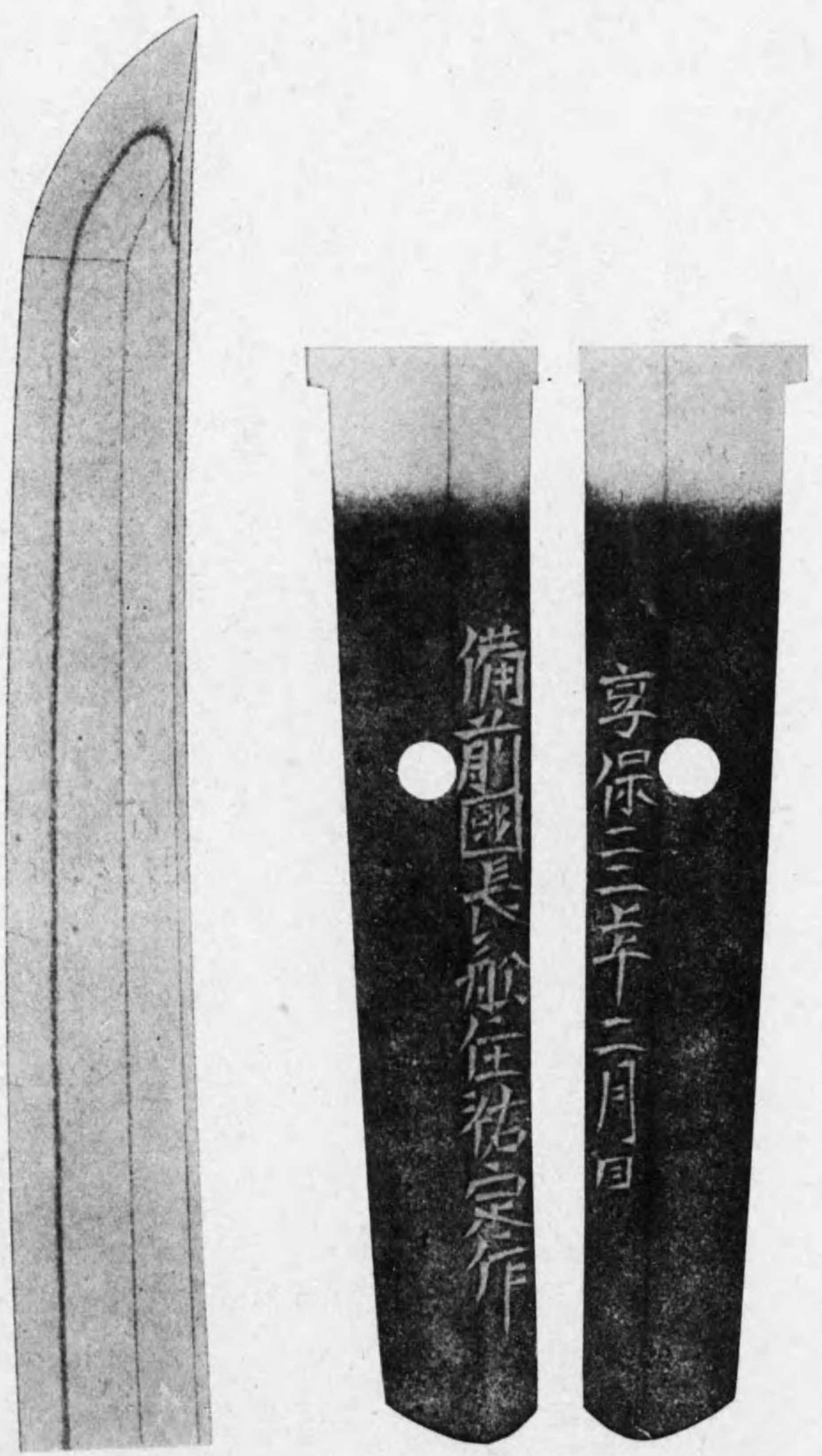


【河内守祐定】 双長二尺三寸三分、反五分、重ね厚い、地鉄小柰目強く、双文元直焼出し、腰双五ノ目丁子、七八寸上りたる所より匂鈍深き双幾分辯心になる。  
 鈍子直匂鈍深く小丸返り深い。



【大和掾祐定】

双長一尺六寸七分、重ね厚し、地鉄小柰強し、双文縮りたる中直刃、大和掾受領前の作。



新刀祐定は七兵衛、及び弟源左衛門・宗左衛門に始まり、本家七兵衛、嫡子上野大掾、孫嫡子大和掾のみが榮え、弟源左衛門の作は餘り傳はらない。獨り宗左衛門の男河内守が比較的見られる。これ等は本家筋が需要多く、源左衛門等の分家筋はその協力者であつた者が多いかも知れない。



山陽道、備前 (大和大掾祐定・多門兵衛正成)

【大和大掾祐定】

双長一尺八寸八分餘、反五分強、重ね厚目、地鐵小全強くカス立ち、双文中直匂鈍縮る、銚子小丸深い。



【多門兵衛正成】

双長一尺七寸七分五厘、地鐵全目、双文五ノ目。



◆山陽道、備中

【三郎兵衛國重】

双長一尺一寸七分五厘



【大與五國重】

双長二尺三寸、反り五分三厘、重ね二分四厘重、量二百〇七匁、地鐵大板目地鈍つく、双文直亂れ砂流交り崩れ、荒鈍深く出来良し。(濱松 石田啓之助氏藏)



山陽道、備中 (三郎兵衛國重・大與五國重)





【大與五國重】

双長一尺七寸五厘、反り五分六厘、重ね二分四厘、元腰樋、裏添樋重量百六十九匁、地鉄荒き大板目、双文直砂流小亂荒鈍付く。



【大與五國重】

双長二尺三寸五分、重量二百二十七匁、身巾相當姿良い、地板目強く美しく、双文大五ノ目亂荒鈍交り双砂中流鈍崩れありて働き盛んである。棟焼もあり水田獨特。中心裏文字宮本包則の銘にして甲午十一月は明治廿七年に相當す。



【市藏國重】

双長二尺三寸一分五厘、反り四分四厘、重量二百一十一匁、地鉄細かき粧、双文大五ノ目亂荒鈍砂流付く棟焼あり。







【次郎左國重、八郎左國重合作】

刃長二尺三寸二分五厘、反り六分強、重ね二分六厘、鎗幾分高目、重量二百十八匁、地鐵鋼柔鐵交り大板目柢、刃文直亂鉞子返り長く棟焼となる。荒鈍砂流交る。（京城 横田卓二氏藏）



【茂右衛門國重】

刃長二尺一寸五分、反六分二厘、棒樋添樋表裏、添樋の止りは末備前の如く、地板目潤ひあり、刃文五ノ目亂大きく揃ひて尖り心匂鈍最も深く出来優れる。





山陽道、備中（理兵衛爲家） 安藝（肥後守輝廣）

【理兵衛爲家】 刃長一尺六寸一分五厘、

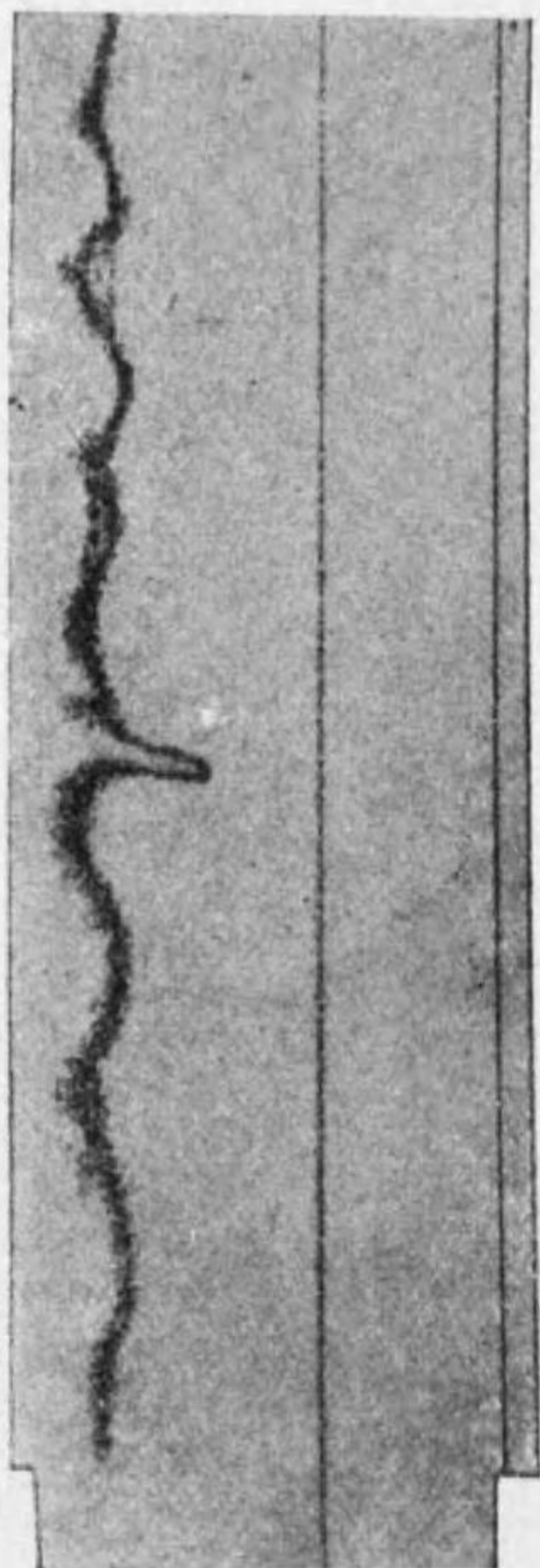
反り四分、重ね二分二厘餘、重量百五十三匁、地鉄小空の内に板交り、刃文匂締りたる五ノ目小亂、班鈍付く。（岡山 高杉大治郎氏藏）



◆山陽道、安藝

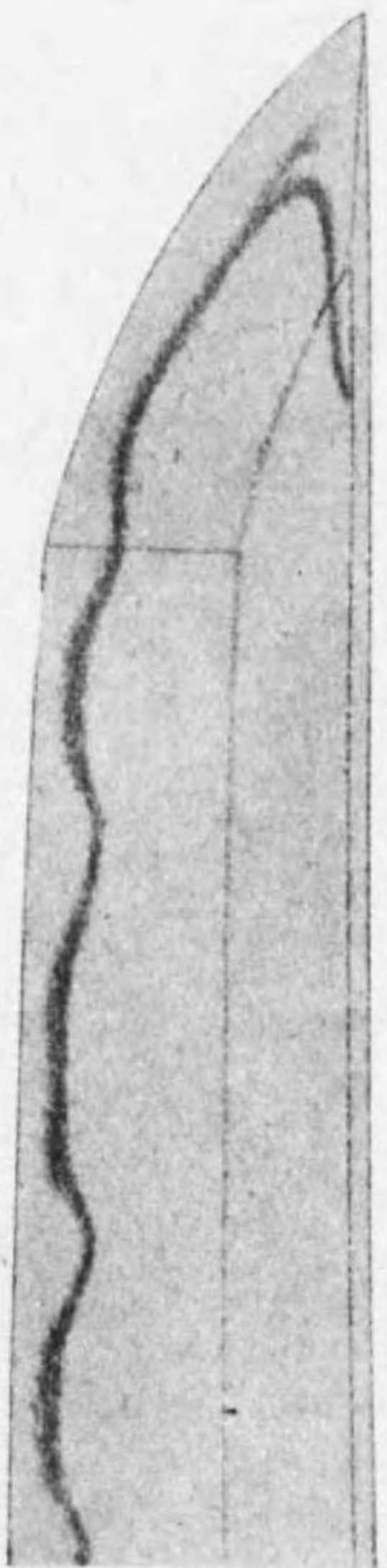
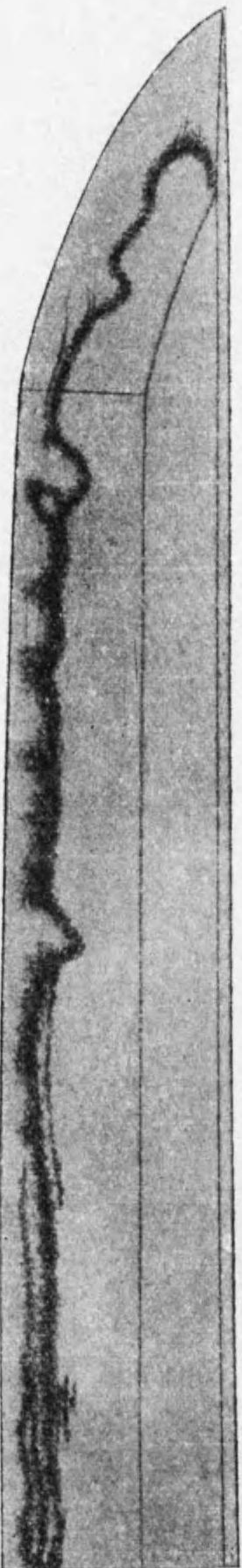
【肥後守輝廣】 刃長二尺二寸八分、反五分餘、重ね一分八厘

目方百八十七匁、板目柁交り美しい。刃文五ノ目鈍亂れ、砂流交り華やか、銚子亂れ焼巾深い。輝廣の作品は極めて妙く特に刀はその感が深いので、この作品の如きは輝廣中の随一であらう。（重要美術品 東京林田昭慶氏藏）



【貳代輝廣】

刃長一尺四寸二分、地鉄松皮肌の如き大板目、地鈍付き、刃文大体淺き灣五ノ目刃沈む。



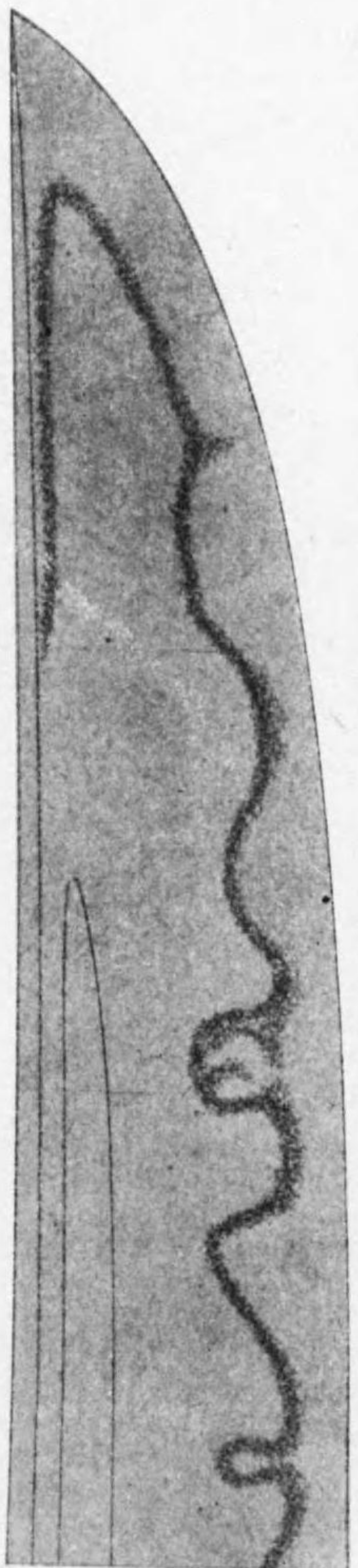
山陽道、安藝（肥後守輝廣・播磨守輝廣）



山陽道、安藝 (播磨守輝廣) 長門 (二王方清)

【播磨守輝廣】

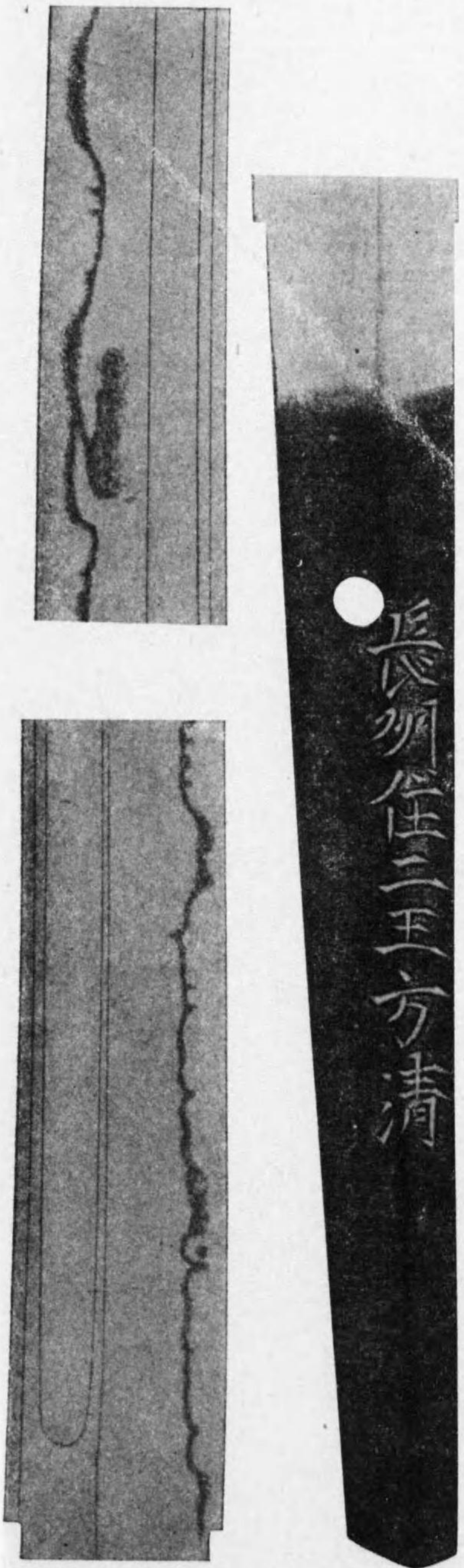
双長一尺二寸八分、反二分五厘、重量百十五匁、重ね二分三厘、身巾廣く、表二本樋、裏棒樋、地大空目双寄りに柂目、双文五ノ目亂刃鈍深く、助廣に於ける濤亂刃の如き作風を既に備へてゐる所が注目される。(廣島 樽井義雄氏藏)



◆山陽道、長門

【二王方清】

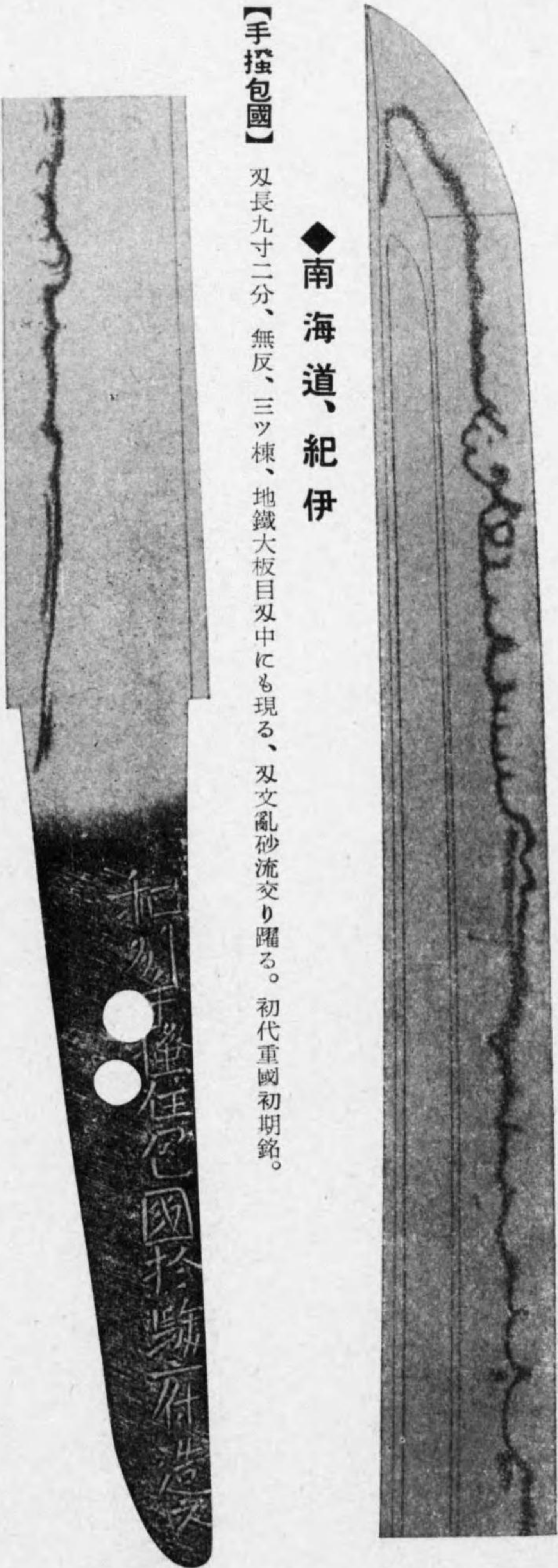
双長二尺三寸六分五厘反、七分、重ね二分三厘、目方百七十五匁、地小板目にて地鈍つく、双文は五ノ目亂揃ひ差鈍交る。(兵庫 神代菊雄氏藏)



◆北海道、紀伊

【手掻包國】

双長九寸二分、無反、三ツ棟、地鐵大板目双中にも現る、双文亂砂流交り躍る。初代重國初期銘。



【初代重國】

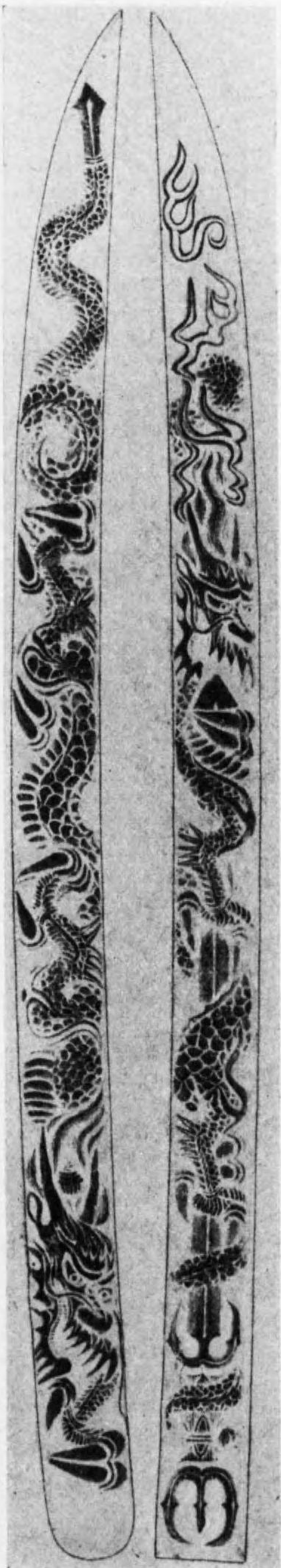
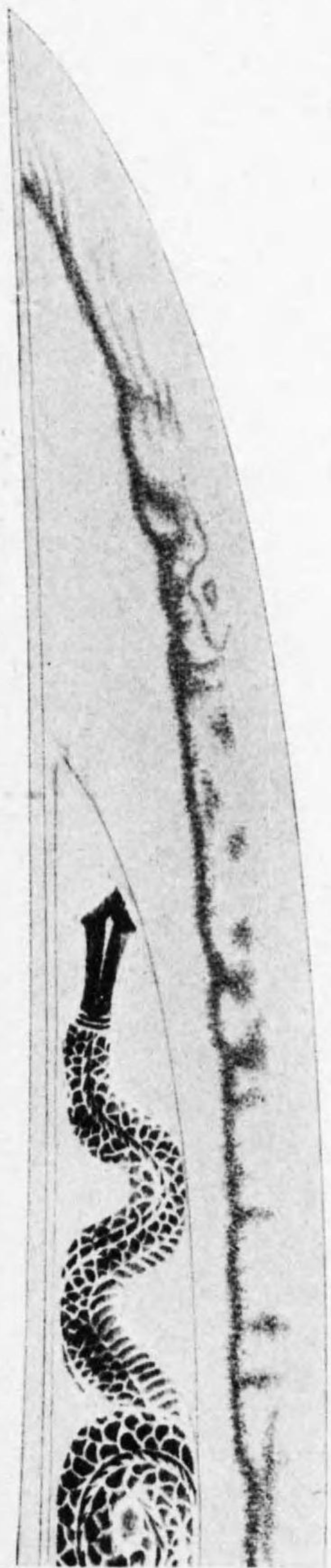
双長一尺三寸八分、身巾最も廣く、又巾廣き樋の内に劍卷龍、裏下り龍の雄大にして美事なる彫刻あり、これは中心棟に銘する如く池田權助義照の作、双文直亂に足入り、砂流交り銚子燒詰健全なる作品にして且珍らしきもの。(香川 津島惣平氏藏)



鑿物天下一池田權助義照の文字は池田權助自身のものではなく重國が切りし銘である。それは重國の銘字を比較することによつて判明する。權助自からが「鑿物天下一」と云ふのではなく、重國が斯く切りてこそ池田權助の手腕の程が窺はれると思ふ。又中心に「羽掃」とあるは此の劍の異名であらう。

山陽道、長門 (二王方清) 北海道、紀伊 (手掻包國・初代重國)





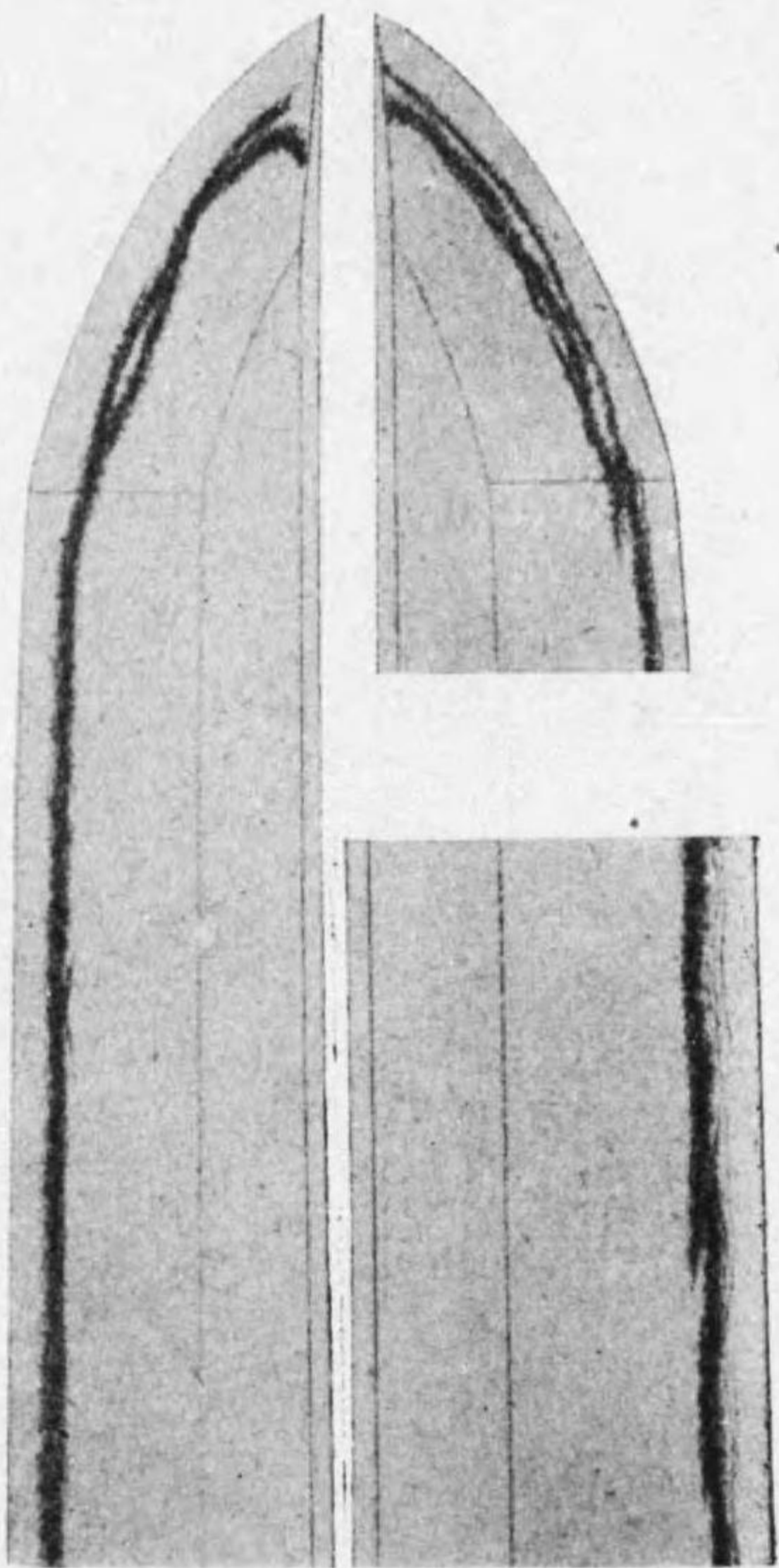
【初代重國】

刃長二尺四寸四分強、反六分、巾一寸一分弱、重ね二分、強重量二百三十六匁、地板目潤ひあり、鎬寄りに柁少しく現る、鎬地柁、刃文直砂交り、喰違ひ交り、鍔子は焼詰風にして砂流交る、差裏中央に長き金筋、鍔子にも金筋あり。



【初代重國の目釘穴】

目釘穴の大きいのは武用に際し絶対に目釘の折れないと云ふことに關心をもつた爲めであらう、鑑刀の上からすれば一つの特徴と見られる。

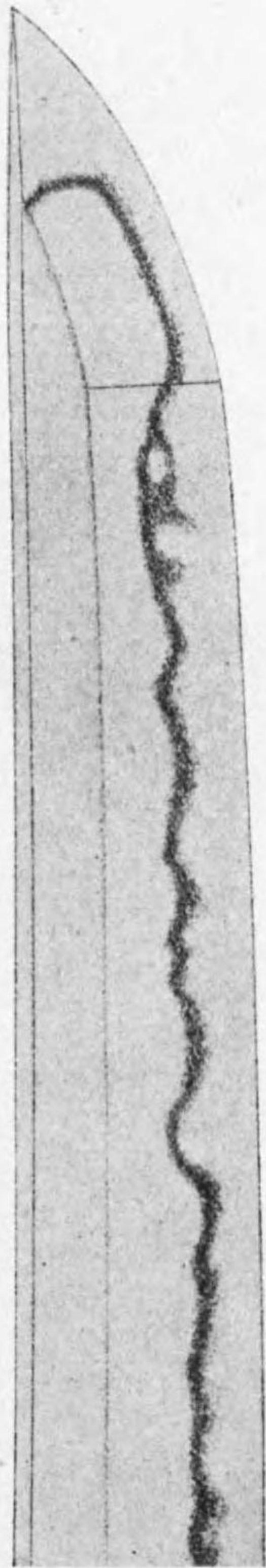


【初代重國】

刃長二尺三寸三分五厘、反り五分五厘、地板目澄みたる地膚に單調に現はる、刃文五ノ目亂、鍔子焼詰風拵掛、健やかな作。

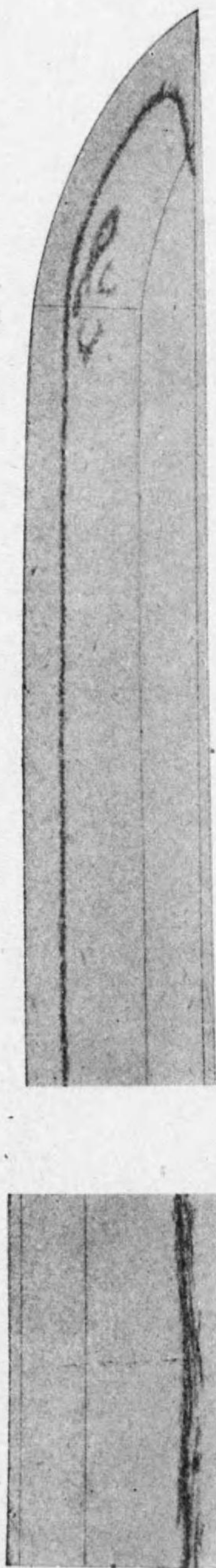






【貳代重國】

双長二尺〇五分、反り三分弱、身巾一寸強、重ね二分一厘、地小柰目黒く澄む、美しき肌、双文直砂流がかりたる所小足盛んに入る。切先邊に至りて双縮り鈍子小丸、横手邊飛焼を交へる。



【貳代重國】

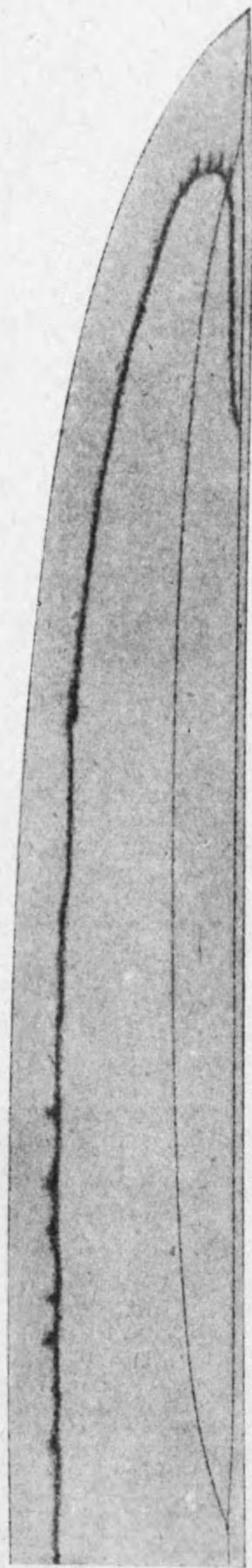
双長二尺三寸、反り五分、重ね二分三厘、重量百九十匁、地鐵板目、双文腰高き五ノ目亂。



◆北海道、讚岐

【鬚繼】

双長一尺一寸四分、反り二分、重ね二分六厘、腰添樋、重量八十六匁、冠落し、地鐵柰目立ち綾杉風の肌を幾分交へる、双文直小足入り。





北海道、伊豫（和泉大掾國輝） 西海道、筑前（信國吉貞）

◆北海道、伊豫

【和泉大掾國輝】 双長二尺三寸七分、反り四分七厘、重ね二分三厘、重量二百〇二匁、地鐵板目肌出來良し。

延寶<sup>五</sup> 豫 刃 赤 山 住

和泉大掾藤原國輝作



◆西海道、筑前

【信國吉貞】 双長二尺二寸九分、反り三分七厘、重ね二分二厘、地鐵小太、双文逆五ノ目飛焼多く入り、砂流幾分交る。



筑前在原信國吉貞



【初代吉政】

双長二尺四寸六分、反り六分三厘、重ね二分二厘、重量二百匁、地鐵松皮大板目、双文淺い灣の間を置いて五ノ目双。



筑前國在原信國吉政作

寛永十六年二月吉政

西海道、筑前（信國吉貞・初代吉政）





【貳代吉政】

刃長二尺三寸四分弱、反り五分、重ね二分六厘、重量二百四十六匁、地鐵小李鎬地柃、刃文廣直小足亂入る。

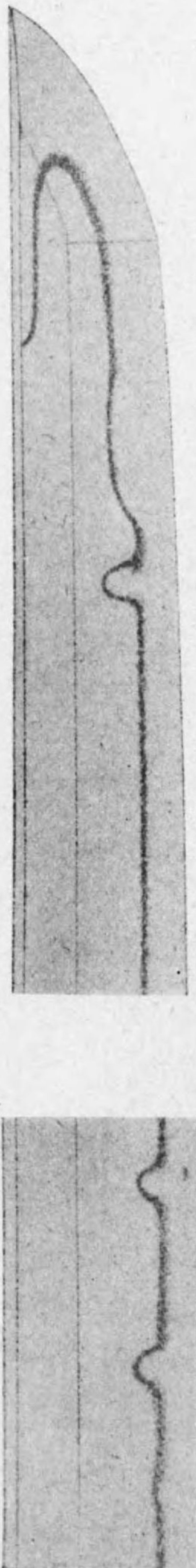


新刀篇八十一頁信國吉次の項目に、兄吉政との年代的矛盾をあげ、寛永年號入り吉次を父吉貞ならんと記したが、これは誤まれる記録からの憶測であつたと思ふ。即ち貞享五年八月六十歳にて歿したる吉政は貳代目であつて、右寛永十六年吉政の時は十一歳に相當するを以て、これは當然親吉政でなければならぬ。銘字に於ても可成りの相違點がある。八十五頁信國吉政の項に「父の意に反し備前傳を修めた故次男吉次家を繼ぐ」の傳記は「初代吉政早世のため次男吉次家を繼ぐ」と改めるべきであらう。因みに初代は作品尠く、貳代は多し。

【信國吉包】

刃長二尺三寸五分五厘、反四分五厘、厚さ二分三厘、重量二百十五匁、地小李目、鎬地柃、刃文中直刃にくつきりした五ノ目三ツ、それに元に大き

く五ノ目二ツ。（安東深津啓一氏藏）



【信國重宗】

刃長二尺一寸二分、反り四分三厘、重ね二分三厘、重量百九十匁、地鐵小李、刃文揃ひたる逆五ノ目、足深く入る。



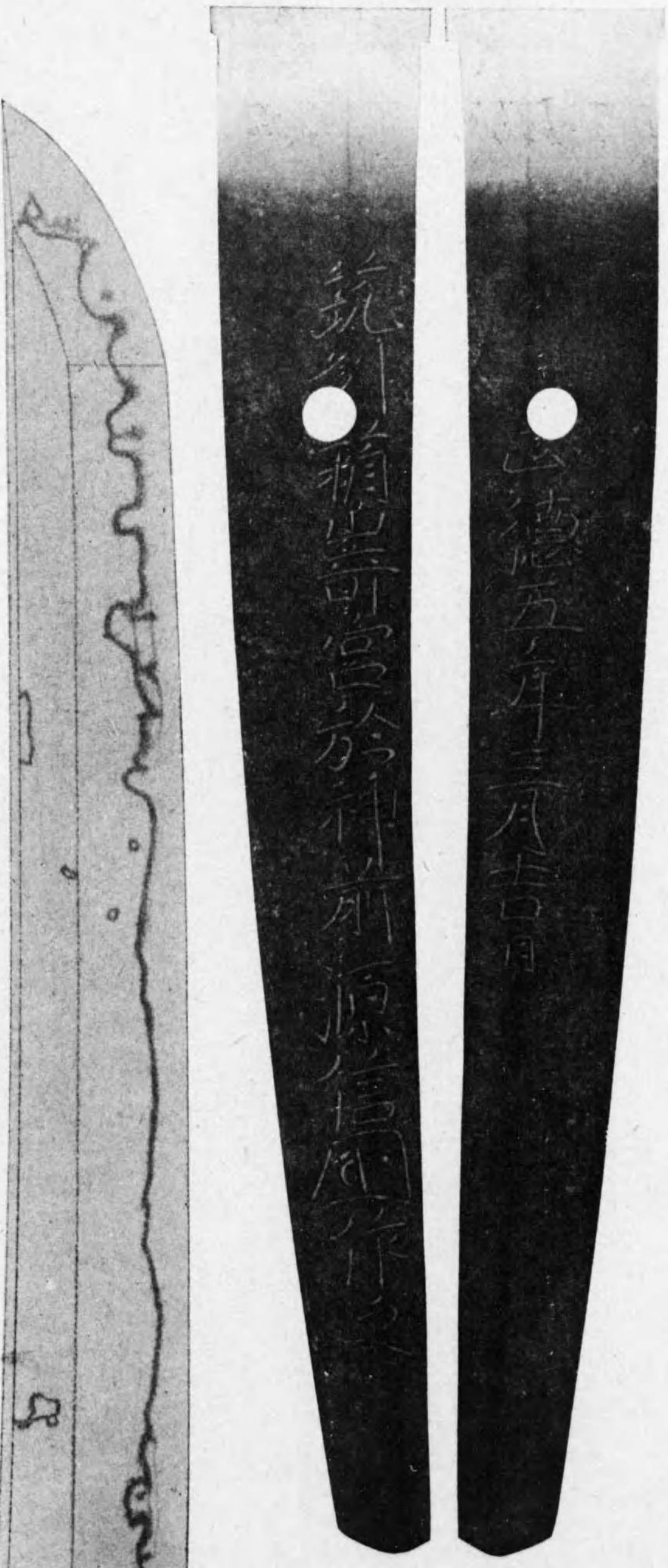


西海道、筑前（信國吉包・信國重包）



【信國重包】

刃長二尺三寸二分、反り六分、重ね二分九厘、重量二百一十一匁、地枚目流れる、刃文直小亂澹心、飛焼を交へる。

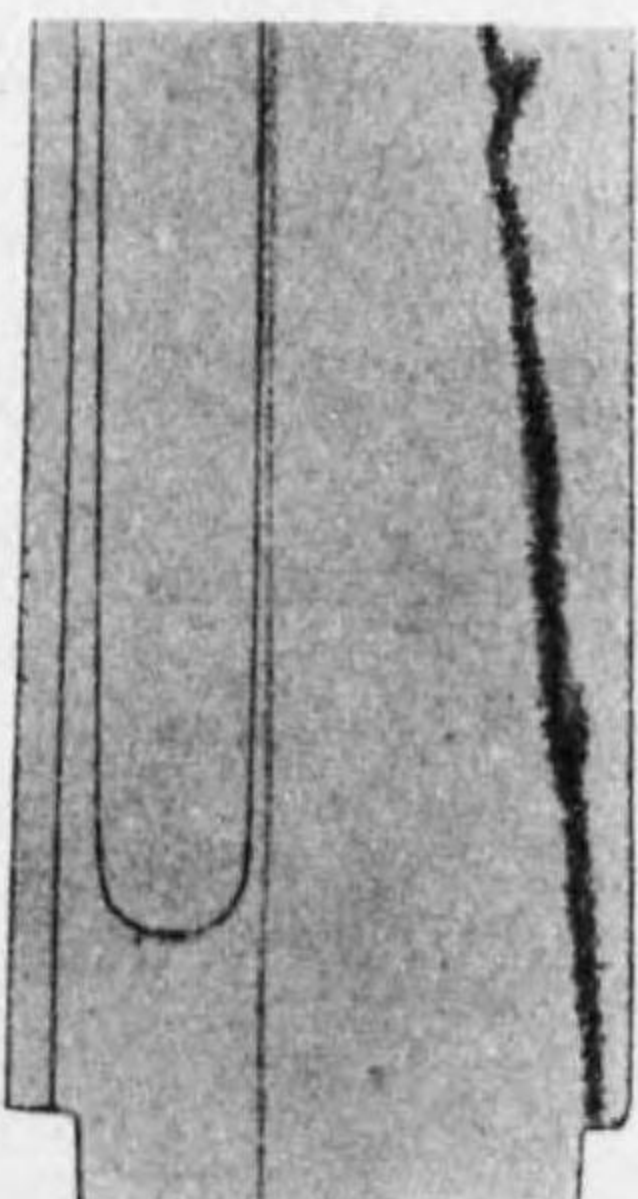


信國重包は薩摩の正滑、安代等と共に享保五年將軍吉宗に召出され、江戸に來たりて刀を鍛へる。葵一葉を賜はり、これを中心に彫るも、晩年は餘り振はざりしか作品少く、正包改銘は葵一葉賜はりし後である。



【福岡是次】

刃長二尺三寸、反六分、元幅一寸一分、重ね二分二厘、樺桶表裏三ツ棟、地鐵細かき柂目、刃文丁子匂深く足入り盛んなる出來元直の焼出しあり、中心裏に金象眼にて「寛文十一年亥十一月八日貳ツ胴截斷柴崎傳左衛門正次花押」とあり。



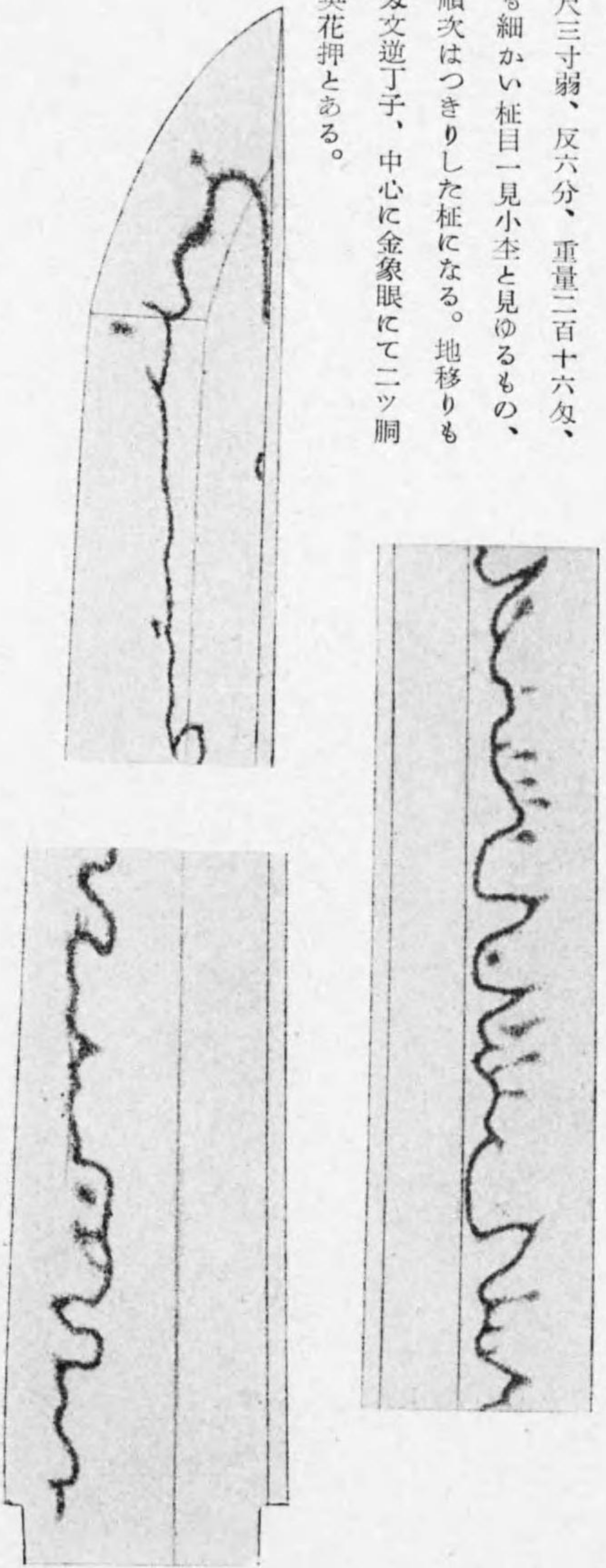
西海道、筑前（福岡是次）





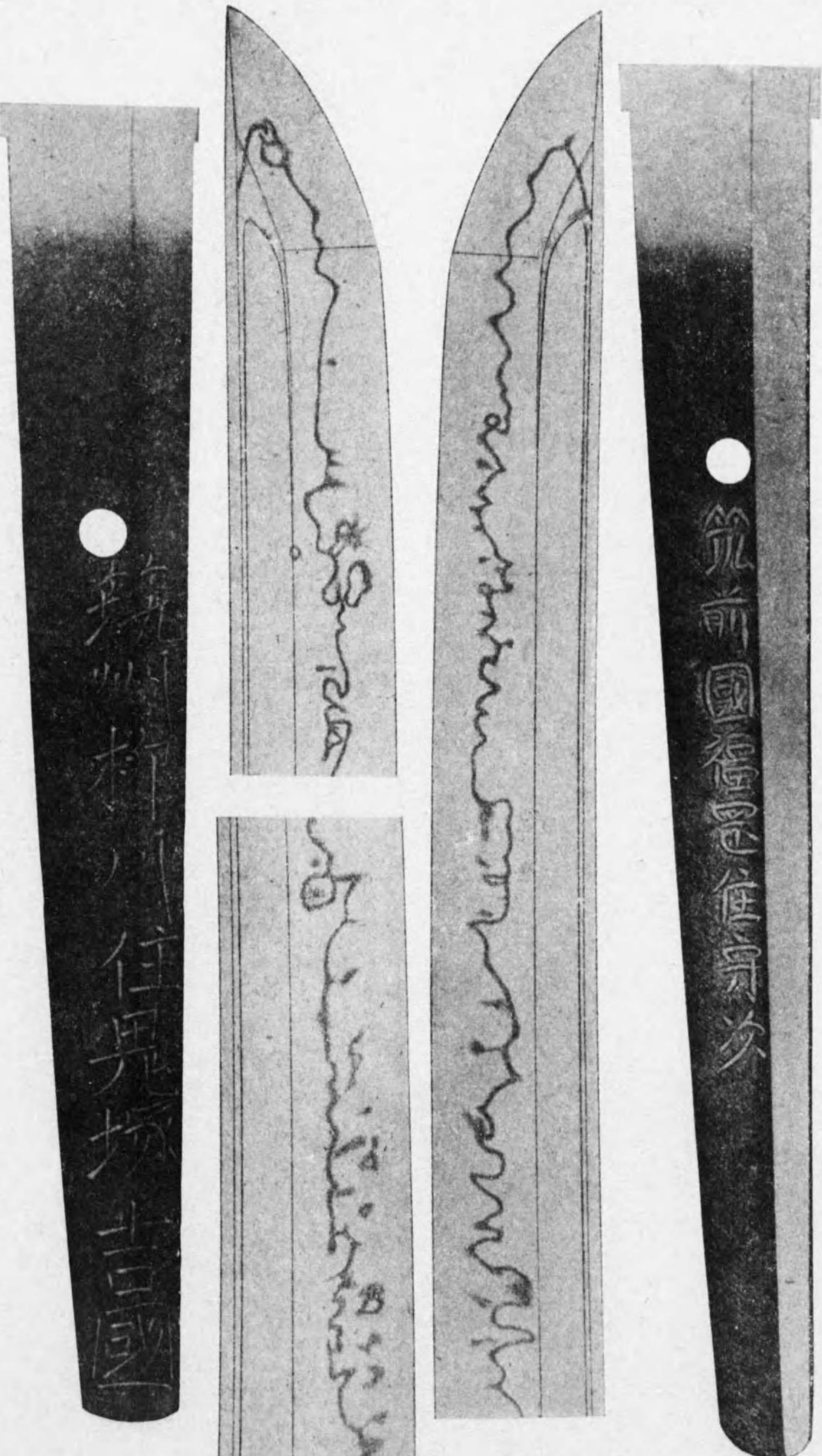
【福岡守次】

双長二尺三寸弱、反六分、重量二百十六匁、  
 地鉄較も細かい柂目一見小朶と見ゆるもの、  
 鎬地へ順次はつきりした柂になる。地移りも  
 付く、双文逆丁子、中心に金象眼にて二ツ胴  
 斬絶久英花押とある。



【福岡守次】

双長二尺三寸三分五厘、反り七分二厘、重量百九十二匁、重ね二分六厘、地鉄板に柂交り、双文匂出来、逆心の丁子地映り盛んに付き、青江次直などの逆丁子に似たり。

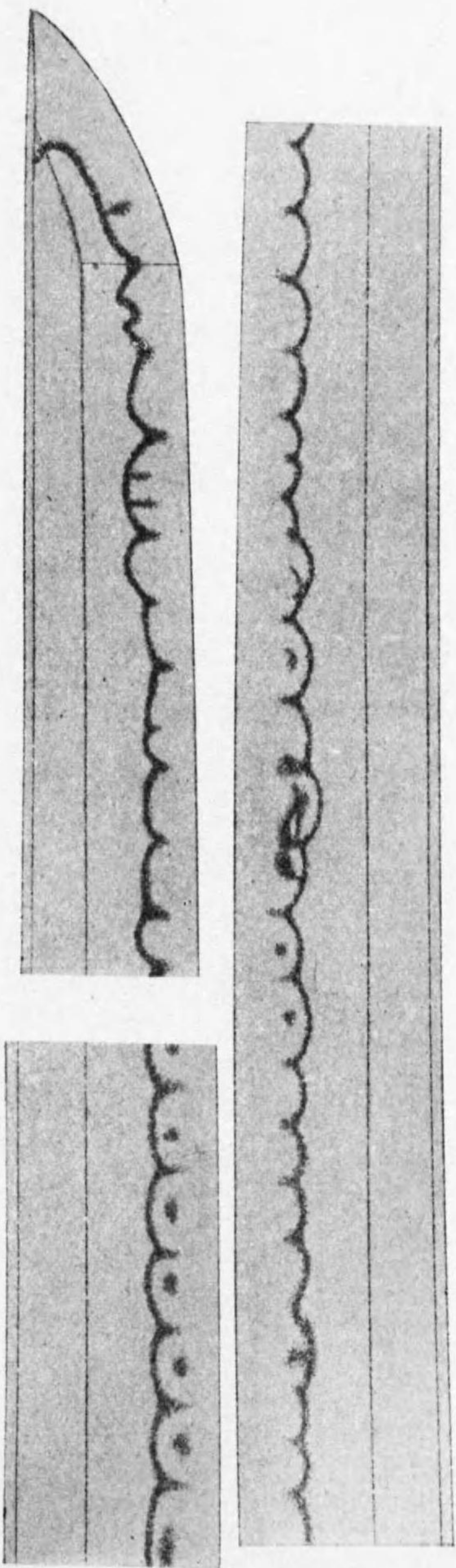


【鬼塚吉國】

双長二尺四寸七分、地鉄小朶。双文五ノ目足入り、間に匂飛ぶ。(東京 比毛關氏藏)  
 西海道、筑前（福岡守次） 筑後（鬼塚吉國）



西海道、筑後（鬼塚吉國） 豊後（高田友行・高田實行）



◆西海道、豊後

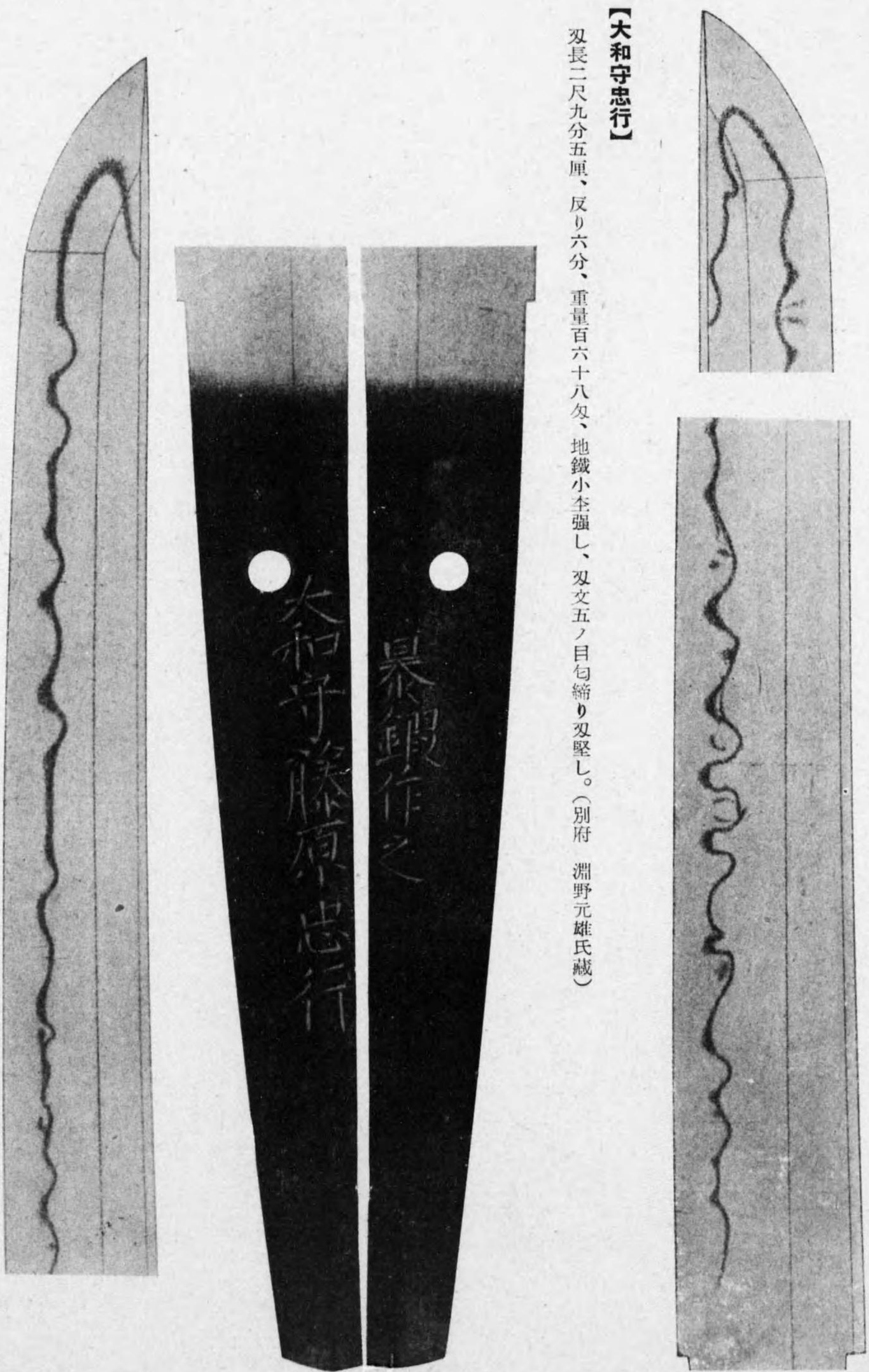
【高田友行】 刃長二尺三寸五分、地鉄小全強し、双文稍細き直双古風な出来、健やかなる作。

【高田實行】 刃長二尺三寸、反り三分五厘、重ね二分三厘、重量二百〇二匁、地鉄小全強し、双文五ノ目、銚子寄り匂鈍深し。



【大和守忠行】

刃長二尺九分五厘、反り六分、重量百六十八匁、地鉄小全強し、双文五ノ目匂締り双堅し。（別府 淵野元雄氏藏）



西海道、豊後（高田實行・大和守忠行）